

Discussion Paper Series

RIEB

Kobe University

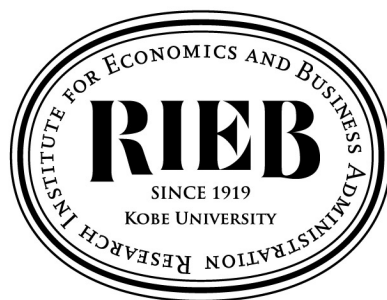
DP2017-J04

生活者の直面する金融上の問題と金融リテラシー
-2016年・金融リテラシーと金融トラブル等に関する
調査の概要報告-

家森 信善

上山 仁恵

2017年2月1日



神戸大学 経済経営研究所

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1

生活者の直面する金融上の問題と金融リテラシー[#]

—2016年・金融リテラシーと金融トラブル等に関する調査の概要報告—

神戸大学教授 家森信善
名古屋学院大学准教授 上山仁恵

<要旨>

本稿は、我々が、2016年9月に実施した「金融リテラシーと金融トラブルや借り入れ行動についての調査」の結果の概要を紹介することを目的にしている。本調査は、20～30歳代、40～50歳代、60歳以上のそれぞれ900人ずつについて、金融トラブルの経験のある人600人と経験のない人300人を対象に実施した。金融トラブルの経験の有無が、各質問の回答とどのような関係にあるのかを、年齢や性別による分析結果も適宜加えながら説明している。本稿のように幅広い金融トラブルと金融リテラシーの関係を分析した先行研究は乏しく、貴重な情報を提供しているものと考えられる。今回の調査結果で特に注目されるのは、予想に反して、金融トラブルの経験者は、金融リテラシーが低いとは限らないという点であった。逆にいえば、金融トラブルを今まで経験していない人は、金融リテラシーが高くて回避できているわけではなく、金融トラブルが増える潜在的な危険性をわが国が抱えていることを示唆している。

1. はじめに

金融市場において金融機関の間での競争が適切に機能するには、金融サービスの利用者の金融リテラシーの向上が必要だという認識は広く共有されるようになってきた。たとえば、金融審議会報告書「新しい保険商品・サービス及び募集ルールのあり方について」（2013年6月）において、「消費者が自らのニーズと合致する保険に加入するためには、消費者が保険に関して一定程度の知識を持てるようにすることが重要」であり、「当局、保険業界その他関係者においては、金融教育の取組みをなお一層推進することを求めたい」と指摘されている。2014年5月に成立した改正保険業法では、顧客の意向把握義務が保険会社等に課せられることになったが、家計が提供される情報を正しく理解できて初めて意味を持つものであり、家計の金融リテラシーの向上は重要な政策課題となっている。

残念ながら、日本の家計の金融リテラシーが不十分であることは、各種の調査によって既に明らかにされている。そして、金融リテラシーの変化を知るために金融リテラシーを計測することは引き続き重要な課題であるが、こうしたリテラシーの高低が生活者の金融行動にどのような影響を与えているかを解明することも同様に重要な問題である。たとえば、家森・上山(2016)では、中古住宅の購入者の金融リ

[#] 本稿は、科学研究費による共同研究（15K13025、15H03366）の成果である。

テラシーを実際に調べて、リテラシーの程度と住宅ローンの選択行動に関連があることを見いだした。また、家森（2016）では、生命保険文化センターが実施したアンケート調査を利用して、金融リテラシーの高低が保険選択に影響していることを明らかにした。このように、金融リテラシーの改善によって適切な金融商品を選択できる可能性が高まることを示してきたが、逆に、金融リテラシーが乏しいことが誤った金融上の選択や様々な金融上の問題を誘発する可能性を高めていることを検証した研究は行われてこなかった。

そこで、今回、我々は、2016年9月に「金融リテラシーと金融トラブルや借り入れ行動についての調査」を実施することにした。本稿は、その回答結果の概要を紹介することを目的にしている。

2. 「金融リテラシーと金融トラブルや借り入れ行動についての調査」の概要

我々は、「金融リテラシーと金融トラブルや借り入れ行動についての調査」（以下では、「金融トラブル調査」あるいは単に本調査と呼ぶことがある）を2016年9月21日から26日にかけて、楽天リサーチのweb調査のサービスを利用して実施した。

本調査では、全国在住の男女を対象にして、世代間の特徴を見るために、20～30歳代、40～50歳代、60歳以上のそれぞれを900人ずつとして合計2700人の回答を集めることとした。そして、以下の2つの観点からスクリーニングを行って対象者を絞ることとした。

スクリーニングの第1の条件は、一般の生活者の状況を知りたいという調査目的から、金融の専門家を排除することである。具体的には、「あなたの現在の職場・職業として下記の中から当てはまるものを一つ選んで下さい。」と尋ねて、次の5つの選択肢から回答してもらった。

1. 銀行、信用金庫、保険会社、証券会社およびその子会社・関連会社
2. カード会社、貸金業者、保険代理店などの金融関係の会社
3. 税理士、会計士、弁護士、中小企業診断士の資格保有者
4. FP、コンサルタント、大学教員などで、金融に関する専門知識を必要とする仕事
5. 上記のいずれにも当てはまらない

そして、5を選んだ人のみを第二のスクリーニングの対象にした。第二のスクリーニングは、本調査が、金融上の問題に直面した人に焦点を当てることを目指していたので、様々な金融上の問題を最近経験したことがある人を抽出するためのものである。ただし、金融上の問題を狭義の金融トラブル（たとえば、振り込め詐欺の被害など）に限定すると必要なサンプル数が集まらないことが予想されたことから、金融上の望ましくない行動（高コストの資金調達なども含める）を対象にすることにした。具体的には、「あなたは、過去3年間に、下記のような金融に関連する経験をしたことがありますか。当てはまるものをすべて選んでください。」と尋ねて、次の10の選択肢から回答してもらった。

1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある
2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした（住宅ローンの借り換えは除く）
3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある
4. 返済期日までに、住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかったことがある
5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある

6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある
7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある
8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある
9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある
10. 上記に該当する経験は一つもない

そして、1から9を選んだ人を金融トラブルの経験者として本調査の主な対象にするが、対比するために10と回答した人も一定数、対象に加えることにした。具体的には、年齢階層ごとに1～9の選択者600人、10の選択者300人という比率でスクリーニングを行った。したがって、本稿では、「金融トラブル」の意味をかなりの広義でとらえていることをあらかじめ断っておきたい。

まず、回答者2700人について、9つの金融に関するトラブルの経験の回答結果は、表1のとおりである。1から9は複数選択可能であるので、合計が1800を越える点に注意が必要であるが、最も多かったのは、「公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある」の752人で、次に「十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」の683人が続いている。

表 1 回答者の金融トラブル(内訳)

SC. 2 金融トラブル(内訳)	全体
全体	2700 (選択率)
1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	683 (25.3%)
2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした (住宅ローンの借り換えは除きます)	171 (6.3%)
3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	420 (15.6%)
4. 返済期日までに、住宅ローンやカードローンなどの返済資金を 用意することができなかったことがある	276 (10.2%)
5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	752 (27.9%)
6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	49 (1.8%)
7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	53 (2.0%)
8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	118 (4.4%)
9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	109 (4.0%)
10. 上記に該当する経験は一つもない(トラブル経験無)	900 (33.3%)

なお、各年代の構成比をみると20・30代では30代が約8割(79.6%)であり、40・50代は40代が若干多い(40代が55.1%対し、50代は44.9%)、60代以上では60代が8割強(82.7%)である(表2を参照)。

表 2 回答者の年代構成

回答者の年代構成		内訳	全体
20・30 代	20 代	184 (20.4%)	900 (100%)
	30 代	716 (79.6%)	
40・50 代	40 代	496 (55.1%)	900 (100%)
	50 代	404 (44.9%)	
60 代以上	60 代	744 (82.7%)	900 (100%)
	70 代以上	156 (17.3%)	

また、各年代の男女比を見ると、20・30 代では女性が 54.2%、男性が 45.8%と女性の方が多いが、40・50 代と 60 代以上では男性が 7 割以上と男性回答者の方が多い（表 3 を参照）。

表 3 回答者の年代別男女比

回答者の年代別男女比		内訳	全体
20・30 代	男性	412 (45.8%)	900 (100%)
	女性	488 (54.2%)	
40・50 代	男性	631 (70.1%)	900 (100%)
	女性	269 (29.9%)	
60 代以上	男性	696 (77.3%)	900 (100%)
	女性	204 (22.7%)	

なお、表 4 は年代ごとで金融トラブル経験の有無別で性別に統計的な有意差があるか否かを検定した結果である。表中のセルの数値は、上段が度数を、下段の（ ）値が各度数の列全体のサンプル数に占める比率を表している。また、カイ 2 乗統計量は 2 変量のクロス関係に統計的に有意差があるかどうかを判定する検定統計量であり、統計量に***が付いている場合は 1%水準でクロス関係に有意差があることを、**では 5%水準で、*では 10%水準で有意差があることを意味する（すなわち、*が付いていない場合は 2 変量のクロス関係に統計的な有意差が見られないことを意味する）。そして、セル中の赤字の比率は 5%水準以上で統計的に有意な差があることを示し、右上の+（-）は有意に多い（少ない）比率を意味する。

表 4 を見ると、20・30 代と 60 代以上では金融トラブル経験の有無で性別に統計的な有意差は見られないが、40・50 代では 1%水準で統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者は男性が有意に多く、金融トラブル未経験者は女性が有意に多くなっている。

表 4 (クロス分析)性別×年代・金融トラブル経験の有無

性別 ×年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
男性	284 (47.3%)	128 (42.7%)	442 (73.7%)+	189 (63.0%)-	456 (76.0%)	240 (80.0%)
女性	316 (52.7%)	172 (57.3%)	158 (26.3%)-	111 (37.0%)+	144 (24.0%)	60 (20.0%)
カイ2乗統計量	1.76		10.9***		1.83	

注1)表中のセルの数値は、上段が度数を、下段の()値が各度数の列全体に占める比率を表している。

注2)表セル中の赤字の比率は5%水準以上で統計的に有意な差があることを示し、右上の+(-)は統計的に有意に多い(少ない)比率を意味する。

既に述べたように、本稿では、金融トラブルの9つのいずれかについて経験があるものを金融トラブル経験者とし、各年代から金融トラブル経験者を600ずつサンプリングしているが、表5は各年代で金融トラブルの内訳の選択率について統計的な有意差を見たものである。

表5を見ると、「5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある」と「6.振り込め詐欺の被害に遭ったことがある」は20・30代で選択率が有意に高い。

そして、「3.消費者金融会社からお金を借りたことがある」と「4.返済期日までに住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった」は40・50代で選択率が有意に高くなっている。

また、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」と「9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」については60代以上で選択率が有意に多い。

表 5 (クロス分析)金融トラブル(内訳)×年代

金融トラブル(内訳)×年代	20・30代	40・50代	60代以上
全体	600 (選択率)	600 (選択率)	600 (選択率)
1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	183 (30.5%) ⁻	197 (32.8%) ⁻	303 (50.5%) ⁺
カイ2乗統計量	60.9***		
2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした (住宅ローンの借り換えは除きます)	67 (11.2%)	60 (10.0%)	44 (7.3%) ⁻
カイ2乗統計量	5.39*		
3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	142 (23.7%)	176 (29.3%) ⁺	102 (17.0%) ⁻
カイ2乗統計量	25.6***		
4. 返済期日までに、住宅ローンやカードローンなどの返済資金を 用意することができなかったことがある	97 (16.2%)	119 (19.8%) ⁺	60 (10.0%) ⁻
カイ2乗統計量	22.8***		
5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	323 (53.8%) ⁺	256 (42.7%)	173 (28.8%) ⁻
カイ2乗統計量	77.4***		
6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	24 (4.0%) ⁺	15 (2.5%)	10 (1.7%)
カイ2乗統計量	6.34**		
7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	15 (2.5%)	19 (3.2%)	19 (3.2%)
カイ2乗統計量	0.62		
8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	43 (7.2%)	30 (5.0%)	45 (7.5%)
カイ2乗統計量	3.61		
9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	16 (2.7%) ⁻	35 (5.8%)	58 (9.7%) ⁺
カイ2乗統計量	25.9***		

最後に都道府県を8分類¹にして回答者の居住地を見ると、関東地方が1番多く35.4%であり、次いで関西地方で21.9%である。

¹東北(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)、関東(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川)、中部(新潟・富山・石川・福井・山梨・長野・岐阜・静岡・愛知)、関西(三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)、中国(鳥取・島根・岡山・広島・山口)、四国(徳島・香川・愛媛・高知)、九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)。

表 6 回答者の居住地

居住エリア	全体
全体	2700 (100%)
北海道地方	118 (4.4%)
東北地方	166 (6.1%)
関東地方	956 (35.4%)
中部地方	465 (17.2%)
関西地方	590 (21.9%)
中国地方	154 (5.7%)
四国地方	66 (2.4%)
九州・沖縄地方	185 (6.9%)

表 7 は金融トラブル経験の有無別で居住地を比較したものであるが、金融トラブル経験の有無で居住地に統計的な有意差は見られない。

表 7 (クロス分析)居住地×金融トラブル経験の有無

居住エリア×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
北海道地方	85 (4.7%)	33 (3.7%)
東北地方	113 (6.3%)	53 (5.9%)
関東地方	639 (35.5%)	317 (35.2%)
中部地方	298 (16.6%)	167 (18.6%)
関西地方	387 (21.5%)	203 (22.6%)
中国地方	109 (6.1%)	45 (5.0%)
四国地方	46 (2.6%)	20 (2.2%)
九州・沖縄地方	123 (6.8%)	62 (6.9%)
カイ2乗統計量	4.84	

さらに、表 8 は年代（金融トラブル経験の有無）別で居住地を比較したものである。20・30代で金融トラブル未経験者は関西地方居住者が有意に多いが、いずれの年代も全体的に金融トラブル経験の有無で居住地に統計的な有意差は見られない。

表 8 (クロス分析)居住地×金融トラブル有無・年代

トラブル有無・年代 ×居住地	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
北海道地方	27 (4.5%)	8 (2.7%)	31 (5.2%)	11 (3.7%)	27 (4.5%)	14 (4.7%)
東北地方	48 (8.0%)	19 (6.3%)	30 (5.0%)	22 (7.3%)	35 (5.8%)	12 (4.0%)
関東地方	205 (34.2%)	106 (35.3%)	207 (34.5%)	99 (33.0%)	227 (37.8%)	112 (37.3%)
中部地方	106 (17.7%)	55 (18.3%)	108 (18.0%)	69 (23.0%)	84 (14.0%)	43 (14.3%)
関西地方	112 (18.7%) ⁻	75 (25.0%) ⁺	127 (21.2%)	66 (22.0%)	148 (24.7%)	62 (20.7%)
中国地方	34 (5.7%)	12 (4.0%)	40 (6.7%)	11 (3.7%)	35 (5.8%)	22 (7.3%)
四国地方	17 (2.8%)	6 (2.0%)	17 (2.8%)	4 (1.3%)	12 (2.0%)	10 (3.3%)
九州・沖縄地方	51 (8.5%)	19 (6.3%)	40 (6.7%)	18 (6.0%)	32 (5.3%)	25 (8.3%)
カイ2乗統計量	9.30		10.8		7.71	

3. 本調査の結果

<回答者の基本属性>

Q1. あなたの現在の居住地および高校卒業時の居住地(市町村合併などがあった場合も当時の状況としてお答えください)として、下記から当てはまるものをそれぞれ一つお選びください。なお、最終学歴が中学卒業や高校中退の方は、中学卒業時の居住地をお答えください。

表 9 居住地(現在・高校卒業時)

Q1. 居住地(現在・高校卒業時)	現在	高校卒業時
全体	2700 (100%)	2700 (100%)
1. 東京区部および政令指定都市	776 (28.7%)	632 (23.4%)
2. 上記を除く人口 10 万人以上の市	1124 (41.6%)	1063 (39.4%)
3. 人口 10 万人未満の市	547 (20.3%)	535 (19.8%)
4. 町および村	253 (9.4%)	458 (17.0%)
5. 海外	0 (0%)	12 (0.4%)

表 9 は、回答者の現在と高校卒業時の居住地（5 分類）を調査した結果である。現在・高校卒業時ともに東京都区部（政令指定都市）以外の人口 10 万人以上の市に居住する回答者が多く 4 割前後を占める（現在で 41.6%、高校卒業時で 39.4%である）。

表 10 は金融トラブル経験の有無別で居住地を比較したものである。金融トラブル経験の有無で現在の居住地は 10%水準で有意差が見られ、金融トラブル未経験者で人口 10 万人未満の市に居住する人が有意に多い。なお、高校卒業時では金融トラブル経験の有無で統計的な有意差は見られない。

表 10 (クロス分析)居住地×金融トラブル経験の有無

居住地×金融トラブル有無	現在		高校卒業時	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)	1800 (100%)	900 (100%)
1. 東京区部および政令指定都市	535 (29.7%)	241 (26.8%)	421 (23.4%)	211 (23.4%)
2. 上記を除く人口 10 万人以上の市	758 (42.1%)	366 (40.7%)	704 (39.1%)	359 (39.9%)
3. 人口 10 万人未満の市	342 (19.0%)⁻	205 (22.8%)⁺	344 (19.1%)	191 (21.2%)
4. 町および村	165 (9.2%)	88 (9.8%)	322 (17.9%)	136 (15.1%)
5. 海外	0 (0%)	0 (0%)	9 (0.5%)	3 (0.3%)
カイ 2 乗統計量	6.58*		4.55	

そして、表 11 は年代（金融トラブル経験）の有無で居住地を比較したものである。40・50 代において 5%水準で統計的な有意差が見られ、金融トラブル未経験者は人口 10 万人未満の市の居住者が有意に多くなっている。なお、高校卒業時の居住地については年代別で統計的な有意差は見られない。

表 11（クロス分析）居住地×年代・金融トラブル経験の有無

居住地×年代・金融トラブル有無	20・30 代		40・50 代		60 代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
現在						
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 東京区部および政令指定都市	173 (28.8%)	78 (26.0%)	186 (31.0%)	77 (25.7%)	176 (29.3%)	86 (28.7%)
2. 上記を除く人口 10 万人以上の市	227 (37.8%)	121 (40.3%)	255 (42.5%)	116 (38.7%)	276 (46.0%)	129 (43.0%)
3. 人口 10 万人未満の市	133 (22.2%)	66 (22.0%)	105 (17.5%) ⁻	78 (26.0%) ⁺	104 (17.3%)	61 (20.3%)
4. 町および村	67 (11.2%)	35 (11.7%)	54 (9.0%)	29 (9.7%)	44 (7.3%)	24 (8.0%)
カイ 2 乗統計量	0.95		9.86**		1.53	
高校卒業時						
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 東京区部および政令指定都市	111 (18.5%)	62 (20.7%)	149 (24.8%)	73 (24.3%)	161 (26.8%)	76 (25.3%)
2. 上記を除く人口 10 万人以上の市	228 (38.0%)	116 (38.7%)	246 (41.0%)	123 (41.0%)	230 (38.3%)	120 (40.0%)
3. 人口 10 万人未満の市	135 (22.5%)	79 (26.3%)	113 (18.8%)	60 (20.0%)	96 (16.0%)	52 (17.3%)
4. 町および村	121 (20.2%) ⁺	41 (13.7%) ⁻	89 (14.8%)	44 (14.7%)	112 (18.7%)	51 (17.0%)
5. 海外	5 (0.8%)	2 (0.7%)	3 (0.5%)	0 (0%)	1 (0.2%)	1 (0.3%)
カイ 2 乗統計量	6.51		1.67		1.09	

最後に、金融トラブルの内訳別で居住地を比較する。表 12 は、金融トラブルの内訳（表 1 を参照）の各項目について選択の有無（該当・非該当）別で居住地を比較したものである。

なお、表 12 は、金融トラブルの各内訳の選択の有無と居住地のクロス分析の検定結果を示しているが、紙幅の都合上、各項目を選択した回答者の居住地の構成度数（比率）のみを提示している。すなわち、各項目を選択しなかった回答者の構成度数（比率）の提示は省略している。但し、各項目を選択しなかった回答者については、選択した回答者の検定結果の逆になることから推測は可能である。

表 12 を見ると、現在の居住地について 1%水準で有意差が見られる金融トラブルの内訳は、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」と「3.消費者金融からお金を借りたことがある」であり、東京都区部（政令指定都市）に居住する人が有意に多い。

なお、高校卒業時の居住地に金融トラブルの内訳別で統計的な有意差は見られない（表 13 を参照）。

表 12 (クロス分析)居住地×金融トラブル(内訳)(現在)

現在の居住地×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 東京区部および政令指定都市	217 (31.8%)+	58 (33.9%)	143 (34.0%)+	78 (28.3%)	217 (28.9%)
2. 上記を除く人口 10 万人以上の市	297 (43.5%)	70 (40.9%)	162 (38.6%)	108 (39.1%)	312 (41.5%)
3. 人口 10 万人未満の市	121 (17.7%)	28 (16.4%)	66 (15.7%)-	56 (20.3%)	147 (19.5%)
4. 町および村	48 (7.0%)-	15 (8.8%)	49 (11.7%)	34 (12.3%)	76 (10.1%)
カイ 2 乗統計量	12.0***	3.15	13.9***	3.34	0.87

現在の居住地×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 東京区部および政令指定都市	11 (22.4%)	21 (39.6%)	39 (33.1%)	32 (29.4%)	241 (26.8%)
2. 上記を除く人口 10 万人以上の市	19 (38.8%)	21 (39.6%)	50 (42.4%)	47 (43.1%)	366 (40.7%)
3. 人口 10 万人未満の市	10 (20.4%)	10 (18.9%)	22 (18.6%)	20 (18.3%)	205 (22.8%)+
4. 町および村	9 (18.4%)+	1 (1.9%)	7 (5.9%)	10 (9.2%)	88 (9.8%)
カイ 2 乗統計量	5.10	5.56	2.53	0.29	6.58*

表 13 (クロス分析)居住地×金融トラブル(内訳)(高校卒業時)

高校卒業時在の居住地 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融 商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支 払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を 借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンな どの返済資金を用意することが できなかった	5. 公共料金や保険料などの支 払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 東京区部および政令指定都市	170 (24.9%)	45 (26.3%)	99 (23.6%)	62 (22.5%)	170 (22.6%)
2. 上記を除く人口 10 万人以上の市	267 (39.1%)	62 (36.3%)	161 (38.3%)	105 (38.0%)	292 (38.8%)
3. 人口 10 万人未満の市	124 (18.2%)	30 (17.5%)	72 (17.1%)	49 (17.8%)	161 (21.4%)
4. 町および村	117 (17.1%)	34 (19.9%)	87 (20.7%)+	58 (21.0%)	126 (16.8%)
5. 海外	5 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	2 (0.7%)	3 (0.4%)
カイ 2 乗統計量	3.86	3.31	6.54	4.43	1.78

高校卒業時在の居住地 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを 経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わり をさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 東京区部および政令指定都市	13 (26.5%)	15 (28.3%)	28 (23.7%)	29 (26.6%)	211 (23.4%)
2. 上記を除く人口 10 万人以上の市	12 (24.5%)-	21 (39.6%)	46 (39.0%)	40 (36.7%)	359 (39.9%)
3. 人口 10 万人未満の市	14 (28.6%)	10 (18.9%)	26 (22.0%)	17 (15.6%)	191 (21.2%)
4. 町および村	10 (20.4%)	7 (13.2%)	17 (14.4%)	23 (21.1%)	136 (15.1%)
5. 海外	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	3 (0.3%)
カイ 2 乗統計量	5.52	1.27	1.24	3.37	4.55

Q2. あなたのご職業として、下記から当てはまるものを一つお選びください。(複数の項目に当てはまる場合は、最も主要なものを選んでください。)

表 14 回答者の職業

Q2. 回答者の職業	全体
全体	2700 (100%)
1. 農林漁業者	20 (0.7%)
2. 自営業者(中小企業の経営者を含む)	243 (9.0%)
3. 公務員	137 (5.1%)
4. 大企業の正規従業員(役員を含む)	268 (9.9%)
5. 中小企業の正規従業員(役員を含む)	635 (23.5%)
6. 派遣社員・契約社員	268 (9.9%)
7. 年金受給者(現役時代は、主として会社員等であった)	369 (13.7%)
8. 年金受給者(主として、専業主婦など会社員の配偶者であった)	99 (3.7%)
9. (年金を受け取っていない)無職者(職を探していない)	170 (6.3%)
10. (年金を受け取っていない)無職者(職を探している)	72 (2.7%)
11. その他	419 (15.5%)

表 14 は回答者の職業について調査した結果である。「5.中小企業の正規従業員」が 23.5%と 1 番多く、次いで「7.年金受給者(現役時代は主として会社員等であった)」が 1 割強(13.7%)である。

その他の職業を見ると、「2.自営業(9.0%)」、「4.大企業の正規従業員(9.9%)」、「6.派遣社員・契約社員(9.9%)」がそれぞれ 1 割弱である。

表 15 (クロス分析)回答者の職業×金融トラブル経験の有無

回答者の職業×金融トラブル経験有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 農林漁業者	16 (0.9%)	4 (0.4%)
2. 自営業者(中小企業の経営者を含む)	176 (9.8%)+	67 (7.4%)-
3. 公務員	90 (5.0%)	47 (5.2%)
4. 大企業の正規従業員(役員を含む)	181 (10.1%)	87 (9.7%)
5. 中小企業の正規従業員(役員を含む)	461 (25.6%)+	174 (19.3%)-
6. 派遣社員・契約社員	196 (10.9%)+	72 (8.0%)-
7. 年金受給者(現役時代は、主として会社員等であった)	223 (12.4%)-	146 (16.2%)+
8. 年金受給者(主として、専業主婦など会社員の配偶者であった)	61 (3.4%)	38 (4.2%)
9. (年金を受け取っていない)無職者(職を探していない)	97 (5.4%)-	73 (8.1%)+
10. (年金を受け取っていない)無職者(職を探している)	47 (2.6%)	25 (2.8%)
11. その他	252 (14.0%)-	167 (18.6%)+
カイ2乗統計量	43.2***	

表 15 は金融トラブル経験の有無別で職業について比較したものである。金融トラブル経験の有無別で職業には1%水準で統計的な有意差があり、金融トラブル経験者には「2.自営業者」、「5.中小企業の正規従業員」、「6.派遣社員・契約社員」が有意に多い。

一方、金融トラブル未経験者は「7.年金受給者(現役時代は主として会社員等であった)」、「9.(年金を受け取っていない)無職者(職を探していない)」が有意に多くなっている。性別で職業を比較すると、「9.(年金を受け取っていない)無職者(職を探していない)」は女性が有意に多くなっていることから、専業主婦が該当するものと想定される。

表 16 (クロス分析)職業×年代・金融トラブル経験の有無

職業× 年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 農林漁業者	7 (1.2%)	1 (0.3%)	3 (0.5%)	1 (0.3%)	6 (1.0%)	2 (0.7%)
2. 自営業者	33 (5.5%)	9 (3.0%)	69 (11.5%)	33 (11.0%)	74 (12.3%)	25 (8.3%)
3. 公務員	27 (4.5%)	17 (5.7%)	46 (7.7%)	22 (7.3%)	17 (2.8%)	8 (2.7%)
4. 大企業正規	69 (11.5%)	32 (10.7%)	93 (15.5%)	46 (15.3%)	19 (3.2%)	9 (3.0%)
5. 中小企業正規	201 (33.5%)+	80 (26.7%)-	188 (31.3%)	78 (26.0%)	72 (12.0%)+	16 (5.3%)-
6. 派遣・契約社員	80 (13.3%)+	30 (10.0%)	65 (10.8%)	25 (8.3%)	51 (8.5%)	17 (5.7%)
7. 年金受給者(主会 社員等)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	223 (37.2%)-	146 (48.7%)+
8. 年金受給者(会社 員の配偶者)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (10.2%)	38 (12.7%)
9. 無職者(職を探し ていない)	43 (7.2%)	31 (10.3%)	37 (6.2%)-	32 (10.7%)+	17 (2.8%)	10 (3.3%)
10. 無職者(職を探し ている)	21 (3.5%)	11 (3.7%)	13 (2.2%)	11 (3.7%)	13 (2.2%)	3 (1.0%)
11. その他	119 (19.8%)+	89 (29.7%)+	86 (14.3%)	52 (17.3%)	47 (7.8%)	26 (8.7%)
カイ2乗統計量	20.6***		11.5		23.9***	

表 16 は、年代（金融トラブル経験の有無）別で職業について比較したものである。40・50代では金融トラブル経験の有無で職業に有意差は見られないが、20・30代と60代以上では1%水準の有意差である。

20・30代の金融トラブル経験者の職業としては「5.中小企業の正規従業員」が有意に多く、金融トラブル未経験者では「11.その他」が多い。

一方60代についても金融トラブル経験者の職業としては「5.中小企業の正規従業員」が有意に多く、金融トラブル未経験者としては「7.年金受給者（現役時代は主として会社員等であった）」が有意に多くなっている。

表 17 (クロス分析)職業×金融トラブル(内訳)

職業×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 農林漁業者	5 (0.7%)	3 (1.8%)	6 (1.4%)	3 (1.1%)	8 (1.1%)
2. 自営業者	45 (6.6%) ⁻	17 (9.9%)	54 (12.9%) ⁺	39 (14.1%) ⁺	84 (11.2%) ⁺
3. 公務員	43 (6.3%)	10 (5.8%)	11 (2.6%) ⁻	14 (5.1%)	30 (4.0%)
4. 大企業正規	87 (12.7%) ⁺	17 (9.9%)	41 (9.8%)	23 (8.3%)	62 (8.2%)
5. 中小企業正規	158 (23.1%)	55 (32.2%) ⁺	145 (34.5%) ⁺	78 (28.3%) ⁺	192 (25.5%)
6. 派遣・契約社員	55 (8.1%)	26 (15.2%) ⁺	53 (12.6%) ⁺	37 (13.4%) ⁺	100 (13.3%) ⁺
7. 年金受給者(主会社員等)	131 (19.2%) ⁺	12 (7.0%) ⁻	27 (6.4%) ⁻	17 (6.2%) ⁻	60 (8.0%) ⁻
8. 年金受給者(会社員の配偶者)	40 (5.9%) ⁺	3 (1.8%)	5 (1.2%) ⁻	1 (0.4%) ⁻	16 (2.1%) ⁻
9. 無職者(職を探していない)	33 (4.8%)	4 (2.3%) ⁻	12 (2.9%) ⁻	8 (2.9%) ⁻	53 (7.0%)
10. 無職者(職を探している)	16 (2.3%)	3 (1.8%)	9 (2.1%)	9 (3.3%)	21 (2.8%)
11. その他	70 (10.2%) ⁻	21 (12.3%)	57 (13.6%)	47 (17.0%)	126 (16.8%)
カイ2乗統計量	71.3***	27.9***	85.0***	45.3***	59.5***

表 17 は金融トラブルの内訳別で職業を比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」は「4.大企業正規従業員」と「7・8.年金受給者」が有意に多い。そして、消費者金融利用者(金融トラブル内訳の2と3)、及び、「4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった」人は「5.中小企業の正規従業員」や「6.派遣社員・契約社員」が有意に多くなっている。また、「5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある」人は派遣(契約)社員が有意に多い。

表 18 (クロス分析)職業×金融トラブル(内訳)(つづき)

職業×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを 経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わり をさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 農林漁業者	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.9%)	4 (0.4%)
2. 自営業者	8 (16.3%)	3 (5.7%)	12 (10.2%)	20 (18.3%)+	67 (7.4%)-
3. 公務員	5 (10.2%)	1 (1.9%)	7 (5.9%)	6 (5.5%)	47 (5.2%)
4. 大企業正規	2 (4.1%)	5 (9.4%)	10 (8.5%)	8 (7.3%)	87 (9.7%)
5. 中小企業正規	15 (30.6%)	15 (28.3%)	32 (27.1%)	27 (24.8%)	174 (19.3%)-
6. 派遣・契約社員	5 (10.2%)	6 (11.3%)	10 (8.5%)	8 (7.3%)	72 (8.0%)-
7. 年金受給者(主会社員等)	5 (10.2%)	9 (17.0%)	16 (13.6%)	18 (16.5%)	146 (16.2%)+
8. 年金受給者(会社員の配偶者)	0 (0.0%)	3 (5.7%)	6 (5.1%)	6 (5.5%)	38 (4.2%)
9. 無職者(職を探していない)	2 (4.1%)	5 (9.4%)	9 (7.6%)	2 (1.8%)-	73 (8.1%)+
10. 無職者(職を探している)	0 (0.0%)	1 (1.9%)	3 (2.5%)	4 (3.7%)	25 (2.8%)
11. その他	7 (14.3%)	5 (9.4%)	12 (10.2%)	9 (8.3%)-	167 (18.6%)+
カイ2乗統計量	12.8	6.08	4.90	22.3**	43.2***

さらに、表 17 と表 18 を見ると、「2.自営業者」は消費者ローン利用者（金融トラブル内訳の 2 と 3）や、住宅ローン等の返済資金や公共料金等の支払いを遅延した人（金融トラブル内訳の 4・5）、及び「9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」人で有意に多くなっている。

Q3. あなたに配偶者はいますか。

表 19 配偶者の有無

Q3. 配偶者の有無	全体
全体	2700 (100%)
配偶者いる	1686 (62.4%)
配偶者いない	1014 (37.6%)

表 19 は回答者の配偶者の有無について調査した結果である。約 6 割（62.4%）は配偶者がおり、4 割弱（37.6%）が配偶者はいない。

なお、金融トラブル経験の有無別で配偶者の有無に統計的な有意差は見られない（表 20 を参照）。また、年代別で比較しても 5%水準以上の有意差は見られない（表 21 を参照）。

表 20 (クロス分析) 配偶者の有無 × 金融トラブル経験の有無

配偶者の有無 × 金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 配偶者いる	1106 (61.4%)	580 (64.4%)
2. 配偶者いない	694 (38.6%)	320 (35.6%)
カイ 2 乗統計量	2.30	

表 21 (クロス分析) 配偶者の有無 × 年代・金融トラブル経験の有無

配偶者の有無 × 年代・トラブル有無	20・30 代		40・50 代		60 代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 配偶者いる	272 (45.3%)	137 (45.7%)	358 (59.7%)	189 (63.0%)	476 (79.3%)	254 (84.7%)
2. 配偶者いない	328 (54.7%)	163 (54.3%)	242 (40.3%)	111 (37.0%)	124 (20.7%)	46 (15.3%)
カイ 2 乗統計量	0.009		0.93		3.71*	

表 22 (クロス分析)配偶者の有無×金融トラブル(内訳)

配偶者の有無 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 配偶者いる	452 (66.2%)+	91 (53.2%)-	227 (54.0%)-	147 (53.3%)-	432 (57.4%)-
2. 配偶者いない	231 (33.8%)-	80 (46.8%)+	193 (46.0%)+	129 (46.7%)+	320 (42.6%)+
カイ2乗統計量	5.44**	6.63**	15.0***	11.1***	11.1***

配偶者の有無 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 配偶者いる	24 (49.0%)-	30 (56.6%)	68 (57.6%)	76 (69.7%)	580 (64.4%)
2. 配偶者いない	25 (51.0%)+	23 (43.4%)	50 (42.4%)	33 (30.3%)	320 (35.6%)
カイ2乗統計量	3.86*	0.79	1.22	2.57	2.30

表 22 は金融トラブルの内訳別で配偶者の有無について比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は有配偶者が有意に多いが、消費者ローン利用者（金融トラブル内訳 2 と 3）、及び住宅ローン等の返済資金や公共料金等の支払いを遅延したことがある人（金融トラブル内訳 4 と 5）は配偶者がいない人が有意に多くなっている。

Q4. あなたにお子様はいますか。

表 23 子供人数

Q4. 子供人数	全体
全体	2700 (100%)
1. いない	1131 (41.9%)
2. 一人	406 (15.0%)
3. 二人	806 (29.9%)
4. 三人以上	357 (13.2%)

表 23 は、回答者の子供の人数について調査した結果である。配偶者がいない回答者が 4 割弱 (37.6%) であることを反映し、約 4 割 (41.9%) が子供はいない。そして、子供がいる人については「二人」が一番多く約 3 割 (29.9%) であり、「一人 (15.0%)」と「三人以上 (13.2%)」がそれぞれ 1 割強となっている。

表 24 (クロス分析) 子供人数 × 金融トラブル経験の有無

子供人数 × 金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. いない	741 (41.2%)	390 (43.3%)
2. 一人	277 (15.4%)	129 (14.3%)
3. 二人	532 (29.6%)	274 (30.4%)
4. 三人以上	250 (13.9%)	107 (11.9%)
カイ2乗統計量	3.09	

そして、表 24 が金融トラブル経験の有無別で子供の人数を比較したものであるが、金融トラブル経験の有無別で配偶者の有無に統計的な有意差が見られなかったのと同様に (表 20 を参照)、子供の人数でも有意差は見られない。

また、年代別で比較すると、20・30 代の金融トラブル経験者は子供が 1 人いる人が有意に多いが、全体的な有意差は 10% 水準であり、年代別で見ても金融トラブル経験の有無で子供の有無 (人数) には有意差は見られない (表 25)。

表 25 (クロス分析)子供人数×年代・金融トラブル経験の有無

子供人数× 年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. いない	364 (60.7%)+	200 (66.7%)+	263 (43.8%)	140 (46.7%)	114 (19.0%)	50 (16.7%)
2. 一人	109 (18.2%)+	34 (11.3%)-	91 (15.2%)	50 (16.7%)	77 (12.8%)	45 (15.0%)
3. 二人	94 (15.7%)-	49 (16.3%)-	174 (29.0%)	80 (26.7%)	264 (44.0%)	145 (48.3%)
4. 三人以上	33 (5.5%)-	17 (5.7%)-	72 (12.0%)	30 (10.0%)	145 (24.2%)	60 (20.0%)
カイ2乗統計量	7.09*		1.74		3.64	

表 26 は金融トラブルの内訳別で子供の人数を比較したものである。配偶者の有無の比較では「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は配偶者のいる人が有意に多かったが(表 22 を参照)、子供の人数では「二人」いる人が 35.1%と有意に多くなっている。

そして、「2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした」や「3.消費者金融会社からお金を借りたことがある」は配偶者がいない人が有意に多かったことを反映し、子供がいない人が有意に多い。

しかし、「4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった」や「5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある」人は配偶者がいない人が有意に多かったが、子供がいない人が有意に多くはなっておらず、子供が三人以上いる人で有意に多くなっている。

また、「7.他の金融商品に関連する詐欺にあったことがある」や「9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」人は配偶者の有無で統計的な有意差は見られなかったが、子供の人数別では有意な差が見られ、三人以上の子供がいる人に有意に多い。

表 26 (クロス分析)子供人数×金融トラブル(内訳)

子供×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. いない	265 (38.8%)	84 (49.1%)+	200 (47.6%)+	119 (43.1%)	324 (43.1%)
2. 一人	96 (14.1%)	21 (12.3%)	57 (13.6%)	39 (14.1%)	127 (16.9%)
3. 二人	240 (35.1%)+	43 (25.1%)	111 (26.4%)	67 (24.3%)-	183 (24.3%)-
4. 三人以上	82 (12.0%)	23 (13.5%)	52 (12.4%)	51 (18.5%)+	118 (15.7%)+
カイ2乗統計量	12.3***	4.56	6.83*	9.90**	18.2***

子供×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. いない	26 (53.1%)	22 (41.5%)	55 (46.6%)	30 (27.5%)-	390 (43.3%)
2. 一人	2 (4.1%)-	6 (11.3%)	12 (10.2%)	15 (13.8%)	129 (14.3%)
3. 二人	14 (28.6%)	12 (22.6%)	38 (32.2%)	40 (36.7%)	274 (30.4%)
4. 三人以上	7 (14.3%)	13 (24.5%)+	13 (11.0%)	24 (22.0%)+	107 (11.9%)
カイ2乗統計量	5.54	6.67*	3.28	14.1***	3.09

Q5・Q6. あなたは親・子供と同居していますか。

表 27 親・子供と同居

Q5・Q6 親・子供と同居		内訳	全体
親	1. 同居している	747 (27.7%)	2700 (100%)
	2. 同居していない	1953 (72.3%)	
子供	1. 同居している	1042 (66.4%)	1569 (100%)
	2. 同居していない	527 (33.6%)	

表 27は、親と子供との同居の状況について調査した結果である。親と同居している人は3割弱(27.7%)、子供と同居している人は7割弱(66.4%)である。

表 28 (クロス分析)親・子供と同居×金融トラブル経験の有無

Q5	親と同居×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
親	全体	1800 (100%)	900 (100%)
	1. 同居している	479 (26.6%)	268 (29.8%)
	2. 同居していない	1321 (73.4%)	632 (70.2%)
カイ2乗統計量		3.01*	
Q5	子供と同居×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
子供	全体	1800 (100%)	900 (100%)
	1. 同居している	729 (68.8%)+	313 (61.4%)-
	2. 同居していない	330 (31.2%)-	197 (38.6%)+
カイ2乗統計量		8.60***	

表 28 は金融トラブル経験の有無別で親・子供の同居の状況について比較したものである。親との同居の有無では10%水準での有意差であるが、子供との同居の有無では1%水準で有意差が見られる。金融トラブル経験の有無別で配偶者の有無や子供の人数に統計的な有意差は見られなかったが、金融トラブル経験者は子供と同居している人が有意に多い。

表 29 (クロス分析)親・子同居の有無×年代・金融トラブル経験の有無

Q5. 親と同居	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 同居	213 (35.5%) ⁻	132 (44.0%) ⁺	178 (29.7%)	97 (32.3%)	88 (14.7%)	39 (13.0%)
2. 非同居	387 (64.5%) ⁺	168 (56.0%) ⁻	422 (70.3%)	203 (67.7%)	512 (85.3%)	261 (87.0%)
カイ2乗統計量	6.11**		0.67		0.46	
Q6. 子供と同居	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	236 (100%)	100 (100%)	337 (100%)	160 (100%)	486 (100%)	250 (100%)
1. 同居	224 (94.9%)	98 (98.0%)	277 (82.2%)	125 (78.1%)	228 (46.9%) ⁺	90 (36.0%) ⁻
2. 非同居	12 (5.1%)	2 (2.0%)	60 (17.8%)	35 (21.9%)	258 (53.1%) ⁻	160 (64.0%) ⁺
カイ2乗統計量	1.67		1.16		8.01***	

表 29 は年代（金融トラブル経験の有無）別で子や親との同居について比較したものである。親との同居で統計的な有意差が見られるのは 20・30 代であり、金融トラブル未経験者は親と同居している人が有意に多い。

そして、子供との同居については 60 代以上で 1%水準の統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者は子供と同居している人が有意に多くなっている。

さらに、金融トラブルの内訳別で比較すると（表 30 は親との同居・表 31 は子供との同居）、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は親とも子供とも同居していない人が有意に多い。

一方、「2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした」や「3.消費者金融会社からお金を借りたことがある」は親と同居している人が有意に多く、消費者金融会社からお金を借りたことがある人は子供と同居している人も有意に多くなっている。

また、「4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった」や「5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある」人は子供と同居している人が有意に多い。

表 30 (クロス分析)親と同居×金融トラブル(内訳)

親と同居 ×金融トラブル(内訳)	1.十分に理解できなかったことがある	2.すでにある消費者金融のため借入をした	3.消費者金融からお金を借りたことがある	4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意できなかった	5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1.同居している	165 (24.2%) ⁻	60 (35.1%) ⁺	147 (35.0%) ⁺	80 (29.0%)	208 (27.7%)
2.同居していない	518 (75.8%) ⁺	111 (64.9%) ⁻	273 (65.0%) ⁻	196 (71.0%)	544 (72.3%)
カイ2乗統計量	5.62**	5.02**	13.4***	0.27	0.00

親と同居 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6.振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10.上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1.同居している	16 (32.7%)	12 (22.6%)	32 (27.1%)	29 (26.6%)	268 (29.8%)
2.同居していない	33 (67.3%)	41 (77.4%)	86 (72.9%)	80 (73.4%)	632 (70.2%)
カイ2乗統計量	0.62	0.68	0.02	0.06	3.01*

表 31 (クロス分析)子供と同居×金融トラブル(内訳)

子供と同居 ×金融トラブル(内訳)	1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3.消費者金融会社からお金を借りたことがある	4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	418 (100%)	87 (100%)	220 (100%)	157 (100%)	428 (100%)
1.同居している	259 (62.0%) ⁻	66 (75.9%)	162 (73.6%) ⁺	116 (73.9%) ⁺	327 (76.4%) ⁺
2.同居していない	159 (38.0%) ⁺	21 (24.1%)	58 (26.4%) ⁻	41 (26.1%) ⁻	101 (23.6%) ⁻
カイ2乗統計量	5.06**	3.69*	5.99**	4.37**	26.3***

子供と同居 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6.振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10.上記に該当する経験は一つもない
全体	23 (100%)	31 (100%)	63 (100%)	79 (100%)	510 (100%)
1.同居している	16 (69.6%)	18 (58.1%)	41 (65.1%)	49 (62.0%)	313 (61.4%) ⁻
2.同居していない	7 (30.4%)	13 (41.9%)	22 (34.9%)	30 (38.0%)	197 (38.6%) ⁺
カイ2乗統計量	0.10	0.99	0.05	0.72	8.60***

Q7. 次の各項目は、あなたに当てはまりますか。次の5段階で評価してください。

表 32 回答者の価値観・習慣

Q7. 回答者の価値観・習慣	全体	ぴったり当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらともいえない	どちらかという 当てはまらない	全く当てはまらない
1. 老後の生活は不安	2700 (100%)	765 (28.3%)	1106 (41.0%)	517 (19.1%)	202 (7.5%)	110 (4.1%)
2. 周りと同じ行動を採る	2700 (100%)	105 (3.9%)	545 (20.2%)	1259 (46.6%)	522 (19.3%)	269 (10.0%)
3. 子に財産を残したい	2700 (100%)	254 (9.4%)	746 (27.6%)	943 (34.9%)	345 (12.8%)	412 (15.3%)
4. 今お金を使いたい	2700 (100%)	137 (5.1%)	563 (20.9%)	1126 (41.7%)	625 (23.1%)	249 (9.2%)
5. 投資で損は仕方が無い	2700 (100%)	202 (7.5%)	929 (34.4%)	767 (28.4%)	443 (16.4%)	359 (13.3%)
6. 新聞を読む習慣がある	2700 (100%)	477 (17.7%)	646 (23.9%)	465 (17.2%)	349 (12.9%)	763 (28.3%)
7. 新しいことに挑戦したい	2700 (100%)	132 (4.9%)	613 (22.7%)	1063 (39.4%)	602 (22.3%)	290 (10.7%)
8. 仕事はぎりぎりに始める	2700 (100%)	168 (6.2%)	692 (25.6%)	813 (30.1%)	651 (24.1%)	376 (13.9%)
9. 手数料が無い時に ATM を利用	2700 (100%)	1177 (43.6%)	890 (33.0%)	425 (15.7%)	114 (4.2%)	94 (3.5%)
10. 金利を比較して預金先を決定	2700 (100%)	348 (12.9%)	616 (22.8%)	1047 (38.8%)	413 (15.3%)	276 (10.2%)

表 32 は、回答者の価値観や習慣について調査した結果である。特徴的な箇所のみを見ると、老後の生活に対する意識と ATM の利用については「当てはまる（「ぴったりと当てはまる」と「どちらかという当てはまる」の計）」を選択する人が多い。「1.老後の生活が不安」に対し「当てはまる」を選択した人は 69.3%であり、また、「9.お金を引き出す際には手数料のかからない時間帯に ATM を利用することが多い」に対し「当てはまる」と回答した人は 77.6%である。

そして、「全く当てはまらない」と回答する人が多いのは新聞を読む習慣であり、28.3%が新聞を読む習慣が無い。なお、新聞を読む習慣に対し「当てはまらない（「どちらかという当てはまらない」と「全く当てはまらない」の計）」で見ると、41.2%が当てはまらなないと回答している。

表 33 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:金融トラブル経験の有無の有意性の一覧

Q7. 回答者の価値観・習慣	ぴったり当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらともいえない	どちらかという 当てはまらない	全く当てはまらない
金融トラブル経験有					
1. 老後の生活は不安	+		-		-
2. 周りと同じ行動を採る	+	+	-		-
3. 子に財産を残したい	+		-		
4. 今お金を使いたい	+	+	-		-
5. 投資で損は仕方が無い		+	-		-
6. 新聞を読む習慣がある			-		
7. 新しいことに挑戦したい	+	+	-		-
8. 仕事はぎりぎりに始める	+	+	-	-	-
9. 手数料が無い時に ATM を利用			-	+	-
10. 金利を比較して預金先を決定					
金融トラブル経験無					
1. 老後の生活は不安	-		+		+
2. 周りと同じ行動を採る	-	-	+		+
3. 子に財産を残したい	-		+		
4. 今お金を使いたい	-	-	+		+
5. 投資で損は仕方が無い		-	+		+
6. 新聞を読む習慣がある			+		
7. 新しいことに挑戦したい	-	-	+		+
8. 仕事はぎりぎりに始める	-	-	+	+	+
9. 手数料が無い時に ATM を利用			+	-	+
10. 金利を比較して預金先を決定					

表 33 から表 43 は金融トラブル経験の有無で回答者の価値観・習慣について比較したものである。表 33 は金融トラブル経験の有無別で 5%以上の有意性の結果のみを一覧にしたものであり、詳細は表 34 から表 43 で提示している。なお、+は該当する項目を選択した人が 5%水準以上で有意に多く、-は有意に少ないことを表している（+または-の符号が無い箇所は有意性が見られない項目である）。

表 33 を見ると、金融トラブル経験者は、回答者の価値観や習慣として提示している質問に対し、ほぼ「ぴったり当てはまる」あるいは「どちらかという当てはまる」と回答する人が有意に多く、金融トラブル未経験者は「どちらともいえない」あるいは「全く当てはまらない」と回答する人が有意に多く、

金融トラブル経験の有無で価値観や習慣は逆の傾向が見られる。

但し、「9.手数料がかからない時間帯に ATM を利用することが多い」については、どちらとも当てはまらない傾向が見られ、金融トラブル経験者は「どちらかという当てはまらない」、金融トラブル未経験は「全く当てはまらない」が有意に多くなっている。

また、「6.新聞を読む習慣がある」は「どちらともいえない」の有意性のみが現れており、当てはまる・当てはまらないのどちらかに回答が分かれる傾向は見られない。

ちなみに、「10.銀行の預金金利を比較して預金先を決める」に対しては、金融トラブル経験の有無で統計的な有意差はない。

表 34 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:1. 老後に対する意識×金融トラブル経験の有無

1. 老後の生活は不安×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	565 (31.4%)+	200 (22.2%)-
どちらかという当てはまる	739 (41.1%)	367 (40.8%)
どちらともいえない	307 (17.1%)-	210 (23.3%)+
どちらかという当てはまらない	139 (7.7%)	63 (7.0%)
全くあてはまらない	50 (2.8%)-	60 (6.7%)+
カイ2乗統計量	52.8***	

表 35 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:2. 協働性×金融トラブル経験の有無

2. 周りと同じ行動を採る×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	84 (4.7%)+	21 (2.3%)-
どちらかという当てはまる	391 (21.7%)+	154 (17.1%)-
どちらともいえない	806 (44.8%)-	453 (50.3%)+
どちらかという当てはまらない	360 (20.0%)	162 (18.0%)
全くあてはまらない	159 (8.8%)-	110 (12.2%)+
カイ2乗統計量	26.8***	

表 36 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:3. 遺産動機×金融トラブル経験の有無

3. 子に財産を残したい×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	196 (10.9%)+	58 (6.4%)-
どちらかという当てはまる	515 (28.6%)	231 (25.7%)
どちらともいえない	587 (32.6%)-	356 (39.6%)+
どちらかという当てはまらない	224 (12.4%)	121 (13.4%)
全くあてはまらない	278 (15.4%)	134 (14.9%)
カイ2乗統計量	23.4***	

表 37 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:4. 時間選好率×金融トラブル経験の有無

4. 今お金を使いたい×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	114 (6.3%)+	23 (2.6%)-
どちらかという当てはまる	432 (24.0%)+	131 (14.6%)-
どちらともいえない	703 (39.1%)-	423 (47.0%)+
どちらかという当てはまらない	402 (22.3%)	223 (24.8%)
全くあてはまらない	149 (8.3%)-	100 (11.1%)+
カイ2乗統計量	58.4***	

表 38 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:5. 投資に対する態度×金融トラブル経験の有無

5. 投資で損は仕方が無い×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	147 (8.2%)	55 (6.1%)
どちらかという当てはまる	700 (38.9%)+	229 (25.4%)-
どちらともいえない	477 (26.5%)-	290 (32.2%)+
どちらかという当てはまらない	283 (15.7%)	160 (17.8%)
全くあてはまらない	193 (10.7%)-	166 (18.4%)+
カイ2乗統計量	70.3***	

表 39 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:6. 新聞を読む習慣×金融トラブル経験の有無

6. 新聞を読む習慣がある×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	305 (16.9%)	172 (19.1%)
どちらかという当てはまる	441 (24.5%)	205 (22.8%)
どちらともいえない	284 (15.8%) ⁻	181 (20.1%) ⁺
どちらかという当てはまらない	244 (13.6%)	105 (11.7%)
全くあてはまらない	526 (29.2%)	237 (26.3%)
カイ2乗統計量	12.3**	

表 40 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:7. チャレンジ精神×金融トラブル経験の有無

7. 新しいことに挑戦したい×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	107 (5.9%) ⁺	25 (2.8%) ⁻
どちらかという当てはまる	485 (26.9%) ⁺	128 (14.2%) ⁻
どちらともいえない	653 (36.3%) ⁻	410 (45.6%) ⁺
どちらかという当てはまらない	393 (21.8%)	209 (23.2%)
全くあてはまらない	162 (9.0%) ⁻	128 (14.2%) ⁺
カイ2乗統計量	84.0***	

表 41 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:8. 仕事の取組み×金融トラブル経験の有無

8. 仕事はぎりぎりに始める×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	132 (7.3%) ⁺	36 (4.0%) ⁻
どちらかという当てはまる	530 (29.4%) ⁺	162 (18.0%) ⁻
どちらともいえない	520 (28.9%) ⁻	293 (32.6%) ⁺
どちらかという当てはまらない	409 (22.7%) ⁻	242 (26.9%) ⁺
全くあてはまらない	209 (11.6%) ⁻	167 (18.6%) ⁺
カイ2乗統計量	69.2***	

表 42 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:9. ATM の利用×金融トラブル経験の有無

9. 手数料が無い時に ATM 利用×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	804 (44.7%)	373 (41.4%)
どちらかという当てはまる	608 (33.8%)	282 (31.3%)
どちらともいえない	244 (13.6%)-	181 (20.1%)+
どちらかという当てはまらない	95 (5.3%)+	19 (2.1%)-
全くあてはまらない	49 (2.7%)-	45 (5.0%)+
カイ2乗統計量	42.1***	

表 43 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:10. 預金先の決定×金融トラブル経験の有無

10. 金利を比較して預金先決定×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	244 (13.6%)	104 (11.6%)
どちらかという当てはまる	417 (23.2%)	199 (22.1%)
どちらともいえない	680 (37.8%)	367 (40.8%)
どちらかという当てはまらない	284 (15.8%)	129 (14.3%)
全くあてはまらない	175 (9.7%)	101 (11.2%)
カイ2乗統計量	5.69	

表 44 (クロス分析)20・30 代回答者の価値観・習慣:金融トラブル経験の有無の有意性の一覧

Q7. 回答者の価値観・習慣	ぴったり当てはまる	どちらかという当てはまる	どちらともいえない	どちらかという当てはまらない	全く当てはまらない
金融トラブル経験有(20・30代)					
1. 老後の生活は不安	+		-		-
2. 周りと同じ行動を採る					
3. 子に財産を残したい	+				
4. 今お金を使いたい	+	+	-		
5. 投資で損は仕方が無い	+	+	-		-
6. 新聞を読む習慣がある			-		
7. 新しいことに挑戦したい	+	+	-		-
8. 仕事はぎりぎりに始める	+	+	-		-
9. 手数料が無い時に ATM を利用			-		
10. 金利を比較して預金先を決定					
金融トラブル経験無(20・30代)					
1. 老後の生活は不安	-		+		+
2. 周りと同じ行動を採る					
3. 子に財産を残したい	-				
4. 今お金を使いたい	-	-	+		
5. 投資で損は仕方が無い	-	-	+		+
6. 新聞を読む習慣がある			+		
7. 新しいことに挑戦したい	-	-	+		+
8. 仕事はぎりぎりに始める	-	-	+		+
9. 手数料が無い時に ATM を利用			+		
10. 金利を比較して預金先を決定					

注) ■は 20・30 代、40・50 代、60 代以上の全ての年代で共通して見られる有意性を表す。

表 45 (クロス分析)40・50 代回答者の価値観・習慣:金融トラブル経験の有無の有意性の一覧

Q7. 回答者の価値観・習慣	ぴったり当てはまる	どちらかという当てはまる	どちらともいえない	どちらかという当てはまらない	全く当てはまらない
金融トラブル経験有(40・50代)					
1. 老後の生活は不安	+		-		-
2. 周りと同じ行動を採る	+				
3. 子に財産を残したい		+	-		
4. 今お金を使いたい	+	+		-	
5. 投資で損は仕方が無い		+			-
6. 新聞を読む習慣がある					
7. 新しいことに挑戦したい		+			-
8. 仕事はぎりぎりに始める		+			-
9. 手数料が無い時に ATM を利用			-	+	
10. 金利を比較して預金先を決定					
金融トラブル経験無(40・50代)					
1. 老後の生活は不安	-		+		+
2. 周りと同じ行動を採る	-				
3. 子に財産を残したい		-	+		
4. 今お金を使いたい	-	-		+	
5. 投資で損は仕方が無い		-			+
6. 新聞を読む習慣がある					
7. 新しいことに挑戦したい		-			+
8. 仕事はぎりぎりに始める		-			+
9. 手数料が無い時に ATM を利用			+	-	
10. 金利を比較して預金先を決定					

注) ■は 20・30 代、40・50 代、60 代以上の全ての年代で共通して見られる有意性を表す。

表 46 (クロス分析)60代以上回答者の価値観・習慣:金融トラブル経験の有無の有意性の一覧

Q7. 回答者の価値観・習慣	ぴったり当てはまる	どちらかという当てはまる	どちらともいえない	どちらかという当てはまらない	全く当てはまらない
金融トラブル経験有(60代以上)					
1. 老後の生活は不安	+				-
2. 周りと同じ行動を採る		+			
3. 子に財産を残したい			-		
4. 今お金を使いたい	+	+	-		
5. 投資で損は仕方が無い		+			-
6. 新聞を読む習慣がある	-				
7. 新しいことに挑戦したい		+	-		
8. 仕事はぎりぎりに始める				+	-
9. 手数料が無い時にATMを利用				+	-
10. 金利を比較して預金先を決定					
金融トラブル経験無(60代以上)					
1. 老後の生活は不安	-				+
2. 周りと同じ行動を採る		-			
3. 子に財産を残したい			+		
4. 今お金を使いたい	-	-	+		
5. 投資で損は仕方が無い		-			+
6. 新聞を読む習慣がある	+				
7. 新しいことに挑戦したい		-	+		
8. 仕事はぎりぎりに始める				-	+
9. 手数料が無い時にATMを利用				-	+
10. 金利を比較して預金先を決定					

注) ■は 20・30代、40・50代、60代以上の全ての年代で共通して見られる有意性を表す。

表 44 から表 56 は年代（金融トラブル経験の有無）別で回答者の価値観・習慣について比較したものである。表 44 は 20・30 代について、表 45 は 40・50 代について、表 46 は 60 代以上について 5%以上の有意性のみを一覧にしたものである。また、赤色（■）のセルはいずれの年代についても共通で現れた有意性を示している。詳細は表 47 から表 56 で提示している。

表 44 から表 46 を見ると、「1.老後の生活が不安だ」、「4.今お金を使う方が満足感が高い」、「5.投資をするときにはお金を損することがあってもしかたがない」、「7.新しいことに挑戦したい」に対し、全ての年代の金融トラブル経験者で当てはまり、逆に金融トラブル未経験者は当てはまらない傾向が見られる。

金融トラブル経験者で年代別で比較すると、全体的に 20・30 代では提示した 10 個の設問に対し該当する（当てはまる）項目が多く見られるが、40・50 代、60 代以上になるにつれ該当する（当てはまる）項目は減少している。

また、60 代以上の金融トラブル未経験者は新聞を読む習慣が有意に高いことを除けば、いずれの年代でもトラブル未経験者は提示した 10 個の設問に対し該当しない（当てはまらない）と回答する傾向が見られる。特に 20・30 代の金融トラブル未経験者は「どちらともいえない」を選択する傾向が高い。

表 47（クロス分析）回答者の価値観・習慣：1. 老後に対する意識×年代・金融トラブル経験の有無

1. 老後の生活は不安 ×年代・金融トラブル有無	20・30 代		40・50 代		60 代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
ぴったり当てはまる	234 (39.0%)+	89 (29.7%)-	209 (34.8%)+	75 (25.0%)-	122 (20.3%)+	36 (28.3%)-
どちらかという当てはまる	256 (42.7%)	129 (43.0%)	268 (44.7%)	132 (44.0%)	215 (35.8%)	106 (35.3%)
どちらともいえない	62 (10.3%)-	51 (17.0%)+	85 (14.2%)-	67 (22.3%)+	160 (26.7%)	92 (30.7%)
どちらかという当てはまらない	29 (4.8%)	13 (4.3%)	29 (4.8%)	12 (4.0%)	81 (13.5%)	38 (12.7%)
全くあてはまらない	19 (3.2%)-	18 (6.0%)+	9 (1.5%)-	14 (4.7%)+	22 (3.7%)-	28 (9.3%)+
カイ 2 乗統計量	16.0***		22.2***		20.7***	

表 48 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:2. 協働性×年代・金融トラブル経験の有無

2. 周りと同じ行動を採る ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
ぴったり当てはまる	51 (8.5%)	17 (5.7%)	18 (3.0%)+	2 (0.7%)-	15 (2.5%)	2 (0.7%)
どちらかという当てはまる	164 (27.3%)	71 (23.7%)	122 (20.3%)	50 (16.7%)	105 (17.5%)+	33 (11.0%)-
どちらともいえない	235 (39.2%)	134 (44.7%)	278 (46.3%)	154 (51.3%)	293 (48.8%)	165 (55.0%)
どちらかという当てはまらない	98 (16.3%)	41 (13.7%)	132 (22.0%)	57 (19.0%)	130 (21.7%)	64 (21.3%)
全くあてはまらない	52 (8.7%)	37 (12.3%)	50 (8.3%)	37 (12.3%)	57 (9.5%)	36 (12.0%)
カイ2乗統計量	8.27*		11.5**		11.8**	

表 49 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:3. 遺産動機×年代・金融トラブル経験の有無

3. 子に財産を残したい ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
ぴったり当てはまる	119 (19.8%)+	28 (9.3%)-	48 (8.0%)	16 (5.3%)	29 (4.8%)	14 (4.7%)
どちらかという当てはまる	161 (26.8%)	89 (29.7%)	173 (28.8%)+	64 (21.3%)-	181 (30.2%)	78 (26.0%)
どちらともいえない	196 (32.7%)	110 (36.7%)	187 (31.2%)-	121 (40.3%)+	204 (34.0%)-	125 (41.7%)+
どちらかという当てはまらない	47 (7.8%)	29 (9.7%)	73 (12.2%)	39 (13.0%)	104 (17.3%)	53 (17.7%)
全くあてはまらない	77 (12.8%)	44 (14.7%)	119 (19.8%)	60 (20.0%)	82 (13.7%)	30 (10.0%)
カイ2乗統計量	16.3***		11.3**		6.61	

表 50 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:4. 時間選好率×年代・金融トラブル経験の有無

4. 今お金を使いたい ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
ぴったり当てはまる	56 (9.3%)+	15 (5.0%)-	33 (5.5%)+	4 (1.3%)-	25 (4.2%)+	4 (1.3%)-
どちらかという当てはまる	159 (26.5%)+	52 (17.3%)-	145 (24.2%)+	37 (12.3%)-	128 (21.3%)+	42 (14.0%)-
どちらともいえない	204 (34.0%)-	133 (44.3%)+	243 (40.5%)	136 (45.3%)	256 (42.7%)-	154 (51.3%)+
どちらかという当てはまらない	137 (22.8%)	70 (23.3%)	118 (19.7%)-	82 (27.3%)+	147 (24.5%)	71 (23.7%)
全くあてはまらない	44 (7.3%)	30 (10.0%)	61 (10.2%)	41 (13.7%)	44 (7.3%)	29 (9.7%)
カイ2乗統計量	19.4***		30.9***		15.4***	

表 51 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:5. 投資に対する態度×年代・金融トラブル経験の有無

5. 投資で損は仕方が無い ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
ぴったり当てはまる	72 (12.0%)+	19 (6.3%)-	40 (6.7%)	15 (5.0%)	35 (5.8%)	21 (7.0%)
どちらかという当てはまる	203 (33.8%)+	62 (20.7%)-	226 (37.7%)+	73 (24.3%)-	271 (45.2%)+	94 (31.3%)-
どちらともいえない	157 (26.2%)-	110 (36.7%)+	179 (29.8%)	99 (33.0%)	141 (23.5%)	81 (27.0%)
どちらかという当てはまらない	100 (16.7%)	51 (17.0%)	83 (13.8%)	49 (16.3%)	100 (16.7%)	60 (20.0%)
全くあてはまらない	68 (11.3%)-	58 (19.3%)+	72 (12.0%)-	64 (21.3%)+	53 (8.8%)-	44 (14.7%)+
カイ2乗統計量	34.7***		24.6***		18.4***	

表 52 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:6. 新聞を読む習慣×年代・金融トラブル経験の有無

6. 新聞を読む習慣がある ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
ぴったり当てはまる	49 (8.2%)	14 (4.7%)	87 (14.5%)	53 (17.7%)	169 (28.2%)-	105 (35.0%)+
どちらかという当てはまる	95 (15.8%)	40 (13.3%)	131 (21.8%)	69 (23.0%)	215 (35.8%)	96 (32.0%)
どちらともいえない	88 (14.7%)-	70 (23.3%)+	109 (18.2%)	66 (22.0%)	87 (14.5%)	45 (15.0%)
どちらかという当てはまらない	91 (15.2%)	48 (16.0%)	100 (16.7%)	37 (12.3%)	53 (8.8%)	20 (6.7%)
全くあてはまらない	277 (46.2%)	128 (42.7%)	173 (28.8%)	75 (25.0%)	76 (12.7%)	34 (11.3%)
カイ2乗統計量	13.5***		6.46		5.40	

表 53 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:7. チャレンジ精神×年代・金融トラブル経験の有無

7. 新しいことに挑戦したい ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
ぴったり当てはまる	58 (9.7%)+	11 (3.7%)-	28 (4.7%)	7 (2.3%)	21 (3.5%)	7 (2.3%)
どちらかという当てはまる	177 (29.5%)+	42 (14.0%)-	147 (24.5%)+	46 (15.3%)-	161 (26.8%)+	40 (13.3%)-
どちらともいえない	163 (27.2%)-	117 (39.0%)+	249 (41.5%)	126 (42.0%)	241 (40.2%)-	167 (55.7%)+
どちらかという当てはまらない	141 (23.5%)	83 (27.7%)	129 (21.5%)	70 (23.3%)	123 (20.5%)	56 (18.7%)
全くあてはまらない	61 (10.2%)-	47 (15.7%)+	47 (7.8%)-	51 (17.0%)+	54 (9.0%)	30 (10.0%)
カイ2乗統計量	44.6***		26.4***		28.3***	

表 54 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:8. 仕事の取組み×年代・金融トラブル経験の有無

8. 仕事はぎりぎりに始める ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
ぴったり当てはまる	76 (12.7%)+	19 (6.3%)-	37 (6.2%)	11 (3.7%)	19 (3.2%)	6 (2.0%)
どちらかという当てはまる	193 (32.2%)+	66 (22.0%)-	184 (30.7%)+	54 (18.0%)-	153 (25.5%)	42 (14.0%)
どちらともいえない	153 (25.5%)-	107 (35.7%)+	160 (26.7%)	96 (32.0%)	207 (34.5%)	90 (30.0%)
どちらかという当てはまらない	116 (19.3%)-	62 (20.7%)	142 (23.7%)	78 (26.0%)	151 (25.2%)+	102 (34.0%)-
全くあてはまらない	62 (10.3%)-	46 (15.3%)+	77 (12.8%)-	61 (20.3%)+	70 (11.7%)-	60 (20.0%)+
カイ2乗統計量	26.3***		24.3***		17.0***	

表 55 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:9. ATMの利用×年代・金融トラブル経験の有無

9. 手数料が無い時にATM利用 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
ぴったり当てはまる	285 (47.5%)	128 (42.7%)	286 (47.7%)+	135 (45.0%)	233 (38.8%)	110 (36.7%)
どちらかという当てはまる	180 (30.0%)	78 (26.0%)	179 (29.8%)	87 (29.0%)	249 (41.5%)	117 (39.0%)
どちらともいえない	76 (12.7%)-	66 (22.0%)+	84 (14.0%)-	60 (20.0%)+	84 (14.0%)	55 (18.3%)
どちらかという当てはまらない	35 (5.8%)	9 (3.0%)	36 (6.0%)+	7 (2.3%)-	24 (4.0%)+	3 (1.0%)-
全くあてはまらない	24 (4.0%)	19 (6.3%)	15 (2.5%)	11 (3.7%)	10 (1.7%)-	15 (5.0%)+
カイ2乗統計量	18.7***		11.4**		17.0***	

表 56 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:10. 預金先の決定×年代・金融トラブル経験の有無

10. 金利を比較して預金先決定 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
ぴったり当てはまる	85 (14.2%)	37 (12.3%)	75 (12.5%)	35 (11.7%)	84 (14.0%)	32 (10.7%)
どちらかという当てはまる	132 (22.0%)	62 (20.7%)	132 (22.0%)	71 (23.7%)	153 (25.5%)	66 (22.0%)
どちらともいえない	203 (33.8%)	118 (39.3%)	243 (40.5%)	119 (39.7%)	234 (39.0%)	130 (43.3%)
どちらかという当てはまらない	100 (16.7%)	39 (13.0%)	100 (16.7%)	46 (15.3%)	84 (14.0%)	44 (14.7%)
全くあてはまらない	80 (13.3%)	44 (14.7%)	50 (8.3%)	29 (9.7%)	45 (7.5%)	28 (9.3%)
カイ2乗統計量	4.36		1.02		4.55	

表 57 (クロス分析)金融トラブル内認識の価値観・習慣:有意性の一覧

Q7. 回答者の価値観・習慣	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
1. 老後の生活は不安		+	+	+	++
2. 周りと同じ行動を採る	++	+			+
3. 子に財産を残したい	+		+	+	+
4. 今お金を使いたい		++	++	++	++
5. 投資で損は仕方が無い	++	+	+		
6. 新聞を読む習慣がある	++				
7. 新しいことに挑戦したい	++	+	++	+	
8. 仕事はぎりぎりに始める		++	+	++	++
9. 手数料が無い時にATMを利用	+		+		
10. 金利を比較して預金先を決定	++				

Q7. 回答者の価値観・習慣	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
1. 老後の生活は不安					
2. 周りと同じ行動を採る	+		+		
3. 子に財産を残したい	+		+		
4. 今お金を使いたい	+		+		
5. 投資で損は仕方が無い		+	+		
6. 新聞を読む習慣がある			+	+	
7. 新しいことに挑戦したい			++		
8. 仕事はぎりぎりに始める			++		
9. 手数料が無い時にATMを利用					
10. 金利を比較して預金先を決定			+		

注) +は5%水準以上で「ぴったり当てはまる」の選択率が有意に多いもの、++は5%水準以上で「どちらかという当てはまる」の選択率が有意に多いことを表す。

表 57 から表 67 は金融トラブルの内訳で該当・非該当者で価値観や習慣の違いを比較したものである。表 57 は各金融トラブル内訳の該当者に対し 5%水準以上で「ぴったり当てはまる（赤色の+で表示）」と「どちらかという当てはまる（青色の+で表示）」について有意に選択率が多い項目を一覧にしたものである（すなわち各価値観や習慣に対し当てはまりの強さを一覧にしたものである）。詳細は表 58 から表 67 で提示している（なお、表 58 から表 67 は金融トラブルの各内訳別に対し該当者が選択した比率や有意性を示しており、非該当者は提示していない。但し、該当者の有意性から非該当者の有意性については推測が可能である）。

表 57 から全体的に有意性を比較すると、消費者ローン利用者（金融トラブル内訳 2 と 3）や住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある（金融トラブル内訳 4 と 5）人は似たような価値観や習慣である傾向が見られ、特に、これらの金融トラブルに該当する人は「4.今お金を使いたい」と時間選好率が高い傾向が見られる。

また、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」と「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」に該当する人についても、どちらかと言えば似たような価値観や習慣を持つ傾向が見られる。但し、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人については、時間選好率や仕事の取りかかりについては消費者ローン利用者や支払い遅延の経験がある人と同じ行動である。

なお、振り込め詐欺（金融トラブル内訳 6）や他の金融商品に関連する詐欺（金融トラブル内訳 7）に遭った人、及び保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある（金融トラブル内訳 9）に該当するか否かで全体的に価値観や習慣で統計的な有意差が見られる項目は少ない。

表 58 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:1. 老後の意識×金融トラブル(内訳)

1. 老後の生活は不安 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
ぴったり当てはまる	182 (26.6%)	67 (39.2%)+	157 (37.4%)+	110 (39.9%)+	276 (36.7%)+
どちらかという当てはまる	266 (38.9%)	72 (42.1%)	175 (41.7%)	117 (42.4%)	334 (44.4%)+
どちらともいえない	133 (19.5%)	22 (12.9%)-	64 (15.2%)-	35 (12.7%)-	90 (12.0%)-
どちらかという当てはまらない	81 (11.9%)+	10 (5.8%)	17 (4.0%)-	9 (3.3%)-	33 (4.4%)-
全くあてはまらない	21 (3.1%)	0 (0.0%)-	7 (1.7%)-	5 (1.8%)-	19 (2.5%)-
カイ2乗統計量	27.5***	19.5***	33.3***	32.5***	76.3***

1. 老後の生活は不安 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	17 (34.7%)	17 (32.1%)	41 (34.7%)	31 (28.4%)	200 (22.2%)-
どちらかという当てはまる	16 (32.7%)	18 (34.0%)	52 (44.1%)	39 (35.8%)	367 (40.8%)
どちらともいえない	14 (28.6%)	14 (26.4%)	14 (11.9%)-	28 (25.7%)	210 (23.3%)+
どちらかという当てはまらない	2 (4.1%)	4 (7.5%)	7 (5.9%)	8 (7.3%)	63 (7.0%)
全くあてはまらない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	3 (2.8%)	60 (6.7%)+
カイ2乗統計量	6.67	4.61	6.04	3.77	52.8***

表 59 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:2. 協働性×金融トラブル(内訳)

2. 周りと同じ行動を採る ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
ぴったり当てはまる	38 (5.6%)+	15 (8.8%)+	23 (5.5%)	15 (5.4%)	35 (4.7%)
どちらかという当てはまる	161 (23.6%)+	36 (21.1%)	70 (16.7%)-	48 (17.4%)	173 (23.0%)+
どちらともいえない	295 (43.2%)-	76 (44.4%)	198 (47.1%)	111 (40.2%)-	320 (42.6%)-
どちらかという当てはまらない	131 (19.2%)	37 (21.6%)	98 (23.3%)+	68 (24.6%)+	147 (19.5%)
全くあてはまらない	58 (8.5%)	7 (4.1%)-	31 (7.4%)	34 (12.3%)	77 (10.2%)
カイ2乗統計量	16.1***	18.3***	13.7***	12.0**	9.50*

2. 周りと同じ行動を採る ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	5 (10.2%)+	4 (7.5%)	12 (10.2%)+	6 (5.5%)	21 (2.3%)-
どちらかという当てはまる	11 (22.4%)	5 (9.4%)-	25 (21.2%)	15 (13.8%)	154 (17.1%)-
どちらともいえない	16 (32.7%)-	21 (39.6%)	51 (43.2%)	52 (47.7%)	453 (50.3%)+
どちらかという当てはまらない	11 (22.4%)	18 (34.0%)+	22 (18.6%)	28 (25.7%)	162 (18.0%)
全くあてはまらない	6 (12.2%)	5 (9.4%)	8 (6.8%)	8 (7.3%)	110 (12.2%)+
カイ2乗統計量	7.85*	11.5**	14.2***	6.27	26.8***

表 60 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:3. 遺産動機×金融トラブル(内訳)

3. 子に財産を残したい ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
ぴったり当てはまる	63 (9.2%)	22 (12.9%)	54 (12.9%)+	36 (13.0%)+	93 (12.4%)+
どちらかという当てはまる	231 (33.8%)+	43 (25.1%)	108 (25.7%)	66 (23.9%)	208 (27.7%)
どちらともいえない	185 (27.1%)-	60 (35.1%)	144 (34.3%)	93 (33.7%)	251 (33.4%)
どちらかという当てはまらない	92 (13.5%)	17 (9.9%)	45 (10.7%)	31 (11.2%)	89 (11.8%)
全くあてはまらない	112 (16.4%)	29 (17.0%)	69 (16.4%)	50 (18.1%)	111 (14.8%)
カイ2乗統計量	29.9***	4.23	9.11*	8.21*	11.3**

3. 子に財産を残したい ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	9 (18.4%)+	9 (17.0%)	19 (16.1%)+	10 (9.2%)	58 (6.4%)-
どちらかという当てはまる	9 (18.4%)	6 (11.3%)-	30 (25.4%)	30 (27.5%)	231 (25.7%)
どちらともいえない	23 (46.9%)	16 (30.2%)	42 (35.6%)	37 (33.9%)	356 (39.6%)+
どちらかという当てはまらない	3 (6.1%)	12 (22.6%)+	15 (12.7%)	18 (16.5%)	121 (13.4%)
全くあてはまらない	5 (10.2%)	10 (18.9%)	12 (10.2%)	14 (12.8%)	134 (14.9%)
カイ2乗統計量	10.4**	13.4***	8.21*	1.71	23.4***

表 61 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:4. 時間選好率×金融トラブル(内訳)

4. 今お金を使いたい ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
ぴったり当てはまる	37 (5.4%)	23 (13.5%)+	44 (10.5%)+	32 (11.6%)+	55 (7.3%)+
どちらかという当てはまる	155 (22.7%)	65 (38.0%)+	130 (31.0%)+	87 (31.5%)+	198 (26.3%)+
どちらともいえない	261 (38.2%)-	54 (31.6%)-	157 (37.4%)-	103 (37.3%)	280 (37.2%)-
どちらかという当てはまらない	164 (24.0%)	25 (14.6%)-	63 (15.0%)-	40 (14.5%)-	159 (21.1%)
全くあてはまらない	66 (9.7%)	4 (2.3%)-	26 (6.2%)-	14 (5.1%)-	60 (8.0%)
カイ2乗統計量	4.86	70.6***	74.4***	59.6***	33.9***

4. 今お金を使いたい ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	2 (4.1%)	4 (7.5%)	8 (6.8%)	9 (8.3%)	23 (2.6%)-
どちらかという当てはまる	17 (34.7%)+	16 (30.2%)	35 (29.7%)+	21 (19.3%)	131 (14.6%)-
どちらともいえない	21 (42.9%)	14 (26.4%)-	37 (31.4%)-	46 (42.2%)	423 (47.0%)+
どちらかという当てはまらない	6 (12.2%)	15 (28.3%)	29 (24.6%)	25 (22.9%)	223 (24.8%)
全くあてはまらない	3 (6.1%)	4 (7.5%)	9 (7.6%)	8 (7.3%)	100 (11.1%)+
カイ2乗統計量	7.78	6.73	8.92*	2.85	58.4***

表 62 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:5. 投資態度×金融トラブル(内訳)

5. 投資で損は仕方が無い ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
ぴったり当てはまる	65 (9.5%)+	17 (9.9%)	38 (9.0%)	23 (8.3%)	56 (7.4%)
どちらかという当てはまる	324 (47.4%)+	72 (42.1%)+	164 (39.0%)+	107 (38.8%)	247 (32.8%)
どちらともいえない	165 (24.2%)-	47 (27.5%)	123 (29.3%)	69 (25.0%)	208 (27.7%)
どちらかという当てはまらない	84 (12.3%)-	17 (9.9%)-	48 (11.4%)-	36 (13.0%)	141 (18.8%)+
全くあてはまらない	45 (6.6%)-	18 (10.5%)	47 (11.2%)	41 (14.9%)	100 (13.3%)
カイ2乗統計量	96.3***	10.4**	14.1***	5.94	4.43

5. 投資で損は仕方が無い ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	3 (6.1%)	4 (7.5%)	12 (10.2%)	11 (10.1%)	55 (6.1%)
どちらかという当てはまる	20 (40.8%)	28 (52.8%)+	53 (44.9%)+	44 (40.4%)	229 (25.4%)-
どちらともいえない	13 (26.5%)	10 (18.9%)	25 (21.2%)	26 (23.9%)	290 (32.2%)+
どちらかという当てはまらない	7 (14.3%)	5 (9.4%)	18 (15.3%)	16 (14.7%)	160 (17.8%)
全くあてはまらない	6 (12.2%)	6 (11.3%)	10 (8.5%)	12 (11.0%)	166 (18.4%)+
カイ2乗統計量	0.96	8.83*	9.67**	3.69	45.4***

表 63 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:6. 新聞閲覧習慣×金融トラブル(内訳)

6. 新聞を読む習慣がある ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
ぴったり当てはまる	138 (20.2%)+	30 (17.5%)	70 (16.7%)	36 (13.0%)-	110 (14.6%)-
どちらかという当てはまる	209 (30.6%)+	41 (24.0%)	96 (22.9%)	53 (19.2%)	150 (19.9%)-
どちらともいえない	116 (17.0%)	33 (19.3%)	61 (14.5%)	44 (15.9%)	107 (14.2%)-
どちらかという当てはまらない	87 (12.7%)	16 (9.4%)	58 (13.8%)	38 (13.8%)	111 (14.8%)
全くあてはまらない	133 (19.5%)-	51 (29.8%)	135 (32.1%)	105 (38.0%)+	274 (36.4%)+
カイ2乗統計量	45.4***	2.42	5.58	17.5***	45.1***

6. 新聞を読む習慣がある ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	6 (12.2%)	8 (15.1%)	29 (24.6%)+	29 (26.6%)+	172 (19.1%)
どちらかという当てはまる	18 (36.7%)	16 (30.2%)	23 (19.5%)	33 (30.3%)	205 (22.8%)
どちらともいえない	7 (14.3%)	6 (11.3%)	23 (19.5%)	14 (12.8%)	181 (20.1%)+
どちらかという当てはまらない	4 (8.2%)	7 (13.2%)	18 (15.3%)	13 (11.9%)	105 (11.7%)
全くあてはまらない	14 (28.6%)	16 (30.2%)	25 (21.2%)	20 (18.3%)-	237 (26.3%)
カイ2乗統計量	5.38	2.26	7.42	12.4**	12.3**

表 64 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:7. チャレンジ精神×金融トラブル(内訳)

7. 新しいことに挑戦したい ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
ぴったり当てはまる	50 (7.3%)+	11 (6.4%)	32 (7.6%)+	16 (5.8%)	45 (6.0%)
どちらかという当てはまる	203 (29.7%)+	54 (31.6%)+	123 (29.3%)+	83 (30.1%)+	180 (23.9%)
どちらともいえない	254 (37.2%)	59 (34.5%)	151 (36.0%)	85 (30.8%)-	251 (33.4%)-
どちらかという当てはまらない	130 (19.0%)-	32 (18.7%)	84 (20.0%)	61 (22.1%)	195 (25.9%)+
全くあてはまらない	46 (6.7%)-	15 (8.8%)	30 (7.1%)-	31 (11.2%)	81 (10.8%)
カイ2乗統計量	50.0***	10.0**	25.7***	13.7***	18.9***

7. 新しいことに挑戦したい ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	3 (6.1%)	4 (7.5%)	15 (12.7%)+	9 (8.3%)	25 (2.8%)-
どちらかという当てはまる	16 (32.7%)	17 (32.1%)	36 (30.5%)+	33 (30.3%)	128 (14.2%)-
どちらともいえない	18 (36.7%)	18 (34.0%)	34 (28.8%)-	29 (26.6%)-	410 (45.6%)+
どちらかという当てはまらない	8 (16.3%)	9 (17.0%)	22 (18.6%)	28 (25.7%)	209 (23.2%)
全くあてはまらない	4 (8.2%)	5 (9.4%)	11 (9.3%)	10 (9.2%)	128 (14.2%)+
カイ2乗統計量	3.53	4.05	23.2***	11.1**	84.0***

表 65 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:8. 仕事の取組み×金融トラブル(内訳)

8. 仕事はぎりぎりに始める ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
ぴったり当てはまる	40 (5.9%)	19 (11.1%)+	31 (7.4%)	29 (10.5%)+	75 (10.0%)+
どちらかという当てはまる	194 (28.4%)	66 (38.6%)+	131 (31.2%)+	93 (33.7%)+	250 (33.2%)+
どちらともいえない	210 (30.7%)	44 (25.7%)	128 (30.5%)	72 (26.1%)	184 (24.5%)-
どちらかという当てはまらない	165 (24.2%)	27 (15.8%)-	76 (18.1%)-	45 (16.3%)-	155 (20.6%)-
全くあてはまらない	74 (10.8%)-	15 (8.8%)-	54 (12.9%)	37 (13.4%)	88 (11.7%)-
カイ2乗統計量	9.34*	28.9***	15.0***	26.4	67.2***

8. 仕事はぎりぎりに始める ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	4 (8.2%)	4 (7.5%)	13 (11.0%)+	3 (2.8%)	36 (4.0%)-
どちらかという当てはまる	16 (32.7%)	18 (34.0%)	44 (37.3%)+	33 (30.3%)	162 (18.0%)-
どちらともいえない	17 (34.7%)	12 (22.6%)	34 (28.8%)	38 (34.9%)	293 (32.6%)+
どちらかという当てはまらない	7 (14.3%)	12 (22.6%)	20 (16.9%)	16 (14.7%)-	242 (26.9%)+
全くあてはまらない	5 (10.2%)	7 (13.2%)	7 (5.9%)-	19 (17.4%)	167 (18.6%)+
カイ2乗統計量	4.11	2.69	19.5***	9.20*	69.2***

表 66 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:9. ATMの利用×金融トラブル(内訳)

9. 手数料が無い時に ATM 利用 × 金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
ぴったり当てはまる	343 (50.2%)+	55 (32.2%)-	142 (33.8%)-	93 (33.7%)-	349 (46.4%)
どちらかという当てはまる	232 (34.0%)	66 (38.6%)	156 (37.1%)+	97 (35.1%)	256 (34.0%)
どちらともいえない	60 (8.8%)-	28 (16.4%)	77 (18.3%)	41 (14.9%)	85 (11.3%)-
どちらかという当てはまらない	29 (4.2%)	16 (9.4%)+	30 (7.1%)+	29 (10.5%)+	41 (5.5%)+
全くあてはまらない	19 (2.8%)	6 (3.5%)	15 (3.6%)	16 (5.8%)+	21 (2.8%)
カイ2乗統計量	38.9***	18.7***	25.7***	41.0***	20.5***

9. 手数料が無い時に ATM 利用 × 金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	23 (46.9%)	29 (54.7%)	54 (45.8%)	38 (34.9%)	373 (41.4%)
どちらかという当てはまる	13 (26.5%)	16 (30.2%)	43 (36.4%)	36 (33.0%)	282 (31.3%)
どちらともいえない	7 (14.3%)	5 (9.4%)	12 (10.2%)	27 (24.8%)+	181 (20.1%)+
どちらかという当てはまらない	4 (8.2%)	1 (1.9%)	6 (5.1%)	5 (4.6%)	19 (2.1%)-
全くあてはまらない	2 (4.1%)	2 (3.8%)	3 (2.5%)	3 (2.8%)	45 (5.0%)+
カイ2乗統計量	2.71	3.74	3.55	8.08*	42.1***

表 67 (クロス分析)回答者の価値観・習慣:10. 預金先決定×金融トラブル(内訳)

10. 金利を比較して預金先決定 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
ぴったり当てはまる	132 (19.3%)+	18 (10.5%)	47 (11.2%)	21 (7.6%)-	80 (10.6%)-
どちらかという当てはまる	202 (29.6%)+	36 (21.1%)	76 (18.1%)-	46 (16.7%)-	152 (20.2%)-
どちらともいえない	206 (30.2%)-	67 (39.2%)	181 (43.1%)+	108 (39.1%)	301 (40.0%)
どちらかという当てはまらない	88 (12.9%)-	28 (16.4%)	73 (17.4%)	56 (20.3%)+	141 (18.8%)+
全くあてはまらない	55 (8.1%)-	22 (12.9%)	43 (10.2%)	45 (16.3%)+	78 (10.4%)
カイ2乗統計量	72.9***	2.43	9.77**	27.9***	15.8***

10. 金利を比較して預金先決定 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
ぴったり当てはまる	8 (16.3%)	11 (20.8%)	27 (22.9%)+	12 (11.0%)	104 (11.6%)
どちらかという当てはまる	11 (22.4%)	7 (13.2%)	30 (25.4%)	25 (22.9%)	199 (22.1%)
どちらともいえない	14 (28.6%)	19 (35.8%)	38 (32.2%)	46 (42.2%)	367 (40.8%)
どちらかという当てはまらない	12 (24.5%)	13 (24.5%)	18 (15.3%)	17 (15.6%)	129 (14.3%)
全くあてはまらない	4 (8.2%)	3 (5.7%)	5 (4.2%)-	9 (8.3%)	101 (11.2%)
カイ2乗統計量	4.77	9.02*	15.6***	1.09	5.69

Q8. あなた自身、および、配偶者がいる場合には配偶者の昨年の年収(税込み)として、下記から当てはまるものをそれぞれ一つお選びください。

表 68 回答者・配偶者の年収

Q8. 回答者・配偶者の年収	回答者	配偶者
全体	2700 (100%)	1686 (100%)
1. ゼロ	214 (7.9%)	268 (15.9%)
2. ゼロ円超～100万円以下	314 (11.6%)	364 (21.6%)
3. 100万円超～200万円以下	342 (12.7%)	227 (13.5%)
4. 200万円超～400万円以下	740 (27.4%)	327 (19.4%)
5. 400万円超～600万円以下	439 (16.3%)	189 (11.2%)
6. 600万円超～800万円以下	238 (8.8%)	101 (6.0%)
7. 800万円超～1000万円以下	121 (4.5%)	38 (2.3%)
8. 1000万円超～1200万円以下	48 (1.8%)	10 (0.6%)
9. 1200万円超～1500万円以下	19 (0.7%)	6 (0.4%)
10. 1500万円超～2000万円以下	16 (0.6%)	4 (0.2%)
11. 2000万円超	20 (0.7%)	7 (0.4%)
12. わからない	189 (7.0%)	145 (8.6%)

表 68 は回答者と配偶者の年収について調査した結果である。回答者の年収カテゴリーとして1番多いのは200～400万円であり、3割弱(27.4%)が該当する。なお、収入がゼロの回答者は1割弱(7.9%)であり、収入がある回答者で年収400万円以下が約半分(51.7%)占める。

一方、配偶者の年収カテゴリーとして1番多いのは100万円以下(ゼロ超)である。収入が無い配偶者は15.9%であり、収入がある配偶者で年収400万円以下が回答者と同様約半分(54.5%)を占める。

表 69 (クロス分析)年収×金融トラブル経験の有無

年収×金融トラブル経験の有無	回答者		配偶者	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)	1106 (100%)	580 (100%)
1. ゼロ	114 (6.3%) ⁻	100 (11.1%) ⁺	176 (15.9%)	92 (15.9%)
2. ゼロ円超～100万円以下	209 (11.6%)	105 (11.7%)	233 (21.1%)	131 (22.6%)
3. 100万円超～200万円以下	235 (13.1%)	107 (11.9%)	167 (15.1%) ⁺	60 (10.3%) ⁻
4. 200万円超～400万円以下	502 (27.9%)	238 (26.4%)	233 (21.1%) ⁺	94 (16.2%) ⁻
5. 400万円超～600万円以下	321 (17.8%) ⁺	118 (13.1%) ⁻	125 (11.3%)	64 (11.0%)
6. 600万円超～800万円以下	167 (9.3%)	71 (7.9%)	62 (5.6%)	39 (6.7%)
7. 800万円超～1000万円以下	95 (5.3%) ⁺	26 (2.9%) ⁻	23 (2.1%)	15 (2.6%)
8. 1000万円超～1200万円以下	37 (2.1%)	11 (1.2%)	4 (0.4%)	6 (1.0%)
9. 1200万円超～1500万円以下	16 (0.9%)	3 (0.3%)	5 (0.5%)	1 (0.2%)
10. 1500万円超～2000万円以下	7 (0.4%) ⁻	9 (1.0%) ⁺	3 (0.3%)	1 (0.2%)
11. 2000万円超	15 (0.8%)	5 (0.6%)	5 (0.5%)	2 (0.3%)
12. わからない	82 (4.6%) ⁻	107 (11.9%) ⁺	70 (6.3%) ⁻	75 (12.9%) ⁺
カイ2乗統計量	91.0***		36.0***	

表 69 は金融トラブル経験の有無別で年収を比較したものである。回答者・配偶者ともに 1%水準で統計的な有意差が見られる。

まず、回答者の年収を見ると、金融トラブル経験者については年収 400～600 万、800～1000 万の 카테고リーに該当する人が有意に多い。そして、金融トラブル未経験者の年収は高収入と低収入に分かれており、収入が無い人と 1500 万円超の人が有意に多くなっている。ちなみに、金融トラブル未経験者の回答者については自身・配偶者ともに年収がわからないと回答している人が有意に多い。

一方、配偶者の年収を見ると、金融トラブル経験者の配偶者の年収カテゴリーとしては 100 万から 400 万円以下の範囲で有意に多くなっている。

表 70 (クロス分析)回答者の年収×年代・金融トラブル経験の有無

回答者の年収 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. ゼロ	60 (10.0%) ⁻	50 (16.7%) ⁺	40 (6.7%) ⁻	36 (12.0%) ⁺	14 (2.3%)	14 (4.7%)
2. ゼロ円超～100万円以下	77 (12.8%)	42 (14.0%)	55 (9.2%)	36 (12.0%)	77 (12.8%)	27 (9.0%)
3. 100万円超～200万円以下	82 (13.7%)	33 (11.0%)	60 (10.0%) ⁺	16 (5.3%) ⁻	93 (15.5%)	58 (19.3%)
4. 200万円超～400万円以下	175 (29.2%)	74 (24.7%)	125 (20.8%)	60 (20.0%)	202 (33.7%)	104 (34.7%)
5. 400万円超～600万円以下	120 (20.0%) ⁺	42 (14.0%) ⁻	108 (18.0%) ⁺	37 (12.3%) ⁻	93 (15.5%)	39 (13.0%)
6. 600万円超～800万円以下	41 (6.8%)	16 (5.3%)	89 (14.8%)	40 (13.3%)	37 (6.2%)	15 (5.0%)
7. 800万円超～1000万円以下	17 (2.8%) ⁺	1 (0.3%) ⁻	55 (9.2%)	19 (6.3%)	23 (3.8%)	6 (2.0%)
8. 1000万円超～1200万円以下	6 (1.0%)	1 (0.3%)	16 (2.7%)	8 (2.7%)	15 (2.5%)	2 (0.7%)
9. 1200万円超～1500万円以下	1 (0.2%)	0 (0.0%)	11 (1.8%)	2 (0.7%)	4 (0.7%)	1 (0.3%)
10. 1500万円超～2000万円以下	1 (0.2%)	1 (0.3%)	1 (0.2%) ⁻	4 (1.3%) ⁺	5 (0.8%)	4 (1.3%)
11. 2000万円超	2 (0.3%)	2 (0.7%)	7 (1.2%)	1 (0.3%)	6 (1.0%)	2 (0.7%)
12. わからない	18 (3.0%) ⁻	38 (12.7%) ⁺	33 (5.5%) ⁻	41 (13.7%) ⁺	31 (5.2%) ⁻	28 (9.3%) ⁺
カイ2乗統計量	53.4***		44.4***		21.3**	

表 70 は年代（金融トラブル有無）別で回答者の年収について比較したものである。

まず、60代以上では年収がある（わかる）人を対象にすると、金融トラブル経験の有無で統計的な有意差は見られない。

そして、20・30代を見ると、金融トラブル経験者では400～600万円以下、及び、800～1000万円以下に該当する人が有意に多く、40・50代の金融トラブル経験者は100～200万円、400～600万円に該当する人が有意に多くなっている。

なお、いずれの年代でも金融トラブル未経験者は年収に対して「わからない」と回答する人が有意に多い。また、20・30代と40・50代では金融トラブル未経験者で収入ゼロが有意に多い。

表 71 (クロス分析)回答者の年収×金融トラブル(内訳)

回答者の年収 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. ゼロ	34 (5.0%) ⁻	6 (3.5%) ⁻	17 (4.0%) ⁻	15 (5.4%)	62 (8.2%)
2. ゼロ円超～100万円以下	66 (9.7%)	17 (9.9%)	42 (10.0%)	32 (11.6%)	100 (13.3%)
3. 100万円超～200万円以下	84 (12.3%)	23 (13.5%)	55 (13.1%)	40 (14.5%)	113 (15.0%) ⁺
4. 200万円超～400万円以下	171 (25.0%)	42 (24.6%)	123 (29.3%)	85 (30.8%)	234 (31.1%) ⁺
5. 400万円超～600万円以下	120 (17.6%)	46 (26.9%) ⁺	92 (21.9%) ⁺	59 (21.4%) ⁺	18 (15.7%)
6. 600万円超～800万円以下	79 (11.6%) ⁺	19 (11.1%)	41 (9.8%)	22 (8.0%)	50 (6.6%) ⁻
7. 800万円超～1000万円以下	47 (6.9%) ⁺	9 (5.3%)	25 (6.0%)	7 (2.5%)	30 (4.0%)
8. 1000万円超～1200万円以下	23 (3.4%) ⁺	5 (2.9%)	4 (1.0%)	5 (1.8%)	7 (0.9%) ⁻
9. 1200万円超～1500万円以下	11 (1.6%) ⁺	1 (0.6%)	1 (0.2%)	1 (0.4%)	4 (0.5%)
10. 1500万円超～2000万円以下	3 (0.4%)	1 (0.6%)	2 (0.5%)	1 (0.4%)	0 (0.0%) ⁻
11. 2000万円超	11 (1.6%)	0 (0.0%)	3 (0.7%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)
12. わからない	34 (5.0%) ⁻	2 (1.2%) ⁻	15 (3.6%) ⁻	9 (3.3%) ⁻	32 (4.3%) ⁻
カイ2乗統計量	74.3***	31.2***	35.9***	21.2**	44.0***

表 71 は金融トラブル内訳で回答者の年収について比較したものである。

「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は 600 万円超の高年収者が有意に多い。そして、消費者ローンを利用したことがある人(金融トラブル内訳 2 と 3) や「4.住宅ローン等の返済資金を用意することができなかった」人は 400～600 万円の年収カテゴリーに該当する人が有意に多くなっている。また、「5.公共料金等の支払いを遅延した人がある」人は 100～400 万円の年収が有意に多い。なお、金融トラブル内訳 6～9 の該当・非該当で回答者の年収に統計的な有意差は見られない。

(クロス分析)回答者の年収×金融トラブル(内訳)(つづき)

回答者の年収 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブ ルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代 わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は二つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. ゼロ	4 (8.2%)	4 (7.5%)	10 (8.5%)	2 (1.8%) ⁻	100 (11.1%) ⁺
2. ゼロ円超～100万円以下	5 (10.2%)	7 (13.2%)	12 (10.2%)	13 (11.9%)	105 (11.7%)
3. 100万円超～200万円以下	8 (16.3%)	8 (15.1%)	15 (12.7%)	16 (14.7%)	107 (11.9%)
4. 200万円超～400万円以下	21 (42.9%) ⁺	15 (28.3%)	28 (23.7%)	32 (29.4%)	238 (26.4%)
5. 400万円超～600万円以下	3 (6.1%)	8 (15.1%)	26 (22.0%)	23 (21.1%)	118 (13.1%) ⁻
6. 600万円超～800万円以下	4 (8.2%)	6 (11.3%)	11 (9.3%)	9 (8.3%)	71 (7.9%)
7. 800万円超～1000万円以下	1 (2.0%)	2 (3.8%)	6 (5.1%)	4 (3.7%)	26 (2.9%) ⁻
8. 1000万円超～1200万円以下	2 (4.1%)	1 (1.9%)	1 (0.8%)	3 (2.8%)	11 (1.2%)

9. 1200万円超～1500万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (0.3%)
10. 1500万円超～2000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	9 (1.0%) ⁺
11. 2000万円超	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)	1 (0.9%)	5 (0.6%)
12. わからない	1 (2.0%)	2 (3.8%)	5 (4.2%)	5 (4.6%)	107 (11.9%) ⁺
カイ2乗統計量	13.1	2.79	10.4	10.0	91.0***

表 72 平均収入の差の検定結果:金融トラブル経験の有無別

平均収入の差の検定 (トラブル有無別)	回答者		配偶者	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数	1718	793	1036	505
平均収入(万円)	386.4	336.3	250.6	257.9
t-統計量	3.52***		-0.46	

表 73 平均収入の差の検定結果:年代・金融トラブル経験の有無別

平均収入の差の検定 (年代・トラブル有無別)	回答者					
	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数	582	262	567	259	569	272
平均収入(万円)	320.2	264.1	464.3	410.4	376.4	335.3
t-統計量	2.76***		1.95*		1.73*	

平均収入の差の検定 (年代・トラブル有無別)	配偶者					
	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数	263	122	335	160	438	223
平均収入(万円)	330.8	336.9	265.4	318.4	191.1	171.3
t-統計量	-0.22		-1.65		0.97	

表 72 と表 73 は年収に対して「わからない」を除くサンプルを対象に、各階級の中央値（選択肢 11 については 2000 万円を代入）を用いて平均収入について比較したものである。

まず、表 72 より金融トラブル経験の有無別で平均年収を比較すると、配偶者の平均年収には統計的な有意差は見られないが、回答者については 1%水準で有意差が見られる。金融トラブル経験者の平均年収は 386.4 万円、金融トラブル未経験者は 336.3 万円と金融トラブル経験者の方が平均年収は 50.1 万円高い。

そして、表 73 より年代別で回答者の年収を比較すると、1%水準で統計的な有意差が見られるのは 20・30 代であり金融トラブル経験者の平均年収は 320.2 万円、未経験者は 264.1 万円と 56 万円高い。40・50 代と 60 代以上でも金融トラブル経験者の方が未経験者よりも年収は高いが有意差は 10%水準である。

なお、年代別で見ると、回答者の金融トラブル経験の有無で配偶者の年収に統計的な有意差は見られない。

表 74 回答者の平均収入の差の検定結果:金融トラブル(内訳)

回答者										
平均収入の差の検定(回答者)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	649	1862	169	2342	405	2106	267	2244	720	1791
平均年収	450.2	342.8	413.6	367.4	394.3	366.0	347.9	373.2	319.8	391.0
t-統計量	-6.49***		-1.75*		-1.58		1.44		5.46***	

回答者										
平均収入の差の検定(回答者)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験はない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	48	2463	51	2460	113	2398	104	2407	793	1718
平均年収	315.6	371.6	336.3	371.3	406.6	368.9	391.4	370.0	336.3	386.4
t-統計量	1.46		0.75		-1.18		-0.65		3.52***	

表 74 は金融トラブル内訳別で回答者の平均年収を比較したものである(参考として表 75 は配偶者の平均収入の検定結果である)。統計的に有意な差が見られるのは金融トラブル内訳 1 と 5 である。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人の平均年収は 450.2 万円、無い人は 342.8 万円と 107.4 万円高い。また、「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」人の平均年収は 319.8 万円、無い人は 391 万円と遅延の無い人の方が平均年収は 71.2 万円高くなっている。

表 75 (参考)配偶者の平均収入の差の検定結果:金融トラブル(内訳)

配偶者										
平均収入の差の検定(配偶者)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	415	1126	90	1451	219	1322	140	1401	411	1130
サンプル数	264.5	248.8	208.9	255.7	200.0	261.8	220.4	256.3	266.3	248.1
平均年収	-0.85		1.50		3.53***		1.91*		-1.20	
t-統計量										

配偶者										
平均収入の差の検定(配偶者)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験はない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	24	1517	28	1513	64	1477	71	1470	505	1036
サンプル数	254.2	253.0	267.9	252.7	276.6	252.0	195.1	255.8	257.9	250.6
平均年収	-0.02		-0.28		-0.67		1.74*		-0.47	
t-統計量										

Q9. 昨年の年収の内、あなたは、何%を貯蓄に回しましたか。なお、住宅ローンや奨学金などの借入金の返済も貯蓄に含めます。下記の中から、当てはまるものを選んでください。

表 76 年収に占める貯蓄の比率

Q9. 貯蓄率	全体
全体	2700 (100%)
1. マイナス(借入をした)	182 (6.7%)
2. 0%(貯蓄をしなかった)	628 (23.3%)
3. 0%超～5%以下	330 (12.2%)
4. 5%超～10%以下	317 (11.7%)
5. 10%超～20%以下	340 (12.6%)
6. 20%超～30%以下	223 (8.3%)
7. 30%超～40%以下	112 (4.1%)
8. 40%超～50%以下	56 (2.1%)
9. 50%超	78 (2.9%)
10. わからない	434 (16.1%)

表 76 は貯蓄率について調査した結果である。1 番多い選択肢は「0% (貯蓄をしなかった)」で 23.3% であり、貯蓄率が 10%以下 (借入をした場合を除く) が約半分 (47.2%) を占める。なお、貯蓄率がマイナス (借入した) 人は 6.7%、「わからない」と回答する人は 16.1%である。

表 77 (クロス分析)貯蓄率×金融トラブル経験の有無

貯蓄率×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. マイナス(借入をした)	166 (9.2%)+	16 (1.8%)-
2. 0%(貯蓄をしなかった)	437 (24.3%)	191 (21.2%)
3. 0%超～5%以下	224 (12.4%)	106 (11.8%)
4. 5%超～10%以下	214 (11.9%)	103 (11.4%)
5. 10%超～20%以下	234 (13.0%)	106 (11.8%)
6. 20%超～30%以下	151 (8.4%)	72 (8.0%)
7. 30%超～40%以下	79 (4.4%)	33 (3.7%)
8. 40%超～50%以下	36 (2.0%)	20 (2.2%)
9. 50%超	52 (2.9%)	26 (2.9%)
10. わからない	207 (11.5%)-	227 (25.2%)+
カイ2乗統計量	124.1***	

表 77 は金融トラブル経験の有無別で貯蓄率について比較したものである。1%水準で統計的な有意差が見られるが、有意差が出ているカテゴリーは「1. マイナス (借入をした)」と「10. わからない」であり、金融トラブル経験者は貯蓄率がマイナス (借入をした) 人が有意に多く、金融トラブル未経験者は貯蓄率について「わからない」と回答する人が有意に多くなっている。

表 78 (クロス分析)貯蓄率×年代・金融トラブル経験の有無

貯蓄率×年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. マイナス(借入をした)	52 (8.7%)+	7 (2.3%)-	59 (9.8%)+	5 (1.7%)-	55 (9.2%)+	4 (1.3%)-
2. 0%(貯蓄をしなかった)	107 (17.8%)	45 (15.0%)	132 (22.0%)	52 (17.3%)	198 (33.0%)	94 (31.3%)
3. 0%超～5%以下	90 (15.0%)	32 (10.7%)	64 (10.7%)	41 (13.7%)	70 (11.7%)	33 (11.0%)
4. 5%超～10%以下	79 (13.2%)	29 (9.7%)	71 (11.8%)	37 (12.3%)	64 (10.7%)	37 (12.3%)
5. 10%超～20%以下	86 (14.3%)	40 (13.3%)	83 (13.8%)	35 (11.7%)	65 (10.8%)	31 (10.3%)
6. 20%超～30%以下	52 (8.7%)	23 (7.7%)	60 (10.0%)	32 (10.7%)	39 (6.5%)	17 (5.7%)
7. 30%超～40%以下	31 (5.2%)	16 (5.3%)	29 (4.8%)	8 (2.7%)	19 (3.2%)	9 (3.0%)
8. 40%超～50%以下	20 (3.3%)	12 (4.0%)	9 (1.5%)	4 (1.3%)	7 (1.2%)	4 (1.3%)
9. 50%超	24 (4.0%)	11 (3.7%)	13 (2.2%)	8 (2.7%)	15 (2.5%)	7 (2.3%)
10. わからない	59 (9.8%)-	85 (28.3%)+	80 (13.3%)-	78 (26.0%)+	68 (11.3%)-	64 (21.3%)+
カイ2乗統計量	61.5***		44.1***		33.5***	

表 78 は年代（金融トラブル経験の有無）別で貯蓄率を比較したものである。

いずれの年代においても金融トラブル経験者はマイナス（借入をした）人が有意に多く、金融トラブル未経験者は貯蓄率について「わからない」と回答する人が有意に多くなっている。

表 79 (クロス分析)貯蓄率×金融トラブル(内訳)

貯蓄率×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. マイナス(借入をした)	32 (4.7%) ⁻	45 (26.3%) ⁺	75 (17.9%) ⁺	62 (22.5%) ⁺	91 (12.1%) ⁺
2. 0%(貯蓄をしなかった)	156 (22.8%)	36 (21.1%)	101 (24.0%)	73 (26.4%)	189 (25.1%)
3. 0%超～5%以下	66 (9.7%) ⁻	15 (8.8%)	60 (14.3%)	44 (15.9%) ⁺	106 (14.1%)
4. 5%超～10%以下	83 (12.2%)	20 (11.7%)	46 (11.0%)	25 (9.1%)	92 (12.2%)
5. 10%超～20%以下	107 (15.7%) ⁺	26 (15.2%)	46 (11.0%)	31 (11.2%)	91 (12.1%)
6. 20%超～30%以下	78 (11.4%) ⁺	5 (2.9%) ⁻	22 (5.2%) ⁻	9 (3.3%) ⁻	53 (7.0%)
7. 30%超～40%以下	40 (5.9%) ⁺	3 (1.8%)	13 (3.1%)	8 (2.9%)	27 (3.6%)
8. 40%超～50%以下	15 (2.2%)	2 (1.2%)	7 (1.7%)	1 (0.4%) ⁻	13 (1.7%)
9. 50%超	33 (4.8%) ⁺	2 (1.2%)	7 (1.7%)	2 (0.7%) ⁻	12 (1.6%) ⁻
10. わからない	73 (10.7%) ⁻	17 (9.9%) ⁻	43 (10.2%) ⁻	21 (7.6%) ⁻	78 (10.4%) ⁻
カイ2乗統計量	63.7***	122.6***	114.7***	153.4***	79.8***

表 79 は金融トラブル内訳別で貯蓄率について比較したものである。カイ2乗統計量から全体的な有意差が見られるのは金融トラブル内訳 1～5 である。

「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は貯蓄率が 10%超で有意に多く、貯蓄率が高い傾向が見られる。

そして、消費者ローンを利用している人(金融トラブル内訳 2・3)や住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人(金融トラブル内訳 4・5)はマイナスの貯蓄率(借入をした)人が有意に多くなっている。

(クロス分析)貯蓄率×金融トラブル(内訳)(つづき)

貯蓄率×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブル を経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. マイナス(借入をした)	5 (10.2%)	5 (9.4%)	12 (10.2%)	11 (10.1%)	16 (1.8%) ⁻
2. 0%(貯蓄をしなかった)	9 (18.4%)	16 (30.2%)	22 (18.6%)	30 (27.5%)	191 (21.2%)
3. 0%超～5%以下	11 (22.4%) ⁺	10 (18.9%)	15 (12.7%)	17 (15.6%)	106 (11.8%)
4. 5%超～10%以下	5 (10.2%)	2 (3.8%)	8 (6.8%)	11 (10.1%)	103 (11.4%)
5. 10%超～20%以下	3 (6.1%)	6 (11.3%)	21 (17.8%)	14 (12.8%)	106 (11.8%)
6. 20%超～30%以下	5 (10.2%)	4 (7.5%)	12 (10.2%)	2 (1.8%) ⁻	72 (8.0%)
7. 30%超～40%以下	4 (8.2%)	2 (3.8%)	6 (5.1%)	3 (2.8%)	33 (3.7%)
8. 40%超～50%以下	0 (0.0%)	1 (1.9%)	5 (4.2%)	1 (0.9%)	20 (2.2%)
9. 50%超	1 (2.0%)	3 (5.7%)	4 (3.4%)	4 (3.7%)	26 (2.9%)
10. わからない	6 (12.2%)	4 (7.5%)	13 (11.0%)	16 (14.7%)	227 (25.2%) ⁺
カイ2乗統計量	11.2	10.6	14.2	11.4	124.1***

表 80 平均貯蓄率の差の検定結果:金融トラブル経験の有無別

平均貯蓄率の差の検定 (金融トラブル有無別)	トラブル有	トラブル無
サンプル数	1427	657
平均貯蓄率(%)	11.5	11.8
t-統計量	-0.50	

表 81 平均貯蓄率の差の検定結果:年代・金融トラブル経験の有無別

平均貯蓄率の差の検定 (年代・トラブル有無別)	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数	489	208	461	217	477	232
平均貯蓄率(%)	13.5	15.0	11.9	11.8	9.1	9.0
t-統計量	-1.23		0.12		0.06	

は、表 80 は貯蓄率について「1.マイナス」と「10.わからない」を選択した人を除いたサンプルを対象に各階級の中央値（「9. 50%超」は 50 を代入）を用いて平均貯蓄率を比較したものである。

表 77 より金融トラブル経験の有無別で貯蓄率に統計的な有意差が見られたカテゴリーは「マイナス」と「わからない」であったため、これらを選択した人を除く平均貯蓄率では統計的な有意差は見られない。また、年代別で比較しても統計的な有意差は見られない（表 81）。

表 82 平均貯蓄率の差の検定結果:金融トラブル(内訳)

平均貯蓄率 の差の検定	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	578	1506	109	1975	302	1782	193	1891	583	1501
平均貯蓄率	14.0	10.7	9.2	11.8	9.5	12.0	7.3	12.1	9.9	12.3
t-統計量	-4.57***		2.31**		3.18***		5.81***		3.74***	

平均貯蓄率 の差の検定 (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験は一つもない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	38	2046	44	2040	93	1991	82	2002	657	1427
平均貯蓄率	11.2	11.6	11.3	11.6	14.5	11.5	9.0	11.7	11.8	11.5
t-統計量	0.20		0.18		-2.04**		1.77*		-0.50	

表 82 は金融トラブル内訳別で平均貯蓄率について比較したものである。統計的な有意差が見られるのは金融トラブル内訳 1~5 と 8 である。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」、及び「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人はそうではない人と比較して平均貯蓄率が高い。一方、消費者ローンを利用したことがある人（金融トラブル内訳 2・3）や、住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人（金融トラブル内訳 4・5）は、無い人と比較して平均貯蓄率が低くなっている。

Q10. あなたの世帯の金融資産(預貯金、株式・公社債、投資信託、貯蓄性の保険などの合計)、不動産資産、住宅ローン、および、その他のローンの、現在の残高として当てはまるものをお答えください。なお、現在の残高がゼロの場合には、これまでに保有や借入の経験がない場合は「1.ゼロ(保有経験や借入経験なし)」を、これまでに保有していたり、借り入れしていた経験がある場合には「2.ゼロ(保有経験や借入経験あり)」を選択してください。

表 83 資産・負債残高

Q10. 資産・負債残高	1.金融資産	2.不動産資産	3.住宅ローン	4.その他負債
全体	2700 (100%)	2700 (100%)	2700 (100%)	2700 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	676 (25.0%)	1311 (48.6%)	1481 (54.9%)	1630 (60.4%)
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	109 (4.0%)	108 (4.0%)	405 (15.0%)	313 (11.6%)
3. 0円超～250万円以下	436 (16.1%)	61 (2.3%)	50 (1.9%)	335 (12.4%)
4. 250万円超～500万円以下	194 (7.2%)	60 (2.2%)	33 (1.2%)	62 (2.3%)
5. 500万円超～750万円以下	87 (3.2%)	56 (2.1%)	39 (1.4%)	10 (0.4%)
6. 750万円超～1000万円以下	122 (4.5%)	70 (2.6%)	68 (2.5%)	11 (0.4%)
7. 1000万円超～1500万円以下	165 (6.1%)	120 (4.4%)	82 (3.0%)	9 (0.3%)
8. 1500万円超～2000万円以下	89 (3.3%)	85 (3.1%)	71 (2.6%)	5 (0.2%)
9. 2000万円超～3000万円以下	108 (4.0%)	106 (3.9%)	116 (4.3%)	5 (0.2%)
10. 3000万円超～4000万円以下	78 (2.9%)	63 (2.3%)	37 (1.4%)	5 (0.2%)
11. 4000万円超～5000万円以下	41 (1.5%)	37 (1.4%)	6 (0.2%)	3 (0.1%)
12. 5000万円超	117 (4.3%)	82 (3.0%)	8 (0.3%)	6 (0.2%)
13. わからない	478 (17.7%)	541 (20.0%)	304 (11.3%)	306 (11.3%)

表 83 は回答者世帯の資産・負債残高について調査した結果である。金融資産についてはゼロ保有が計 29% (保有経験無し 25%、保有経験有り 4%) である。保有者については 250 万円以下が 1 番該当者は多く 16.1%である。不動産資産については計 52.6%が保有しておらず、保有者について見ると、特定のカテゴリーに集中している状況は見られない。一方負債を見ると、住宅ローン保有者は 18.8%、その他ローン保有者は 16.7%であり、半数以上は保有していない。

表 84 (クロス分析)金融資産・不動産資産残高×金融トラブル経験の有無

資産残高×金融トラブル有無	金融資産残高		不動産資産残高	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)	1800 (100%)	900 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	450 (25.0%)	226 (25.1%)	886 (49.2%)	425 (47.2%)
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	95 (5.3%)+	14 (1.6%)-	89 (4.9%)+	19 (2.1%)-
3. 0円超～250万円以下	335 (18.6%)+	101 (11.2%)-	50 (2.8%)+	11 (1.2%)-
4. 250万円超～500万円以下	142 (7.9%)+	52 (5.8%)-	42 (2.3%)	18 (2.0%)
5. 500万円超～750万円以下	50 (2.8%)	37 (4.1%)	42 (2.3%)	14 (1.6%)
6. 750万円超～1000万円以下	86 (4.8%)	36 (4.0%)	47 (2.6%)	23 (2.6%)
7. 1000万円超～1500万円以下	109 (6.1%)	56 (6.2%)	83 (4.6%)	37 (4.1%)
8. 1500万円超～2000万円以下	55 (3.1%)	34 (3.8%)	57 (3.2%)	28 (3.1%)
9. 2000万円超～3000万円以下	69 (3.8%)	39 (4.3%)	72 (4.0%)	34 (3.8%)
10. 3000万円超～4000万円以下	57 (3.2%)	21 (2.3%)	42 (2.3%)	21 (2.3%)
11. 4000万円超～5000万円以下	32 (1.8%)	9 (1.0%)	27 (1.5%)	10 (1.1%)
12. 5000万円超	77 (4.3%)	40 (4.4%)	61 (3.4%)	21 (2.3%)
13. わからない	243 (13.5%)-	235 (26.1%)+	302 (16.8%)-	239 (26.6%)+
カイ2乗統計量	107.8***		52.9***	

表 84 は金融トラブル経験の有無別で資産残高について比較したものである。

金融資産残高と不動産資産残高を比較すると、どちらも1%水準で統計的な有意差が見られ、ほぼ同じ有意差が見られる。両資産ともに金融トラブル経験者はゼロ保有(過去保有経験有り)が有意に多く、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が多い。

また、資産保有者について見ると、両資産ともに金融トラブル経験者は250万円以下の保有が有意に多く、金融資産残高については金融トラブル経験者では250～500万円以下の該当者も有意に多くなっている。

表 85 (クロス分析)負債残高×金融トラブル経験の有無

負債残高×金融トラブル有無	住宅ローン残高		その他負債残高	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)	1800 (100%)	900 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	1010 (56.1%)	471 (52.3%)	1008 (56.0%) ⁻	622 (69.1%) ⁺
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	275 (15.3%)	130 (14.4%)	246 (13.7%) ⁺	67 (7.4%) ⁻
3. 0円超～250万円以下	41 (2.3%) ⁺	9 (1.0%) ⁻	302 (16.8%) ⁺	33 (3.7%) ⁻
4. 250万円超～500万円以下	19 (1.1%)	14 (1.6%)	51 (2.8%) ⁺	11 (1.2%) ⁻
5. 500万円超～750万円以下	31 (1.7%)	8 (0.9%)	10 (0.6%) ⁺	0 (0.0%) ⁻
6. 750万円超～1000万円以下	49 (2.7%)	19 (2.1%)	10 (0.6%)	1 (0.1%)
7. 1000万円超～1500万円以下	58 (3.2%)	24 (2.7%)	7 (0.4%)	2 (0.2%)
8. 1500万円超～2000万円以下	47 (2.6%)	24 (2.7%)	4 (0.2%)	1 (0.1%)
9. 2000万円超～3000万円以下	81 (4.5%)	35 (3.9%)	3 (0.2%)	2 (0.2%)
10. 3000万円超～4000万円以下	26 (1.4%)	11 (1.2%)	3 (0.2%)	2 (0.2%)
11. 4000万円超～5000万円以下	3 (0.2%)	3 (0.3%)	0 (0.0%) ⁻	3 (0.3%) ⁺
12. 5000万円超	8 (0.4%)	0 (0.0%)	5 (0.3%)	1 (0.1%)
13. わからない	152 (8.4%) ⁻	152 (16.9%) ⁺	151 (8.4%) ⁻	155 (17.2%) ⁺
カイ2乗統計量	56.2***		184.1***	

表 85 は金融トラブル経験の有無別で住宅ローンやその他負債残高について比較したものである。

金融資産や不動産資産残高と同様、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多い。住宅ローン残高については金融トラブル経験者で250万円以下の保有者が有意に多くなっている。

そして、住宅ローン以外の負債については、金融トラブル未経験者で借入経験が無いゼロ保有が有意に多く、金融トラブル経験者では借入経験が有るが現在はゼロ保有が有意に多い。

なお、住宅ローン以外の負債保有者を見ると、金融トラブル経験者が750万円以下で有意に多くなっている。

表 86 (クロス分析)金融資産残高×年代・金融トラブル経験の有無

金融資産残高 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	206 (34.3%)	116 (38.7%)	157 (26.2%)	61 (20.3%)	87 (14.5%)	49 (16.3%)
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	25 (4.2%)+	2 (0.7%)-	42 (7.0%)+	6 (2.0%)-	28 (4.7%)+	6 (2.0%)-
3. 0円超～250万円以下	150 (25.0%)+	38 (12.7%)-	121 (20.2%)+	39 (13.0%)-	64 (10.7%)	24 (8.0%)
4. 250万円超～500万円以下	43 (7.2%)	21 (7.0%)	44 (7.3%)	17 (5.7%)	55 (9.2%)+	14 (4.7%)-
5. 500万円超～750万円以下	12 (2.0%)	12 (4.0%)	20 (3.3%)	13 (4.3%)	18 (3.0%)	12 (4.0%)
6. 750万円超～1000万円以下	16 (2.7%)	9 (3.0%)	23 (3.8%)	12 (4.0%)	47 (7.8%)	15 (5.0%)
7. 1000万円超～1500万円以下	24 (4.0%)	6 (2.0%)	31 (5.2%)	18 (6.0%)	54 (9.0%)	32 (10.7%)
8. 1500万円超～2000万円以下	11 (1.8%)	5 (1.7%)	12 (2.0%)	12 (4.0%)	32 (5.3%)	17 (5.7%)
9. 2000万円超～3000万円以下	12 (2.0%)	2 (0.7%)	23 (3.8%)	13 (4.3%)	34 (5.7%)	24 (8.0%)
10. 3000万円超～4000万円以下	7 (1.2%)	1 (0.3%)	19 (3.2%)	7 (2.3%)	31 (5.2%)	13 (4.3%)
11. 4000万円超～5000万円以下	1 (0.2%)	0 (0.0%)	7 (1.2%)	2 (0.7%)	24 (4.0%)	7 (2.3%)
12. 5000万円超	3 (0.5%)	1 (0.3%)	14 (2.3%)	10 (3.3%)	60 (10.0%)	29 (9.7%)
13. わからない	90 (15.0%)-	87 (29.0%)+	87 (14.5%)-	90 (30.0%)+	66 (11.0%)-	58 (19.3%)+
カイ2乗統計量	53.7***		48.9***		28.2***	

表 86 は年代（金融トラブル経験の有無）別で金融資産残高について比較したものである。

いずれの年代においても金融トラブル経験者でゼロ（過去保有経験があり）が有意に多く、金融資産保有者を見ると、20・30代と40・50代では金融トラブル経験者で250万円以下の保有が多い。また、60代以上では250～500万円以下の保有者が有意に多くなっている。

なお、いずれの年代においても金融トラブル未経験者で金融資産残高は「わからない」と回答する人が有意に多い。

表 87 (クロス分析)不動産資産残高×年代・金融トラブル経験の有無

不動産資産残高 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	416 (69.3%)	196 (65.3%)	310 (51.7%)	139 (46.3%)	160 (26.7%)	90 (30.0%)
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	20 (3.3%)+	2 (0.7%)-	29 (4.8%)	7 (2.3%)	40 (6.7%)+	10 (3.3%)-
3. 0円超～250万円以下	12 (2.0%)+	0 (0.0%)-	20 (3.3%)	5 (1.7%)	18 (3.0%)	6 (2.0%)
4. 250万円超～500万円以下	8 (1.3%)+	0 (0.0%)-	12 (2.0%)	8 (2.7%)	22 (3.7%)	10 (3.3%)
5. 500万円超～750万円以下	10 (1.7%)	2 (0.7%)	10 (1.7%)	5 (1.7%)	22 (3.7%)	7 (2.3%)
6. 750万円超～1000万円以下	2 (0.3%)	1 (0.3%)	13 (2.2%)	7 (2.3%)	32 (5.3%)	15 (5.0%)
7. 1000万円超～1500万円以下	10 (1.7%)	5 (1.7%)	28 (4.7%)	12 (4.0%)	45 (7.5%)	20 (6.7%)
8. 1500万円超～2000万円以下	3 (0.5%)	2 (0.7%)	11 (1.8%)	10 (3.3%)	43 (7.2%)	16 (5.3%)
9. 2000万円超～3000万円以下	8 (1.3%)	2 (0.7%)	29 (4.8%)+	4 (1.3%)-	35 (5.8%)	28 (9.3%)
10. 3000万円超～4000万円以下	9 (1.5%)	2 (0.7%)	12 (2.0%)	5 (1.7%)	21 (3.5%)	14 (4.7%)
11. 4000万円超～5000万円以下	2 (0.3%)	1 (0.3%)	7 (1.2%)	0 (0.0%)	18 (3.0%)	9 (3.0%)
12. 5000万円超	4 (0.7%)	0 (0.0%)	11 (1.8%)	6 (2.0%)	46 (7.7%)	15 (5.0%)
13. わからない	96 (16.0%)-	87 (29.0%)+	108 (18.0%)-	92 (30.7%)+	98 (16.3%)	60 (20.0%)
カイ2乗統計量	38.4***		33.6***		15.8	

表 87 は年代（金融トラブル経験の有無）別で不動産資産残高について比較したものである。統計的な有意差が見られる年代は 20・30 代と 40・50 代であり、20・30 代では金融トラブル経験者においてゼロ保有（但し過去保有経験有り）が有意に多く、不動産保有者について見ると、金融トラブル経験者で 500 万円以下の保有が有意に多くなっている。

そして、40・50 代では金融トラブル経験者で 2000～3000 万円の所有者が有意に多い。

なお、20・30 代と 40・50 代では金融トラブル未経験者で「わからない」と回答する人が有意に多くなっている。

表 88 (クロス分析)住宅ローン残高×年代・金融トラブル経験の有無

住宅ローン残高 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	385 (64.2%)	173 (57.7%)	316 (52.7%)	140 (46.7%)	309 (51.5%)	158 (52.7%)
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	34 (5.7%)	10 (3.3%)	60 (10.0%)	30 (10.0%)	181 (30.2%)	90 (30.0%)
3. 0円超～250万円以下	15 (2.5%)+	1 (0.3%)-	11 (1.8%)	1 (0.3%)	15 (2.5%)	7 (2.3%)
4. 250万円超～500万円以下	2 (0.3%)	0 (0.0%)	11 (1.8%)	12 (4.0%)	6 (1.0%)	2 (0.7%)
5. 500万円超～750万円以下	7 (1.2%)	2 (0.7%)	10 (1.7%)	5 (1.7%)	14 (2.3%)+	1 (0.3%)-
6. 750万円超～1000万円以下	17 (2.8%)	3 (1.0%)	18 (3.0%)	13 (4.3%)	14 (2.3%)	3 (1.0%)
7. 1000万円超～1500万円以下	8 (1.3%)	6 (2.0%)	39 (6.5%)	13 (4.3%)	11 (1.8%)	5 (1.7%)
8. 1500万円超～2000万円以下	14 (2.3%)	12 (4.0%)	25 (4.2%)	11 (3.7%)	8 (1.3%)	1 (0.3%)
9. 2000万円超～3000万円以下	40 (6.7%)	18 (6.0%)	33 (5.5%)	15 (5.0%)	8 (1.3%)	2 (0.7%)
10. 3000万円超～4000万円以下	11 (1.8%)	6 (2.0%)	13 (2.2%)	4 (1.3%)	2 (0.3%)	1 (0.3%)
11. 4000万円超～5000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.5%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)
12. 5000万円超	4 (0.7%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)
13. わからない	63 (10.5%)-	69 (23.0%)+	59 (9.8%)-	54 (18.0%)+	30 (5.0%)-	29 (9.7%)+
カイ2乗統計量	39.4***		23.8**		19.5*	

表 88 は年代（金融トラブル経験の有無）別で住宅ローン残高について比較したものである。

20・30代で1%水準の有意差が見られ、金融トラブル経験者で250万円以下の住宅ローン保有者が有意に多い。また、60代以上では10%水準の有意差であるが、金融トラブル経験者で500～750万円以下の保有者が有意に多くなっている。

なお、資産残高と同様、いずれの年代においても金融トラブル未経験者で「わからない」が有意に多い。

表 89 (クロス分析)住宅ローン以外の借入残高×年代・金融トラブル経験の有無

住宅ローン以外の負債残高 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	343 (57.2%) ⁻	199 (66.3%) ⁺	301 (50.2%) ⁻	200 (66.7%) ⁺	364 (60.7%) ⁻	223 (74.3%) ⁺
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	64 (10.7%) ⁺	10 (3.3%) ⁻	72 (12.0%) ⁺	20 (6.7%) ⁻	110 (18.3%) ⁺	37 (12.3%) ⁻
3. 0円超～250万円以下	109 (18.2%) ⁺	14 (4.7%) ⁻	128 (21.3%) ⁺	14 (4.7%) ⁻	65 (10.8%) ⁺	5 (1.7%) ⁻
4. 250万円超～500万円以下	11 (1.8%)	2 (0.7%)	32 (5.3%)	9 (3.0%)	8 (1.3%) ⁺	0 (0.0%) ⁻
5. 500万円超～750万円以下	3 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)	5 (0.8%)	0 (0.0%)
6. 750万円超～1000万円以下	2 (0.3%)	0 (0.0%)	3 (0.5%)	0 (0.0%)	5 (0.8%)	1 (0.3%)
7. 1000万円超～1500万円以下	5 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	2 (0.7%)
8. 1500万円超～2000万円以下	2 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)
9. 2000万円超～3000万円以下	1 (0.2%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
10. 3000万円超～4000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	2 (0.7%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)
11. 4000万円超～5000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%) ⁻	3 (1.4%) ⁺
12. 5000万円超	0 (0.0%)	1 (0.3%)	3 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)
13. わからない	60 (10.0%) ⁻	73 (24.3%) ⁺	56 (9.3%) ⁻	53 (17.7%) ⁺	35 (5.8%) ⁻	29 (9.7%) ⁺
カイ2乗統計量	79.7***		70.4***		52.6***	

表 89 は年代(金融トラブル経験の有無)別で住宅ローン以外の負債残高について比較したものである。全ての年代において金融トラブル経験者でゼロ保有(過去借入経験有り)が有意に多く、保有者については250万円以下の保有者が有意に多い。

なお、人数は少ないが、60代の金融トラブル経験者では250～500万円以下の保有者が多く、金融トラブル未経験者で4000～5000万円以下の保有者が多い見られる。

一方、金融トラブル未経験者では全ての年代でゼロ保有(過去借入経験無し)が有意に多くなっている。なお、資産残高や住宅ローン残高と同様、全ての年代において金融トラブル未経験者で「わからない」と回答する人が有意に多い。

表 90 (クロス分析)金融資産残高×金融トラブル(内訳)

金融資産残高 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	88 (12.9%) ⁻	52 (30.4%)	131 (31.2%) ⁺	103 (37.3%) ⁺	248 (33.0%) ⁺
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	15 (2.2%) ⁻	21 (12.3%) ⁺	46 (11.0%) ⁺	33 (12.0%) ⁺	46 (6.1%) ⁺
3. 0円超～250万円以下	99 (14.5%)	40 (23.4%) ⁺	96 (22.9%) ⁺	66 (23.9%) ⁺	164 (21.8%) ⁺
4. 250万円超～500万円以下	51 (7.5%)	10 (5.8%)	26 (6.2%)	15 (5.4%)	68 (9.0%) ⁺
5. 500万円超～750万円以下	23 (3.4%)	4 (2.3%)	11 (2.6%)	3 (1.1%) ⁻	15 (2.0%) ⁻
6. 750万円超～1000万円以下	46 (6.7%) ⁺	3 (1.8%)	11 (2.6%) ⁻	4 (1.4%) ⁻	31 (4.1%)
7. 1000万円超～1500万円以下	71 (10.4%) ⁺	9 (5.3%)	13 (3.1%) ⁻	7 (2.5%) ⁻	30 (4.0%) ⁻
8. 1500万円超～2000万円以下	41 (6.0%) ⁺	3 (1.8%)	5 (1.2%) ⁻	3 (1.1%) ⁻	9 (1.2%) ⁻
9. 2000万円超～3000万円以下	47 (6.9%) ⁺	2 (1.2%) ⁻	13 (3.1%)	3 (1.1%) ⁻	14 (1.9%) ⁻
10. 3000万円超～4000万円以下	39 (5.7%) ⁺	2 (1.2%)	10 (2.4%)	4 (1.4%)	13 (1.7%) ⁻
11. 4000万円超～5000万円以下	21 (3.1%) ⁺	0 (0.0%)	2 (0.5%)	1 (0.4%)	8 (1.1%)
12. 5000万円超	60 (8.8%) ⁺	2 (1.2%) ⁻	4 (1.0%) ⁻	0 (0.0%) ⁻	13 (1.7%) ⁻
13. わからない	82 (12.0%) ⁻	23 (13.5%)	52 (12.4%) ⁻	34 (12.3%) ⁻	93 (12.4%) ⁻
カイ2乗統計量	238.4***	58.7***	125.7***	130.6***	141.2***

表 90 は金融トラブル内訳別で金融資産残高について比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は750万円超からの全てのカテゴリで有意に多い。なお、消費者ローン利用者(金融トラブル内訳2・3)や住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人(金融トラブル内訳4・5)はゼロ保有者や、保有者でも250万円以下の金融資産残高が有意に多くなっている。

表 91 (クロス分析)金融資産残高×金融トラブル(内訳)(つづき)

金融資産残高 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブル を経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	13 (26.5%)	13 (24.5%)	15 (12.7%) ⁻	32 (29.4%)	226 (25.1%)
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	1 (2.0%)	3 (5.7%)	8 (6.8%)	8 (7.3%)	14 (1.6%) ⁻
3. 0円超～250万円以下	16 (32.7%) ⁺	9 (17.0%)	21 (17.8%)	23 (21.1%)	101 (11.2%) ⁻
4. 250万円超～500万円以下	4 (8.2%)	9 (17.0%) ⁺	11 (9.3%)	4 (3.7%)	52 (5.8%) ⁻
5. 500万円超～750万円以下	2 (4.1%)	1 (1.9%)	4 (3.4%)	3 (2.8%)	37 (4.1%)
6. 750万円超～1000万円以下	2 (4.1%)	1 (1.9%)	7 (5.9%)	5 (4.6%)	36 (4.0%)
7. 1000万円超～1500万円以下	2 (4.1%)	4 (7.5%)	15 (12.7%) ⁺	5 (4.6%)	56 (6.2%)
8. 1500万円超～2000万円以下	0 (0.0%)	3 (5.7%)	4 (3.4%)	2 (1.8%)	34 (3.8%)
9. 2000万円超～3000万円以下	0 (0.0%)	2 (3.8%)	9 (7.6%) ⁺	2 (1.8%)	39 (4.3%)
10. 3000万円超～4000万円以下	2 (4.1%)	2 (3.8%)	3 (2.5%)	3 (2.8%)	21 (2.3%)
11. 4000万円超～5000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.5%)	0 (0.0%)	9 (1.0%)
12. 5000万円超	0 (0.0%)	3 (5.7%)	5 (4.2%)	6 (5.5%)	40 (4.4%)
13. わからない	7 (14.3%)	3 (5.7%) ⁻	13 (11.0%)	16 (14.7%)	235 (26.1%) ⁺
カイ2乗統計量	16.6	15.5	28.2***	12.9	107.8***

表 91 は金融トラブル内訳 (つづき) で金融資産残高について比較したものである。1%水準で統計的な有意差が見られる項目は「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」であり、金融商品に関するトラブル経験者では「1000～1500万円以下」及び「2000～3000万円以下」で有意に多くなっている。

表 92 (クロス分析)不動産資産残高×金融トラブル(内訳)

不動産資産残高 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	274 (40.1%) ⁻	77 (45.0%)	223 (53.1%) ⁺	158 (57.2%) ⁺	430 (57.2%) ⁺
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	27 (4.0%)	18 (10.5%) ⁺	31 (7.4%) ⁺	23 (8.3%) ⁺	41 (5.5%) ⁺
3. 0円超～250万円以下	18 (2.6%)	7 (4.1%)	12 (2.9%)	9 (3.3%)	22 (2.9%)
4. 250万円超～500万円以下	17 (2.5%)	6 (3.5%)	11 (2.6%)	6 (2.2%)	13 (1.7%)
5. 500万円超～750万円以下	23 (3.4%) ⁺	1 (0.6%)	6 (1.4%)	2 (0.7%)	11 (1.5%)
6. 750万円超～1000万円以下	25 (3.7%) ⁺	3 (1.8%)	12 (2.9%)	2 (0.7%) ⁻	10 (1.3%) ⁻
7. 1000万円超～1500万円以下	39 (5.7%)	8 (4.7%)	18 (4.3%)	10 (3.6%)	29 (3.9%)
8. 1500万円超～2000万円以下	40 (5.9%) ⁺	4 (2.3%)	3 (0.7%) ⁻	2 (0.7%) ⁻	12 (1.6%) ⁻
9. 2000万円超～3000万円以下	41 (6.0%) ⁺	6 (3.5%)	15 (3.6%)	9 (3.3%)	23 (3.1%)
10. 3000万円超～4000万円以下	27 (4.0%) ⁺	4 (2.3%)	7 (1.7%)	5 (1.8%)	14 (1.9%)
11. 4000万円超～5000万円以下	13 (1.9%)	4 (2.3%)	6 (1.4%)	2 (0.7%)	8 (1.1%)
12. 5000万円超	37 (5.4%) ⁺	2 (1.2%)	9 (2.1%)	3 (1.1%) ⁻	14 (1.9%) ⁻
13. わからない	102 (14.9%) ⁻	31 (18.1%)	67 (16.0%) ⁻	45 (16.3%)	125 (16.6%) ⁻
カイ2乗統計量	101.4***	30.6***	34.6***	41.2***	56.2***

表 92 は金融トラブル内訳で不動産資産残高について比較したものである。金融資産残高と同様、「1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は 500 万円超から有意に多いカテゴリーが見られる。なお、消費者ローン利用者(金融トラブル内訳 2・3)や住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人(金融トラブル内訳 4・5)はゼロ保有者が有意に多くなっている

表 93 (クロス分析)不動産資産残高×金融トラブル(内訳)(つづき)

不動産資産残高 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブル を経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	25 (51.0%)	29 (54.7%)	57 (48.3%)	46 (42.2%)	425 (47.2%)
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	0 (0.0%)	2 (3.8%)	6 (5.1%)	11 (10.1%)+	19 (2.1%)-
3. 0円超～250万円以下	4 (8.2%)+	1 (1.9%)	4 (3.4%)	3 (2.8%)	11 (1.2%)-
4. 250万円超～500万円以下	2 (4.1%)	4 (7.5%)+	4 (3.4%)	3 (2.8%)	18 (2.0%)
5. 500万円超～750万円以下	3 (6.1%)+	3 (5.7%)	6 (5.1%)+	4 (3.7%)	14 (1.6%)
6. 750万円超～1000万円以下	0 (0.0%)	1 (1.9%)	6 (5.1%)	5 (4.6%)	23 (2.6%)
7. 1000万円超～1500万円以下	4 (8.2%)	1 (1.9%)	6 (5.1%)	3 (2.8%)	37 (4.1%)
8. 1500万円超～2000万円以下	0 (0.0%)	1 (1.9%)	1 (0.8%)	3 (2.8%)	28 (3.1%)
9. 2000万円超～3000万円以下	1 (2.0%)	4 (7.5%)	7 (5.9%)	7 (6.4%)	34 (3.8%)
10. 3000万円超～4000万円以下	1 (2.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	1 (0.9%)	21 (2.3%)
11. 4000万円超～5000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	10 (1.1%)
12. 5000万円超	1 (2.0%)	0 (0.0%)	8 (6.8%)+	5 (4.6%)	21 (2.3%)
13. わからない	8 (16.3%)	7 (13.2%)	12 (10.2%)-	17 (15.6%)	239 (26.6%)+
カイ2乗統計量	20.6*	18.6*	28.2***	20.6*	52.9***

表 93 は金融トラブル内訳別(つづき)で不動産資産残高について比較したものである。金融資産残高と同様、1%水準で統計的な有意差が見られる項目は「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」であり、金融商品に関するトラブル経験者では「500～750万円以下」及び「5000万円超」が有意に多くなっている。

表 94 (クロス分析)住宅ローン残高×金融トラブル(内訳)

住宅ローン残高 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	394 (57.7%)	77 (45.0%) ⁻	236 (56.2%)	145 (52.5%)	437 (58.1%) ⁺
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	129 (18.9%) ⁺	27 (15.8%)	50 (11.9%)	30 (10.9%) ⁻	94 (12.5%) ⁻
3. 0円超～250万円以下	9 (1.3%)	6 (3.5%)	11 (2.6%)	18 (6.5%) ⁺	20 (2.7%)
4. 250万円超～500万円以下	7 (1.0%)	3 (1.8%)	1 (0.2%) ⁻	3 (1.1%)	7 (0.9%)
5. 500万円超～750万円以下	12 (1.8%)	4 (2.3%)	6 (1.4%)	7 (2.5%)	12 (1.6%)
6. 750万円超～1000万円以下	16 (2.3%)	2 (1.2%)	13 (3.1%)	8 (2.9%)	24 (3.2%)
7. 1000万円超～1500万円以下	20 (2.9%)	8 (4.7%)	18 (4.3%)	11 (4.0%)	23 (3.1%)
8. 1500万円超～2000万円以下	13 (1.9%)	8 (4.7%)	16 (3.8%)	7 (2.5%)	22 (2.9%)
9. 2000万円超～3000万円以下	28 (4.1%)	11 (6.4%)	22 (5.2%)	15 (5.4%)	34 (4.5%)
10. 3000万円超～4000万円以下	11 (1.6%)	3 (1.8%)	4 (1.0%)	3 (1.1%)	14 (1.9%)
11. 4000万円超～5000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	2 (0.3%)
12. 5000万円超	3 (0.4%)	2 (1.2%) ⁺	3 (0.7%)	1 (0.4%)	2 (0.3%)
13. わからない	41 (6.0%) ⁻	20 (11.7%)	40 (9.5%)	27 (9.8%)	61 (8.1%) ⁻
カイ2乗統計量	40.4***	20.6*	21.7**	45.7***	24.4**

表 94 は金融トラブル内訳別で住宅ローン残高について比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人はゼロ保有(但し過去借入経験有り)が有意に多い。また、「4.住宅ローン等の返済資金を用意することができなかった」人は0～250万円以下の保有が有意に多く、「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」人はゼロ保有(過去借入経験無し)が有意に多くなっている。

表 95 (クロス分析)住宅ローン残高×金融トラブル(内訳)(つづき)

住宅ローン残高 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブル を経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	29 (59.2%)	34 (64.2%)	66 (55.9%)	56 (51.4%)	471 (52.3%)
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	5 (10.2%)	9 (17.0%)	20 (16.9%)	28 (25.7%)+	130 (14.4%)
3. 0円超～250万円以下	1 (2.0%)	1 (1.9%)	4 (3.4%)	4 (3.7%)	9 (1.0%)-
4. 250万円超～500万円以下	0 (0.0%)	1 (1.9%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	14 (1.6%)
5. 500万円超～750万円以下	1 (2.0%)	1 (1.9%)	2 (1.7%)	1 (0.9%)	8 (0.9%)
6. 750万円超～1000万円以下	3 (6.1%)	3 (5.7%)	5 (4.2%)	4 (3.7%)	19 (2.1%)
7. 1000万円超～1500万円以下	0 (0.0%)	3 (5.7%)	3 (2.5%)	4 (3.7%)	24 (2.7%)
8. 1500万円超～2000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	1 (0.9%)	24 (2.7%)
9. 2000万円超～3000万円以下	2 (4.1%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	1 (0.9%)	35 (3.9%)
10. 3000万円超～4000万円以下	3 (6.1%)+	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (1.2%)
11. 4000万円超～5000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.3%)
12. 5000万円超	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)-
13. わからない	5 (10.2%)	1 (1.9%)-	8 (6.8%)	10 (9.2%)	152 (16.9%)+
カイ2乗統計量	15.6	13.6	9.59	20.2*	56.2***

表 95 は金融トラブル内訳別(つづき)で住宅ローン残高について比較したものである。金融トラブル内訳 6～9 の該当・非該当別で 5%以上の統計的な有意差は見られない。

表 96 (クロス分析)住宅ローン以外の借入×金融トラブル(内訳)

住宅ローン以外の負債残高 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	499 (73.1%)+	33 (19.3%)-	138 (32.9%)-	72 (26.1%)-	378 (50.3%)-
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	80 (11.7%)	36 (21.1%)+	76 (18.1%)+	41 (14.9%)	106 (14.1%)+
3. 0円超～250万円以下	40 (5.9%)-	53 (31.0%)+	127 (30.2%)+	95 (34.4%)+	167 (22.2%)+
4. 250万円超～500万円以下	7 (1.0%)-	16 (9.4%)+	26 (6.2%)+	24 (8.7%)+	24 (3.2%)
5. 500万円超～750万円以下	3 (0.4%)	5 (2.9%)+	4 (1.0%)+	6 (2.2%)+	5 (0.7%)
6. 750万円超～1000万円以下	1 (0.1%)	4 (2.3%)+	5 (1.2%)+	4 (1.4%)+	6 (0.8%)+
7. 1000万円超～1500万円以下	3 (0.4%)	3 (1.8%)+	1 (0.2%)	2 (0.7%)	2 (0.3%)
8. 1500万円超～2000万円以下	1 (0.1%)	1 (0.6%)	2 (0.5%)	2 (0.7%)+	1 (0.1%)
9. 2000万円超～3000万円以下	2 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	2 (0.7%)+	1 (0.1%)
10. 3000万円超～4000万円以下	2 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	1 (0.1%)
11. 4000万円超～5000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
12. 5000万円超	3 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)
13. わからない	42 (6.1%)-	20 (11.7%)	40 (9.5%)	27 (9.8%)	59 (7.8%)-
カイ2乗統計量	90.3***	218.4***	259.3***	286.0***	127.0***

表 96 は金融トラブル内訳別で住宅ローン以外の負債残高について比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人はゼロ保有(過去借入経験無し)が有意に多い。そして、消費者ローン利用者(金融トラブル内訳2・3)は過去借入経験のあるゼロ保有者や、1000万円以下のカテゴリで保有者が有意に多く見られる。また、住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延した人についても(金融トラブル内訳4・5)、1000万円以下で有意に多いカテゴリが見られる。

表 97 (クロス分析)住宅ローン以外の借入残高×金融トラブル(内訳)(つづき)

住宅ローン以外の負債残高 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブ ルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. ゼロ(保有経験や借入経験なし)	27 (55.1%)	35 (66.0%)	66 (55.9%)	45 (41.3%) ⁻	622 (69.1%) ⁺
2. ゼロ(保有経験や借入経験あり)	3 (6.1%)	9 (17.0%)	18 (15.3%)	24 (22.0%) ⁺	67 (7.4%) ⁻
3. 0円超～250万円以下	10 (20.4%)	6 (11.3%)	21 (17.8%)	23 (21.1%) ⁺	33 (3.7%) ⁻
4. 250万円超～500万円以下	4 (8.2%) ⁺	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	11 (1.2%) ⁻
5. 500万円超～750万円以下	1 (2.0%)	2 (3.8%) ⁺	2 (1.7%) ⁺	2 (1.8%) ⁺	0 (0.0%) ⁻
6. 750万円超～1000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
7. 1000万円超～1500万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.7%) ⁺	2 (1.8%) ⁺	2 (0.2%)
8. 1500万円超～2000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
9. 2000万円超～3000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)
10. 3000万円超～4000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)
11. 4000万円超～5000万円以下	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.3%) ⁺
12. 5000万円超	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	1 (0.9%)	1 (0.1%)
13. わからない	4 (8.2%)	1 (1.9%) ⁻	7 (5.9%)	10 (9.2%)	155 (17.2%) ⁺
カイ2乗統計量	16.6	25.0**	29.6***	42.9***	184.1***

表 97 は金融トラブル内訳別(つづき)で住宅ローン以外の負債残高について比較したものである。「9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」人は過去借入経験のあるゼロ保有や 250 万円以下の保有者が有意に多い。また、人数は少ないが、詐欺に遭ったことがある人(金融トラブル内訳 6・7)や金融商品に関するトラブル経験者(金融トラブル内訳 8)は、250 万円超から 1500 万円以下で有意に保有者が多いカテゴリーが見られる。

表 98 平均資産・負債残高の差の検定結果:金融トラブル経験の有無別(ゼロ保有を含む)

平均資産残高の差の検定 (金融トラブル有無別)	金融資産残高		不動産資産残高	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(ゼロ保有を含む)	1557	665	1498	661
平均資産(万円)	857.5	944.0	698.5	666.8
t-統計量	-1.34		0.52	

平均負債残高の差の検定 (金融トラブル有無別)	住宅ローン残高		その他残高	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(ゼロ保有を含む)	1648	748	1649	745
平均負債(万円)	349.7	320.2	79.2	58.9
t-統計量	0.81		1.21	

表 99 平均資産・負債残高の差の検定結果:金融トラブル経験の有無別(保有者のみ)

平均資産残高の差の検定 (金融トラブル有無別)	金融資産残高		不動産資産残高	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(保有者のみ)	1012	425	523	217
平均資産(万円)	1319.3	1477.1	2000.7	2031.1
t-統計量	-1.78*		-0.24	

平均負債残高の差の検定 (金融トラブル有無別)	住宅ローン残高		その他残高	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(保有者のみ)	363	147	395	56
平均負債(万円)	1587.5	1629.3	330.7	783.5
t-統計量	-0.39		-2.50**	

表 98 はゼロ保有者を含む(但し「わからない」は除く)サンプルを対象に各資産・負債のカテゴリーの中央値を用いて平均値を比較したものである。金融トラブル経験者の平均金融資産残高は 857.5 万円、金融トラブル未経験者は 944 万円と金融トラブル未経験者の方が高いが、統計的な有意差は見られない。不動産資産や負債については金融トラブル経験者の方が高いが、統計的な有意差は無い。

表 99 は保有者のみ(ゼロ保有を除く)サンプルで平均値を比較したものであるが、統計的な有意差が見られるのは住宅ローン以外の負債であり、金融トラブル経験者の平均負債残高が 330.7 万円に対し、金融トラブル未経験者は 783.5 万円である。これについては、60 代の金融トラブル未経験者の内、4000 ~5000 万円の住宅ローン以外の負債を持つ人が 3 名いるため(表 89)、保有者のみを対象とした場合、金融トラブル未経験者の平均負債残高は高くなっている。

表 100 平均資産・負債残高の差の検定結果：年代・トラブル経験の有無別（ゼロ保有を含む）

金融資産残高						
年代・金融トラブル有無別	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(ゼロ保有含)	510	213	513	210	534	242
平均金融資産(万円)	352.2	271.1	681.3	901.8	1509.4	1572.8
t-統計量	1.55		-2.16**		-0.48	

不動産資産残高						
年代・金融トラブル有無別	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(ゼロ保有含)	504	213	492	208	502	240
平均不動産資産(万円)	219.7	133.2	568.9	494.6	1306.3	1289.6
t-統計量	1.65*		0.78		0.13	

住宅ローン残高						
年代・金融トラブル有無別	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(ゼロ保有含)	537	231	541	246	570	271
平均住宅ローン(万円)	400.1	426.4	501.9	468.0	157.7	95.5
t-統計量	-0.36		0.47		1.73*	

その他負債残高						
年代・金融トラブル有無別	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(ゼロ保有含)	540	227	544	247	565	271
平均その他負債(万円)	62.3	40.8	101.8	69.3	73.7	64.6
t-統計量	1.04		1.00		0.29	

表 100 は年代（金融トラブル経験の有無）別でゼロ保有を含む平均資産・負債残高について比較したものである。5%水準以上で統計的な有意差が見られるのは40・50代の平均金融資産であり、金融トラブル経験者の平均金融資産は681.3万円に対し、金融トラブル未経験者は901.8万円であり、約220万円高い。

表 101 平均資産・負債残高の差の検定結果:年代・金融トラブル経験の有無(保有者のみ)

金融資産残高						
年代・金融トラブル有無別	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(保有者のみ)	279	95	314	143	419	187
平均金融資産(万円)	643.8	607.9	1113.1	1324.3	1923.6	2035.4
t-統計量	0.38		-1.50		-0.74	

不動産資産残高						
年代・金融トラブル有無別	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(保有者のみ)	68	15	153	62	302	140
平均不動産資産(万円)	1628.7	1891.7	1829.3	1659.3	2171.4	2210.7
t-統計量	-0.64		0.78		-0.24	

住宅ローン残高						
年代・金融トラブル有無別	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(保有者のみ)	118	48	165	76	80	23
平均住宅ローン(万円)	1821.0	2052.1	1645.5	1514.8	1123.4	1125.0
t-統計量	-1.42		0.90		-0.01	

その他負債残高						
年代・金融トラブル有無別	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数(保有者のみ)	133	18	171	27	91	11
平均その他負債(万円)	252.8	513.9	323.8	634.3	457.4	1590.9
t-統計量	-0.93		-1.51		-1.93*	

表 101 は資産・負債の保有者のみを対象に、年代(金融トラブル経験の有無)別で平均資産・負債残高について比較したものである。保有者のみを対象にすると、全ての年代や資産・負債において金融トラブル経験の有無で5%水準以上の統計的な有意差は見られない。

表 102 平均金融資産残高の差の検定結果:金融トラブル(内訳)(ゼロ保有含む)

金融資産の差の検定 (ゼロ保有含)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	601	1621	148	2074	368	1854	242	1980	659	1563
平均金融資産 (万円)	1489.4	658.7	353.9	921.2	434.0	972.6	244.8	961.4	481.4	1052.9
t-統計量	-11.2***		7.68***		9.00***		13.6***		10.4***	

金融資産の差の検定 (ゼロ保有含) つづき	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験は一つもない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	42	2180	50	2172	105	2117	93	2129	665	1557
平均金融資産 (万円)	381.0	898.1	865.0	883.8	1072.6	874.0	708.3	891.0	944.0	857.5
t-統計量	4.15***		0.09		-1.42		1.23		-1.34	

表 102 は金融トラブル内訳別でゼロ保有を含む平均金融資産残高について比較したものである。金融トラブル内訳 1~6 において 1%水準で統計的な有意差が見られ、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人の平均金融資産残高は 1489.4 万円、そうではない人は 658.7 万円であり 2 倍以上の差がある。

一方、金融トラブル内訳 2~6 については、該当者の方が該当しない人と比較して平均金融資産残高は有意に低い。

表 103 平均不動産資産残高の差の検定結果:金融トラブル(内訳)(ゼロ保有含む)

不動産資産の 差の検定 (ゼロ保有含)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	581	1578	140	2019	353	1806	231	1928	627	1532
サンプル数	1039.8	559.6	574.1	696.8	514.5	722.9	373.9	726.5	467.3	779.5
平均不動産 (万円)	-6.82***		1.07		2.98***		4.90***		5.48***	
t-統計量										

不動産資産の 差の検定 (ゼロ保有含) つづき	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験はない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	41	2118	46	2113	106	2053	92	2067	661	1498
サンプル数	466.5	693.1	377.7	695.6	766.5	684.8	737.8	686.6	666.8	698.5
平均不動産 (万円)	1.39		2.77***		-0.62		-0.36		0.52	
t-統計量										

表 103 は金融トラブル内訳別でゼロ保有を含む不動産資産について比較したものである。金融資産残高と同様、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人の不動産資産は1039.8万円と非該当者のほぼ2倍であり有意に高い。

一方、消費者ローンを利用したことがある人(金融トラブル内訳2・3)や、住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人(金融トラブル内訳4・5)、また、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」人は、そうではない人と比較して平均不動産資産は有意に低い。

表 104 平均住宅ローン残高の差の検定結果:金融トラブル(内訳)(ゼロ保有含む)

住宅ローンの 差の検定 (ゼロ保有含)	1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3.消費者金融会社からお金を借りたことがある		4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	642	1754	151	2245	380	2016	249	2147	691	1705
サンプル数	306.1	353.1	517.4	328.6	398.4	330.0	394.6	334.2	367.4	329.6
平均住宅ローン (万円)	1.23		-2.23**		-1.42		-1.09		-1.01	
t-統計量										

住宅ローンの 差の検定 (ゼロ保有含) つづき	6.振り込み詐欺の被害に遭ったことがある		7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10.上記に該当する経験は一つもない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	44	2352	52	2344	110	2286	99	2297	748	1648
サンプル数	429.0	338.8	144.2	344.8	293.2	342.7	140.2	349.1	320.2	349.7
平均住宅ローン (万円)	-0.72		3.84***		0.61		4.59***		0.81	
t-統計量										

表 104 は金融トラブル内訳別でゼロ保有を含む住宅ローン残高について比較したものである。「2.消費者ローン支払いのために借入をした」人の住宅ローン残高は517.4万円と有意に高い。

一方、「7.他の金融商品に関連する詐欺にあったことがある」人や「9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」人については、そうではない人と比較して平均住宅ローン残高は有意に低くなっている。

表 105 平均その他負債残高の差の検定結果:金融トラブル(内訳)(ゼロ保有含む)

その他負債の差の検定 (ゼロ保有含む)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	641	1753	151	2243	380	2014	249	2145	693	1701
平均その他負債 (万円)	66.9	75.1	163.9	66.8	104.6	66.9	171.2	61.5	84.4	68.2
t-統計量	0.47		-4.01***		-1.77*		-4.25***		-0.95	

その他負債の差の検定 (ゼロ保有含む) つづき	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験はない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	45	2349	52	2342	111	2283	99	2295	745	1649
平均その他負債 (万円)	75.0	72.9	38.5	73.7	125.0	70.4	125.0	70.6	58.9	79.2
t-統計量	-0.04		0.66		-1.03		-1.39		1.21	

表 105 は金融トラブル内訳別でゼロ保有を含む住宅ローン以外の負債残高について比較したものである。「2.消費者ローン支払いのために借入をしたことがある」人、及び、「4.住宅ローン等の返済資金を用意することができなかった」人は、そうではない人と比較して2倍以上平均負債残高が有意に高い。

表 106 平均金融資産の差の検定結果:金融トラブル(内訳)(保有者のみ)

金融資産の差の検定 (保有者のみ)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	498	939	75	1362	191	1246	106	1331	365	1072
平均金融資産 (万円)	1797.4	1137.1	698.3	1402.7	836.4	1447.1	559.0	1430.2	869.2	1535.1
t-統計量	-7.53***		5.55***		6.35***		9.07***		8.15***	

金融資産の差の検定 (保有者のみ) つづき	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験はない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	28	1409	34	1403	82	1355	53	1384	425	1012
平均金融資産 (万円)	571.4	1381.7	1272.1	1368.2	1373.5	1365.5	1242.9	1370.7	1477.1	1319.3
t-統計量	4.66***		0.36		-0.05		0.59		-1.78*	

表 106 は金融資産保有者のみを対象に(ゼロ保有者を除く)、金融トラブル内訳で平均金融資産残高について比較したものである。平均金融資産の水準は異なるが、統計的な有意差はゼロ保有を含む金融資産残高の比較と結果は同じである。

表 107 平均不動産資産の差の検定結果:金融トラブル(内訳)(保有者のみ)

不動産資産の 差の検定 (保有者のみ)	1. 十分に理解できないまま金 融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支 払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を 借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンな どの返済資金を用意することが できなかった		5. 公共料金や保険料などの支 払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	280	460	45	695	99	641	50	690	156	584
平均不動産 (万円)	2157.6	1919.6	1786.1	2024.1	1834.6	2036.7	1727.5	2030.1	1878.2	2044.7
t-統計量	-2.03**		1.00		1.21		1.33		1.19	

不動産資産の 差の検定 (保有者のみ) つづき	6. 振り込め詐欺の被害に遭った ことがある		7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブル を経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験は一つ もない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	16	724	15	725	43	697	35	705	217	523
平均不動産 (万円)	1195.3	2027.6	1158.3	2027.2	1889.5	2017.0	1939.3	2013.1	2031.1	2000.7
t-統計量	2.13**		3.53***		0.52		0.28		-0.24	

表 107 は不動産資産保有者のみを対象に(ゼロ保有者を除く)、金融トラブル内訳別で平均不動産資産残高について比較したものである。ゼロ保有者を含む場合、金融トラブル内訳 3~5 では統計的な有意差が見られたが、保有者のみに限定すると統計的な有意差はみられない(金融トラブル内訳 1 と 7 はゼロ保有を含む場合も保有者のみに限定しても有意差は見られ、同じ結果である)。

なお、不動産保有者のみに限定すると、振り込め詐欺の経験別(金融トラブル内訳 6)で 5%水準で有意差が見られ、振り込め詐欺に遭った人の方がいない人と比較して不動産評価額は約半分と低い。

表 108 平均住宅ローン残高の差の検定結果:金融トラブル(内訳)(保有者のみ)

住宅ローンの 差の検定 (保有者のみ)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	119	391	47	463	94	416	74	436	160	350
平均住宅ローン (万円)	1651.3	1583.8	1662.2	1593.1	1610.4	1597.1	1327.7	1645.6	1586.7	1605.4
t-統計量	-0.59		-0.41		-0.11		2.31**		0.18	

住宅ローンの 差の検定 (保有者のみ) つづき	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験はない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	10	500	9	501	24	486	15	495	147	363
平均住宅ローン (万円)	1887.5	1593.8	833.3	1613.3	1343.8	1612.1	925.0	1620.0	1629.3	1587.5
t-統計量	-0.84		5.49***		1.17		3.87***		-0.39	

表 108 は住宅ローン保有者のみを対象に(ゼロ保有者を除く)、金融トラブル内訳別で平均住宅ローン残高について比較したものである。ゼロ保有者を含む場合、金融トラブル内訳 2(消費者金融返済のために借入れをした経験の有無)で統計的な有意差が見られたが、保有者のみに限定すると有意性は見られない。なお、金融トラブル内訳 7 と 9 については、ゼロ保有を含む場合も保有者のみに限定しても有意差は見られ、同じ結果である。

表 109 平均その他負債残高の差の検定結果:金融トラブル(内訳)(保有者のみ)

その他負債の差の検定 (保有者のみ)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	489	925	72	1342	187	1227	104	1310	360	1054
平均その他負債 (万円)	77.2	69.6	154.5	67.8	102.9	67.5	150.2	66.0	78.5	70.1
t-統計量	-0.32		-1.70*		-1.07		-1.96*		-0.33	

その他負債の差の検定 (保有者のみ) つづき	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験はない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	28	1386	34	1380	80	1334	53	1361	420	994
平均その他負債 (万円)	67.0	72.3	51.5	72.7	134.4	68.5	176.9	68.2	57.1	78.6
t-統計量	0.07		0.29		-1.36		-1.11		0.87	

表 109 は住宅ローン以外の負債保有者のみを対象に(ゼロ保有者を除く)、金融トラブル内訳別で平均負債残高について比較したものである。ゼロ保有を含む場合、金融トラブル内訳 2 と 4 が 1%水準で統計的な有意差があったが、保有者のみに限定すると 10%水準での有意差となっている。

Q11. 問 10 でお答えいただいた金融資産のうち、預貯金の占める比率を下記の中からお選びください。

表 110 金融資産に占める預貯金比率

Q11. 金融資産に占める預貯金比率	全体
全体	1437 (100%)
1. ゼロ	35 (2.4%)
2. 0%超～5%以下	128 (8.9%)
3. 5%超～10%以下	111 (7.7%)
4. 10%超～20%以下	116 (8.1%)
5. 20%超～40%以下	189 (13.2%)
6. 40%超～60%以下	209 (14.5%)
7. 60%超～80%以下	170 (11.8%)
8. 80%超～100%未満	169 (11.8%)
9. 100%(すべて)	231 (16.1%)
10. わからない	79 (5.5%)

表 110 は金融資産に占める預貯金比率について調査した結果である。100%（全て）預貯金である人が1番多く16.1%である。預貯金比率が40%超～100%未満で38.1%を占め、100%を含めると預貯金比率40%超がほぼ半分（54.2%）を占める。

そして、表 111 は金融トラブル経験の有無別で預貯金比率について比較したものである。1%水準の統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者では預貯金比率0%超～5%未満が有意に多く、金融トラブル未経験者では100%（すべて預貯金）が有意に多くなっている。

さらに、表 112 より年代別で比較すると、金融トラブル経験の有無別で統計的な有意差が見られる年代は20・30代であり、若年層の金融トラブル未経験者は預貯金比率100%が有意に多い。

表 111 (クロス分析) 預貯金比率×金融トラブル経験の有無

預貯金比率×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1012 (100%)	425 (100%)
1. ゼロ	29 (2.9%)	6 (1.4%)
2. 0%超～5%以下	105 (10.4%)+	23 (5.4%)-
3. 5%超～10%以下	85 (8.4%)	26 (6.1%)
4. 10%超～20%以下	89 (8.8%)	27 (6.4%)
5. 20%超～40%以下	144 (14.2%)	45 (10.6%)
6. 40%超～60%以下	141 (13.9%)	68 (16.0%)
7. 60%超～80%以下	112 (11.1%)	58 (13.6%)
8. 80%超～100%未満	115 (11.4%)	54 (12.7%)
9. 100%(すべて)	137 (13.5%)-	94 (22.1%)+
10. わからない	55 (5.4%)	24 (5.6%)
カイ2乗統計量	34.9***	

表 112 (クロス分析) 預貯金比率×年代・金融トラブル経験の有無

預貯金比率 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	279 (100%)	95 (100%)	314 (100%)	143 (100%)	419 (100%)	187 (100%)
1. ゼロ	12 (4.3%)	1 (1.1%)	7 (2.2%)	3 (2.1%)	10 (2.4%)	2 (1.1%)
2. 0%超～5%以下	42 (15.1%)	8 (8.4%)	40 (12.7%)+	8 (5.6%)-	23 (5.5%)	7 (3.7%)
3. 5%超～10%以下	21 (7.5%)	6 (6.3%)	37 (11.8%)	14 (9.8%)	27 (6.4%)	6 (3.2%)
4. 10%超～20%以下	27 (9.7%)	4 (4.2%)	25 (8.0%)	10 (7.0%)	37 (8.8%)	13 (7.0%)
5. 20%超～40%以下	27 (9.7%)	7 (7.4%)	36 (11.5%)	11 (7.7%)	81 (19.3%)	27 (14.4%)
6. 40%超～60%以下	36 (12.9%)	10 (10.5%)	39 (12.4%)	18 (12.6%)	66 (15.8%)	40 (21.4%)
7. 60%超～80%以下	26 (9.3%)	11 (11.6%)	29 (9.2%)	19 (13.3%)	57 (13.6%)	28 (15.0%)
8. 80%超～100%未満	30 (10.8%)	11 (11.6%)	32 (10.2%)	17 (11.9%)	53 (12.6%)	26 (13.9%)
9. 100%(すべて)	37 (13.3%)-	26 (27.4%)+	49 (15.6%)	33 (23.1%)	51 (12.2%)	35 (18.7%)
10. わからない	21 (7.5%)	11 (11.6%)	20 (6.4%)	10 (7.0%)	14 (3.3%)	3 (1.6%)
カイ2乗統計量	18.1**		11.5		14.7	

表 113 (クロス分析) 預貯金比率 × 金融トラブル(内訳)

預貯金比率 × 金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	498 (100%)	75 (100%)	191 (100%)	106 (100%)	365 (100%)
1. ゼロ	9 (1.8%)	1 (1.3%)	15 (7.9%)+	10 (9.4%)+	13 (3.6%)
2. 0%超～5%以下	36 (7.2%)	9 (12.0%)	23 (12.0%)	17 (16.0%)+	50 (13.7%)+
3. 5%超～10%以下	34 (6.8%)	11 (14.7%)+	25 (13.1%)+	17 (16.0%)+	30 (8.2%)
4. 10%超～20%以下	47 (9.4%)	10 (13.3%)	15 (7.9%)	7 (6.6%)	30 (8.2%)
5. 20%超～40%以下	90 (18.1%)+	11 (14.7%)	27 (14.1%)	7 (6.6%)-	40 (11.0%)
6. 40%超～60%以下	100 (20.1%)+	5 (6.7%)-	17 (8.9%)-	9 (8.5%)	26 (7.1%)-
7. 60%超～80%以下	66 (13.3%)	8 (10.7%)	16 (8.4%)	11 (10.4%)	38 (10.4%)
8. 80%超～100%未満	53 (10.6%)	9 (12.0%)	21 (11.0%)	7 (6.6%)	46 (12.6%)
9. 100%(すべて)	41 (8.2%)-	8 (10.7%)	25 (13.1%)	18 (17.0%)	66 (18.1%)
10. わからない	22 (4.4%)	3 (4.0%)	7 (3.7%)	3 (2.8%)	26 (7.1%)
カイ2乗統計量	69.2***	14.3	47.1***	51.0***	40.3***

表 113 は金融トラブル内訳別で預貯金比率について比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は預貯金比率 20%～60%以下の範囲で有意に多い。また、消費者ローン利用者(金融トラブル内訳 2・3) や住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人は(金融トラブル内訳 4・5)、ゼロや 10%以下の範囲(全体的に低い預貯金比率)で有意に多いカテゴリーが見られる。

表 114 (クロス分析) 預貯金比率×金融トラブル(内訳)(つづき)

預貯金比率 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブ ルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代 わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	28 (100%)	34 (100%)	82 (100%)	53 (100%)	425 (100%)
1. ゼロ	2 (7.1%)	1 (2.9%)	1 (1.2%)	2 (3.8%)	6 (1.4%)
2. 0%超～5%以下	3 (10.7%)	2 (5.9%)	6 (7.3%)	9 (17.0%)+	23 (5.4%)-
3. 5%超～10%以下	2 (7.1%)	1 (2.9%)	8 (9.8%)	4 (7.5%)	26 (6.1%)
4. 10%超～20%以下	2 (7.1%)	6 (17.6%)+	11 (13.4%)	3 (5.7%)	27 (6.4%)
5. 20%超～40%以下	7 (25.0%)	11 (32.4%)+	17 (20.7%)+	8 (15.1%)	45 (10.6%)
6. 40%超～60%以下	2 (7.1%)	3 (8.8%)	14 (17.1%)	7 (13.2%)	68 (16.0%)
7. 60%超～80%以下	1 (3.6%)	1 (2.9%)	10 (12.2%)	5 (9.4%)	58 (13.6%)
8. 80%超～100%未満	1 (3.6%)	0 (0.0%)-	3 (3.7%)-	5 (9.4%)	54 (12.7%)
9. 100%(すべて)	6 (21.4%)	8 (23.5%)	10 (12.2%)	9 (17.0%)	94 (22.1%)+
10. わからない	2 (7.1%)	1 (2.9%)	2 (2.4%)	1 (1.9%)	24 (5.6%)
カイ2乗統計量	10.8	24.0***	15.7*	6.91	34.9***

表 114 は金融トラブル内訳別(つづき)で預貯金比率について比較したものである。「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」人は10%超～40%以下の範囲で該当者が有意に多い。

表 115 平均預貯金比率の差の検定結果:金融トラブル経験の有無別

預貯金比率の差の検定 (トラブル有無別)	トラブル有	トラブル無
サンプル数	957	401
平均預貯金比率(%)	47.5	59.2
t-統計量	-5.57***	

表 116 平均預貯金比率の差の検定結果:年代・金融トラブル経験の有無別

預貯金比率の差の検定 (年代・トラブル有無別)	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数	258	84	294	133	405	184
平均預貯金比率(%)	44.6	61.8	46.2	57.6	50.4	59.1
t-統計量	-3.72***		-2.96***		-3.00***	

表 115 は各カテゴリーの中央値を用い（「わからない」を除く）、金融トラブル経験の有無で平均預貯金比率を比較したものである。金融トラブル経験の有無別で預貯金比率には1%水準の統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者の平均預貯金比率は47.5%、未経験者は59.2%と金融トラブル経験者は11.7%低い。

そして、表 116 は年代別で比較したものであるが、いずれの年代でも金融トラブル経験の有無で1%水準の統計的な有意差が見られ、全ての年代で金融トラブル経験者の方が未経験者より預貯金比率は低くなっている。特に、20・30代では金融トラブル経験者の平均預貯金比率は44.6%、未経験者は61.8%とその差は17.2%と1番大きい（40・50代では11.4%、60代以上で8.7%の差である）。

さらに、表 117 は金融トラブル内訳別で平均預貯金比率を比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」、消費者ローン利用者（金融トラブル内訳2・3）や「4.住宅ローン等の返済資金を用意することができなかった」人、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」で統計的な有意差が見られ、これらの金融トラブル経験者は非該者と比較して平均預貯金比率は有意に低い。

表 117 平均預貯金比率の差の検定結果:金融トラブル(内訳)別

平均預貯金比率 の差の検定 (保有者のみ)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	476	882	72	1286	184	1174	103	1255	339	1019
平均預貯金比率 (%)	46.7	53.3	41.7	51.5	41.5	52.5	40.1	51.9	49.3	51.5
t-統計量	3.43***		2.27**		3.74***		2.95***		0.97	

平均預貯金比率 の差の検定 (保有者のみ) つづき	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験は一つもない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	26	1332	33	1325	80	1278	52	1306	401	957
平均預貯金比率 (%)	43.2	51.1	44.0	51.1	42.8	51.5	45.9	51.2	59.2	47.5
t-統計量	1.13		1.14		2.36**		1.05		-5.57***	

Q12. あなたは、過去 3 年以内に、住宅ローン以外の借り入れを行ったことがありますか。下記の中から該当するものをすべて選んでください。ただし、事業性の借り入れは除きます。(いくつでも)。

表 118 住宅ローン以外の借入

Q12. 住宅ローン以外の借入	全体
全体	1070 (選択率)
1. 消費金融会社のローン	129 (12.1%)
2. 銀行の消費者ローン	192 (17.9%)
3. クレジットカード会社のローン	278 (26.0%)
4. 教育ローン	37 (3.5%)
5. 自動車ローン	191 (17.9%)
6. リフォームローン	38 (3.6%)
7. リバースモーゲージ	3 (0.3%)
8. 預金や生命保険等を担保にした借り入れ (総合口座や保険契約者借り入れなど)	49 (4.6%)
9. その他の借り入れ	49 (4.6%)
10. 借り入れをしていない	497 (46.4%)

表 118 は住宅ローン以外の借入の内訳について調査した結果である。

住宅ローン以外の借入の内、1 番借入の多い項目は「3.クレジットカード会社のローン」で 26%であり、次いで「2.銀行の消費者ローン」と「5.自動車ローン」が 17.9%である。また、「1.消費金融会社のローン」は 12.1%である。

一方「4.教育ローン」は 3.5%、「6.リフォームローン」は 3.6%と低く、全体的に用途（利用目的）が明確ではない消費ローンの借入が多い。

なお、半数近く（46.4%）の人は住宅ローン以外の借入はしていない。

表 119 (クロス分析)住宅ローン以外の借入×金融トラブル経験の有無

住宅ローン以外の借入×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	792 (選択率)	278 (選択率)
1. 消費金融会社のローン	127 (16.0%)+	2 (0.7%)-
カイ2乗統計量	45.5***	
2. 銀行の消費者ローン	177 (22.3%)+	15 (5.4%)-
カイ2乗統計量	40.2***	
3. クレジットカード会社のローン	258 (32.6%)+	20 (7.2%)-
カイ2乗統計量	68.9***	
4. 教育ローン	32 (4.0%)	5 (1.8%)
カイ2乗統計量	3.10*	
5. 自動車ローン	159 (20.1%)+	32 (11.5%)-
カイ2乗統計量	10.3***	
6. リフォームローン	33 (4.2%)	5 (1.8%)
カイ2乗統計量	3.37*	
7. リバースモーゲージ	3 (0.4%)	0 (0.0%)
カイ2乗統計量	1.06	
8. 預金や生命保険等を担保にした借り入れ (総合口座や保険契約者借り入れなど)	46 (5.8%)+	3 (1.1%)-
カイ2乗統計量	10.5***	
9. その他の借り入れ	42 (5.3%)	7 (2.5%)
カイ2乗統計量	3.65*	
10. 借り入れをしていない	289 (36.5%)-	208 (74.8%)+
カイ2乗統計量	121.5***	

表 119 は金融トラブル経験の有無で住宅ローン以外の借入の内訳について比較したものである。

金融トラブル経験者の定義として、「消費者金融からお金を借りたことがある」が含まれるため、金融トラブル経験者で「1.消費金融会のローン」、「2.銀行の消費者ローン」、「3.クレジットカード会社のローン」を借入する人が有意に多くなっている。

但し、金融トラブル経験者については、その他のローンについても有意に借り入れが多い項目が見られ、「5.自動車ローン」や「8.預金や生命保険等を担保にした借り入れ」についても金融トラブル経験者は有意に多い。

表 120 (クロス分析)住宅ローン以外の借入×年代・金融トラブル経験の有無

住宅ローン以外の借入 ×年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	257 (選択率)	101 (選択率)	299 (選択率)	100 (選択率)	236 (選択率)	77 (選択率)
1. 消費金融会社のローン	50 (19.5%)+	1 (1.0%)-	49 (16.4%)+	0 (0.0%)-	28 (11.9%)+	1 (1.3%)-
カイ2乗統計量	20.2***		18.7***		7.71***	
2. 銀行の消費者ローン	57 (22.2%)+	2 (2.0%)-	78 (26.1%)+	7 (7.0%)-	42 (17.8%)+	6 (7.8%)-
カイ2乗統計量	21.5***		16.3***		4.48**	
3. クレジットカード会社のローン	96 (37.4%)+	6 (5.9%)-	105 (35.1%)+	7 (7.0%)-	57 (24.2%)+	7 (9.1%)-
カイ2乗統計量	35.1***		29.3***		8.10***	
4. 教育ローン	8 (3.1%)	1 (1.0%)	22 (7.4%)	4 (4.0%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)
カイ2乗統計量	1.33		1.39		0.66	
5. 自動車ローン	77 (30.0%)+	14 (13.9%)-	58 (19.4%)	15 (15.0%)	24 (10.2%)	3 (3.9%)
カイ2乗統計量	9.91***		0.97		2.90	
6. リフォームローン	11 (4.3%)+	0 (0.0%)-	14 (4.7%)	5 (5.0%)	8 (3.4%)	0 (0.0%)
カイ2乗統計量	4.46**		0.02		2.68	
7. リバースモーゲージ	3 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
カイ2乗統計量	1.19		-		-	
8. 預金や生命保険等を担保にした借入れ	8 (3.1%)	0 (0.0%)	22 (7.4%)+	2 (2.0%)-	16 (6.8%)	1 (1.3%)
カイ2乗統計量	3.22		3.81*		3.40*	
9. その他の借入れ	14 (5.4%)	6 (5.9%)	15 (5.0%)	1 (1.0%)	13 (5.5%)+	0 (0.0%)-
カイ2乗統計量	0.03		3.14*		4.43**	
10. 借入れをしていない	74 (28.8%)-	77 (76.2%)+	92 (30.8%)-	68 (68.0%)+	123 (52.1%)-	63 (81.8%)+
カイ2乗統計量	66.9***		43.2***		21.2***	

表 120 は年代別で比較したものであるが、各年代から均等に金融トラブル経験者をサンプリングしているため、全ての年代で「1.消費金融会社のローン」、「2.銀行の消費者ローン」、「3.クレジットカード会社のローン」を借入する人が有意に多くなっている。

上記以外のローンを見ると、20・30代の金融トラブル経験者は「5.自動車ローン」と「6.リフォームローン」の借入が有意に多く、40・50代の金融トラブル経験者は「8.預金や生命保険等を担保にした借入れ」が有意に多くなっている。また、60代の金融トラブル経験者では「9.その他の借入」が有意に多い。

表 121 (参考)(クロス分析)住宅ローン以外の借入×金融トラブル(内訳)

1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3.消費者金融会社からお金を借りたことがある		4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
184 (選択率)	886 (選択率)	138 (選択率)	932 (選択率)	282 (選択率)	788 (選択率)	204 (選択率)	866 (選択率)	374 (選択率)	696 (選択率)
1. 消費金融会社のローン									
19 (10.3%)	110 (12.4%)	57 (41.3%)+	72 (7.7%)-	117 (41.5%)+	12 (1.5%)-	61 (29.9%)+	68 (7.9%)-	65 (17.4%)+	64 (9.2%)-
0.63		127.8***		312.9***		75.7***		15.4***	
2. 銀行の消費者ローン									
31 (16.8%)	161 (18.2%)	72 (52.2%)+	120 (12.9%)-	107 (37.9%)+	85 (10.8%)-	76 (37.3%)+	116 (13.4%)-	77 (20.6%)	115 (16.5%)
0.18		126.1***		104.0***		63.8***		2.73	
3. クレジットカード会社のローン									
35 (19.0%)-	243 (27.4%)+	79 (57.2%)+	199 (21.4%)-	138 (48.9%)+	140 (17.8%)-	110 (53.9%)+	168 (19.4%)-	135 (36.1%)+	143 (20.5%)-
5.60**		80.5***		104.9***		102.3***		30.6***	
4. 教育ローン									
7 (3.8%)	30 (3.4%)	10 (7.2%)+	27 (2.9%)-	12 (4.3%)	25 (3.2%)	11 (5.4%)	26 (3.0%)	21 (5.6%)+	16 (2.3%)-
0.08		6.81**		0.73		2.83		8.01***	
5. 自動車ローン									
33 (17.9%)	158 (17.8%)	34 (24.6%)+	157 (16.8%)-	58 (20.6%)	133 (16.9%)	43 (21.1%)	148 (17.1%)	88 (23.5%)+	103 (14.8%)-
0.001		4.98**		1.93		1.79		12.6***	
6. リフォームローン									
11 (6.0%)+	27 (3.0%)-	6 (4.3%)	32 (3.4%)	15 (5.3%)	23 (2.9%)	13 (6.4%)+	25 (2.9%)-	13 (3.5%)	25 (3.6%)
3.82*		0.29		3.49*		5.86**		0.01	
7. リバースモーゲージ									
3 (1.6%)+	0 (0.0%)-	3 (2.2%)+	0 (0.0%)-	2 (0.7%)	1 (0.1%)	3 (1.5%)+	0 (0.0%)-	2 (0.5%)	1 (0.1%)
14.5***		20.3***		2.52		12.8***		1.33	
8. 預金や生命保険等を担保にした借り入れ									
7 (3.8%)	42 (4.7%)	10 (7.2%)	39 (4.2%)	18 (6.4%)	31 (3.9%)	17 (8.3%)+	32 (3.7%)-	27 (7.2%)+	22 (3.2%)-
0.31		2.58		2.85*		8.13***		9.17***	
9. その他の借り入れ									
10 (5.4%)	39 (4.4%)	8 (5.8%)	41 (4.4%)	16 (5.7%)	33 (4.2%)	9 (4.4%)	40 (4.6%)	19 (5.1%)	30 (4.3%)
0.37		0.54		1.05		0.02		0.33	
10. 借り入れをしていない									
101 (54.9%)+	396 (44.7%)-	17 (12.3%)-	480 (51.5%)+	48 (17.0%)-	449 (57.0%)+	40 (19.6%)-	457 (52.8%)+	124 (33.2%)-	373 (53.6%)+
6.37**		74.2***		133.3***		73.0***		40.8***	

表 122 (参考)(クロス分析)住宅ローン以外の借入×金融トラブル(内訳)(つづき)

6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある		7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10. 上記に該当する経験は一つもない	
該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
22 (選択率)	1048 (選択率)	18 (選択率)	1052 (選択率)	52 (選択率)	1018 (選択率)	64 (選択率)	1006 (選択率)	278 (選択率)	792 (選択率)
1. 消費金融会社のローン									
8 (36.4%)+	121 (11.5%)-	5 (27.8%)+	124 (11.8%)-	10 (19.2%)	119 (11.7%)	10 (15.6%)	119 (11.8%)	2 (0.7%)-	127 (16.0%)+
12.5***		4.27*		2.65		0.82		45.5***	
2. 銀行の消費者ローン									
7 (31.8%)	185 (17.7%)	7 (38.9%)+	185 (17.6%)-	17 (32.7%)+	175 (17.2%)-	17 (26.6%)	175 (17.4%)	15 (5.4%)-	177 (22.3%)+
2.94*		5.46**		8.07***		3.43*		40.2***	
3. クレジットカード会社のローン									
9 (40.9%)	269 (25.7%)	8 (44.4%)	270 (25.7%)	20 (38.5%)+	258 (25.3%)-	19 (29.7%)	259 (25.7%)	20 (7.2%)-	258 (32.6%)+
2.60		3.25*		4.43*		0.49		68.9***	
4. 教育ローン									
2 (9.1%)	35 (3.3%)	1 (5.6%)	36 (3.4%)	1 (1.9%)	36 (3.5%)	3 (4.7%)	34 (3.4%)	5 (1.8%)	32 (4.0%)
2.14		0.24		0.39		0.31		3.10*	
5. 自動車ローン									
9 (40.9%)+	182 (17.4%)-	5 (27.8%)	186 (17.7%)	15 (28.8%)+	176 (17.3%)-	15 (23.4%)	176 (17.5%)	32 (11.5%)-	159 (20.1%)+
8.14***		1.23		4.51**		1.45		10.3***	
6. リフォームローン									
4 (18.2%)+	34 (3.2%)-	5 (27.8%)+	33 (3.1%)-	6 (11.5%)+	32 (3.1%)-	7 (10.9%)+	31 (3.1%)-	5 (1.8%)	33 (4.2%)
14.0***		31.4***		10.2***		10.8***		3.37*	
7. リバースモーゲージ									
2 (9.1%)+	1 (0.1%)-	2 (11.1%)+	1 (0.1%)-	2 (3.8%)+	1 (0.1%)-	2 (3.1%)+	1 (0.1%)-	0 (0.0%)	3 (0.4%)
62.4***		76.8***		24.9***		19.7**		1.06	
8. 預金や生命保険等を担保にした借り入れ									
5 (22.7%)+	44 (4.2%)-	2 (11.1%)	47 (4.5%)	10 (19.2%)+	39 (3.8%)-	6 (9.4%)	43 (4.3%)	3 (1.1%)-	46 (5.8%)+
16.9***		1.79		26.9***		3.58*		10.5***	
9. その他の借り入れ									
1 (4.5%)	48 (4.6%)	1 (5.6%)	48 (4.6%)	2 (3.8%)	47 (4.6%)	2 (3.1%)	47 (4.7%)	7 (2.5%)	42 (5.3%)
0.00		0.04		0.07		0.33		3.65*	
10. 借り入れをしていない									
5 (22.7%)-	492 (46.9%)+	5 (27.8%)	492 (46.8%)	20 (38.5%)	477 (46.9%)	26 (40.6%)	471 (46.8%)	208 (74.8%)+	289 (36.5%)-
5.08**		2.57		1.40		0.93		121.5***	

<金融リテラシーの水準>

Q13. ご自身は、金融全般、証券投資、保険に関する知識をどの程度お持ちとお考えですか。下記からそれぞれ当てはまるものを一つお選びください。

表 123 金融全般・証券投資・保険に関する知識(自己評価)

Q13. 金融に関する知識	1.金融全般		2.証券投資		3.保険	
	2700 (100%)	2700 (100%)	2700 (100%)	2700 (100%)	2700 (100%)	2700 (100%)
全体	758 (28.1%)	1259 (46.7%)	991 (36.7%)	1464 (54.2%)	724 (26.8%)	1263 (46.8%)
1. 平均よりもかなり劣る	501 (18.6%)		473 (17.5%)		539 (20.0%)	
2. 平均よりも少し劣る	750 (27.8%)	750 (27.8%)	523 (19.4%)	523 (19.4%)	789 (29.2%)	789 (29.2%)
3. 平均的	198 (7.3%)	265 (9.8%)	195 (7.2%)	261 (9.6%)	171 (6.3%)	231 (8.5%)
4. 平均よりも詳しい	67 (2.5%)		66 (2.4%)		60 (2.2%)	
5. 平均よりもかなり詳しい	426 (15.8%)	426 (15.8%)	452 (16.7%)	452 (16.7%)	417 (15.4%)	417 (15.4%)
6. わからない						

表 123 は、「1.金融全般」、「2.証券投資」、「3.保険」に関する知識の程度の自己評価について調査した結果である。いずれの知識についても平均よりも劣る（「かなり劣る」と「少し劣る」の計）と自己評価する人が約半分であるが、特に証券投資については金融全般や保険と比べて平均的と自己評価をする人が少なく、平均よりも劣ると自己評価する人が多い。平均よりも詳しい（かなり詳しいを含む）と自己評価する人はいずれの知識についても1割弱であり、「わからない」と回答する人は16%前後である。

表 124 (クロス分析)金融に関する知識(自己評価)×金融トラブル経験の有無

金融に関する知識(自己評価) ×金融トラブル有無	1. 金融全般		2. 証券投資		3. 保険	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)	1800 (100%)	900 (100%)	1800 (100%)	900 (100%)
1. 平均よりもかなり劣る	522 (29.0%)	236 (26.2%)	696 (38.7%)+	295 (32.8%)-	493 (27.4%)	231 (25.7%)
2. 平均よりも少し劣る	389 (21.6%)+	112 (12.4%)-	341 (18.9%)+	132 (14.7%)-	388 (21.6%)+	151 (16.8%)-
3. 平均的	491 (27.3%)	259 (28.8%)	359 (19.9%)	164 (18.2%)	548 (30.4%)+	241 (26.8%)-
4. 平均よりも詳しい	148 (8.2%)+	50 (5.6%)-	144 (8.0%)+	51 (5.7%)-	135 (7.5%)+	36 (4.0%)-
5. 平均よりもかなり詳しい	48 (2.7%)	19 (2.1%)	44 (2.4%)	22 (2.4%)	43 (2.4%)	17 (1.9%)
6. わからない	202 (11.2%)-	224 (24.9%)+	216 (12.0%)-	236 (26.2%)+	193 (10.7%)-	224 (24.9%)+
カイ2乗統計量	106.9***		89.9***		100.5***	

表 124 は金融トラブル経験の有無で金融に関する知識の自己評価について比較したものである。

いずれの知識についても金融トラブル経験者では「2.平均よりも少し劣る」と回答する人が有意に多い一方で「4.平均よりも詳しい」と回答する人も有意に多く、金融トラブル経験者では二極化の傾向が見られる。ちなみに、保険については金融トラブル経験者で「3.平均的」と回答する人も多く、特に自己評価が分かれている。

なお、金融トラブル未経験者はいずれの知識についても「6.わからない」と回答する人が有意に多い。

表 125 (クロス分析)1.金融全般に関する知識(自己評価)×年代・金融トラブル経験の有無

1. 金融全般(自己評価) ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 平均よりもかなり劣る	226 (37.7%)	107 (35.7%)	168 (28.0%)	67 (22.3%)	128 (21.3%)	62 (20.7%)
2. 平均よりも少し劣る	121 (20.2%)+	32 (10.7%)-	135 (22.5%)+	38 (12.7%)-	133 (22.2%)+	42 (14.0%)-
3. 平均的	124 (20.7%)	51 (17.0%)	11 (26.8%)	94 (31.3%)	206 (34.3%)	114 (38.0%)
4. 平均よりも詳しい	33 (5.5%)	9 (3.0%)	43 (7.2%)	16 (5.3%)	72 (12.0%)	25 (8.3%)
5. 平均よりもかなり詳しい	13 (2.2%)+	1 (0.3%)-	18 (3.0%)	5 (1.7%)	17 (2.8%)	13 (4.3%)
6. わからない	83 (13.8%)	100 (33.3%)+	75 (12.5%)-	80 (26.7%)+	44 (7.3%)-	44 (14.7%)+
カイ2乗統計量	56.6***		39.7***		22.5***	

表 126 (クロス分析)2.証券投資に関する知識(自己評価)×年代・金融トラブル経験の有無

2. 証券投資(自己評価) ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 平均よりもかなり劣る	280 (46.7%)	125 (41.7%)	231 (38.5%)+	83 (28.7%)-	185 (30.8%)	84 (28.0%)
2. 平均よりも少し劣る	95 (15.8%)+	30 (10.0%)-	124 (20.7%)+	45 (15.0%)-	122 (20.3%)	57 (19.0%)
3. 平均的	92 (15.3%)+	31 (10.3%)-	107 (17.8%)	56 (18.7%)	160 (26.7%)	77 (25.7%)
4. 平均よりも詳しい	33 (5.5%)	9 (3.0%)	41 (6.8%)	17 (5.7%)	70 (11.7%)	25 (8.3%)
5. 平均よりもかなり詳しい	13 (2.2%)+	0 (0.0%)-	15 (2.5%)	10 (3.3%)	16 (2.7%)	12 (4.0%)
6. わからない	87 (14.5%)-	105 (35.0%)+	82 (13.7%)-	86 (28.7%)+	47 (7.8%)-	45 (15.0%)+
カイ2乗統計量	58.2***		34.0***		14.1**	

表 127 (クロス分析)3.保険に関する知識(自己評価)×年代・金融トラブル経験の有無

3. 保険(自己評価) ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 平均よりもかなり劣る	205 (34.2%)	103 (34.3%)	158 (26.3%)	65 (21.7%)	130 (21.7%)	63 (21.0%)
2. 平均よりも少し劣る	116 (19.3%)+	37 (12.3%)-	128 (21.3%)	50 (16.7%)	144 (24.0%)	64 (21.3%)
3. 平均的	145 (24.2%)+	48 (16.0%)-	188 (31.3%)	88 (29.3%)	215 (35.8%)	105 (35.0%)
4. 平均よりも詳しい	43 (7.2%)+	9 (3.0%)-	39 (6.5%)	11 (3.7%)	53 (8.8%)	16 (5.3%)
5. 平均よりもかなり詳しい	14 (2.3%)+	1 (0.3%)-	16 (2.7%)	7 (2.3%)	13 (2.2%)	9 (3.0%)
6. わからない	77 (12.8%)-	102 (34.0%)+	71 (11.8%)-	79 (26.3%)+	45 (7.5%)-	43 (14.3%)+
カイ2乗統計量	67.8***		32.4***		14.0**	

表 125 から表 127 は年代(金融トラブル経験の有無)別で各知識の自己評価について比較したものである。

まず、表 125 から金融全般の知識の自己評価を見ると、いずれの年代についても金融トラブル経験者は「平均よりも少し劣る」と自己評価する人が有意に多く、金融トラブル未経験者は「わからない」と自己評価する人が有意に多い。ちなみに20・30代のみ、金融トラブル経験者で「平均よりもかなり詳しい」と自己評価する人も有意に多くなっている。

そして、表 126 より証券投資の知識について比較すると、金融全般と同様、いずれの年代についても金融トラブル未経験者は「わからない」と自己評価する人が有意に多い。

なお、証券投資に関する知識については、40・50代の金融トラブル経験者は「平均よりも劣る」と自己評価する人が有意に多い一方で、20・30代は自己評価が分かれている状況が見られる。また、60代以上では、証券投資の自己評価について(「わからない」を除く)金融トラブル経験の有無で統計的な有意差は見られない。

最後に表 127 から保険の知識について比較すると、証券投資以上に20・30代で自己評価が分かれている。ちなみに、わからないを除いて見ると、40・50代と60代以上では保険の知識に対する自己評価に対し金融トラブル経験の有無で有意差は見られない。

表 128 (クロス分析)1.金融全般に関する知識(自己評価)×金融トラブル(内訳)

1.金融全般に関する知識 (自己評価) ×金融トラブル(内訳)	1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3.消費者金融会社からお金を借りたことがある	4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 平均よりもかなり劣る	142 (20.8%) ⁻	55 (32.2%)	136 (32.4%) ⁺	114 (41.3%) ⁺	274 (36.4%) ⁺
2. 平均よりも少し劣る	160 (23.4%) ⁺	44 (25.7%) ⁺	96 (22.9%) ⁺	64 (23.2%) ⁺	157 (20.9%)
3. 平均的	222 (32.5%) ⁺	38 (22.2%)	97 (23.1%) ⁻	48 (17.4%) ⁻	157 (20.9%) ⁻
4. 平均よりも詳しい	84 (12.3%) ⁺	10 (5.8%)	28 (6.7%)	8 (2.9%) ⁻	50 (6.6%)
5. 平均よりもかなり詳しい	25 (3.7%) ⁺	5 (2.9%)	13 (3.1%)	8 (2.9%)	16 (2.1%)
6. わからない	50 (7.3%) ⁻	19 (11.1%)	50 (11.9%) ⁻	34 (12.3%)	98 (13.0%) ⁻
カイ2乗統計量	113.6***	11.4**	18.0***	45.5***	53.0***

1.金融全般に関する知識 (自己評価) ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6.振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10.上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 平均よりもかなり劣る	15 (30.6%)	7 (13.2%) ⁻	24 (20.3%)	34 (31.2%)	236 (26.2%)
2. 平均よりも少し劣る	13 (26.5%)	17 (32.1%) ⁺	28 (23.7%)	18 (16.5%)	112 (12.4%) ⁻
3. 平均的	10 (20.4%)	18 (34.0%)	37 (31.4%)	31 (28.4%)	259 (28.8%)
4. 平均よりも詳しい	3 (6.1%)	4 (7.5%)	13 (11.0%)	7 (6.4%)	50 (5.6%) ⁻
5. 平均よりもかなり詳しい	1 (2.0%)	1 (1.9%)	8 (6.8%) ⁺	1 (0.9%)	19 (2.1%)
6. わからない	7 (14.3%)	6 (11.3%)	8 (6.8%) ⁻	18 (16.5%)	224 (24.9%) ⁺
カイ2乗統計量	3.01	11.1*	22.8***	1.95	106.9***

表 129 (クロス分析)2.証券投資に関する知識(自己評価)×金融トラブル(内訳)

2.証券投資に関する知識 (自己評価) ×金融トラブル(内訳)	1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3.消費者金融会社からお金を借りたことがある	4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 平均よりもかなり劣る	186 (27.2%) ⁻	82 (48.0%) ⁺	183 (43.6%) ⁺	138 (50.0%) ⁺	353 (46.9%) ⁺
2. 平均よりも少し劣る	147 (21.5%) ⁺	36 (21.1%)	81 (19.3%)	61 (22.1%) ⁺	121 (16.1%)
3. 平均的	185 (27.1%) ⁺	23 (13.5%) ⁻	66 (15.7%) ⁻	28 (10.1%) ⁻	111 (14.8%) ⁻
4. 平均よりも詳しい	85 (12.4%) ⁺	6 (3.5%)	21 (5.0%)	9 (3.3%) ⁻	45 (6.0%)
5. 平均よりもかなり詳しい	23 (3.4%)	6 (3.5%)	17 (4.0%) ⁺	5 (1.8%)	18 (2.4%)
6. わからない	57 (8.3%) ⁻	18 (10.5%) ⁻	52 (12.4%) ⁻	35 (12.7%)	104 (13.8%) ⁻
カイ2乗統計量	135.0***	19.4***	25.0***	42.2***	49.9***

2.証券投資に関する知識 (自己評価) ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6.振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10.上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 平均よりもかなり劣る	22 (44.9%)	10 (18.9%) ⁻	31 (26.3%) ⁻	44 (40.4%)	295 (32.8%) ⁻
2. 平均よりも少し劣る	7 (14.3%)	13 (24.5%)	24 (20.3%)	18 (16.5%)	132 (14.7%) ⁻
3. 平均的	8 (16.3%)	17 (32.1%) ⁺	30 (25.4%)	17 (15.6%)	164 (18.2%)
4. 平均よりも詳しい	3 (6.1%)	5 (9.4%)	18 (15.3%) ⁺	10 (9.2%)	51 (5.7%) ⁻
5. 平均よりもかなり詳しい	1 (2.0%)	1 (1.9%)	6 (5.1%)	1 (0.9%)	22 (2.4%) ⁺
6. わからない	8 (16.3%)	7 (13.2%)	9 (7.6%) ⁻	19 (17.4%)	236 (26.2%) ⁺
カイ2乗統計量	1.57	11.5**	27.2***	3.03	89.9***

表 130 (クロス分析)3.保険に関する知識(自己評価)×金融トラブル(内訳)

3.保険に関する知識 (自己評価) ×金融トラブル(内訳)	1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3.消費者金融会社からお金を借りたことがある	4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 平均よりもかなり劣る	165 (24.2%)	57 (33.3%)+	128 (30.5%)	96 (34.8%)+	241 (32.0%)+
2. 平均よりも少し劣る	162 (23.7%)+	38 (22.2%)	87 (20.7%)	55 (19.9%)	153 (20.3%)
3. 平均的	235 (34.4%)+	44 (25.7%)	119 (28.3%)	68 (24.6%)	191 (25.4%)-
4. 平均よりも詳しい	54 (7.9%)+	11 (6.4%)	30 (7.1%)	17 (6.2%)	60 (8.0%)+
5. 平均よりもかなり詳しい	17 (2.5%)	4 (2.3%)	9 (2.1%)	8 (2.9%)	16 (2.1%)
6. わからない	50 (7.3%)-	17 (9.9%)-	47 (11.2%)-	32 (11.6%)	91 (12.1%)-
カイ2乗統計量	60.2***	7.72	9.12	13.1**	28.0***

3.保険に関する知識 (自己評価) ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6.振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10.上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 平均よりもかなり劣る	15 (30.6%)	7 (13.2%)-	26 (22.0%)	34 (31.2%)	231 (25.7%)
2. 平均よりも少し劣る	7 (14.3%)	11 (20.8%)	20 (16.9%)	16 (14.7%)	151 (16.8%)-
3. 平均的	11 (22.4%)	24 (45.3%)+	47 (39.8%)+	30 (27.5%)	241 (26.8%)-
4. 平均よりも詳しい	6 (12.2%)	4 (7.5%)	13 (11.0%)+	7 (6.4%)	36 (4.0%)-
5. 平均よりもかなり詳しい	4 (8.2%)+	2 (3.8%)	5 (4.2%)	5 (4.6%)	17 (1.9%)
6. わからない	6 (12.2%)	5 (9.4%)	7 (5.9%)-	17 (15.6%)	224 (24.9%)+
カイ2乗統計量	12.9**	10.5*	20.1***	5.38	100.5***

表 128 から表 130 は、金融トラブル内訳別で金融に関する知識の自己評価について比較したものである。

表 128 から金融全般の知識の自己評価について比較する。

まず、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入」をしたことがある人は、金融全般に関する知識について「平均よりも少し劣る」、「平均的」、「平均よりも詳しい（かなり詳しいも含む）」が有意に多く、自己評価は分かれている。また、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人については「平均よりもかなり詳しい」と自己評価する人が有意に多い。

そして、消費者ローンを利用している人（金融トラブル内訳 2・3）、及び住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人（金融トラブル内訳 4・5）は、「平均よりもかなり劣る」あるいは「平均よりも少し劣る」と自己評価する人が有意に多くなっている。

次に、表 129 から証券投資の知識の自己評価について比較する。

金融全般の知識と同様、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入」をしたことがある人は自己評価が分かれており、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人については「平均よりも詳しい」と自己評価する人が有意に多い。

また、消費者ローンを利用している人（金融トラブル内訳 2・3）、住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延した人がある人（金融トラブル内訳 4・5）は証券投資について「平均よりもかなり劣る」あるいは「平均よりもかなり詳しい」と自己評価する人が有意に多くなっている。全体的に有意となるカテゴリーは金融全般と証券投資で傾向は大きく変わらない。

最後に、表 130 は保険に関する知識の自己評価について比較する。

まず、金融全般や証券投資と同様、保険についても「1.十分に理解できないまま金融商品を購入」をしたことがある人は自己評価が分かれている。但し、金融全般や証券投資とは異なり、「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」人も保険に関する知識については自己評価が分かれている。

なお、金融全般や証券投資の場合とは異なり、消費者ローン利用者（金融トラブル内訳 2・3）の該当・非該当別で保険に関する知識の自己評価に統計的な有意差は見られない。

Q14. 100 万円の現金を 1 年満期の銀行預金(年利子率 2%)に預けて、5 年間、同条件で更新しながら運用したら、5 年後にはいくら受け取れると思いますか。(税率はゼロと考えてください)。

表 131 複利計算の理解

Q14. 複利計算の理解	全体
全体	2700 (100%)
1. 110 万円よりも多い(正解)	979 (36.3%)
2. ちょうど 110 万円	393 (14.6%)
3. 110 万円よりも少ない	767 (28.4%)
4. わからない	561 (20.8%)

表 131 は、複利計算の理解について調査した結果である。正解は「110 万円よりも多い」であるが、正解者は 36.3%である。「110 万円よりも少ない」と回答した人とが 28.4%、「ちょうど 110 万円」が 14.6%であり、「わからない」が 20.8%である。

表 132 (クロス分析)複利計算の理解×金融トラブル経験の有無

複利計算の理解×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 110 万円よりも多い(正解)	679 (37.7%)+	300 (33.3%)-
2. ちょうど 110 万円	281 (15.6%)+	112 (12.4%)-
3. 110 万円よりも少ない	550 (30.6%)+	217 (24.1%)-
4. わからない	290 (16.1%)-	271 (30.1%)+
カイ 2 乗統計量	72.7***	

表 132 は、金融トラブル経験の有無で複利計算の理解について比較したものである。金融トラブル経験者の方が正解は有意に多いが、金融トラブル経験者については不正解も有意に多い。

一方、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が 30.1% (金融トラブル経験者は 16.1%)と有意に多くなっている。

表 133 (クロス分析)複利計算の理解×年代・金融トラブル経験の有無

複利計算の理解 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 110万円よりも多い(正解)	185 (30.8%)+	58 (19.3%)-	227 (37.8%)	116 (38.7%)	267 (44.5%)	126 (42.0%)
2. ちょうど110万円	130 (21.7%)+	43 (14.3%)-	83 (13.8%)	37 (12.3%)	68 (11.3%)	32 (10.7%)
3. 110万円よりも少ない	146 (24.3%)	62 (20.7%)	197 (32.8%)+	70 (23.3%)-	207 (34.5%)	85 (28.3%)
4. わからない	139 (23.2%)-	137 (45.7%)+	93 (15.5%)-	77 (25.7%)+	58 (9.7%)-	57 (19.0%)+
カイ2乗統計量	49.6***		17.4***		16.3***	

表 133 は年代（金融トラブル経験の有無）別で比較したものである。

まず、正解者が有意に多いのは20・30代の金融トラブル経験者であり、金融トラブル経験者の内、正解者は30.8%に対し、未経験者の正解率は19.3%である。

一方、不正解者を見ると、20・30代では「ちょうど110万円」を選択する人が有意に多く、40・50代では「110万円よりも少ない」を選択する人が有意に多い。

なお、いずれの年代についても、金融トラブル未経験者が「わからない」と回答しており、「わからない」を除くと60代では金融トラブル経験の有無で複利計算の理解に統計的な有意差は見られない。

表 134 (クロス分析)複利計算の理解×金融トラブル(内訳)

複利計算の理解 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者金融の支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 110万円よりも多い(正解)	324 (47.4%)+	60 (35.1%)	135 (32.1%)	83 (30.1%)-	253 (33.6%)
2. ちょうど110万円	93 (13.6%)	31 (18.1%)	70 (16.7%)	52 (18.8%)+	131 (17.4%)+
3. 110万円よりも少ない	199 (29.1%)	53 (31.0%)	134 (31.9%)	89 (32.2%)	224 (29.8%)
4. わからない	67 (9.8%)-	27 (15.8%)	81 (19.3%)	52 (18.8%)	144 (19.1%)
カイ2乗統計量	85.2***	4.29	6.52*	9.27**	9.87**

(クロス分析)複利計算の理解×金融トラブル(内訳)(つづき)

複利計算の理解 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブル を経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 110万円よりも多い(正解)	15 (30.6%)	24 (45.3%)	53 (44.9%)+	37 (33.9%)	300 (33.3%)-
2. ちょうど110万円	10 (20.4%)	12 (22.6%)	18 (15.3%)	6 (5.5%)-	112 (12.4%)-
3. 110万円よりも少ない	15 (30.6%)	13 (24.5%)	36 (30.5%)	43 (39.4%)+	217 (24.1%)-
4. わからない	9 (18.4%)	4 (7.5%)-	11 (9.3%)-	23 (21.1%)	271 (30.1%)+
カイ2乗統計量	1.84	8.48**	10.6**	11.4**	72.7***

表 134 は、金融トラブル内訳別で複利計算の理解について比較したものである。

「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことある」人、及び「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人は正解者が有意に多い。

そして、住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延した人(金融トラブル内訳4・5)ほど不正解者が有意に多く、「ちょうど110万円」を選択する人が有意に多くなっている。

また、「9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」人ほど不正解者が有意に多く、「110万円よりも少ない」を選択する人が有意に多い。

Q15. インフレ率が年率 5%であり、銀行預金の年利子率が 3%であるとして、1 年間、銀行預金をしておくと、1 年後に預金で買える商品やサービスの量は一般的にどうなると思いますか。

表 135 インフレーションの理解

Q15. インフレーションの理解	全体
全体	2700 (100%)
1. 減少する(正解)	1476 (54.7%)
2. 変わらない	205 (7.6%)
3. 増加する	129 (4.8%)
4. わからない	890 (33.0%)

表 135 はインフレーションの理解について調査した結果である。正解は「減少する」であり、半数以上 (54.7%) の正解率であり、複利の計算より正答率が高い (複利の計算の正答率は 36.3%である)。但し、「わからない」と回答した人は複利の問題よりも多く、33%の人が「わからない」と回答している (複利の問題で「わからない」は 20.8%である)。

表 136 (クロス分析)インフレーションの理解×金融トラブル経験の有無

インフレの理解×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 減少する(正解)	1046 (58.1%)+	430 (47.8%)-
2. 変わらない	141 (7.8%)	64 (7.1%)
3. 増加する	91 (5.1%)	38 (4.2%)
4. わからない	522 (29.0%)-	368 (40.9%)+
カイ2乗統計量	38.7***	

表 136 は金融トラブル経験の有無別でインフレーションの理解について比較したものである。金融トラブル経験者の方が正解率は有意に高く 58.1%である (金融トラブル未経験者の正解率は 47.8%)。複利計算の問題と同様、インフレーションの問題についても金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多い。

表 137 (クロス分析)インフレーションの理解×年代・金融トラブル経験の有無

インフレの理解 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 減少する(正解)	247 (41.2%)+	71 (23.7%)-	336 (56.0%)	152 (50.7%)	463 (77.2%)+	207 (69.0%)-
2. 変わらない	61 (10.2%)	24 (8.0%)	49 (8.2%)	23 (7.7%)	31 (5.2%)	17 (5.7%)
3. 増加する	44 (7.3%)	19 (6.3%)	30 (5.0%)	10 (3.3%)	17 (2.8%)	9 (3.0%)
4. わからない	248 (41.3%)-	186 (62.0%)+	185 (30.8%)-	115 (38.3%)+	89 (14.8%)-	67 (22.3%)+
カイ2乗統計量	36.3***		5.74		8.40**	

表 137 は年代（金融トラブル経験の有無）別で比較したものである。金融トラブル経験者の方が正解率は高かったが、該当する年代は20・30代と60代以上であり、40・50代では金融トラブル経験の有無別で正解率に統計的な有意差は見られない。

なお、いずれの年代においても金融トラブル未経験者が「わからない」を選択する人が有意に多い。

表 138 (クロス分析)インフレーションの理解×金融トラブル(内訳)

インフレの理解 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 減少する(正解)	489 (71.6%)+	84 (49.1%)	217 (51.7%)	131 (47.5%)-	381 (50.7%)-
2. 変わらない	52 (7.6%)	19 (11.1%)	31 (7.4%)	21 (7.6%)	51 (6.8%)
3. 増加する	22 (3.2%)-	10 (5.8%)	27 (6.4%)	18 (6.5%)	47 (6.3%)+
4. わからない	120 (17.6%)-	58 (33.9%)	145 (34.5%)	106 (38.4%)+	273 (36.3%)+
カイ2乗統計量	118.3***	4.49	4.05	7.64*	12.2***

(クロス分析)インフレーションの理解×金融トラブル(内訳)(つづき)

インフレの理解 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 減少する(正解)	28 (57.1%)	41 (77.4%)+	87 (73.7%)+	66 (60.6%)	430 (47.8%)-
2. 変わらない	2 (4.1%)	2 (3.8%)	7 (5.9%)	11 (10.1%)	64 (7.1%)
3. 増加する	1 (2.0%)	2 (3.8%)	5 (4.2%)	6 (5.5%)	38 (4.2%)
4. わからない	8 (36.7%)	8 (15.1%)-	19 (16.1%)-	26 (23.9%)-	368 (33.0%)+
カイ2乗統計量	1.86	11.5***	19.4***	4.64	38.7***

表 138 は金融トラブル内訳別でインフレーションの理解について比較したものである。正解率が有意に多いのは、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入した」、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人であり、正解者は7割を超える。

なお、住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人(金融トラブル内訳4・5)は正解率が有意に少なく、「増加する」あるいは「わからない」と回答する人が有意に多くなっている。

Q16. 一般的に、一社の株式を購入する方が、株式投資信託(多くの会社の株式に投資)を購入するよりも、投資収益は安定すると思われますか。

表 139 リスク分散の理解

Q16. リスク分散の理解	全体
全体	2700 (100%)
1. そう思う	263 (9.7%)
2. そう思わない(正解)	1347 (49.9%)
3. わからない	1090 (40.4%)

表 139 はリスク分散の理解について調査した結果である。正解は「そう思わない」であり、正解率は49.9%と複利の問題(正解率36.3%)より高いが、インフレーションの問題(正解率54.7%)よりは低い。なお、「わからない」と回答する人は40.4%であり、複利やインフレーションの問題と比較して1番「わからない」を選択する人が多くなっている(複利問題の「わからない」の選択率は20.8%、インフレーションの問題では33%である)。

表 140 (クロス分析)リスク分散の理解×金融トラブル経験の有無

リスク分散の理解×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. そう思う	202 (11.2%)+	61 (6.8%)-
2. そう思わない(正解)	966 (53.7%)+	381 (42.3%)-
3. わからない	632 (35.1%)-	458 (50.9%)+
カイ2乗統計量	64.6***	

表 140 は金融トラブル経験の有無別でリスク分散の理解について比較したものである。金融トラブル経験者の方が正解率は有意に高いが、金融トラブル経験者では不正解(「そう思う」を選択)も有意に多い。一方、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多くなっている。

表 141 (クロス分析)リスク分散の理解×年代・金融トラブルの経験有無

リスク分散の理解 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. そう思う	58 (9.7%)+	16 (5.3%)-	61 (10.2%)+	16 (5.3%)-	83 (13.8%)	29 (9.7%)
2. そう思わない(正解)	303 (50.5%)+	99 (33.0%)-	325 (54.2%)+	136 (45.3%)-	338 (56.3%)+	146 (48.7%)-
3. わからない	239 (39.8%)-	185 (61.7%)+	214 (35.7%)-	148 (49.3%)+	179 (29.8%)-	125 (41.7%)+
カイ2乗統計量	38.5***		17.8***		13.3***	

表 141 は年代（金融トラブル経験の有無）別でリスク分散の理解について比較したものである。いずれの年代においても金融トラブル経験者の正解率が有意に高い。なお、20・30代と40・50代の金融トラブル経験者は不正解（「そう思う」を選択）する人も有意に多い。そして、いずれの年代においても金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多くなっている。

表 142 (クロス分析)リスク分散の理解×金融トラブル(内訳)

リスク分散の理解 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. そう思う	89 (13.0%)+	26 (15.2%)+	50 (11.9%)	22 (8.0%)	76 (10.1%)
2. そう思わない(正解)	422 (61.8%)+	82 (48.0%)	198 (47.1%)	141 (51.1%)	368 (48.9%)
3. わからない	172 (25.2%)-	63 (36.8%)	172 (41.0%)	113 (40.9%)	308 (41.0%)
カイ2乗統計量	88.3***	6.30**	3.19	1.10	0.42

(クロス分析)リスク分散の理解×金融トラブルに関する経験(つづき)

リスク分散の理解 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブ ルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. そう思う	6 (12.2%)	9 (17.0%)	20 (16.9%)+	14 (12.8%)	61 (6.8%)-
2. そう思わない(正解)	24 (49.0%)	32 (60.4%)	72 (61.0%)+	53 (48.6%)	381 (42.3%)-
3. わからない	19 (38.8%)	12 (22.6%)-	26 (22.0%)-	42 (38.5%)	458 (50.9%)+
カイ2乗統計量	0.36	8.31**	19.9***	1.26	64.6***

表 142 は金融トラブル内訳でリスク分散の理解について比較したものである。正解率が有意に高いのは、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」、および「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人である。但し、これらに該当する人は不正解（「そう思う」を選択）の人も有意に多く、リスク分散に対する理解は二極化している。

なお、「2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした」ことがある人は不正解（「そう思う」を選択）の人が有意に多い。

表 143 金融リテラシーの水準(Q14~Q16 正解数)

Q14~Q16 の正解数	全体
全体	2700 (100%)
1. 全問不正解	754 (27.9%)
2. 1問正解	649 (24.0%)
3. 2問正解	738 (27.3%)
4. 全問(3問)正解	559 (20.7%)

表 143 は、複利・インフレーション・リスク分散の計3つの問題に対する正解率をまとめたものである。正解数はほぼ均等に分かれており、全問(3問)不正解者は27.9%、1問正解者は24%、2問正解者は27.3%、全問(3問)正解者は20.7%である。

表 144 (クロス分析)金融リテラシーの水準(Q14~Q16 正解数)×金融トラブル経験の有無

Q14~16 の正解数×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 全問不正解	426 (23.7%) ⁻	328 (36.4%) ⁺
2. 1問正解	444 (24.7%)	205 (22.8%)
3. 2問正解	543 (30.2%) ⁺	195 (21.7%) ⁻
4. 全問(3問)正解	387 (21.5%)	172 (19.1%)
カイ2乗統計量	53.5***	

表 144 は金融トラブル経験の有無別で正解数を比較したものである。1%水準で統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者は2問正解している人が有意に多く、金融トラブル未経験者は全問不正解の人が有意に多い。

表 145 (クロス分析)金融リテラシーの水準(Q14~Q16 正解数)×年代・金融トラブル経験の有無

Q14~16 の正解数 ×年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 全問不正解	201 (33.5%) ⁻	168 (56.0%) ⁺	150 (25.0%) ⁻	100 (33.3%) ⁺	75 (12.5%) ⁻	60 (20.0%) ⁺
2. 1問正解	162 (27.0%)	68 (22.7%)	136 (22.7%)	64 (21.3%)	146 (24.3%)	73 (24.3%)
3. 2問正解	138 (23.0%) ⁺	32 (10.7%) ⁻	190 (31.7%) ⁺	68 (22.7%) ⁻	215 (35.8%)	95 (31.7%)
4. 全問(3問)正解	99 (16.5%) ⁺	32 (10.7%) ⁻	124 (20.7%)	68 (22.7%)	164 (27.3%)	72 (24.0%)
カイ2乗統計量	46.9***		11.2**		9.36**	

表 145 は年代(金融トラブル経験の有無)別で正解数を比較したものである。20・30代の金融トラブル経験者に全問正解者が有意に多く、また20・30代と40・50代の金融トラブル経験者で2問正解者が有意に多い。

なお、いずれの年代においても金融トラブル未経験者は全問不正解が有意に多くなっている。

表 146 (クロス分析)金融リテラシーの水準(Q14~Q16 正解数)×金融トラブル(内訳)

Q14~16 の正解数 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 全問不正解	91 (13.3%) ⁻	43 (25.1%)	122 (29.0%)	86 (31.2%)	222 (29.5%)
2. 1 問正解	150 (22.0%)	52 (30.4%) ⁺	111 (26.4%)	69 (25.0%)	189 (25.1%)
3. 2 問正解	241 (35.3%) ⁺	54 (31.6%)	122 (29.0%)	77 (27.9%)	210 (27.9%)
4. 全問(3 問)正解	201 (29.4%) ⁺	22 (12.9%) ⁺	65 (15.5%) ⁻	44 (15.9%) ⁻	131 (17.4%) ⁻
カイ 2 乗統計量	126.2***	10.2**	8.51**	4.67	7.03*

Q14~16 の正解数 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験はない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 全問不正解	14 (28.6%)	8 (15.1%) ⁻	17 (14.4%) ⁻	27 (24.8%)	328 (36.4%) ⁺
2. 1 問正解	11 (22.4%)	9 (17.0%)	27 (22.9%)	29 (26.6%)	205 (22.8%)
3. 2 問正解	16 (32.7%)	20 (37.7%)	37 (31.4%)	32 (29.4%)	195 (21.7%) ⁻
4. 全問(3 問)正解	8 (16.3%)	16 (30.2%)	37 (31.4%) ⁺	21 (19.3%)	172 (19.1%)
カイ 2 乗統計量	1.04	8.80**	15.6***	1.00	53.5***

表 146 は金融トラブル内訳別で正解数を比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人に正解率が高い傾向が見られる。また、金融トラブル内訳 2 と 8 で全問正解者が有意に多くなっている(但し、金融トラブル内訳 2 該当者は 1 問正解者も有意に多い)。

表 147 平均正解数(Q14~16)の差の検定結果:金融トラブル経験の有無別

平均正解数の差の検定 (金融トラブル経験の有無別)	トラブル有	トラブル無
サンプル数	1800	900
平均正解数(問)	1.50	1.23
t-統計量	5.83***	

表 148 平均正解数(Q14~16)の差の検定結果:年代・金融トラブル経験の有無別

平均正解数の差の検定 (年代・トラブル有無別)	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
サンプル数	600	300	600	300	600	300
平均正解数(問)	1.23	0.76	1.48	1.35	1.78	1.60
t-統計量	6.31***		1.66*		2.50**	

表 147 は金融トラブル経験の有無別で平均正解数を比較したものである。1%水準で統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者の方が平均正解数は高い。

そして、表 148 は年代別で比較したものであるが、いずれの年代においても金融トラブル経験者の方が平均正解数は有意に高い。特に20・30代では1%水準の有意差であり平均正解数の差は大きく、次いで60代で差が大きくなっている。

表 149 平均(Q14~16)正解数の差の検定結果:金融トラブル(内訳)

平均正解数の差 の検定	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある		2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした		3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある		4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった		5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	683	2017	171	2529	420	2280	276	2424	752	1948
平均正解数(問)	1.81	1.27	1.32	1.41	1.31	1.43	1.29	1.42	1.33	1.44
t-統計量	-11.7***		1.17		2.07**		1.94*		2.22**	

平均(Q14~16)正解数の差の検定結果:金融トラブル(内訳)(つづき)

平均正解数の差の検定(つづき)	6.振り込み詐欺の被害に遭ったことがある		7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある		8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある		9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		10.上記に該当する経験は一つもない	
	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
該当有無	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当	該当者	非該当
サンプル数	49	2651	53	2647	118	2582	109	2591	900	1800
平均正解数(問)	1.37	1.41	1.83	1.40	1.80	1.39	1.43	1.41	1.23	1.50
t-統計量	0.26		-3.00***		-4.13***		-0.22		5.72***	

表 149 は金融トラブル内訳別で平均正解数を比較したものである。

「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」、及び「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」で 1%水準の統計的な有意差が見られ、いずれも該当者の方が平均正解数は有意に高い。

一方、「3.消費者金融会社からお金を借りたことがある」、「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」でも 5%水準の有意差が見られるが(「4.住宅ローン等の返済資金を用意することができなかった」でも 10%水準の有意差が見られる)、これらについては該当しない人の方が平均正解数は有意に高くなっている。

Q17. 次の文章は正しいと思いますか。1.正しい、2.誤り、3.わからない、の中から、一つを選んでお答えください。

表 150 金融・経済に関する応用問題

Q17. 金融・経済に関する応用問題	全体	正しい	誤り	わからない
1. 固定利子率で預金している人にとって、インフレ率は高ければ高いほど望ましい	2700 (100%)	325 (12.0%)	1167 (43.2%)	1208 (44.7%)
2. 一般に、利子率が上昇すると、債券価格も上昇する	2700 (100%)	772 (28.6%)	621 (23.0%)	1307 (48.4%)
3. 現在、日本銀行はインフレを抑えるために金融引き締め政策を行っている	2700 (100%)	512 (19.0%)	1173 (43.4%)	1015 (37.6%)
4. 株式売買委託手数料は証券会社によって異なる	2700 (100%)	1406 (52.1%)	242 (9.0%)	1052 (39.0%)
5. 規制があるために、どの金融機関でも消費者ローンの金利は同じである	2700 (100%)	146 (5.4%)	1642 (60.8%)	912 (33.8%)
6. 自己破産した場合、選挙権が停止される	2700 (100%)	360 (13.3%)	1338 (49.6%)	1002 (37.1%)
7. 銀行が破綻した場合、定期預金は金額にかかわらず、預金保険制度によって全額保護される	2700 (100%)	184 (6.8%)	1697 (62.9%)	819 (30.3%)
8. 銀行で購入した投資信託は、預金保険制度によって、部分的に保護される	2700 (100%)	598 (22.1%)	810 (30.0%)	1292 (47.9%)
9. 国民年金を満額受給できる場合、月額 20 万円である	2700 (100%)	88 (3.3%)	1475 (54.6%)	1137 (42.1%)
10. 同じ保障の内容なら、どの保険会社でも保険料は同じである	2700 (100%)	53 (2.0%)	1944 (72.0%)	703 (26.0%)
11. 子供が独立した段階で保険を見直すとしたら、死亡保障を増額するのが適切である	2700 (100%)	205 (7.6%)	1209 (44.8%)	1286 (47.6%)
12. クレジットカードの利用料金の支払い方法として、リボルビング払いと一括払いとが選択できるが、総支払額は同じになる	2700 (100%)	73 (2.7%)	1950 (72.2%)	677 (25.1%)
13. 銀行の ATM 手数料は、銀行の取り決めにより、どの銀行でも同じとなっている	2700 (100%)	260 (9.6%)	1715 (63.5%)	725 (26.9%)
14. クレジットカードは申し込みさえすれば誰でも保有できる	2700 (100%)	78 (2.9%)	2092 (77.5%)	530 (19.6%)
15. クレジットカードは、利用時点で直ちに銀行口座から決済資金分が引き落とされる	2700 (100%)	88 (3.3%)	1951 (72.3%)	661 (24.5%)

表 150 は金融・経済に関する理解について調査した結果である。赤字が正解を示しているが、1 番正解率が高い問題は問 14 のクレジットカードの承認についてであり、77.5%の人が正解している。また、全体的にクレジットカードの問題（問 12 や問 15）、及び保険の問題（問 10）は正解率が高く 7 割を超える。逆に正解率が低い問題は問 2 の利子率と債券価格の関係であり 23%の正解率である。また、投資信託の消費者保護に関する問題も正解者は 3 割と低い。

表 151 (クロス分析)金融トラブル経験の有無別の正解率(まとめ)

Q17. 金融・経済に関する応用問題×金融トラブル有無 (正解率のまとめ)	金融トラブル有	金融トラブル無
全体	1800 (正解率)	900 (正解率)
1. 固定利率で預金している人にとって、インフレ率は高ければ高いほど望ましい	839 (46.6%)+	328 (36.4%)-
2. 一般に、利率が上昇すると、債券価格も上昇する	466 (25.9%)+	155 (17.2%)-
3. 現在、日本銀行はインフレを抑えるために金融引き締め政策を行っている	840 (46.7%)+	333 (37.0%)-
4. 株式売買委託手数料は証券会社によって異なる	1017 (56.5%)+	389 (43.2%)-
5. 規制があるために、どの金融機関でも消費者ローンの金利は同じである	1181 (65.6%)+	461 (51.2%)-
6. 自己破産した場合、選挙権が停止される	967 (53.7%)+	371 (41.2%)-
7. 銀行が破綻した場合、定期預金は金額にかかわらず、預金保険制度によって全額保護される	1210 (67.2%)+	487 (54.1%)-
8. 銀行で購入した投資信託は、預金保険制度によって、部分的に保護される	588 (32.7%)+	222 (24.7%)-
9. 国民年金を満額受給できる場合、月額 20 万円である	1047 (58.2%)+	428 (47.6%)-
10. 同じ保障の内容なら、どの保険会社でも保険料は同じである	1393 (77.4%)+	551 (61.2%)-
11. 子供が独立した段階で保険を見直すとしたら、死亡保障を増額するのが適切である	861 (47.8%)+	348 (38.7%)-
12. クレジットカードの利用料金の支払い方法として、リボルビング払いと一括払いとが選択できるが、総支払額は同じになる	1399 (77.7%)+	561 (61.2%)-
13. 銀行の ATM 手数料は、銀行の取り決めにより、どの銀行でも同じとなっている	1231 (68.4%)+	484 (53.8%)-
14. クレジットカードは申し込みば誰でも保有できる	1476 (82.0%)+	616 (68.4%)-
15. クレジットカードは、利用時点で直ちに銀行口座から決済資金分が引き落とされる	1393 (77.4%)+	558 (62.0%)-

表 151 は 15 の金融・経済の問題に対し、金融トラブル経験の有無別で正解率のみを比較したものである。詳細は表 152 から表 166 で提示している。

表 151 を見ると、全ての問題に対し金融トラブル経験者の方が正解率は有意に高い。

表 152 (クロス分析)Q17-1. 固定利子とインフレ×金融トラブル経験の有無

1. 固定利子とインフレ×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	228 (12.7%)	97 (10.8%)
誤り(正解)	839 (46.6%)+	328 (36.4%)-
わからない	733 (40.7%)-	475 (52.8%)+
カイ2乗統計量	35.6***	

表 153 (クロス分析)Q17-2. 利子率と債券価格×金融トラブル経験の有無

2. 利子率と債券価格×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	550 (30.6%)+	222 (24.7%)-
誤り(正解)	466 (25.9%)+	155 (17.2%)-
わからない	784 (43.6%)-	523 (58.1%)+
カイ2乗統計量	53.1***	

表 154 (クロス分析)Q17-3. 日銀金融政策×金融トラブル経験の有無

3. 日銀金融政策×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	372 (20.7%)+	140 (15.6%)-
誤り(正解)	840 (46.7%)+	333 (37.0%)-
わからない	588 (32.7%)-	427 (47.4%)+
カイ2乗統計量	56.0***	

表 155 (クロス分析)Q17-4. 株式売買手数料×金融トラブル経験の有無

4. 株式売買手数料×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい(正解)	1017 (56.5%)+	389 (43.2%)-
誤り	177 (9.8%)+	65 (7.2%)-
わからない	606 (33.7%)-	446 (49.6%)+
カイ2乗統計量	63.8***	

表 156(クロス分析)Q17-5. 消費者ローン金利×金融トラブル経験の有無

5. 消費者ローン金利×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	115 (6.4%)+	31 (3.4%)-
誤り(正解)	1181 (65.6%)+	461 (51.2%)-
わからない	504 (28.0%)-	408 (45.3%)+
カイ2乗統計量	83.4***	

表 157 (クロス分析)Q17-6. 自己破産と選挙権×金融トラブル経験の有無

6. 自己破産と選挙権×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	254 (14.1%)	106 (11.8%)
誤り(正解)	967 (53.7%)+	371 (41.2%)-
わからない	579 (32.2%)-	423 (47.0%)+
カイ2乗統計量	56.9***	

表 158 (クロス分析)Q17-7. 預金保険制度×金融トラブル経験の有無

7. 預金保険制度×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	142 (7.9%)+	42 (4.7%)-
誤り(正解)	1210 (67.2%)+	487 (54.1%)-
わからない	448 (24.9%)-	371 (41.2%)+
カイ2乗統計量	78.3***	

表 159 (クロス分析)Q17-8. 投資信託の消費者保護×金融トラブル経験の有無

8. 投資信託消費者保護×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	447 (24.8%)+	151 (16.8%)-
誤り(正解)	588 (32.7%)+	222 (24.7%)-
わからない	765 (42.5%)-	527 (58.6%)+
カイ2乗統計量	62.7***	

表 160 (クロス分析)Q17-9. 国民年金受給額×金融トラブル経験の有無

9. 国民年金受給額×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	67 (3.7%)	21 (2.3%)
誤り(正解)	1047 (58.2%)+	428 (47.6%)-
わからない	686 (38.1%)-	451 (50.1%)+
カイ2乗統計量	36.4***	

表 161 (クロス分析)Q17-10. 保険商品の保険料×金融トラブル経験の有無

10. 保険商品の保険料×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	40 (2.2%)	13 (1.4%)
誤り(正解)	1393 (77.4%)+	551 (61.2%)-
わからない	367 (20.4%)-	336 (37.3%)+
カイ2乗統計量	89.8***	

表 162 (クロス分析)Q17-11. 保険の見直し×金融トラブル経験の有無

11. 保険の見直し×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	157 (8.7%)+	48 (5.3%)-
誤り(正解)	861 (47.8%)+	348 (38.7%)-
わからない	782 (43.4%)-	504 (56.0%)+
カイ2乗統計量	40.2***	

表 163 (クロス分析)Q17-12. クレジットカード利用×金融トラブル経験の有無

12. クレジットカード利用×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	56 (3.1%)	17 (1.9%)
誤り(正解)	1399 (77.7%)+	561 (61.2%)-
わからない	345 (19.2%)-	332 (36.9%)+
カイ2乗統計量	101.1***	

表 164 (クロス分析)Q17-13. 銀行 ATM 手数料×金融トラブル経験の有無

13. 銀行 ATM 手数料×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	180 (10.0%)	80 (8.9%)
誤り(正解)	1231 (68.4%)+	484 (53.8%)-
わからない	389 (21.6%)-	336 (37.3%)+
カイ2乗統計量	76.2***	

表 165 (クロス分析)Q17-14. クレジットカードの承認×金融トラブル経験の有無

14. クレジットカード承認×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	59 (3.3%)	19 (2.1%)
誤り(正解)	1476 (82.0%)+	616 (68.4%)-
わからない	265 (14.7%)-	265 (29.4%)+
カイ2乗統計量	83.3***	

表 166 (クロス分析)金融 Q17-15. クレジットカード支払時点×金融トラブル経験の有無

15. クレジットカード支払時期×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
正しい	62 (3.4%)	26 (2.9%)
誤り(正解)	1393 (77.4%)+	558 (62.0%)-
わからない	345 (19.2%)-	316 (35.1%)+
カイ2乗統計量	82.5***	

表 167 (クロス分析)年代・金融トラブル経験の有無別の正解率(まとめ)

Q17. 金融・経済に関する応用問題 ×年代・金融トラブル有無 (正解率のまとめ)	20・30代		40・50代		60代以上	
	金融トラブル 経験有	金融トラブル 経験無	金融トラブル 経験有	金融トラブル 経験無	金融トラブル 経験有	金融トラブル 経験無
全体	600 (正解率)	300 (正解率)	600 (正解率)	300 (正解率)	600 (正解率)	300 (正解率)
1. 固定利率とインフレ率の関係	208 (34.7%) ⁺	67 (22.3%) ⁻	255 (42.5%) ⁺	101 (33.7%) ⁻	376 (62.7%) ⁺	160 (53.3%) ⁻
2. 利率と債券価格の関係	120 (20.0%) ⁺	35 (11.7%) ⁻	131 (21.8%) ⁺	42 (14.0%) ⁻	215 (35.8%) ⁺	78 (26.0%) ⁻
3. 日本銀行の金融政策	191 (31.8%) ⁺	72 (24.0%) ⁻	257 (42.8%) ⁺	97 (32.3%) ⁻	392 (65.3%) ⁺	164 (54.7%) ⁻
4. 株式売買委託手数料	292 (48.7%) ⁺	82 (27.3%) ⁻	334 (55.7%) ⁺	128 (42.7%) ⁻	391 (65.2%)	179 (59.7%)
5. 消費者ローン金利	335 (55.8%) ⁺	101 (33.7%) ⁻	388 (64.7%) ⁺	154 (51.3%) ⁻	458 (76.3%) ⁺	206 (68.7%) ⁻
6. 自己破産と選挙権	305 (50.8%) ⁺	106 (35.3%) ⁻	319 (53.2%) ⁺	135 (45.0%) ⁻	343 (57.2%) ⁺	130 (43.3%) ⁻
7. 定期預金の預金保険制度	326 (54.3%) ⁺	106 (35.3%) ⁻	401 (66.8%) ⁺	167 (55.7%) ⁻	483 (80.5%) ⁺	214 (71.3%) ⁻
8. 投資信託の消費者保護	129 (21.5%) ⁺	33 (11.0%) ⁻	177 (29.5%)	78 (26.0%)	282 (47.0%) ⁺	111 (37.0%) ⁻
9. 国民年金受給額	267 (44.5%) ⁺	73 (24.3%) ⁻	349 (58.2%) ⁺	135 (45.0%) ⁻	431 (71.8%)	220 (73.3%)
10. 保険会社の保険料	417 (69.5%) ⁺	135 (45.0%) ⁻	453 (75.5%) ⁺	187 (62.3%) ⁻	523 (87.2%) ⁺	229 (76.3%) ⁻
11. 死亡保障の見直し	223 (37.2%) ⁺	75 (25.0%) ⁻	301 (50.2%) ⁺	121 (40.3%) ⁻	337 (56.2%)	152 (50.7%)
12. クレジットカードのリボ払い	412 (68.7%) ⁺	129 (43.0%) ⁻	470 (78.3%) ⁺	190 (63.3%) ⁻	517 (86.2%) ⁺	232 (77.3%) ⁻
13. 銀行のATM手数料	363 (60.5%) ⁺	120 (40.0%) ⁻	414 (69.0%) ⁺	160 (53.3%) ⁻	454 (75.7%) ⁺	204 (68.0%) ⁻
14. クレジットカードの承認	449 (74.8%) ⁺	167 (55.7%) ⁻	503 (83.8%) ⁺	203 (67.7%) ⁻	524 (87.3%) ⁺	246 (82.0%) ⁻
15. クレジットカードの支払い時点	422 (70.3%) ⁺	141 (47.0%) ⁻	459 (76.5%) ⁺	187 (62.3%) ⁻	512 (85.3%) ⁺	230 (76.7%) ⁻

表 167 は年代（金融トラブル経験の有無）別で金融・経済の問題に対する正解率を比較したものである。詳細は表 168 から表 182 で提示している。表 167 を見ると、20・30代では全ての問題について金融トラブル経験者の方が正解率は有意に高い。40・50代では「8.投資信託の消費者保護」の理解について金融トラブル経験の有無で統計的な有意差は見られないが、それ以外の問題では全て金融トラブル経験者の方が正解率は有意に高い。そして、60代以上では、「4.株式売買委託手数料」、「9.国民年金受給額」、「11.死亡保証の見直し」については金融トラブル経験の有無で有意差は見られないが、それ以外の問題では金融トラブル経験者の方が正解率は有意に高くなっている。

表 168 (クロス分析)Q17-1. 固定利子とインフレ×年代・金融トラブル経験の有無

1. 固定利子とインフレ ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	72 (12.0%)+	17 (5.7%)-	77 (12.8%)	38 (12.7%)	79 (13.2%)	42 (14.0%)
誤り(正解)	208 (34.7%)+	67 (22.3%)-	255 (42.5%)+	101 (33.7%)-	376 (62.7%)+	160 (53.3%)-
わからない	320 (53.3%)+	216 (72.0%)+	268 (44.7%)-	161 (53.7%)+	145 (24.2%)-	98 (32.7%)+
カイ2乗統計量	29.8***		7.35**		8.38**	

表 169 (クロス分析)Q17-2. 利子率と債券価格×年代・金融トラブル経験の有無

2. 利子率と債券価格 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	154 (25.7%)+	42 (14.0%)-	187 (31.2%)	79 (26.3%)	209 (34.8%)	101 (33.7%)
誤り(正解)	120 (20.0%)+	35 (11.7%)-	131 (21.8%)+	42 (14.0%)-	215 (35.8%)+	78 (26.0%)-
わからない	326 (54.3%)-	223 (74.3%)+	282 (47.0%)-	179 (59.7%)+	176 (29.3%)-	121 (40.3%)+
カイ2乗統計量	33.7***		14.2***		13.4***	

表 170 (クロス分析)Q17-3. 日銀金融政策×年代・金融トラブル経験の有無

3. 日銀金融政策 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	130 (21.7%)+	31 (10.3%)-	139 (23.2%)+	52 (17.3%)-	103 (17.2%)	57 (19.0%)
誤り(正解)	191 (31.8%)+	72 (24.0%)-	257 (42.8%)+	97 (32.3%)-	392 (65.3%)+	164 (54.7%)-
わからない	279 (46.5%)-	197 (65.7%)+	204 (34.0%)-	151 (50.3%)+	105 (17.5%)-	79 (26.3%)+
カイ2乗統計量	32.5***		22.3***		11.7***	

表 171 (クロス分析)Q17-4. 株式売買手数料×年代・金融トラブル経験の有無

4. 株式売買手数料 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい(正解)	292 (48.7%)+	82 (27.3%)-	334 (55.7%)+	128 (42.7%)-	391 (65.2%)	179 (59.7%)
誤り	38 (6.3%)	15 (5.0%)	59 (9.8%)	19 (6.3%)	80 (13.3%)	31 (10.3%)
わからない	270 (45.0%)-	203 (67.7%)+	207 (34.5%)-	153 (51.0%)+	129 (21.5%)-	90 (30.0%)+
カイ2乗統計量	42.1***		23.0***		8.35**	

表 172 (クロス分析)Q17-5. 消費者ローン金利×年代・金融トラブル経験の有無

5. 消費者ローン金利 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	47 (7.8%)+	10 (3.3%)-	40 (6.7%)+	9 (3.0%)-	28 (4.7%)	12 (4.0%)
誤り(正解)	335 (55.8%)+	101 (33.7%)-	388 (64.7%)+	154 (51.3%)-	458 (76.3%)+	206 (68.7%)-
わからない	218 (36.3%)-	189 (63.0%)+	172 (28.7%)-	137 (45.7%)+	114 (19.0%)-	82 (27.3%)+
カイ2乗統計量	58.1***		27.7***		8.17**	

表 173 (クロス分析)Q17-6. 自己破産と選挙権×年代・金融トラブル経験の有無

6. 自己破産と選挙権 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	55 (9.2%)+	13 (4.3%)-	94 (15.7%)+	30 (10.0%)-	105 (17.5%)	63 (21.0%)
誤り(正解)	305 (50.8%)+	106 (35.3%)-	319 (53.2%)+	135 (45.0%)-	343 (57.2%)+	130 (43.3%)-
わからない	240 (40.0%)-	181 (60.3%)+	187 (31.2%)-	135 (45.0%)+	152 (25.3%)-	107 (35.7%)+
カイ2乗統計量	34.4***		18.0***		16.0***	

表 174 (クロス分析)Q17-7. 預金保険制度×年代・金融トラブル経験の有無

7. 預金保険制度 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	56 (9.3%)+	12 (4.0%)-	46 (7.7%)	14 (4.7%)	40 (6.7%)	16 (5.3%)
誤り(正解)	326 (54.3%)+	106 (35.3%)-	401 (66.8%)+	167 (55.7%)-	483 (80.5%)+	214 (71.3%)-
わからない	218 (36.3%)-	182 (60.7%)+	153 (25.5%)-	119 (39.7%)+	77 (12.8%)-	70 (23.3%)+
カイ2乗統計量	49.2***		19.9***		16.2***	

表 175 (クロス分析)Q17-8. 投資信託の消費者保護×年代・金融トラブル経験の有無

8. 投資信託の消費者保護 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	143 (23.8%)+	41 (13.7%)-	160 (26.7%)+	38 (12.7%)-	144 (24.0%)	72 (24.0%)
誤り(正解)	129 (21.5%)+	33 (11.0%)-	177 (29.5%)	78 (26.0%)	282 (47.0%)+	111 (37.0%)-
わからない	328 (54.7%)-	226 (75.3%)+	263 (43.8%)-	184 (61.3%)+	174 (29.0%)-	117 (39.0%)+
カイ2乗統計量	36.2***		31.0***		10.8***	

表 176 (クロス分析)Q17-9. 国民年金受給額×年代・金融トラブル経験の有無

9. 国民年金受給額 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	31 (5.2%)+	7 (2.3%)-	18 (3.0%)	10 (3.3%)	18 (3.0%)	4 (1.3%)
誤り(正解)	267 (44.5%)+	73 (24.3%)-	349 (58.2%)+	135 (45.0%)-	431 (71.8%)	220 (73.3%)
わからない	302 (50.3%)+	220 (73.3%)+	233 (38.8%)-	155 (51.7%)+	151 (25.2%)	76 (25.3%)
カイ2乗統計量	43.6***		14.2***		2.34	

表 177 (クロス分析)Q17-10. 保険商品の保険料×年代・金融トラブル経験の有無

10. 保険商品の保険料 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	15 (2.5%)	2 (0.7%)	16 (2.7%)	5 (1.7%)	9 (1.5%)	6 (2.0%)
誤り(正解)	417 (69.5%)+	135 (45.0%)-	453 (75.5%)+	187 (62.3%)-	523 (87.2%)+	229 (76.3%)-
わからない	168 (28.0%)-	163 (54.3%)+	131 (21.8%)-	108 (36.0%)+	68 (11.3%)-	65 (21.7%)+
カイ2乗統計量	60.8***		20.8***		17.6***	

表 178 (クロス分析)Q17-11. 保険の見直し×年代・金融トラブル経験の有無

11. 保険の見直し ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	69 (11.5%)+	10 (3.3%)-	42 (7.0%)	21 (7.0%)	46 (7.7%)	17 (5.7%)
誤り(正解)	223 (37.2%)+	75 (25.0%)-	301 (50.2%)+	121 (40.3%)-	337 (56.2%)	152 (50.7%)
わからない	308 (51.3%)-	215 (71.7%)+	257 (42.8%)-	158 (52.7%)+	217 (36.2%)-	131 (43.7%)+
カイ2乗統計量	38.4***		8.32**		5.17*	

表 179 (クロス分析)Q17-12. クレジットカード利用×年代・金融トラブル経験の有無

12. クレジットカード利用 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	31 (5.2%)+	7 (2.3%)-	12 (2.0%)	5 (1.7%)	13 (2.2%)	5 (1.7%)
誤り(正解)	412 (68.7%)+	129 (43.0%)-	470 (78.3%)+	190 (63.3%)-	517 (86.2%)+	232 (77.3%)-
わからない	157 (26.2%)-	164 (54.7%)+	118 (19.7%)-	105 (35.0%)+	70 (11.7%)-	63 (21.0%)+
カイ2乗統計量	71.3***		25.2***		13.9***	

表 180 (クロス分析)Q17-13. 銀行 ATM 手数料×年代・金融トラブル経験の有無

13. 銀行 ATM 手数料 ×年代・金融トラブル有無	20・30 代		40・50 代		60 代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	60 (10.0%)	22 (7.3%)	62 (10.3%)	30 (10.0%)	58 (9.7%)	28 (9.3%)
誤り(正解)	363 (60.5%)+	120 (40.0%)-	414 (69.0%)+	160 (53.3%)-	454 (75.7%)+	204 (68.0%)-
わからない	177 (29.5%)-	158 (52.7%)+	124 (20.7%)-	110 (36.7%)+	88 (14.7%)-	68 (22.7%)+
カイ 2 乗統計量	46.1***		27.4***		9.02**	

表 181 (クロス分析)Q17-14. クレジットカードの承認×年代・金融トラブル経験の有無

14. クレジットカードの承認 ×年代・金融トラブル有無	20・30 代		40・50 代		60 代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	25 (4.2%)+	5 (1.7%)-	11 (1.8%)	7 (2.3%)	23 (3.8%)	7 (2.3%)
誤り(正解)	449 (74.8%)+	167 (55.7%)-	503 (83.8%)+	203 (67.7%)-	524 (87.3%)+	246 (82.0%)-
わからない	126 (21.0%)-	128 (42.7%)+	86 (14.3%)-	90 (30.0%)+	53 (8.8%)-	47 (15.7%)+
カイ 2 乗統計量	47.8***		32.0***		10.4***	

表 182 (クロス分析)Q17-15. クレジットカード支払時点×年代・金融トラブル経験の有無

15. クレジットカード支払時点 ×年代・金融トラブル有無	20・30 代		40・50 代		60 代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
正しい	23 (3.8%)+	2 (0.7%)-	20 (3.3%)	12 (4.0%)	19 (3.2%)	12 (4.0%)
誤り(正解)	422 (70.3%)+	141 (47.0%)-	459 (76.5%)+	187 (62.3%)-	512 (85.3%)+	230 (76.7%)-
わからない	155 (25.8%)-	157 (52.3%)+	121 (20.2%)-	101 (33.7%)+	69 (11.5%)-	58 (19.3%)+
カイ 2 乗統計量	65.1***		20.6***		10.9***	

表 183 (クロス分析)金融トラブル内訳別の正解率(まとめ)

Q17. 金融・経済に関する応用問題 ×金融トラブル(内訳) (正解率のまとめ)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (正解率)	171 (正解率)	420 (正解率)	276 (正解率)	752 (正解率)
1. 固定利率とインフレ率の関係	392 (57.4%)+	69 (40.4%)	166 (39.5%)	89 (32.2%)-	306 (40.7%)
2. 利率と債券価格の関係	231 (33.8%)+	46 (26.9%)	75 (17.9%)-	53 (19.2%)	153 (20.3%)-
3. 日本銀行の金融政策	391 (57.2%)+	78 (45.6%)	173 (41.2%)	102 (37.0%)-	302 (40.2%)-
4. 株式売買委託手数料	470 (68.8%)+	88 (51.5%)	212 (50.5%)	125 (45.3%)-	384 (51.1%)
5. 消費者ローン金利	507 (74.2%)+	109 (63.7%)	255 (60.7%)	160 (58.0%)	461 (61.3%)
6. 自己破産と選挙権	367 (53.7%)+	104 (60.8%)+	232 (55.2%)+	142 (51.4%)	409 (54.4%)+
7. 定期預金の預金保険制度	530 (77.6%)+	106 (62.0%)	259 (61.7%)	156 (56.5%)-	459 (61.0%)
8. 投資信託の消費者保護	323 (47.3%)+	42 (24.6%)	97 (23.1%)-	59 (21.4%)-	190 (25.3%)-
9. 国民年金受給額	421 (61.6%)+	89 (52.0%)	234 (55.7%)	144 (52.2%)	423 (56.8%)
10. 保険会社の保険料	562 (82.3%)+	128 (74.9%)	302 (71.9%)	196 (71.0%)	581 (77.3%)+
11. 死亡保障の見直し	405 (59.3%)+	71 (41.5%)	158 (37.6%)-	104 (37.7%)-	315 (41.9%)
12. クレジットカードのリボ払い	555 (81.3%)+	130 (76.0%)	314 (74.8%)	208 (75.4%)	576 (76.6%)+
13. 銀行のATM手数料	511 (74.8%)+	115 (67.3%)	261 (62.1%)	175 (63.4%)	503 (66.9%)+
14. クレジットカードの承認	577 (84.5%)+	136 (79.5%)	331 (78.8%)	215 (77.9%)	626 (83.2%)+
15. クレジットカードの支払い時点	564 (82.6%)+	130 (76.0%)	302 (71.9%)	193 (69.9%)	573 (75.2%)+

表 183 は金融トラブル内訳別で金融・経済の問題に対する正解率をまとめたものである。詳細は表 184 から表 198 で提示している。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」、及び「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人は全ての問題について該当しない人と比較して正解率は有意に高い。また、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」人も正解率が有意に高い傾向が見られる。

(クロス分析)金融トラブル内訳別の正解率(まとめ)(つづき)

Q17. 金融・経済に関する応用問題 ×金融トラブル(内訳) (正解率のまとめ) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に 遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する 詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラ ブルを経験したことがあ る	9. 保証人として借金の肩 代わりをさせられたこと がある	10. 上記に該当する経験 は一つもない
全体	49 (正解率)	53 (正解率)	118 (正解率)	109 (正解率)	900 (正解率)
1. 固定利率とインフレ率の関係	17 (34.7%)	31 (58.5%)+	70 (59.3%)+	45 (41.3%)	328 (36.4%)-
2. 利率と債券価格の関係	11 (22.4%)	17 (32.1%)	46 (39.0%)+	25 (22.9%)	155 (17.2%)-
3. 日本銀行の金融政策	14 (28.6%)-	29 (54.7%)-	72 (61.0%)+	48 (44.0%)	333 (37.0%)-
4. 株式売買委託手数料	26 (53.1%)	42 (79.2%)+	80 (67.8%)+	53 (48.6%)	389 (43.2%)-
5. 消費者ローン金利	29 (59.2%)	45 (84.9%)+	82 (69.5%)+	61 (56.0%)	461 (51.2%)-
6. 自己破産と選挙権	23 (46.9%)	36 (67.9%)+	78 (66.1%)+	62 (56.9%)	371 (41.2%)-
7. 定期預金の預金保険制度	28 (57.1%)	46 (86.8%)+	88 (74.6%)+	67 (61.5%)	487 (54.1%)-
8. 投資信託の消費者保護	7 (14.3%)-	24 (45.3%)+	47 (39.8%)+	27 (24.8%)	222 (24.7%)-
9. 国民年金受給額	23 (46.9%)	36 (67.9%)+	82 (69.5%)+	67 (61.5%)	428 (47.6%)-
10. 保険会社の保険料	33 (67.3%)	48 (90.6%)+	99 (83.9%)+	77 (70.6%)	551 (61.2%)-
11. 死亡保障の見直し	22 (44.9%)	33 (62.3%)+	65 (55.1%)+	46 (42.2%)	348 (38.7%)-
12. クレジットカードのリボ払い	33 (67.3%)	48 (90.6%)+	99 (83.9%)+	76 (69.7%)	551 (61.2%)-
13. 銀行のATM手数料	33 (67.3%)	42 (79.2%)+	91 (77.1%)+	63 (57.8%)	484 (53.8%)-
14. クレジットカードの承認	39 (79.6%)	48 (90.6%)+	104 (88.1%)+	79 (72.5%)	616 (68.4%)-
15. クレジットカードの支払い時点	33 (67.3%)	48 (90.6%)+	97 (82.2%)+	77 (70.6%)	558 (62.0%)

「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」人は問12～15のクレジットカードに関する問題に対しては正解率が有意に高い。なお、「9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」か否かについては全ての問題について統計的な有意差は見られない。

表 184 (クロス分析)Q17-1. 固定利子とインフレ×金融トラブル(内訳)

Q17-1. 固定利子とインフレ ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	102 (14.9%)+	27 (15.8%)	55 (13.1%)	42 (15.2%)	78 (10.4%)
	誤り(正解)	392 (57.4%)+	69 (40.4%)	166 (39.5%)	89 (32.2%)-	306 (40.7%)
	わからない	189 (27.7%)-	75 (43.9%)	199 (47.4%)	145 (52.5%)+	368 (48.9%)+
カイ2乗統計量	108.4***	2.52	2.81	15.3***	8.05**	

Q17-1. 固定利子とインフレ ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	8 (16.3%)	9 (17.0%)	11 (9.3%)	21 (19.3%)+	97 (10.8%)
	誤り(正解)	17 (34.7%)	31 (58.5%)+	70 (59.3%)+	45 (41.3%)	328 (36.4%)-
	わからない	24 (49.0%)	13 (24.5%)-	37 (31.4%)-	43 (39.4%)	475 (52.8%)+
カイ2乗統計量	1.80	8.95**	13.1***	5.74*	35.6***	

表 185 (クロス分析)Q17-2. 利子率と債券価格×金融トラブル(内訳)

Q17-2. 利子率と債券価格 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	230 (33.7%)+	57 (33.3%)	135 (32.1%)	75 (27.2%)	208 (27.7%)
	誤り(正解)	231 (33.8%)+	46 (26.9%)	75 (17.9%)-	53 (19.2%)	153 (20.3%)-
	わからない	222 (32.5%)-	68 (39.8%)-	210 (50.0%)	148 (53.6%)	391 (52.0%)+
カイ2乗統計量	102.6***	5.46*	8.17**	3.87	6.28**	

Q17-2. 利子率と債券価格 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	18 (36.7%)	18 (34.0%)	41 (34.7%)	38 (34.9%)	222 (24.7%)-
	誤り(正解)	11 (22.4%)	17 (32.1%)	46 (39.0%)+	25 (22.9%)	155 (17.2%)-
	わからない	20 (40.8%)	18 (34.0%)-	31 (26.3%)-	46 (42.2%)	523 (58.1%)+
カイ2乗統計量	1.76	4.81*	27.8***	2.47	53.1***	

表 186 (クロス分析)Q17-3. 日銀金融政策×金融トラブル(内訳)

Q17-3. 日銀金融政策 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	139 (20.4%)	38 (22.2%)	90 (21.4%)	58 (21.0%)	157 (20.9%)
	誤り(正解)	391 (57.2%)+	78 (45.6%)	173 (41.2%)	102 (37.0%)-	302 (40.2%)-
	わからない	153 (22.4%)-	55 (32.2%)	157 (37.4%)	116 (42.0%)	293 (39.0%)
カイ2乗統計量	97.2***	2.65	2.18	5.27*	5.12*	

Q17-3. 日銀金融政策 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	14 (28.6%)	12 (22.6%)	21 (17.8%)	23 (21.1%)	140 (15.6%)-
	誤り(正解)	14 (28.6%)-	29 (54.7%)-	72 (61.0%)+	48 (44.0%)	333 (37.0%)-
	わからない	21 (42.9%)	12 (22.6%)	25 (21.2%)-	38 (34.9%)	427 (47.4%)+
カイ2乗統計量	5.34*	5.18*	17.7***	0.51	56.0***	

表 187 (クロス分析)Q17-4. 株式売買手数料×金融トラブル(内訳)

Q17-4. 株式売買手数料 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい(正解)	470 (68.8%)+	88 (51.5%)	212 (50.5%)	125 (45.3%)-	384 (51.1%)
	誤り	72 (10.5%)	19 (11.1%)	33 (7.9%)	28 (10.1%)	61 (8.1%)
	わからない	141 (20.6%)-	64 (37.4%)	175 (41.7%)	123 (44.6%)+	307 (40.8%)
カイ2乗統計量	130.5***	1.06	1.86	5.67*	1.97	

Q17-4. 株式売買手数料 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい(正解)	26 (53.1%)	42 (79.2%)+	80 (67.8%)+	53 (48.6%)	389 (43.2%)-
	誤り	5 (10.2%)	5 (9.4%)	17 (14.4%)+	14 (12.8%)	65 (7.2%)-
	わからない	18 (36.7%)	6 (11.3%)-	21 (17.8%)-	42 (38.5%)	446 (49.6%)+
カイ2乗統計量	0.16	18.3***	24.1***	2.17	63.8***	

表 188 (クロス分析)Q17-5. 消費者ローン金利×金融トラブル(内訳)

Q17-5. 消費者ローン金利 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	32 (4.7%)	16 (9.4%)+	32 (7.6%)+	23 (8.3%)+	58 (7.7%)+
	誤り(正解)	507 (74.2%)+	109 (63.7%)	255 (60.7%)	160 (58.0%)	461 (61.3%)
	わからない	144 (21.1%)-	46 (26.9%)-	133 (31.7%)	93 (33.7%)	233 (31.0%)
カイ2乗統計量	71.6***	8.08**	5.16*	5.28*	12.7***	

Q17-5. 消費者ローン金利 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	4 (8.2%)	3 (5.7%)	11 (9.3%)	14 (12.8%)+	31 (3.4%)-
	誤り(正解)	29 (59.2%)	45 (84.9%)+	82 (69.5%)+	61 (56.0%)	461 (51.2%)-
	わからない	16 (32.7%)	5 (9.4%)-	25 (21.2%)-	34 (31.2%)	408 (45.3%)+
カイ2乗統計量	0.74	14.7***	10.8***	12.3***	83.4***	

表 189 (クロス分析)Q17-6. 自己破産と選挙権×金融トラブル(内訳)

Q17-6. 自己破産と選挙権 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	114 (16.7%)+	22 (12.9%)	59 (14.0%)	38 (13.8%)	97 (12.9%)
	誤り(正解)	367 (53.7%)+	104 (60.8%)+	232 (55.2%)+	142 (51.4%)	409 (54.4%)+
	わからない	202 (29.6%)-	45 (26.3%)-	129 (30.7%)-	96 (34.8%)	246 (32.7%)-
カイ2乗統計量	24.9***	10.4***	8.92**	0.72	10.5***	

Q17-6. 自己破産と選挙権 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	5 (10.2%)	8 (15.1%)	15 (12.7%)	13 (11.9%)	106 (11.8%)
	誤り(正解)	23 (46.9%)	36 (67.9%)+	78 (66.1%)+	62 (56.9%)	371 (41.2%)-
	わからない	21 (42.9%)	9 (17.0%)-	25 (21.2%)-	34 (31.2%)	423 (47.0%)+
カイ2乗統計量	0.88	9.71***	15.3***	2.47	56.9***	

表 190 (クロス分析)Q17-7. 預金保険制度 × 金融トラブル(内訳)

Q17-7. 預金保険制度 × 金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	45 (6.6%)	19 (11.1%)+	35 (8.3%)	25 (9.1%)	70 (9.3%)+
	誤り(正解)	530 (77.6%)+	106 (62.0%)	259 (61.7%)	156 (56.5%)-	459 (61.0%)
	わからない	108 (15.8%)-	46 (26.9%)	126 (30.0%)	95 (34.4%)	223 (29.7%)
カイ2乗統計量	95.3***	5.68*	1.81	5.92*	12.2***	

Q17-7. 預金保険制度 × 金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	7 (14.3%)+	4 (7.5%)	10 (8.5%)	9 (8.3%)	42 (4.7%)-
	誤り(正解)	28 (57.1%)	46 (86.8%)+	88 (74.6%)+	67 (61.5%)	487 (54.1%)-
	わからない	14 (28.6%)	3 (5.7%)-	20 (16.9%)-	33 (30.3%)	371 (41.2%)+
カイ2乗統計量	4.40	15.8***	10.5***	0.38	78.3***	

表 191 (クロス分析)Q17-8. 投資信託の消費者保護×金融トラブル(内訳)

Q17-8. 投資信託の消費者保護 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)
正しい	165 (24.2%)	48 (28.1%)	115 (27.4%)+	68 (24.6%)	180 (23.9%)
誤り(正解)	323 (47.3%)+	42 (24.6%)	97 (23.1%)-	59 (21.4%)-	190 (25.3%)-
わからない	195 (28.6%)-	81 (47.4%)	208 (49.5%)	149 (54.0%)+	382 (50.8%)
カイ2乗統計量	164.0***	4.70*	14.3***	10.9***	11.2***

Q17-8. 投資信託の消費者保護 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことが ある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)
正しい	19 (38.8%)+	16 (30.2%)	33 (28.0%)	28 (25.7%)	151 (16.8%)-
誤り(正解)	7 (14.3%)-	24 (45.3%)+	47 (39.8%)+	27 (24.8%)	222 (24.7%)-
わからない	23 (46.9%)	13 (24.5%)-	38 (32.2%)-	54 (49.5%)	527 (58.6%)+
カイ2乗統計量	10.3***	11.9***	12.2***	1.75	62.7***

表 192 (クロス分析)Q17-9. 国民年金受給額×金融トラブル(内訳)

Q17-9. 国民年金受給額 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	28 (4.1%)	14 (8.2%)+	18 (4.3%)	10 (3.6%)	21 (2.8%)
	誤り(正解)	421 (61.6%)+	89 (52.0%)	234 (55.7%)	144 (52.2%)	423 (56.8%)
	わからない	234 (34.3%)-	68 (39.8%)	168 (40.0%)	122 (44.2%)	308 (41.0%)
カイ2乗統計量	23.6***	14.1***	2.24	0.78	1.53	

Q17-9. 国民年金受給額 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	3 (6.1%)	2 (3.8%)	3 (2.5%)	7 (6.4%)	21 (2.3%)
	誤り(正解)	23 (46.9%)	36 (67.9%)+	82 (69.5%)+	67 (61.5%)	428 (47.6%)-
	わからない	23 (46.9%)	15 (28.3%)-	33 (28.0%)-	35 (32.1%)-	451 (50.1%)+
カイ2乗統計量	2.07	4.24	11.0***	7.16**	36.4***	

表 193 (クロス分析)Q17-10. 保険商品の保険料×金融トラブル(内訳)

Q17-10. 保険商品の保険料 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)
正しい	22 (3.2%)+	9 (5.3%)+	8 (1.9%)	6 (2.2%)	13 (1.7%)
誤り(正解)	562 (82.3%)+	128 (74.9%)	302 (71.9%)	196 (71.0%)	581 (77.3%)+
わからない	99 (14.5%)-	34 (19.9%)	110 (26.2%)	74 (26.8%)	158 (21.0%)-
カイ2乗統計量	67.6***	13.0***	0.01	0.18	14.4***

Q17-10. 保険商品の保険料 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)
正しい	3 (6.1%)+	1 (1.9%)	1 (0.8%)	2 (1.8%)	13 (1.4%)
誤り(正解)	33 (67.3%)	48 (90.6%)+	99 (83.9%)+	77 (70.6%)	551 (61.2%)-
わからない	13 (26.5%)	4 (7.5%)-	18 (15.3%)-	30 (27.5%)	336 (37.3%)+
カイ2乗統計量	4.55	9.69***	8.72**	0.14	8.8***

表 194 (クロス分析)Q17-11. 保険の見直し×金融トラブル(内訳)

Q17-11. 保険の見直し ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	59 (8.6%)	22 (12.9%)+	37 (8.8%)	27 (9.8%)	61 (8.1%)
	誤り(正解)	405 (59.3%)+	71 (41.5%)	158 (37.6%)-	104 (37.7%)-	315 (41.9%)
	わからない	219 (32.1%)-	78 (45.6%)	225 (53.6%)+	145 (52.5%)	376 (50.0%)
カイ2乗統計量	90.9***	7.27**	10.3***	6.95**	3.54	

Q17-11. ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	5 (10.2%)	8 (15.1%)+	12 (10.2%)	13 (11.9%)	48 (5.3%)-
	誤り(正解)	22 (44.9%)	33 (62.3%)+	65 (55.1%)+	46 (42.2%)	348 (38.7%)-
	わからない	22 (44.9%)	12 (22.6%)-	41 (34.7%)-	50 (45.9%)	504 (56.0%)+
カイ2乗統計量	0.53	14.8***	8.31**	3.05	40.2***	

表 195 (クロス分析)Q17-12. クレジットカード利用×金融トラブル(内訳)

Q17-12. クレジットカード利用 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	26 (3.8%)+	12 (7.0%)+	15 (3.6%)	9 (3.3%)	23 (3.1%)
	誤り(正解)	555 (81.3%)+	130 (76.0%)	314 (74.8%)	208 (75.4%)	576 (76.6%)+
	わからない	102 (14.9%)-	29 (17.0%)-	9 (21.7%)	59 (21.4%)	153 (20.3%)-
カイ2乗統計量	51.9***	17.7***	4.13	2.45	12.5***	

Q17-12. クレジットカード利用 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	3 (6.1%)	2 (3.8%)	4 (3.4%)	3 (2.8%)	17 (1.9%)
	誤り(正解)	33 (67.3%)	48 (90.6%)+	99 (83.9%)+	76 (69.7%)	551 (61.2%)-
	わからない	13 (26.5%)	3 (5.7%)-	15 (12.7%)-	30 (27.5%)	332 (36.9%)+
カイ2乗統計量	2.36	10.9***	10.1***	0.37	101.1***	

表 196 (クロス分析)Q17-13. ×金融トラブル(内訳)

Q17-13. ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	58 (8.5%)	20 (11.7%)	51 (12.1%)	26 (9.4%)	81 (10.8%)
	誤り(正解)	511 (74.8%)+	115 (67.3%)	261 (62.1%)	175 (63.4%)	503 (66.9%)+
	わからない	114 (16.7%)-	36 (21.1%)	108 (25.7%)	75 (27.2%)	168 (22.3%)-
カイ2乗統計量	54.8***	3.50	3.65	0.03	11.2***	

Q17-13. ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	4 (8.2%)	7 (13.2%)	9 (7.6%)	12 (11.0%)	80 (8.9%)
	誤り(正解)	33 (67.3%)	42 (79.2%)+	91 (77.1%)+	63 (57.8%)	484 (53.8%)-
	わからない	12 (24.5%)	4 (7.5%)-	18 (15.3%)-	34 (31.2%)	336 (37.3%)+
カイ2乗統計量	0.33	10.3***	10.3***	1.61	76.2***	

表 197 (クロス分析)Q17-14. クレジットカードの承認×金融トラブル(内訳)

Q17-14. クレジットカードの承認 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある	
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
	正しい	26 (3.8%)	8 (4.7%)	10 (2.4%)	6 (2.2%)	18 (2.4%)
	誤り(正解)	577 (84.5%)+	136 (79.5%)	331 (78.8%)	215 (77.9%)	626 (83.2%)+
	わからない	80 (11.7%)-	27 (15.8%)	79 (18.8%)	55 (19.8%)	108 (14.4%)-
カイ2乗統計量	37.6***	3.49	0.73	0.57	20.1***	

Q17-14. クレジットカードの承認 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない	
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
	正しい	2 (4.1%)	3 (5.7%)	3 (2.5%)	7 (6.4%)+	19 (2.1%)
	誤り(正解)	39 (79.6%)	48 (90.6%)+	104 (88.1%)+	79 (72.5%)	616 (68.4%)-
	わからない	8 (16.3%)	2 (3.8%)-	11 (9.3%)-	23 (21.1%)	265 (29.4%)+
カイ2乗統計量	0.55	9.56***	8.54**	8.40*	83.3***	

表 198 (クロス分析)Q17-15. クレジットカード支払時点×金融トラブル(内訳)

Q17-15. クレジットカード支払時点 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)
正しい	21 (3.1%)	9 (5.3%)	15 (3.6%)	16 (5.8%)+	27 (3.6%)
誤り(正解)	564 (82.6%)+	130 (76.0%)	302 (71.9%)	193 (69.9%)	573 (75.2%)+
わからない	98 (14.3%)-	32 (18.7%)	103 (24.5%)	67 (24.3%)	152 (20.2%)-
カイ2乗統計量	51.9***	5.09*	0.16	6.31**	10.3***

Q17-15. クレジットカード支払時点 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)
正しい	5 (10.2%)+	3 (5.7%)	8 (6.8%)+	4 (3.7%)	26 (2.9%)
誤り(正解)	33 (67.3%)	48 (90.6%)+	97 (82.2%)+	77 (70.6%)	558 (62.0%)
わからない	11 (22.4%)	2 (3.8%)-	13 (11.0%)-	28 (25.7%)	316 (35.1%)+
カイ2乗統計量	7.64**	12.9***	15.5***	0.17	82.5***

<生活設計について>

Q18. あなたは生活設計(ライフイベントを見据えた将来の収支を含めたライフプランの策定)を意識しておられますか。

表 199 生活設計に対する意識

Q18. 生活設計に対する意識	全体
全体	2700 (100%)
1. かなり考えている	249 (9.2%)
2. 少しは考えている	1169 (43.3%)
3. ほとんど考えていない	758 (28.1%)
4. 全く考えていない	253 (9.4%)
5. わからない	271 (10.0%)

表 199 は生活設計に対する意識について調査した結果である。1番多い選択率は「2.少しは考えている」で43.3%であり、次いで「3.ほとんど考えていない」が28.1%である。「考えている(選択肢1と2の計)」は52.5%、「考えていない(選択肢3と4の計)」は37.5%であり、生活設計について考えている人が約半数を占めている。

表 200 (クロス分析)生活設計に対する意識×金融トラブル経験の有無

Q18. 生活設計×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. かなり考えている	175 (9.7%)	74 (8.2%)
2. 少しは考えている	843 (46.8%)+	326 (36.2%)-
3. ほとんど考えていない	502 (27.9%)	256 (28.4%)
4. 全く考えていない	163 (9.1%)	90 (10.0%)
5. わからない	117 (6.5%)-	154 (17.1%)+
カイ2乗統計量	85.0***	

表 200 は金融トラブル経験の有無で生活設計に対する意識について比較したものである。1%水準で統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者は「2.少し考えている」が有意に多く、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多い。

表 201 (クロス分析)生活設計に対する意識×年代・金融トラブル経験の有無

Q18. 生活設計に対する意識 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. かなり考えている	45 (7.5%)	14 (4.7%)	54 (9.0%)	1 (5.7%)	76 (12.7%)	43 (14.3%)
2. 少しは考えている	281 (46.8%)+	87 (29.0%)-	263 (43.8%)	112 (37.3%)	299 (49.8%)+	127 (42.3%)-
3. ほとんど考えていない	167 (27.8%)	88 (29.3%)	174 (29.0%)	92 (30.7%)	161 (26.8%)	76 (25.3%)
4. 全く考えていない	56 (9.3%)	39 (13.0%)	61 (10.2%)	30 (10.0%)	46 (7.7%)	21 (7.0%)
5. わからない	51 (8.5%)-	72 (24.0%)+	48 (8.0%)-	49 (16.3%)+	18 (3.0%)-	33 (11.0%)+
カイ2乗統計量	55.9***		17.9***		25.7***	

表 201 は年代（金融トラブル経験の有無）別で比較したものである。20・30代と60代以上の金融トラブル経験者は「2.少しは考えている」が有意に多いが、40・50代ではこの選択肢に有意差は見られない。なお、いずれの年代においても金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多い。

表 202 (クロス分析)生活設計に対する意識×金融トラブル(内訳)

Q18. 生活設計に対する意識 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者金融の支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. かなり考えている	95 (13.9%)+	14 (8.2%)	34 (8.1%)	19 (6.9%)	53 (7.0%)-
2. 少しは考えている	350 (51.2%)+	77 (45.0%)	173 (41.2%)	104 (37.7%)-	334 (44.4%)
3. ほとんど考えていない	157 (23.0%)-	50 (29.2%)	134 (31.9%)	89 (32.2%)	227 (30.2%)
4. 全く考えていない	50 (7.3%)-	20 (11.7%)	44 (10.5%)	34 (12.3%)	88 (11.7%)+
5. わからない	31 (4.5%)-	10 (5.8%)	35 (8.3%)	30 (10.9%)	50 (6.6%)-
カイ2乗統計量	75.2***	4.67	5.88	9.03*	25.3***

(クロス分析)生活設計に対する意識×金融トラブル(内訳)(つづき)

Q18. 生活設計に対する意識 × 金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブ ルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は二つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. かなり考えている	10 (20.4%)+	10 (18.9%)+	22 (18.6%)+	1251 (11.0%)	74 (8.2%)
2. 少しは考えている	16 (32.7%)	30 (56.6%)+	63 (53.4%)+	51 (46.8%)	326 (36.2%)-
3. ほとんど考えていない	12 (24.5%)	8 (15.1%)-	16 (13.6%)-	30 (27.5%)	256 (28.4%)
4. 全く考えていない	6 (12.2%)	3 (5.7%)	11 (9.3%)	11 (10.1%)	90 (10.0%)
5. わからない	5 (10.2%)	2 (3.8%)	6 (5.1%)	5 (4.6%)	154 (17.1%)+
カイ2乗統計量	8.75*	13.8***	27.1***	は 4.15	85.0***

表 202 は金融トラブル内訳別で生活設計に対する考え方を比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人は、「1.かなり考えている」や「2.少し考えている」が有意に多く、これらの金融トラブル経験者は生活設計について考えている傾向が見られる。また、「6.振り込め詐欺に遭ったことがある」人も生活設計について「1.かなり考えている」人が有意に多い。

なお、「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」人は、生活設計に対して「4.全く考えていない」人が有意に多くなっている。

Q19. Q18 を選んだ方にお伺いします。あなたは、具体的に次のライフイベントについてそれぞれどのように準備されていますか。

表 203 準備しているライフイベント

Q19. 準備しているライフイベント	1.住宅の取得	2.結婚	3.子供の養育	4.両親の介護	5.自身の老後
全体	1418 (100%)	1418 (100%)	1418 (100%)	1418 (100%)	1418 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	105 (7.4%)	23 (1.6%)	243 (17.1%)	94 (6.6%)	441 (31.1%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	100 (7.1%)	54 (3.8%)	106 (7.5%)	167 (11.8%)	234 (16.5%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	147 (10.4%)	62 (4.4%)	119 (8.4%)	314 (22.1%)	458 (32.3%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	93 (6.6%)	61 (4.3%)	77 (5.4%)	211 (14.9%)	131 (9.2%)
5. わからない	81 (5.7%)	66 (4.7%)	88 (6.2%)	139 (9.8%)	97 (6.8%)
6. 該当しない	892 (62.9%)	1152 (81.2%)	785 (55.4%)	493 (34.8%)	57 (4.0%)

表 203 は、Q18 で生活設計に対して「1.かなり考えている」と「2.少しは考えている」を選択した 1418 サンプルに対し、具体的に考えているライフイベントを調査した結果である。

1 番選択率が高いライフイベントは「5.自身の老後」であり、約 3 割 (31.1%) が「1.具体的に準備している」を選択しており、「1.具体的に準備している」、「2.計画は立ててあるが具体的な行動はこれから」、「3.計画を立てたいと思っているがまだできていない」を合わせると約 8 割 (79.9%) の人が自身の老後について計画の必要を感じている。

次いで、準備や計画を立てていたり、その必要性を感じている割合が高いのが「4.両親の介護」であり、「1.具体的に準備」、「2.具体的な行動はこれから」、「3.計画を立てたいと思っている」を合わせると約 4 割 (40.5%) であり、「4.可能性はあるが計画を立てる必要性を感じていない」と意識する人も 14.9% と高い。

その他のライフイベントを見ると、「3.子供の養育」については「1.具体的に準備している」が 17.1% と高く、また「1.住宅の取得」についても「3.計画を立てたいと思っている」人が 10.4% と 1 割を超えている。

表 204 (クロス分析)具体的に設計しているライフイベント×金融トラブル経験の有無(まとめ)

設問番号	1	2	3	4	5
具体的なライフイベント	住宅取得	結婚	子供養育	両親介護	自身老後
金融トラブル経験有					
全体	1018 (100%)	1018 (100%)	1018 (100%)	1018 (100%)	1018 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	74 (7.3%)	74 (7.3%)	19 (1.9%)	71 (7.0%)	310 (30.5%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	84 (8.3%)+	84 (8.3%)+	48 (4.7%)+	130 (12.8%)	178 (17.5%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	120 (11.8%)+	120 (11.8%)+	51 (5.0%)	241 (23.7%)+	332 (32.6%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	71 (7.0%)	71 (7.0%)	47 (4.6%)	149 (14.6%)	98 (9.6%)
5. わからない	61 (6.0%)	61 (6.0%)	45 (4.4%)	99 (9.7%)	66 (6.5%)
6. 該当しない	608 (59.7%)-	608 (59.7%)-	808 (79.4%)-	328 (32.2%)-	34 (3.3%)-
金融トラブル経験無					
全体	400 (100%)	400 (100%)	400 (100%)	400 (100%)	400 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	31 (7.8%)	4 (1.0%)	68 (17.0%)	23 (5.8%)	131 (32.8%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	16 (4.0%)-	6 (1.5%)-	12 (3.0%)-	37 (9.3%)	56 (14.0%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	27 (6.8%)-	11 (2.8%)	23 (5.8%)-	73 (18.3%)-	126 (31.5%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	22 (5.5%)	14 (3.5%)	18 (4.5%)	62 (15.5%)	33 (8.3%)
5. わからない	20 (5.0%)	21 (5.3%)	22 (5.5%)	40 (10.0%)	31 (7.8%)
6. 該当しない	284 (71.0%)+	344 (86.0%)+	257 (64.3%)+	165 (41.3%)+	23 (5.8%)+

表 204 から表 209 は具体的に考えているライフイベントについて金融トラブル経験の有無で比較したものである。表 204 は金融トラブル経験の有無で有意性のみを比較するためにまとめたものであり、詳細は表 205 から表 209 で提示している。

表 204 を見ると、金融トラブル経験者は、住宅取得・結婚・子供の養育・両親の介護について「2.計画は立ててあるが具体的な行動はこれから」、あるいは「3.計画を立てたいと思っているがまだできていない」と意識している人が有意に多い。一方、金融トラブル未経験者はすべてのライフイベントに対して「6.該当しない」と回答する人が有意に多くなっている。

表 205 (クロス分析)住宅の取得準備×金融トラブル経験の有無

Q19-1. 住宅の取得準備×金融トラブル経験の有無	トラブル有	トラブル無
全体	1018 (100%)	400 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	74 (7.3%)	31 (7.8%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	84 (8.3%)+	16 (4.0%)-
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	120 (11.8%)+	27 (6.8%)-
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	71 (7.0%)	22 (5.5%)
5. わからない	61 (6.0%)	20 (5.0%)
6. 該当しない	608 (59.7%)-	284 (71.0%)+
カイ2乗統計量	21.7***	

表 206 (クロス分析)結婚の準備×金融トラブル経験の有無

Q19-2. 結婚の準備×金融トラブル経験の有無	トラブル有	トラブル無
全体	1018 (100%)	400 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	19 (1.9%)	4 (1.0%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	48 (4.7%)+	6 (1.5%)-
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	51 (5.0%)	11 (2.8%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	47 (4.6%)	14 (3.5%)
5. わからない	45 (4.4%)	21 (5.3%)
6. 該当しない	808 (79.4%)-	344 (86.0%)+
カイ2乗統計量	15.3***	

表 207 (クロス分析)子供の養育準備×金融トラブル経験の有無

Q19-3. 子供の養育準備×金融トラブル経験の有無	トラブル有	トラブル無
全体	1018 (100%)	400 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	175 (17.2%)	68 (17.0%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	94 (9.2%)+	12 (3.0%)-
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	96 (9.4%)+	23 (5.8%)-
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	59 (5.8%)	18 (4.5%)
5. わからない	66 (6.5%)	22 (5.5%)
6. 該当しない	528 (51.9%)-	257 (64.3%)+
カイ2乗統計量	28.9***	

表 208 (クロス分析)両親の介護準備×金融トラブル経験の有無

Q19-4. 両親の介護準備×金融トラブル経験の有無	トラブル有	トラブル無
全体	1018 (100%)	400 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	71 (7.0%)	23 (5.8%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	130 (12.8%)	37 (9.3%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	241 (23.7%)+	73 (18.3%)-
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	149 (14.6%)	62 (15.5%)
5. わからない	99 (9.7%)	40 (10.0%)
6. 該当しない	328 (32.2%)-	165 (41.3%)+
カイ2乗統計量	14.4***	

表 209 (クロス分析)自身の老後準備×金融トラブル経験の有無

Q19-5. 自身の老後準備×金融トラブル経験の有無	トラブル有	トラブル無
全体	1018 (100%)	400 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	310 (30.5%)	131 (32.8%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	178 (17.5%)	56 (14.0%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	332 (32.6%)	126 (31.5%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	98 (9.6%)	33 (8.3%)
5. わからない	66 (6.5%)	31 (7.8%)
6. 該当しない	34 (3.3%)-	23 (5.8%)+
カイ2乗統計量	8.12	

表 210 (クロス分析) 具体的に設計しているライフイベント×20・30代の金融トラブル経験有無(まとめ)

設問番号	1	2	3	4	5
具体的なライフイベント	住宅取得	結婚	子供養育	両親介護	自身老後
金融トラブル経験有(20・30代)					
全体	326 (100%)	326 (100%)	326 (100%)	326 (100%)	326 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	33 (10.1%)	15 (4.6%)	94 (28.8%)	19 (5.8%)+	54 (16.6%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	50 (15.3%)	38 (11.7%)+	59 (18.1%)+	53 (16.3%)	57 (17.5%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	82 (25.2%)	35 (10.7%)	61 (18.7%)	121 (37.1%)	141 (43.3%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	26 (8.0%)	24 (7.4%)	31 (9.5%)	71 (21.8%)	39 (12.0%)
5. わからない	26 (8.0%)	15 (4.6%)	31 (9.5%)	42 (12.9%)	24 (7.4%)-
6. 該当しない	109 (33.4%)	199 (61.0%)	50 (15.3%)-	20 (6.1%)	11 (3.4%)
金融トラブル経験無(20・30代)					
全体	101 (100%)	101 (100%)	101 (100%)	101 (100%)	101 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	16 (15.8%)	1 (1.0%)	26 (25.7%)	1 (1.0%)-	15 (14.9%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	8 (7.9%)	5 (5.0%)-	10 (9.9%)-	13 (12.9%)	12 (11.9%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	17 (16.8%)	8 (7.9%)	18 (17.5%)	34 (33.7%)	41 (40.6%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	12 (11.9%)	11 (10.9%)	12 (11.9%)	26 (25.7%)	13 (12.9%)
5. わからない	6 (5.9%)	8 (7.9%)	10 (9.9%)	17 (16.8%)	15 (14.9%)+
6. 該当しない	42 (41.6%)	68 (67.3%)	25 (24.8%)+	10 (9.9%)	5 (5.0%)

表 210 から表 217 は具体的に考えているライフイベントについて年代(金融トラブル経験の有無)別で比較したものである。表 210 は20・30代について、表 211 は40・50代について、表 212 は60代以上であり、詳細は表 213 から表 217 で提示している。

表 210 を見ると、20・30代の金融トラブル経験者は結婚と子供の養育について計画を立てているが具体的な行動はこれからと意識する人が有意に多く、また、両親の介護について具体的に準備している人も有意に多い。そして、表 211 から40・50代の結果を見ると、40・50代の金融トラブル経験者は子供の養育について計画を立てている、あるいは計画を立てたいと意識する傾向が高い。また、40・50代の金融トラブル経験者は、住宅取得や結婚について可能性を感じている人も有意に多い。なお、表 212 から60代以上の結果を見ると、金融トラブル経験者で住宅取得について計画を立てている人に有意性が見られるが、全体的に金融トラブル経験の有無で具体的なライフイベントに対する準備・計画に対して統計的な有意差は見られない。

表 211 (クロス分析)具体的に設計しているライフイベント×40・50代の金融トラブル経験有無(まとめ)

設問番号	1	2	3	4	5
具体的なライフイベント	住宅取得	結婚	子供養育	両親介護	自身老後
金融トラブル経験有(40・50代)					
全体	317 (100%)	317 (100%)	317 (100%)	317 (100%)	317 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	24 (7.6%)	4 (1.3%)	68 (21.5%)	27 (8.5%)	77 (24.3%) ⁻
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	16 (5.0%)	8 (2.5%)	30 (9.5%) ⁺	46 (14.5%)	59 (18.6%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	26 (8.2%)	14 (4.4%)	26 (8.2%) ⁺	97 (30.6%)	113 (35.6%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	31 (9.8%) ⁺	20 (6.3%) ⁺	18 (5.7%)	42 (13.2%)	34 (10.7%)
5. わからない	23 (7.3%)	24 (7.6%)	25 (7.9%)	37 (11.7%)	22 (6.9%)
6. 該当しない	197 (62.1%)	247 (77.9%)	150 (47.3%) ⁻	68 (21.5%)	12 (3.8%)
金融トラブル経験無(40・50代)					
全体	129 (100%)	129 (100%)	129 (100%)	129 (100%)	129 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	8 (6.2%)	3 (2.3%)	36 (27.9%)	10 (7.8%)	43 (33.3%) ⁺
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	6 (4.7%)	1 (0.8%)	2 (1.6%) ⁻	17 (13.2%)	23 (17.8%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	9 (7.0%)	2 (1.6%)	4 (3.1%) ⁻	30 (23.3%)	41 (31.8%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	4 (3.1%) ⁻	2 (1.6%) ⁻	4 (3.1%)	21 (16.3%)	10 (7.8%)
5. わからない	10 (7.8%)	11 (8.5%)	8 (6.2%)	18 (14.0%)	6 (4.7%)
6. 該当しない	92 (71.3%)	110 (85.3%)	75 (58.1%) ⁺	33 (25.6%)	6 (4.7%)

表 212 (クロス分析)具体的に設計しているライフイベント×60代以上の金融トラブル経験有無(まとめ)

設問番号	1	2	3	4	5
具体的なライフイベント	住宅取得	結婚	子供養育	両親介護	自身老後
金融トラブル経験有(60代以上)					
全体	375 (100%)	375 (100%)	375 (100%)	375 (100%)	375 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	17 (4.5%)	0 (0.0%)	13 (3.5%)	25 (6.7%)	179 (47.7%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	18 (4.8%)+	2 (0.5%)	5 (1.3%)	31 (8.3%)	62 (16.5%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	12 (3.2%)	2 (0.5%)	9 (2.4%)	23 (6.1%)	78 (20.8%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	14 (3.7%)	3 (0.8%)	10 (2.7%)	36 (9.6%)	25 (6.7%)
5. わからない	12 (3.2%)	6 (1.6%)	10 (2.7%)	20 (5.3%)	20 (5.3%)
6. 該当しない	302 (80.5%)-	362 (96.5%)	32.8 (87.5%)	240 (64.0%)	11 (2.9%)-
金融トラブル経験無(60代以上)					
全体	170 (100%)	170 (100%)	170 (100%)	170 (100%)	170 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	7 (4.1%)	0 (0.0%)	6 (3.5%)	12 (7.1%)	73 (42.9%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	2 (1.2%)-	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (4.1%)	21 (12.4%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	1 (0.6%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	9 (5.3%)	44 (25.9%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	6 (3.5%)	1 (0.6%)	2 (1.2%)	15 (8.8%)	10 (5.9%)
5. わからない	4 (2.4%)	2 (1.6%)	4 (2.4%)	5 (2.9%)	10 (5.9%)
6. 該当しない	150 (88.2%)+	166 (97.6%)	157 (92.4%)	122 (71.8%)	12 (7.1%)+

表 213 (クロス分析)住宅の取得準備×年代・金融トラブル経験の有無

Q19-1. 住宅の取得準備 ×金融トラブル経験の有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	326 (100%)	101 (100%)	317 (100%)	129 (100%)	375 (100%)	170 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	33 (10.1%)	16 (15.8%)	24 (7.6%)	8 (6.2%)	17 (4.5%)	7 (4.1%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	50 (15.3%)	8 (7.9%)	16 (5.0%)	6 (4.7%)	18 (4.8%)+	2 (1.2%)-
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	82 (25.2%)	17 (16.8%)	26 (8.2%)	9 (7.0%)	12 (3.2%)	1 (0.6%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	26 (8.0%)	12 (11.9%)	31 (9.8%)+	4 (3.1%)-	14 (3.7%)	6 (3.5%)
5. わからない	26 (8.0%)	6 (5.9%)	23 (7.3%)	10 (7.8%)	12 (3.2%)	4 (2.4%)
6. 該当しない	109 (33.4%)	42 (41.6%)	197 (62.1%)	92 (71.3%)	302 (80.5%)-	150 (88.2%)+
カイ2乗統計量	10.8*		6.88		8.71	

表 214 (クロス分析)結婚準備×年代・金融トラブル経験の有無

Q19-2. 結婚準備 ×金融トラブル経験の有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	326 (100%)	101 (100%)	317 (100%)	129 (100%)	375 (100%)	170 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	15 (4.6%)	1 (1.0%)	4 (1.3%)	3 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	38 (11.7%)+	5 (5.0%)-	8 (2.5%)	1 (0.8%)	2 (0.5%)	0 (0.0%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	35 (10.7%)	8 (7.9%)	14 (4.4%)	2 (1.6%)	2 (0.5%)	1 (0.6%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	24 (7.4%)	11 (10.9%)	20 (6.3%)+	2 (1.6%)-	3 (0.8%)	1 (0.6%)
5. わからない	15 (4.6%)	8 (7.9%)	24 (7.6%)	11 (8.5%)	6 (1.6%)	2 (1.6%)
6. 該当しない	199 (61.0%)	68 (67.3%)	247 (77.9%)	110 (85.3%)	362 (96.5%)	166 (97.6%)
カイ2乗統計量	9.97*		9.09		1.14	

表 215 (クロス分析)子供の養育準備×年代・金融トラブル経験の有無

Q19-3. 子供の養育準備 ×金融トラブル経験の有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	326 (100%)	101 (100%)	317 (100%)	129 (100%)	375 (100%)	170 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	94 (28.8%)	26 (25.7%)	68 (21.5%)	36 (27.9%)	13 (3.5%)	6 (3.5%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	59 (18.1%)+	10 (9.9%)-	30 (9.5%)+	2 (1.6%)-	5 (1.3%)	0 (0.0%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	61 (18.7%)	18 (17.5%)	26 (8.2%)+	4 (3.1%)-	9 (2.4%)	1 (0.6%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	31 (9.5%)	12 (11.9%)	18 (5.7%)	4 (3.1%)	10 (2.7%)	2 (1.2%)
5. わからない	31 (9.5%)	10 (9.9%)	25 (7.9%)	8 (6.2%)	10 (2.7%)	4 (2.4%)
6. 該当しない	50 (15.3%)-	25 (24.8%)+	150 (47.3%)-	75 (58.1%)+	32.8 (87.5%)	157 (92.4%)
カイ2乗統計量	7.84		16.9***		5.90	

表 216 (クロス分析)両親の介護準備×年代・金融トラブル経験の有無

Q19-4. 両親の介護準備 ×金融トラブル経験の有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	326 (100%)	101 (100%)	317 (100%)	129 (100%)	375 (100%)	170 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	19 (5.8%)+	1 (1.0%)-	27 (8.5%)	10 (7.8%)	25 (6.7%)	12 (7.1%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	53 (16.3%)	13 (12.9%)	46 (14.5%)	17 (13.2%)	31 (8.3%)	7 (4.1%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	121 (37.1%)	34 (33.7%)	97 (30.6%)	30 (23.3%)	23 (6.1%)	9 (5.3%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	71 (21.8%)	26 (25.7%)	42 (13.2%)	21 (16.3%)	36 (9.6%)	15 (8.8%)
5. わからない	42 (12.9%)	17 (16.8%)	37 (11.7%)	18 (14.0%)	20 (5.3%)	5 (2.9%)
6. 該当しない	20 (6.1%)	10 (9.9%)	68 (21.5%)	33 (25.6%)	240 (64.0%)	122 (71.8%)
カイ2乗統計量	7.64		3.59		5.65	

表 217 (クロス分析)自身の介護準備×年代・金融トラブル経験の有無

Q19-5. 自身の介護準備 ×金融トラブル経験有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	326 (100%)	101 (100%)	317 (100%)	129 (100%)	375 (100%)	170 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	54 (16.6%)	15 (14.9%)	77 (24.3%) ⁻	43 (33.3%) ⁺	179 (47.7%)	73 (42.9%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	57 (17.5%)	12 (11.9%)	59 (18.6%)	23 (17.8%)	62 (16.5%)	21 (12.4%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	141 (43.3%)	41 (40.6%)	113 (35.6%)	41 (31.8%)	78 (20.8%)	44 (25.9%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	39 (12.0%)	13 (12.9%)	34 (10.7%)	10 (7.8%)	25 (6.7%)	10 (5.9%)
5. わからない	24 (7.4%) ⁻	15 (14.9%) ⁺	22 (6.9%)	6 (4.7%)	20 (5.3%)	10 (5.9%)
6. 該当しない	11 (3.4%)	5 (5.0%)	12 (3.8%)	6 (4.7%)	11 (2.9%) ⁻	12 (7.1%) ⁺
カイ2乗統計量	7.07		4.97		8.17	

表 218 (クロス分析) 具体的に設計しているライフイベント×金融トラブル内訳(まとめ)

設問番号	1	2	3	4	5
具体的なライフイベント	住宅取得	結婚	子供養育	両親介護	自身老後
1.十分に理解できないまま金融商品を購入した		+		+	+
2.消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	+	+	+	+	
3.消費者金融会社からお金を借りたことがある	+	+	+	+	
4.住宅ローン等の返済資金を用意することができなかった	+			+	+
5. 公共料金等の支払いを遅延したことがある	+	+	+	+	+
6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある		+			
7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある			+		
8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある	+	+		+	
9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある		+			

注) +は「1.具体的に準備している」、「2.計画を立ててあるが具体的な行動はこれから」、「3.計画を立てたいと思っているがまだできていない」の選択肢に5%水準以上のプラスの有意性が見られたことを表している(すなわち、各ライフイベントに対して準備あるいは計画を立てている傾向が強いものをまとめている)。

表 219 から表 223 は金融トラブル内訳で具体的に考えているライフイベントについて比較したものである。表 219 の+は「1.具体的に準備している」、「2.計画を立ててあるが具体的な行動はこれから」、「3.計画を立てたいと思っているがまだできていない」の選択肢に5%水準以上のプラスの有意性が見られたことを表している(すなわち、各ライフイベントに対して準備あるいは計画を立てている傾向が強いものをまとめている)。詳細は表 219 から表 223 で提示している。

表 219 を見ると、消費者ローン利用者(金融トラブル内訳 2 と 3) や公共料金等の支払いを遅延したことがある人(金融トラブル内訳 5) が全体的に様々なライフイベントに対して計画したいと思っている(が実際には計画できていない) 傾向が見られる。

表 219 (クロス分析)住宅の取得準備×金融トラブル(内訳)

Q19-1. 住宅の取得準備 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	445 (100%)	91 (100%)	207 (100%)	123 (100%)	387 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	35 (7.9%)	12 (13.2%)+	18 (8.7%)	10 (8.1%)	34 (8.8%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	38 (8.5%)	9 (9.9%)	17 (8.2%)	11 (8.9%)	30 (7.8%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	47 (10.6%)	17 (18.7%)+	36 (17.4%)+	21 (17.1%)+	57 (14.7%)+
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	24 (5.4%)	6 (6.6%)	19 (9.2%)	12 (9.8%)	30 (7.8%)
5. わからない	17 (3.8%)-	7 (7.7%)	13 (6.3%)	6 (4.9%)	31 (8.0%)+
6. 該当しない	284 (63.8%)	40 (44.0%)-	104 (50.2%)-	63 (51.2%)-	205 (53.0%)-
カイ2乗統計量	7.74	18.2***	21.4***	11.8**	25.9***

Q19-1. 住宅の取得準備 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	26 (100%)	40 (100%)	85 (100%)	63 (100%)	400 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	3 (11.5%)	2 (5.0%)	9 (10.6%)	6 (9.5%)	31 (7.8%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	2 (7.7%)	4 (10.0%)	12 (14.1%)+	3 (4.8%)	16 (4.0%)-
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	3 (11.5%)	5 (12.5%)	7 (8.2%)	3 (4.8%)	27 (6.8%)-
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	3 (11.5%)	2 (5.0%)	6 (7.1%)	7 (11.1%)	22 (5.5%)
5. わからない	1 (3.8%)	2 (5.0%)	4 (4.7%)	3 (4.8%)	20 (5.0%)
6. 該当しない	14 (53.8%)	25 (62.5%)	47 (55.3%)	41 (65.1%)	284 (71.0%)+
カイ2乗統計量	2.17	1.20	9.06	5.13	21.7***

表 220 (クロス分析)結婚準備×金融トラブル(内訳)

Q19-2. 結婚準備 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
	全体	445 (100%)	91 (100%)	207 (100%)	123 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	12 (2.7%)+	5 (5.5%)+	5 (2.4%)	3 (2.4%)	6 (1.6%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	15 (3.4%)	7 (7.7%)+	12 (5.8%)	6 (4.9%)	23 (5.9%)+
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	19 (4.3%)	7 (7.7%)	17 (8.2%)+	9 (7.3%)	26 (6.7%)+
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	6 (3.6%)	7 (7.7%)	22 (10.6%)+	7 (5.7%)	14 (3.6%)
5. わからない	17 (3.8%)	8 (8.8%)	16 (7.7%)+	7 (5.7%)	17 (4.4%)
6. 該当しない	366 (82.2%)	57 (62.6%)-	135 (65.2%)-	91 (74.0%)-	301 (77.8%)-
カイ2乗統計量	6.76	25.6***	46.8***	5.42	14.5**

Q19-2. 結婚準備 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
	全体	26 (100%)	40 (100%)	85 (100%)	63 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	3 (11.5%)+	2 (5.0%)	4 (4.7%)+	4 (6.3%)+	4 (1.0%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	1 (3.8%)	3 (7.5%)	7 (8.2%)+	1 (1.6%)	6 (1.5%)-
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	3 (11.5%)	2 (5.0%)	8 (9.4%)+	3 (4.8%)	11 (2.8%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	2 (7.7%)	1 (2.5%)	2 (2.4%)	2 (3.2%)	14 (3.5%)
5. わからない	2 (7.7%)	3 (7.5%)	2 (2.4%)	5 (7.9%)	21 (5.3%)
6. 該当しない	15 (57.7%)-	29 (72.5%)	62 (72.9%)-	48 (76.2%)	344 (86.0%)+
カイ2乗統計量	22.2***	5.82	17.8***	11.9**	15.3***

表 221 (クロス分析)子供の養育準備×金融トラブル(内訳)

Q19-3. 子供の養育準備 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	445 (100%)	91 (100%)	207 (100%)	123 (100%)	387 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	59 (13.3%) ⁻	16 (17.6%)	30 (14.5%)	28 (22.8%)	98 (25.3%) ⁺
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	27 (6.1%)	9 (9.9%)	28 (13.5%) ⁺	10 (8.1%)	40 (10.3%) ⁺
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	36 (8.1%)	13 (14.3%) ⁺	23 (11.1%)	14 (11.4%)	46 (11.9%) ⁺
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	26 (5.8%)	8 (8.8%)	16 (7.7%)	11 (8.9%)	26 (6.7%)
5. わからない	20 (4.5%)	7 (7.7%)	19 (9.2%)	6 (4.9%)	34 (8.8%) ⁺
6. 該当しない	277 (62.2%) ⁺	38 (41.8%) ⁻	91 (44.0%) ⁻	54 (43.9%) ⁻	143 (37.0%) ⁻
カイ2乗統計量	16.3***	10.4*	26.5***	10.6*	74.3***

Q19-3. 子供の養育準備 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	26 (100%)	40 (100%)	85 (100%)	63 (100%)	400 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	4 (15.4%)	5 (12.5%)	13 (15.3%)	7 (11.5%)	68 (17.0%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	4 (15.4%)	3 (7.5%)	8 (9.4%)	4 (6.3%)	12 (3.0%) ⁻
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	2 (7.7%)	7 (17.5%) ⁺	10 (11.8%)	2 (3.2%)	23 (5.8%) ⁻
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	2 (7.7%)	0 (0.0%)	7 (8.2%)	3 (4.8%)	18 (4.5%)
5. わからない	1 (3.8%)	1 (2.5%)	4 (4.7%)	4 (6.3%)	22 (5.5%)
6. 該当しない	13 (50.0%)	24 (60.0%)	43 (50.6%)	43 (68.3%) ⁺	257 (64.3%) ⁺
カイ2乗統計量	2.90	7.89	3.87	5.68	28.9***

表 222 (クロス分析)両親の介護準備×金融トラブル(内訳)

Q19-4. 両親の介護準備 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	445 (100%)	91 (100%)	207 (100%)	123 (100%)	387 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	39 (8.8%)+	11 (12.1%)+	20 (9.7%)	10 (8.1%)	23 (5.9%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	63 (14.2%)	18 (19.8%)+	32 (15.5%)	13 (10.6%)	41 (10.6%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	76 (17.1%)-	25 (27.5%)	58 (28.0%)+	41 (33.3%)+	128 (33.1%)+
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	63 (14.2%)	10 (11.0%)	26 (12.6%)	17 (13.8%)	67 (17.3%)
5. わからない	36 (8.1%)	6 (6.6%)	20 (9.7%)	12 (9.8%)	42 (10.9%)
6. 該当しない	168 (37.8%)	21 (23.1%)-	51 (24.6%)-	30 (24.4%)-	86 (22.2%)-
カイ2乗統計量	18.9***	16.7***	18.0***	12.5**	56.5***

Q19-4. 両親の介護準備 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	26 (100%)	40 (100%)	85 (100%)	63 (100%)	400 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	4 (15.4%)	2 (5.0%)	9 (10.6%)	5 (7.9%)	23 (5.8%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	2 (7.7%)	4 (10.0%)	19 (22.4%)+	4 (6.3%)	37 (9.3%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	6 (23.1%)	10 (25.0%)	11 (12.9%)-	11 (17.5%)	73 (18.2%)-
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	5 (19.2%)	4 (10.0%)	7 (8.2%)	6 (9.5%)	62 (15.5%)
5. わからない	3 (11.5%)	3 (7.5%)	7 (8.2%)	4 (6.3%)	40 (10.0%)
6. 該当しない	6 (23.1%)	17 (42.5%)	32 (37.6%)	33 (52.4%)+	165 (41.3%)+
カイ2乗統計量	4.91	2.02	17.3***	10.4*	14.4**

表 223 (クロス分析)自身の老後準備×金融トラブル(内訳)

Q19-5. 自身の老後準備 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	445 (100%)	91 (100%)	207 (100%)	123 (100%)	387 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	168 (37.8%)+	20 (22.0%)	49 (23.7%)-	24 (19.5%)-	88 (22.7%)-
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	78 (17.5%)	21 (23.1%)	34 (16.4%)	18 (14.6%)	66 (17.1%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	116 (26.1%)-	35 (38.5%)	74 (35.7%)	53 (43.1%)+	156 (40.3%)+
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	47 (10.6%)	7 (7.7%)	24 (11.6%)	14 (11.4%)	38 (9.8%)
5. わからない	24 (5.4%)	4 (4.4%)	18 (8.7%)	11 (8.9%)	28 (7.2%)
6. 該当しない	12 (2.7%)	4 (4.4%)	8 (3.9%)	3 (2.4%)	11 (2.8%)
カイ2乗統計量	23.5***	7.43	7.89	13.3**	24.8***

Q19-5. 自身の老後準備 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	26 (100%)	40 (100%)	85 (100%)	63 (100%)	400 (100%)
1. 具体的に準備している(積立や保険加入など)	6 (23.1%)	11 (27.5%)	28 (32.9%)	19 (30.2%)	131 (32.8%)
2. 計画を立ててあるが、具体的な行動はこれから	4 (15.4%)	5 (12.5%)	17 (20.0%)	10 (15.9%)	56 (14.0%)
3. 計画を立てたいと思っているが、まだできていない	7 (26.9%)	13 (32.5%)	26 (30.6%)	18 (28.6%)	126 (31.5%)
4. 可能性はあるが、計画を立てる必要性を感じていない	4 (15.4%)	4 (10.0%)	3 (3.5%)	6 (9.5%)	33 (8.3%)
5. わからない	2 (7.7%)	3 (7.5%)	7 (8.2%)	6 (9.5%)	31 (7.8%)
6. 該当しない	3 (11.5%)+	4 (10.0%)+	4 (4.7%)	4 (6.3%)	23 (5.8%)+
カイ2乗統計量	5.64	4.29	4.40	1.91	8.12

Q20. あなたは、次の点について専門家(ファイナンシャルプランナー[FP]など)から助言を受けたいですか。

表 224 専門家(FP など)からの助言の希望

Q20. 専門家からの助言希望	1.生活設計全般	2.資産運用全般	3.株式投資	4.保険加入や見直し
全体	2700 (100%)	2700 (100%)	2700 (100%)	2700 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	34 (1.3%)	31 (1.1%)	30 (1.1%)	19 (0.7%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	53 (2.0%)	88 (3.3%)	71 (2.6%)	48 (1.8%)
3. 無料なら受けたい	987 (36.6%)	970 (35.9%)	871 (32.3%)	1051 (38.9%)
4. 無料でも受けたいとは思わない	641 (23.7%)	570 (21.1%)	622 (23.0%)	590 (21.9%)
5. 自分には関係がない	246 (9.1%)	356 (13.2%)	420 (15.6%)	282 (10.4%)
6. わからない・該当しない	739 (27.4%)	685 (25.4%)	686 (25.4%)	710 (26.3%)
Q20. 専門家からの助言希望(つづき)	5.住宅ローン借入 や見直し	6.納税や税金対策	7.借金の負担軽減 や整理	
全体	2700 (100%)	2700 (100%)	2700 (100%)	
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	20 (0.7%)	31 (1.1%)	21 (0.8%)	
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	36 (1.3%)	79 (2.9%)	38 (1.4%)	
3. 無料なら受けたい	642 (23.8%)	1114 (41.3%)	648 (24.0%)	
4. 無料でも受けたいとは思わない	478 (17.7%)	451 (16.7%)	414 (15.3%)	
5. 自分には関係がない	652 (24.1%)	322 (11.9%)	697 (25.8%)	
6. わからない・該当しない	872 (32.3%)	703 (26.0%)	882 (32.7%)	

表 224 は専門家 (FP など) から助言を受けたい金融や経済の知識について調査した結果である。いずれの内容についても有料で受けたいと意識する人は少ない。無料なら受けたいと思う内容の中で 1 番選択率が高いのは「6.納税や税金対策」であり、41.3%の人が無料であれば受けたいと意識している。

一方、「1.生活設計全般」、「2.資産運用全般」、「3.株式投資」、「4.保険加入や見直し」については「4.無料でも受けたいとは思わない」と回答する人がいずれも 2 割を超え、また、「5.住宅ローンの借入や見直し」と「7.借金の負担軽減や整理」に対しては「5.自分には関係が無い」と意識する人が 25%前後である。なお、いずれの内容についても「6.わからない・該当しない」と選択する人が 25%を超えている。

表 225 (クロス分析) 専門家からの助言の希望(金融トラブル経験の有無)(まとめ)

設問番号	1	2	3	4	5	6	7
専門家の助言	生活全般	資産運用	株式投資	保険	住宅ローン	税金対策	借金整理
金融トラブル経験有							
全体	1800 (100%)	1800 (100%)	1800 (100%)	1800 (100%)	1800 (100%)	1800 (100%)	1800 (100%)
1. 有料(1時間5千円以上)でも受けたい	29 (1.6%)+	26 (1.4%)+	25 (1.4%)	16 (0.9%)	17 (0.9%)	26 (1.4%)+	17 (0.9%)
2. 有料(1時間5千円未満)でも受けたい	45 (2.5%)+	75 (4.2%)+	59 (3.3%)+	40 (2.2%)+	30 (1.7%)+	66 (3.7%)+	35 (1.9%)+
3. 無料なら受けたい	770 (42.8%)+	747 (41.5%)+	681 (37.8%)+	81 (45.0%)+	492 (27.3%)+	849 (47.2%)+	529 (29.4%)+
4. 無料でも受けたいとは思わない	412 (22.9%)	360 (20.0%)-	399 (22.2%)	381 (21.2%)	315 (17.5%)	280 (15.6%)-	260 (14.4%)
5. 自分には関係がない	146 (8.1%)-	228 (12.7%)	268 (14.9%)	171 (9.5%)-	450 (25.0%)	204 (11.3%)	461 (25.6%)
6. わからない・該当しない	398 (22.1%)-	364 (20.2%)-	368 (20.4%)-	382 (21.2%)-	496 (27.6%)-	375 (20.8%)-	498 (27.7%)-
金融トラブル経験無							
全体	900 (100%)	900 (100%)	900 (100%)	900 (100%)	900 (100%)	900 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間5千円以上)でも受けたい	5 (0.6%)-	5 (0.6%)-	5 (0.6%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	5 (0.6%)-	4 (0.4%)
2. 有料(1時間5千円未満)でも受けたい	8 (0.9%)-	13 (1.4%)-	12 (1.3%)-	8 (0.9%)-	6 (0.7%)-	13 (1.4%)-	3 (0.3%)-
3. 無料なら受けたい	217 (24.1%)-	223 (24.8%)-	190 (21.1%)-	241 (26.8%)-	150 (16.7%)-	265 (29.4%)-	119 (13.2%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	229 (25.4%)	210 (23.3%)+	223 (24.8%)	209 (23.2%)	163 (18.1%)	171 (19.0%)+	154 (17.1%)
5. 自分には関係がない	100 (11.1%)+	128 (14.2%)	152 (16.9%)	111 (12.3%)+	202 (22.4%)	118 (13.1%)	236 (26.2%)
6. わからない・該当しない	341 (37.9%)+	321 (35.7%)+	318 (35.3%)+	328 (36.4%)+	376 (41.8%)+	328 (36.4%)+	384 (42.7%)+

表 225 から表 231 は金融トラブル経験の有無別で専門家からの助言の希望について比較したものである。表 225 は一覧でまとめたものであり、詳細は表 226 から表 231 で提示している。

表 225 を見ると、金融トラブル経験者は全ての助言内容に対して「2.有料(1時間5千円未満)で受けたい」と「3.無料なら受けたい」と回答する人が有意に多い。また、「生活設計全般」、「資産運用全般」、「納税や税金対策」については1時間5千円以上でも受けたいと思う人が金融トラブル経験者では有意に多くなっている。

一方、金融トラブル未経験者は全ての助言内容について「わからない・該当しない」と回答する人が有意に多い。また、いくつかの相談内容については無料でも受けたいとは思わない(資産運用全般や税金対策)、自分には関係がない(生活設計全般や保険)と意識する人も有意に多くなっている。

表 226 (クロス分析) 専門家からの助言(生活設計全般) × 金融トラブル経験の有無

Q20-1. 専門家の助言(生活設計全般) × トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	29 (1.6%) ⁺	5 (0.6%) ⁻
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	45 (2.5%) ⁺	8 (0.9%) ⁻
3. 無料なら受けたい	770 (42.8%) ⁺	217 (24.1%) ⁻
4. 無料でも受けたいとは思わない	412 (22.9%)	229 (25.4%)
5. 自分には関係がない	146 (8.1%) ⁻	100 (11.1%) ⁺
6. わからない・該当しない	398 (22.1%) ⁻	341 (37.9%) ⁺
カイ2乗統計量	132.6***	

表 227 (クロス分析) 専門家からの助言(資産運用全般) × 金融トラブル経験の有無

Q20-2. 専門家の助言(資産運用全般) × トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	26 (1.4%) ⁺	5 (0.6%) ⁻
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	75 (4.2%) ⁺	13 (1.4%) ⁻
3. 無料なら受けたい	747 (41.5%) ⁺	223 (24.8%) ⁻
4. 無料でも受けたいとは思わない	360 (20.0%) ⁻	210 (23.3%) ⁺
5. 自分には関係がない	228 (12.7%)	128 (14.2%)
6. わからない・該当しない	364 (20.2%) ⁻	321 (35.7%) ⁺
カイ2乗統計量	125.1***	

(クロス分析) 専門家からの助言(株式投資) × 金融トラブル経験の有無

Q20-3. 専門家の助言(株式投資) × トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	25 (1.4%)	5 (0.6%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	59 (3.3%) ⁺	12 (1.3%) ⁻
3. 無料なら受けたい	681 (37.8%) ⁺	190 (21.1%) ⁻
4. 無料でも受けたいとは思わない	399 (22.2%)	223 (24.8%)
5. 自分には関係がない	268 (14.9%)	152 (16.9%)
6. わからない・該当しない	368 (20.4%) ⁻	318 (35.3%) ⁺
カイ2乗統計量	120.1***	

表 228 (クロス分析) 専門家からの助言(保険加入や見直し) × 金融トラブル経験の有無

Q20-4. 専門家の助言(保険加入や見直し) × トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	16 (0.9%)	3 (0.3%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	40 (2.2%) ⁺	8 (0.9%) ⁻
3. 無料なら受けたい	81 (45.0%) ⁺	241 (26.8%) ⁻
4. 無料でも受けたいとは思わない	381 (21.2%)	209 (23.2%)
5. 自分には関係がない	171 (9.5%) ⁻	111 (12.3%) ⁺
6. わからない・該当しない	382 (21.2%) ⁻	328 (36.4%) ⁺
カイ2乗統計量	118.5***	

表 229 (クロス分析) 専門家からの助言(住宅ローン借入や見直し) × 金融トラブル経験の有無

Q20-5. 専門家の助言(住宅ローン関係) × トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	17 (0.9%)	3 (0.3%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	30 (1.7%) ⁺	6 (0.7%) ⁻
3. 無料なら受けたい	492 (27.3%) ⁺	150 (16.7%) ⁻
4. 無料でも受けたいとは思わない	315 (17.5%)	163 (18.1%)
5. 自分には関係がない	450 (25.0%)	202 (22.4%)
6. わからない・該当しない	496 (27.6%) ⁻	376 (41.8%) ⁺
カイ2乗統計量	75.6***	

表 230 (クロス分析) 専門家からの助言(納税・税金対策) × 金融トラブル経験の有無

Q20-6. 専門家の助言(納税・税金対策) × トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	26 (1.4%) ⁺	5 (0.6%) ⁻
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	66 (3.7%) ⁺	13 (1.4%) ⁻
3. 無料なら受けたい	849 (47.2%) ⁺	265 (29.4%) ⁻
4. 無料でも受けたいとは思わない	280 (15.6%) ⁻	171 (19.0%) ⁺
5. 自分には関係がない	204 (11.3%)	118 (13.1%)
6. わからない・該当しない	375 (20.8%) ⁻	328 (36.4%) ⁺
カイ2乗統計量	121.9***	

表 231 (クロス分析) 専門家からの助言(借金の負担軽減や整理) × 金融トラブル経験の有無

Q20-7. 専門家の助言(借金関係) × トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間5千円以上)でも受けたい	17 (0.9%)	4 (0.4%)
2. 有料(1時間5千円未満)でも受けたい	35 (1.9%)+	3 (0.3%)-
3. 無料なら受けたい	529 (29.4%)+	119 (13.2%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	260 (14.4%)	154 (17.1%)
5. 自分には関係がない	461 (25.6%)	236 (26.2%)
6. わからない・該当しない	498 (27.7%)-	384 (42.7%)+
カイ2乗統計量	122.5***	

表 232 から表 241 は年代(金融トラブル経験の有無)別で専門家からの助言の希望について比較したものである。表 232 は 20・30 代について、表 233 は 40・50 代について、表 234 は 60 代以上について金融トラブル経験の有無別で比較したものである。詳細は表 235 から表 241 で提示している。

表 232 から表 234 を見ると、20・30 代の金融トラブル経験者は全ての内容について無料なら受けたいと意識している人が有意に多いが、有料でも受けたいと意識している人も有意に多い(1時間5千円以上でも受けたいと意識する人も多い)。なお、40・50 代と 60 代以上の金融トラブル経験者は全ての内容に対し、無料であれば受けたいと意識する人が有意に多くなっている。

一方、金融トラブル未経験者については、いずれの年代でも「わからない・該当しない」と回答する人が有意に多いが、60 代以上の金融トラブル未経験者では、生活全般・保険・税金対策・借金整理に対しては無料でも受けたいとは思わないと意識する人が有意に多い。

表 232 (クロス分析) 専門家からの助言の希望 × 20・30 代金融トラブル経験の有無(まとめ)

設問番号	1	2	3	4	5	6	7
専門家からの助言	生活全般	資産運用	株式投資	保険	住宅ローン	税金対策	借金整理
金融トラブル経験有(20・30代)							
全体	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)
1. 有料(1時間5千円以上)でも受けたい	20 (3.3%)+	20 (3.3%)+	18 (3.0%)+	14 (2.3%)+	15 (2.5%)+	18 (3.0%)+	13 (2.2%)
2. 有料(1時間5千円未満)でも受けたい	20 (3.3%)+	31 (5.2%)+	24 (4.0%)+	19 (3.2%)+	18 (3.0%)	35 (5.8%)+	17 (2.8%)+
3. 無料なら受けたい	307 (16.5%)+	280 (46.7%)+	257 (42.8%)+	330 (55.0%)+	232 (38.7%)+	322 (53.7%)+	218 (36.3%)+
4. 無料でも受けたいとは思わない	99 (16.5%)	88 (14.7%)	105 (17.5%)	96 (16.0%)-	90 (15.0%)+	66 (11.0%)	67 (11.2%)
5. 自分には関係がない	40 (6.7%)	68 (11.3%)	81 (13.5%)	40 (6.7%)-	113 (18.8%)	49 (8.2%)	143 (23.8%)
6. わからない・該当しない	114 (19.0%)-	113 (18.8%)-	115 (19.2%)-	101 (16.8%)-	132 (22.0%)-	110 (18.3%)-	142 (23.7%)-
金融トラブル経験無(20・30代)							
全体	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)
1. 有料(1時間5千円以上)でも受けたい	2 (0.7%)-	1 (0.3%)-	2 (0.7%)-	1 (0.3%)-	1 (0.3%)-	1 (0.3%)-	2 (0.7%)
2. 有料(1時間5千円未満)でも受けたい	2 (0.7%)-	5 (1.7%)-	4 (1.3%)-	4 (1.3%)	3 (1.0%)	4 (1.3%)-	2 (0.7%)
3. 無料なら受けたい	101 (33.7%)-	93 (31.0%)-	73 (24.3%)-	103 (34.3%)-	79 (26.3%)-	107 (35.7%)-	58 (19.3%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	39 (13.0%)	38 (12.7%)	48 (16.0%)	37 (12.3%)-	30 (10.0%)-	30 (10.0%)	29 (9.7%)
5. 自分には関係がない	15 (5.0%)	30 (10.0%)	41 (13.7%)	25 (8.3%)	52 (17.3%)	26 (8.7%)	71 (23.7%)
6. わからない・該当しない	141 (47.0%)+	133 (44.3%)+	132 (44.0%)+	130 (43.3%)+	135 (45.0%)+	132 (44.0%)+	138 (46.0%)+

表 233 (クロス分析) 専門家からの助言の希望 × 40・50 代金融トラブル経験の有無(まとめ)

設問番号	1	2	3	4	5	6	7
専門家からの助言	生活全般	資産運用	株式投資	保険	住宅ローン	税金対策	借金整理
金融トラブル経験有(40・50代)							
全体	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)
1. 有料(1時間5千円以上)でも受けたい	4 (0.7%)	4 (0.7%)	4 (0.7%)	1 (0.2%)	2 (0.3%)	5 (0.8%)	3 (0.5%)
2. 有料(1時間5千円未満)でも受けたい	14 (2.3%)	23 (3.8%)+	18 (3.0%)	14 (2.3%)	9 (1.5%)	18 (3.0%)	10 (1.7%)+
3. 無料なら受けたい	261 (43.5%)+	251 (41.8%)+	220 (36.7%)+	270 (45.0%)+	181 (30.2%)+	288 (48.0%)+	208 (34.7%)+
4. 無料でも受けたいとは思わない	126 (21.0%)	105 (17.5%)-	126 (21.0%)	113 (18.8%)	100 (16.7%)	92 (15.3%)	82 (13.7%)
5. 自分には関係がない	45 (7.5%)-	81 (13.5%)	96 (16.0%)	55 (9.2%)	145 (24.2%)	60 (10.0%)-	134 (22.3%)
6. わからない・該当しない	150 (25.0%)-	136 (22.7%)-	136 (22.7%)-	147 (24.5%)-	163 (27.2%)-	137 (22.8%)-	163 (27.2%)-
金融トラブル経験無(40・50代)							
全体	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)
1. 有料(1時間5千円以上)でも受けたい	1 (0.3%)	2 (0.7%)	2 (0.7%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)
2. 有料(1時間5千円未満)でも受けたい	3 (1.0%)	4 (1.3%)-	3 (1.0%)	2 (0.7%)	2 (0.7%)	5 (1.7%)	0 (0.0%)-
3. 無料なら受けたい	68 (22.7%)-	70 (23.3%)-	56 (18.7%)-	82 (27.3%)-	49 (16.3%)-	78 (26.0%)-	42 (14.0%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	72 (24.0%)	70 (23.3%)+	74 (24.7%)	64 (21.3%)	57 (19.0%)	59 (19.7%)	49 (16.3%)
5. 自分には関係がない	40 (13.3%)+	50 (16.7%)	61 (20.3%)	40 (13.3%)	68 (22.7%)	45 (15.0%)+	80 (26.7%)
6. わからない・該当しない	116 (38.7%)+	104 (34.7%)+	104 (34.7%)+	111 (37.0%)+	123 (41.0%)+	112 (37.3%)+	128 (42.7%)+

表 234 (クロス分析) 専門家からの助言の希望 × 60 代以上金融トラブル経験の有無(まとめ)

設問番号	1	2	3	4	5	6	7
専門家からの助言	生活全般	資産運用	株式投資	保険	住宅ローン	税金対策	借金整理
金融トラブル経験有(60代以上)							
全体	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)
1. 有料(1時間5千円以上)でも受けたい	5 (0.8%)	2 (0.3%)	3 (0.5%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	3 (0.5%)	1 (0.2%)
2. 有料(1時間5千円未満)でも受けたい	11 (1.8%)	21 (3.5%)	17 (2.8%)	7 (1.2%)	3 (0.5%)	13 (2.2%)	8 (1.3%)
3. 無料なら受けたい	202 (33.7%)+	216 (36.0%)+	204 (34.0%)+	210 (35.0%)+	79 (13.2%)+	239 (39.8%)+	103 (17.2%)+
4. 無料でも受けたいとは思わない	187 (31.2%)-	167 (27.8%)	168 (28.0%)	172 (28.7%)-	125 (20.8%)	122 (20.3%)-	111 (18.5%)-
5. 自分には関係がない	61 (10.2%)-	79 (13.2%)	91 (15.2%)	76 (12.7%)	192 (32.0%)	95 (15.8%)	184 (30.7%)
6. わからない・該当しない	134 (22.3%)	115 (19.2%)-	117 (19.5%)-	134 (22.3%)-	201 (33.5%)	128 (21.3%)-	193 (32.2%)-
金融トラブル経験無(60代以上)							
全体	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)	300 (100%)
1. 有料(1時間5千円以上)でも受けたい	2 (0.7%)	2 (0.7%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	3 (1.0%)	1 (0.3%)
2. 有料(1時間5千円未満)でも受けたい	3 (1.0%)	4 (1.3%)	5 (1.7%)	2 (0.7%)	1 (0.3%)	4 (1.3%)	1 (0.3%)
3. 無料なら受けたい	48 (16.0%)-	60 (20.0%)-	61 (20.3%)-	56 (18.7%)-	22 (7.3%)-	80 (26.7%)-	19 (6.3%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	118 (39.3%)+	102 (34.0%)	101 (33.7%)	108 (36.0%)+	76 (25.3%)	82 (27.3%)+	76 (25.3%)+
5. 自分には関係がない	45 (15.0%)+	48 (16.0%)	50 (16.7%)	46 (15.3%)	82 (27.3%)	47 (15.7%)	85 (28.3%)
6. わからない・該当しない	84 (28.0%)	84 (28.0%)+	82 (27.3%)+	87 (29.0%)+	118 (39.3%)	84 (28.0%)+	118 (39.3%)+

表 235 (クロス分析) 専門家からの助言(生活設計全般) × 年代・金融トラブル経験の有無

Q20-1. 専門家の助言(生活設計全般) × トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	20 (3.3%)+	2 (0.7%)-	4 (0.7%)	1 (0.3%)	5 (0.8%)	2 (0.7%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	20 (3.3%)+	2 (0.7%)-	14 (2.3%)	3 (1.0%)	11 (1.8%)	3 (1.0%)
3. 無料なら受けたい	307 (16.5%)+	101 (33.7%)-	261 (43.5%)+	68 (22.7%)-	202 (33.7%)+	48 (16.0%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	99 (16.5%)	39 (13.0%)	126 (21.0%)	72 (24.0%)	187 (31.2%)-	118 (39.3%)+
5. 自分には関係がない	40 (6.7%)	15 (5.0%)	45 (7.5%)-	40 (13.3%)+	61 (10.2%)-	45 (15.0%)+
6. わからない・該当しない	114 (19.0%)-	141 (47.0%)+	150 (25.0%)-	116 (38.7%)+	134 (22.3%)	84 (28.0%)
カイ2乗統計量	83.0***		46.7***		34.0***	

表 236 (クロス分析) 専門家からの助言(資産運用全般) × 年代・金融トラブル経験の有無

Q20-2. 専門家の助言(資産運用全般) × トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	20 (3.3%)+	1 (0.3%)-	4 (0.7%)	2 (0.7%)	2 (0.3%)	2 (0.7%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	31 (5.2%)+	5 (1.7%)-	23 (3.8%)+	4 (1.3%)-	21 (3.5%)	4 (1.3%)
3. 無料なら受けたい	280 (46.7%)+	93 (31.0%)-	251 (41.8%)+	70 (23.3%)-	216 (36.0%)+	60 (20.0%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	88 (14.7%)	38 (12.7%)	105 (17.5%)-	70 (23.3%)+	167 (27.8%)	102 (34.0%)
5. 自分には関係がない	68 (11.3%)	30 (10.0%)	81 (13.5%)	50 (16.7%)	79 (13.2%)	48 (16.0%)
6. わからない・該当しない	113 (18.8%)-	133 (44.3%)+	136 (22.7%)-	104 (34.7%)+	115 (19.2%)-	84 (28.0%)+
カイ2乗統計量	74.2***		39.0***		31.3***	

表 237 (クロス分析) 専門家からの助言(株式投資) × 年代・金融トラブル経験の有無

Q20-3. 専門家の助言(生活設計全般) × トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	18 (3.0%)+	2 (0.7%)-	4 (0.7%)	2 (0.7%)	3 (0.5%)	1 (0.3%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	24 (4.0%)+	4 (1.3%)-	18 (3.0%)	3 (1.0%)	17 (2.8%)	5 (1.7%)
3. 無料なら受けたい	257 (42.8%)+	73 (24.3%)-	220 (36.7%)+	56 (18.7%)-	204 (34.0%)+	61 (20.3%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	105 (17.5%)	48 (16.0%)	126 (21.0%)	74 (24.7%)	168 (28.0%)	101 (33.7%)
5. 自分には関係がない	81 (13.5%)	41 (13.7%)	96 (16.0%)	61 (20.3%)	91 (15.2%)	50 (16.7%)
6. わからない・該当しない	115 (19.2%)-	132 (44.0%)+	136 (22.7%)-	104 (34.7%)+	117 (19.5%)-	82 (27.3%)+
カイ2乗統計量	73.4***		38.7***		21.9***	

表 238 (クロス分析) 専門家からの助言(保険加入や見直し) × 年代・金融トラブル経験の有無

Q20-4. 専門家の助言(保険 関連) × トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上) でも受けたい	14 (2.3%)+	1 (0.3%)-	1 (0.2%)	1 (0.3%)	1 (0.2%)	1 (0.3%)
2. 有料(1時間 5千円未満) でも受けたい	19 (3.2%)+	4 (1.3%)	14 (2.3%)	2 (0.7%)	7 (1.2%)	2 (0.7%)
3. 無料なら受けたい	330 (55.0%)+	103 (34.3%)-	270 (45.0%)+	82 (27.3%)-	210 (35.0%)+	56 (18.7%)-
4. 無料でも受けたいとは思 わない	96 (16.0%)-	37 (12.3%)-	113 (18.8%)	64 (21.3%)	172 (28.7%)-	108 (36.0%)+
5. 自分には関係がない	40 (6.7%)-	25 (8.3%)	55 (9.2%)	40 (13.3%)	76 (12.7%)	46 (15.3%)
6. わからない・該当しない	101 (16.8%)-	130 (43.3%)+	147 (24.5%)-	111 (37.0%)+	134 (22.3%)-	87 (29.0%)+
カイ2乗統計量	82.5***		34.2***		26.9***	

表 239 (クロス分析) 専門家からの助言(住宅ローン借入や見直し) × 年代・金融トラブル経験の有無

Q20-5. 専門家の助言(住宅 ローン関連) × トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上) でも受けたい	15 (2.5%)+	1 (0.3%)-	2 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)
2. 有料(1時間 5千円未満) でも受けたい	18 (3.0%)	3 (1.0%)	9 (1.5%)	2 (0.7%)	3 (0.5%)	1 (0.3%)
3. 無料なら受けたい	232 (38.7%)+	79 (26.3%)-	181 (30.2%)+	49 (16.3%)-	79 (13.2%)+	22 (7.3%)-
4. 無料でも受けたいとは思 わない	90 (15.0%)+	30 (10.0%)-	100 (16.7%)	57 (19.0%)	125 (20.8%)	76 (25.3%)
5. 自分には関係がない	113 (18.8%)	52 (17.3%)	145 (24.2%)	68 (22.7%)	192 (32.0%)	82 (27.3%)
6. わからない・該当しない	132 (22.0%)-	135 (45.0%)+	163 (27.2%)-	123 (41.0%)+	201 (33.5%)	118 (39.3%)
カイ2乗統計量	57.2***		29.0***		13.4**	

表 240 (クロス分析) 専門家からの助言(納税や税金対策) × 年代・金融トラブル経験の有無

Q20-6. 専門家の助言(税金 関連) × トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上) でも受けたい	18 (3.0%)+	1 (0.3%)-	5 (0.8%)	1 (0.3%)	3 (0.5%)	3 (1.0%)
2. 有料(1時間 5千円未満) でも受けたい	35 (5.8%)+	4 (1.3%)-	18 (3.0%)	5 (1.7%)	13 (2.2%)	4 (1.3%)
3. 無料なら受けたい	322 (53.7%)+	107 (35.7%)-	288 (48.0%)+	78 (26.0%)-	239 (39.8%)+	80 (26.7%)-
4. 無料でも受けたいとは思 わない	66 (11.0%)	30 (10.0%)	92 (15.3%)	59 (19.7%)	122 (20.3%)-	82 (27.3%)+
5. 自分には関係がない	49 (8.2%)	26 (8.7%)	60 (10.0%)-	45 (15.0%)+	95 (15.8%)	47 (15.7%)
6. わからない・該当しない	110 (18.3%)-	132 (44.0%)+	137 (22.8%)-	112 (37.3%)+	128 (21.3%)-	84 (28.0%)+
カイ2乗統計量	78.9***		47.7***		19.4***	

表 241 (クロス分析) 専門家からの助言(借金の負担軽減や整理) × 年代・金融トラブル経験の有無

Q20-7. 専門家の助言(借金 関連) × トラブル有無	20・30 代		40・50 代		60 代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 有料(1 時間 5 千円以上) でも受けたい	13 (2.2%)	2 (0.7%)	3 (0.5%)	1 (0.3%)	1 (0.2%)	1 (0.3%)
2. 有料(1 時間 5 千円未満) でも受けたい	17 (2.8%) ⁺	2 (0.7%)	10 (1.7%) ⁺	0 (0.0%) ⁻	8 (1.3%)	1 (0.3%)
3. 無料なら受けたい	218 (36.3%) ⁺	58 (19.3%) ⁻	208 (34.7%) ⁺	42 (14.0%) ⁻	103 (17.2%) ⁺	19 (6.3%) ⁻
4. 無料でも受けたいとは思 わない	67 (11.2%)	29 (9.7%)	82 (13.7%)	49 (16.3%)	111 (18.5%) ⁻	76 (25.3%) ⁺
5. 自分には関係がない	143 (23.8%)	71 (23.7%)	134 (22.3%)	80 (26.7%)	184 (30.7%)	85 (28.3%)
6. わからない・該当しない	142 (23.7%) ⁻	138 (46.0%) ⁺	163 (27.2%) ⁻	128 (42.7%) ⁺	193 (32.2%) ⁻	118 (39.3%) ⁺
カイ 2 乗統計量	58.5***		53.3***		27.4***	

表 242 (クロス分析) 専門家からの助言の希望×金融トラブル内訳(まとめ)

設問番号	1	2	3	4	5	6	7
専門家の助言	生活全般	資産運用	株式投資	保険	住宅ローン	税金対策	借金整理
1.十分に理解できないまま金融商品を購入	+	++	++	++	++	++	+
2.消費者ローン支払い返済のために借入	+	+	+	+	++	+	++
3.消費者金融会社からお金を借りた	+	+	+	+	++	+	++
4.住宅ローン等の返済資金を遅延した					+		++
5.公共料金等の支払いを遅延した	+			+	+	+	+
6.振り込め詐欺に遭ったことがある	+	+	+	+	+		+
7.他の金融商品に関連する詐欺に遭った				+	+		+
8.金融商品に関するトラブルを経験	++	++	++	++	++	++	++
9.保証人として借金の肩代わりをさせられた	+	+	+	+	+		+

注) +は 5%水準以上で有料でも受けたいと意識する人が有意に多い、+は 5%水準以上で無料であれば受けたいと意識する人が有意に多いことを表す。

表 242 から表 249 は金融トラブル内訳別で専門家からの助言の希望について比較したものである。表 242 は希望がある箇所だけをまとめたものであり、赤の+は 5%水準以上で有料でも受けたいと回答する人が有意に多いことを、青の+は無料であれば受けたいと回答する人が有意に多いことを表している。詳細は表 243 から表 249 で提示している。

表 242 を見ると、消費者ローン利用者(金融トラブル内訳 2・3) や振り込め詐欺に遭ったことがある人(金融トラブル内訳 6)、及び保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある人(金融トラブル内訳 9) は、ほぼ全ての内容について有料でも受けたいと意識する人が有意に多くなっている。

そして、十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある人(金融トラブル内訳 1) や金融商品に関するトラブルを経験したことがある人(金融トラブル内訳 8) は、全ての内容に対して有料でも受けたいと意識する人が有意に多い一方で、無料であれば受けたいと意識する人も有意に多い。

なお、公共料金等の支払いを遅延したことがある人は(金融トラブル内訳 5)、資産運用と株式投資以外では無料であれば受けたいと意識する人が有意に多くなっている。

表 243 (クロス分析) 専門家からの助言(生活設計全般)×金融トラブル(内訳)

Q20-1. 専門家の助言 (生活設計全般) ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	13 (1.9%)	12 (7.0%)+	13 (3.1%)+	6 (2.2%)	8 (1.1%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	17 (2.5%)	9 (5.3%)+	13 (3.1%)	7 (2.5%)	21 (2.8%)
3. 無料なら受けたい	331 (48.5%)+	70 (40.9%)	159 (37.9%)	108 (39.1%)	309 (41.1%)+
4. 無料でも受けたいとは思わない	171 (25.0%)	36 (21.1%)	89 (21.2%)	59 (21.4%)	168 (22.3%)
5. 自分には関係がない	37 (5.4%)-	12 (7.0%)	33 (7.9%)	27 (9.8%)	71 (9.4%)
6. わからない・該当しない	114 (16.7%)-	32 (18.7%)-	113 (26.9%)	69 (25.0%)	175 (23.3%)-
カイ2乗統計量	92.2***	65.6***	19.1***	4.62	17.2***

Q20-1. 専門家の助言 (生活設計全般) ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	3 (6.1%)+	2 (3.8%)	7 (5.9%)+	4 (3.7%)+	5 (0.6%)-
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	2 (4.1%)	0 (0.0%)	6 (5.1%)+	5 (4.6%)+	8 (0.9%)-
3. 無料なら受けたい	18 (36.7%)	26 (49.1%)	64 (54.2%)+	29 (26.6%)-	217 (24.1%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	10 (20.4%)	14 (26.4%)	21 (17.8%)	31 (28.4%)	229 (25.4%)
5. 自分には関係がない	5 (10.2%)	4 (7.5%)	9 (7.6%)	7 (6.4%)	100 (11.1%)+
6. わからない・該当しない	11 (22.4%)	7 (13.2%)-	11 (9.3%)-	33 (30.3%)	341 (37.9%)+
カイ2乗統計量	11.3**	10.4*	54.9***	14.6**	132.6***

表 244 (クロス分析) 専門家からの助言(資産運用全般) × 金融トラブル(内訳)

Q20-2. 専門家の助言 (資産運用全般) × 金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま 金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの 支払いの返済のために 借入をした	3. 消費者金融会社からお 金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードロー ンなどの返済資金を用意す ることができなかった	5. 公共料金や保険料など の支払いを遅延したことが ある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受 けたい	17 (2.5%)+	9 (5.3%)+	10 (2.4%)+	3 (1.1%)	8 (1.1%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受 けたい	32 (4.7%)+	8 (4.7%)	23 (5.5%)+	8 (2.9%)	28 (3.7%)
3. 無料なら受けたい	345 (50.5%)+	61 (36.7%)	137 (32.6%)	93 (33.7%)	269 (35.8%)
4. 無料でも受けたいとは思わない	137 (20.1%)	39 (22.8%)	85 (20.2%)	58 (21.0%)	152 (20.2%)
5. 自分には関係がない	50 (7.3%)-	24 (14.0%)	59 (14.0%)	46 (16.7%)	129 (17.2%)+
6. わからない・該当しない	102 (14.9%)-	30 (17.5%)-	106 (25.2%)	68 (16.7%)	166 (22.1%)-
カイ2乗統計量	137.7***	32.8***	16.1***	3.45	18.1***

Q20-2. 専門家の助言 (資産運用全般) × 金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に 遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連す る詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラ ブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩 代わりをさせられたことが ある	10. 上記に該当する経験 は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受 けたい	4 (8.2%)+	2 (3.8%)	7 (5.9%)+	5 (4.6%)+	5 (0.6%)-
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受 けたい	1 (2.0%)	0 (0.0%)	9 (7.6%)+	4 (3.7%)	13 (1.4%)-
3. 無料なら受けたい	17 (34.7%)	23 (43.4%)	61 (51.7%)+	26 (23.9%)-	223 (24.8%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	11 (22.4%)	15 (28.3%)	19 (16.1%)	30 (27.5%)	210 (23.3%)+
5. 自分には関係がない	5 (10.2%)	6 (11.3%)	10 (8.5%)	14 (12.8%)	128 (14.2%)
6. わからない・該当しない	11 (22.4%)	7 (13.2%)-	12 (10.2%)-	30 (27.5%)	321 (35.7%)+
カイ2乗統計量	22.2***	10.5*	55.1***	18.8***	125.1***

表 245 (クロス分析) 専門家からの助言(株式投資) × 金融トラブル(内訳)

Q20-3. 専門家の助言 (株式投資) × 金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま 金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの 支払いの返済のために 借入をした	3. 消費者金融会社からお 金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードロー ンなどの返済資金を用意す ることができなかった	5. 公共料金や保険料など の支払いを遅延したことが ある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受 けたい	16 (2.3%)+	9 (5.3%)+	11 (2.6%)+	3 (1.1%)	8 (1.1%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受 けたい	26 (3.8%)+	6 (3.5%)	18 (4.3%)+	8 (2.9%)	23 (3.1%)
3. 無料なら受けたい	329 (48.2%)+	63 (36.8%)	135 (32.1%)	85 (30.8%)	233 (31.0%)
4. 無料でも受けたいとは思わない	151 (22.1%)	36 (21.1%)	90 (21.4%)	60 (21.7%)	163 (21.7%)
5. 自分には関係がない	63 (9.2%)-	27 (15.8%)	65 (15.5%)	53 (19.2%)	149 (19.8%)+
6. わからない・該当しない	98 (14.3%)-	30 (17.5%)-	101 (24.0%)	67 (24.3%)	176 (23.4%)
カイ2乗統計量	157.0***	34.8***	16.3***	3.30	15.9***

Q20-3. 専門家の助言 (株式投資) × 金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に 遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連す る詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラ ブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩 代わりをさせられたことが ある	10. 上記に該当する経験 は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受 けたい	3 (6.1%)+	2 (3.8%)	6 (5.1%)+	4 (3.7%)+	5 (0.6%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受 けたい	2 (4.1%)	2 (3.8%)	5 (4.2%)	6 (5.5%)	12 (1.3%)-
3. 無料なら受けたい	15 (30.6%)	21 (39.6%)	59 (50.0%)+	23 (21.1%)-	190 (21.1%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	12 (24.5%)	15 (28.3%)	25 (21.2%)	31 (28.4%)	223 (24.8%)
5. 自分には関係がない	6 (12.2%)	6 (11.3%)	11 (9.3%)	15 (13.8%)	152 (16.9%)
6. わからない・該当しない	11 (22.4%)	7 (13.2%)-	12 (10.2%)-	30 (27.5%)	318 (35.3%)+
カイ2乗統計量	12.3**	9.07	45.3***	16.5***	120.1***

表 246 (クロス分析) 専門家からの助言(保険加入や見直し) × 金融トラブル(内訳)

Q20-4. 専門家の助言 (保険加入や見直し) × 金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	10 (1.5%)+	9 (5.3%)+	7 (1.7%)+	4 (1.4%)	7 (0.9%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	18 (2.6%)+	7 (4.1%)+	12 (2.9%)	7 (2.5%)	12 (1.6%)
3. 無料なら受けたい	320 (46.9%)+	74 (43.3%)	175 (41.7%)	115 (41.7%)	342 (45.5%)+
4. 無料でも受けたいとは思わない	160 (23.4%)	37 (21.6%)	84 (20.0%)	56 (20.3%)	148 (19.7%)
5. 自分には関係がない	60 (8.8%)	11 (6.4%)	38 (9.0%)	28 (10.1%)	79 (10.5%)
6. わからない・該当しない	115 (16.8%)-	33 (19.3%)-	104 (24.8%)	66 (23.9%)	164 (21.8%)-
カイ2乗統計量	60.6***	66.5***	12.9**	5.05	22.7***

Q20-4. 専門家の助言 (保険加入や見直し) × 金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	2 (4.1%)+	2 (3.8%)+	4 (3.4%)+	4 (3.7%)+	3 (0.3%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	3 (6.1%)+	0 (0.0%)	4 (3.4%)	2 (1.8%)	8 (0.9%)-
3. 無料なら受けたい	18 (36.7%)	22 (41.5%)	61 (51.7%)+	31 (28.4%)-	241 (26.8%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	7 (14.3%)	14 (26.4%)	25 (21.2%)	28 (25.7%)	200 (23.2%)
5. 自分には関係がない	6 (12.2%)	6 (11.3%)	13 (11.0%)	10 (9.2%)	111 (12.3%)+
6. わからない・該当しない	13 (26.5%)	9 (17.0%)	11 (9.3%)-	34 (31.2%)	328 (36.4%)+
カイ2乗統計量	14.9**	10.6*	33.2***	19.4***	118.5***

表 247 (クロス分析) 専門家からの助言(住宅ローン借入や見直し) × 金融トラブル(内訳)

Q20-5. 専門家の助言 (住宅ローン借入や見直し) × 金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	9 (1.3%)+	9 (5.3%)+	9 (2.1%)+	4 (1.4%)	7 (0.9%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	10 (1.5%)	4 (2.3%)	11 (2.6%)+	6 (2.2%)	14 (1.9%)
3. 無料なら受けたい	188 (27.5%)+	55 (32.2%)+	119 (28.3%)+	88 (31.9%)+	214 (28.5%)+
4. 無料でも受けたいとは思わない	121 (17.7%)	32 (18.7%)	70 (16.7%)	48 (17.4%)	130 (17.3%)
5. 自分には関係がない	171 (25.0%)	35 (20.5%)	94 (22.4%)	53 (19.2%)-	181 (24.1%)
6. わからない・該当しない	184 (26.9%)-	36 (21.1%)-	117 (27.9%)-	77 (27.9%)	206 (27.4%)-
カイ2乗統計量	18.0***	65.5***	27.7***	17.2***	20.2***

Q20-5. 専門家の助言 (住宅ローン借入や見直し) × 金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	2 (4.1%)+	2 (3.8%)+	3 (2.5%)+	3 (2.8%)+	3 (0.3%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	2 (4.1%)	0 (0.0%)	5 (4.2%)+	3 (2.8%)	6 (0.7%)-
3. 無料なら受けたい	11 (22.4%)	12 (22.6%)	42 (35.6%)+	14 (12.8%)-	150 (16.7%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	10 (20.4%)	12 (22.6%)	14 (11.9%)	22 (20.2%)	163 (18.1%)
5. 自分には関係がない	12 (24.5%)	11 (20.8%)	38 (32.2%)+	24 (22.0%)	202 (22.4%)-
6. わからない・該当しない	12 (24.5%)	16 (30.2%)	16 (13.6%)-	43 (39.4%)	376 (41.8%)+
カイ2乗統計量	11.5**	8.54	39.6***	16.0***	75.6***

表 248 (クロス分析) 専門家からの助言(納税や税金対策) × 金融トラブル(内訳)

Q20-6. 専門家の助言 (納税や税金対策) × 金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま 金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの 支払いの返済のために 借入をした	3. 消費者金融会社からお 金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードロー ンなどの返済資金を用意す ることができなかった	5. 公共料金や保険料など の支払いを遅延したことが ある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受 けたい	17 (2.5%)+	7 (4.1%)+	8 (1.9%)	4 (1.4%)	10 (1.3%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受 けたい	32 (4.7%)+	10 (5.8%)+	20 (4.8%)+	9 (3.3%)	28 (3.7%)
3. 無料なら受けたい	350 (51.2%)+	81 (47.4%)	175 (41.7%)	119 (43.1%)	348 (46.3%)+
4. 無料でも受けたいとは思わない	111 (16.3%)	32 (18.7%)	65 (15.5%)	44 (15.9%)	115 (15.3%)
5. 自分には関係がない	62 (9.1%)-	14 (8.2%)	52 (12.4%)	39 (14.1%)	86 (11.4%)
6. わからない・該当しない	111 (16.3%)-	27 (15.8%)-	100 (23.8%)	61 (22.1%)	165 (21.9%)-
カイ2乗統計量	86.0***	30.7***	9.71*	3.81	17.1***

Q20-6. 専門家の助言 (納税や税金対策) × 金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に 遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連す る詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラ ブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩 代わりをさせられたことが ある	10. 上記に該当する経験 は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受 けたい	2 (4.1%)	2 (3.8%)	4 (3.4%)+	3 (2.8%)	5 (0.6%)-
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受 けたい	3 (6.1%)	0 (0.0%)	7 (5.9%)+	3 (2.8%)	13 (1.4%)-
3. 無料なら受けたい	21 (42.9%)	24 (45.3%)	64 (54.2%)+	31 (28.4%)-	265 (29.4%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	9 (18.4%)	10 (18.9%)	15 (12.7%)	22 (20.2%)	171 (19.0%)+
5. 自分には関係がない	5 (10.2%)	9 (17.0%)	14 (11.9%)	14 (12.8%)	118 (13.1%)
6. わからない・該当しない	9 (18.4%)	8 (15.1%)	14 (11.9%)-	36 (33.0%)	328 (36.4%)+
カイ2乗統計量	6.85	8.84	24.9***	10.1*	121.9***

表 249 (クロス分析) 専門家からの助言(借金の負担軽減や整理) × 金融トラブル(内訳)

Q20-7. 専門家の助言 (借金の負担軽減や整理) × 金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者金融の支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	10 (1.5%)+	7 (4.1%)+	6 (1.4%)	5 (1.8%)+	8 (1.1%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	15 (2.2%)+	10 (5.8%)+	15 (3.6%)+	6 (2.2%)	12 (1.6%)
3. 無料なら受けたい	166 (24.3%)	83 (48.5%)+	171 (40.7%)+	132 (47.8%)+	229 (30.5%)+
4. 無料でも受けたいとは思わない	103 (15.1%)	28 (16.4%)	59 (14.0%)	30 (10.9%)-	107 (14.2%)
5. 自分には関係がない	198 (29.0%)+	16 (9.4%)-	72 (17.1%)-	36 (13.0%)-	192 (25.5%)
6. わからない・該当しない	191 (28.0%)-	27 (15.8%)-	97 (23.1%)-	67 (24.3%)-	204 (27.1%)-
カイ2乗統計量	19.4***	132.4***	106.1***	108.3***	30.1***

Q20-7. 専門家の助言 (借金の負担軽減や整理) × 金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 有料(1時間 5千円以上)でも受けたい	2 (4.1%)+	2 (3.8%)+	3 (2.5%)+	3 (2.8%)+	4 (0.4%)
2. 有料(1時間 5千円未満)でも受けたい	1 (2.0%)	0 (0.0%)	3 (2.5%)	1 (0.9%)	3 (0.3%)-
3. 無料なら受けたい	16 (32.7%)	18 (34.0%)	43 (36.4%)+	23 (21.1%)	119 (13.2%)-
4. 無料でも受けたいとは思わない	7 (14.3%)	8 (15.1%)	13 (11.0%)	21 (19.3%)	154 (17.1%)
5. 自分には関係がない	13 (26.5%)	12 (22.6%)	36 (30.5%)	23 (21.1%)	236 (26.2%)
6. わからない・該当しない	10 (20.4%)	13 (24.5%)	20 (16.9%)-	38 (34.9%)	384 (42.7%)+
カイ2乗統計量	11.0*	10.5*	25.9***	8.58	122.5***

<金融経済教育の経験>

Q21. 金融や経済について、学校で学んだことがあるものを下記の中からすべて選んでください。また、それが卒業後の生活に役立っていると思うものを選んでください。

表 250 金融・経済で学んだ経験・役立っているもの

Q21. 学んだ経験／役立っているもの	1. 学んだ経験	2. 役立っているもの	2. 役立っているもの
2700	2700 (選択率)	2700 (選択率)	学んだ経験人数 (選択率)
1. 経済の基本的な仕組み	915 (33.9%)	485 (18.0%)	485 (53.0%)
2. 財政	511 (18.9%)	164 (6.1%)	164 (32.1%)
3. 生活設計と家計管理	333 (12.3%)	172 (6.4%)	172 (51.7%)
4. 消費者の権利と責任	358 (13.3%)	155 (5.7%)	155 (43.3%)
5. クレジットやローン	313 (11.6%)	187 (6.9%)	187 (59.7%)
6. 銀行	422 (15.6%)	191 (7.1%)	191 (45.3%)
7. 証券	239 (8.9%)	114 (4.2%)	114 (47.7%)
8. 保険	295 (10.9%)	164 (6.1%)	164 (55.6%)
9. 年金制度	428 (15.9%)	223 (8.3%)	223 (52.1%)
10. 具体的な項目はわからない	299 (11.1%)	233 (8.6%)	233 (77.9%)
11. 学んだものはない／役立っているものはない	1300 (48.1%)	1666 (61.7%)	1666 (128.2%)

表 250 は金融や経済について学校で学んだ経験、及び卒業後の生活に役立っている内容について調査した結果である。約半分（48.1%）が学んだ経験がないと回答しており、また約 6 割（61.7%）が役立っているものはないと回答している。

学んだ経験がある項目で 1 番選択率が高い内容は「1.経済の基本的な仕組み」で 33.9%であり、次いで「2.財政」が 18.9%である。

そして、卒業後の生活に役立っている内容を見ると、「1.経済の基本的な仕組み」が 18%で 1 番多い。

なお、「1.学んだ経験」の選択人数に対し「2.役立っているもの」を選択した比率を見ると（表 250 の 3 列目）、「5.クレジットやローン」が 1 番高く（但し、具体的な項目はわからないを除く）、約 6 割（59.7%）が役立っていると回答している。一方「2.財政」については学んだ経験がある人の内、役立っていると回答している人は約 3 割（32.1%）である。

表 251 (クロス分析)金融・経済で学んだ経験・役立っているもの×金融トラブル経験の有無

Q21. 学んだ経験・役立っているもの ×金融トラブル経験の有無	1. 学んだ経験		2. 役に立っているもの	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (選択率)	900 (選択率)	1800 (選択率)	900 (選択率)
1. 経済の基本的な仕組み	670 (37.2%)+	245 (27.2)-	368 (20.4%)+	117 (13.0%)-
カイ2乗統計量	26.8***		22.6***	
2. 財政	374 (20.8%)+	137 (15.2)-	125 (6.9%)+	39 (4.3%)-
カイ2乗統計量	12.01***		7.17***	
3. 生活設計と家計管理	248 (13.8%)+	85 (9.4)-	133 (7.4%)+	39 (4.3%)-
カイ2乗統計量	10.4***		9.39***	
4. 消費者の権利と責任	274 (15.2%)+	84 (9.3)-	121 (6.7%)+	34 (3.8%)-
カイ2乗統計量	18.1***		9.61***	
5. クレジットやローン	234 (13.0%)+	79 (8.8)-	141 (7.8%)+	46 (5.1)-
カイ2乗統計量	10.4***		6.90***	
6. 銀行	315 (17.5%)+	107 (11.9)-	142 (7.9%)+	49 (5.4%)-
カイ2乗統計量	14.3***		5.45**	
7. 証券	172 (9.6%)	67 (7.4%)	86 (4.8%)+	28 (3.1%)-
カイ2乗統計量	3.31*		4.12**	
8. 保険	219 (12.2%)+	76 (8.4)-	125 (6.9%)+	39 (4.3%)-
カイ2乗統計量	8.54***		7.17***	
9. 年金制度	323 (17.9%)+	105 (11.7)-	170 (9.4%)+	53 (5.9%)-
カイ2乗統計量	17.7***		10.0***	
10. 具体的な項目はわからない	216 (12.0%)+	83 (9.2)-	165 (9.2%)	68 (7.6%)
カイ2乗統計量	4.70**		1.98	
11. 学んだものはない／役立っているものはない	768 (42.7%)-	532 (59.1%)+	1019 (56.6%)-	647 (71.9%)+
カイ2乗統計量	65.0***		59.3***	

表 251 は金融トラブル経験の有無で金融や経済について学校で学んだ経験、及び卒業後の生活に役立っている内容を比較したものである。証券について学んだ経験は金融トラブル経験の有無で10%水準での有意差であるが、全体的にはほぼ1%水準で有意差が見られ、いずれの内容についても金融トラブル経験の方が学んだ経験が卒業後の生活に役立っていると回答する人が有意に多い。

なお、金融トラブル未経験者については「学んだものはない／役立っているものはない」と回答する人が有意に多くなっている。

表 252 (クロス分析)金融・経済で学んだ経験×年代・金融トラブル経験の有無

Q21-1. 学んだ経験 ×年代・金融トラブル有無	1. 学んだ経験					
	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)
1. 経済の基本的な仕組み	234 (39.0%)+	76 (25.3%)-	215 (35.8%)+	70 (23.3%)-	221 (36.8%)	99 (33.0%)
カイ2乗統計量	16.5***		14.4***		1.28	
2. 財政	123 (20.5%)+	38 (12.7%)-	121 (20.2%)+	31 (10.3%)-	130 (21.7%)	68 (22.7%)
カイ2乗統計量	8.36***		13.8***		0.12	
3. 生活設計と家計管理	104 (17.3%)+	22 (7.3%)-	72 (12.0%)+	23 (7.7%)-	72 (12.0%)	40 (13.3%)
カイ2乗統計量	16.6***		3.98*		0.33	
4. 消費者の権利と責任	124 (20.7%)+	28 (9.3%)-	75 (12.5%)+	17 (5.7%)-	75 (12.5%)	39 (13.0%)
カイ2乗統計量	18.3***		10.2***		0.05	
5. クレジットやローン	98 (16.3%)+	24 (8.0%)-	69 (11.5%)+	19 (6.3%)-	67 (11.2%)	36 (12.0%)
カイ2乗統計量	11.9***		6.05**		0.14	
6. 銀行	103 (17.2%)+	29 (9.7%)-	92 (15.3%)+	22 (7.3%)-	120 (20.0%)	56 (18.7%)
カイ2乗統計量	8.99***		11.6***		0.23	
7. 証券	51 (8.5%)	15 (5.0%)	59 (9.8%)+	13 (4.3%)-	62 (10.3%)	39 (13.0%)
カイ2乗統計量	3.61*		8.22***		1.43	
8. 保険	71 (11.8%)+	15 (5.0%)-	73 (12.2%)+	17 (5.7%)-	75 (12.5%)	44 (14.7%)
カイ2乗統計量	10.8***		9.39***		0.82	
9. 年金制度	122 (20.3%)+	30 (10.0%)-	92 (15.3%)+	23 (7.7%)-	109 (18.2%)	52 (17.3%)
カイ2乗統計量	15.2***		10.5***		0.10	
10. 具体的な項目はわからない	68 (11.3%)	31 (10.3%)	85 (14.2%)+	26 (8.7%)-	63 (10.5%)	26 (8.7%)
カイ2乗統計量	0.20		5.60**		0.75	
11. 学んだものはない／役立っているものはない	229 (38.2%)-	186 (62.0%)+	263 (43.8%)-	185 (61.7%)+	276 (46.0%)-	161 (53.7%)+
カイ2乗統計量	45.7***		25.4***		4.71**	

表 252 は「1.学んだ経験」について年代（金融トラブル経験の有無）別で比較したものである。表 251 より証券以外の全ての内容について金融トラブル経験者は学んだ経験があると回答していたが、年代別で見ると 20・30代と 40・50代の金融トラブル経験者であることがわかる（60代以上では金融トラブル経験の有無で統計的な有意差は見られない）。なお、20・30代では証券投資について学んだ経験は 10%水準の有意差であるが、40・50代では 1%水準の有意差が見られ、金融トラブル経験者は証券投資について学んだ経験が有意に多い。

いずれの年代においても金融トラブル未経験者は「学んだことがない」と回答する人が有意に多くなっている。

表 253 (クロス分析)金融・経済で役立っているもの×年代・金融トラブルの有無

Q21-2. 役立っているもの ×年代・金融トラブル有無	2. 役に立っているもの					
	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)
1. 経済の基本的な仕組み	125 (20.8%)+	35 (11.7%)-	124 (20.7%)+	29 (9.7%)-	119 (19.8%)	53 (17.7%)
カイ2乗統計量	11.5***		17.2***		0.61	
2. 財政	44 (7.3%)+	9 (3.0%)-	41 (6.8%)+	10 (3.3%)-	40 (6.7%)	20 (6.7%)
カイ2乗統計量	6.78**		4.58**		0.00	
3. 生活設計と家計管理	64 (10.7%)+	8 (2.7%)-	35 (5.8%)	13 (4.3%)	34 (5.7%)	18 (6.0%)
カイ2乗統計量	17.4***		0.89		0.04	
4. 消費者の権利と責任	57 (9.5%)+	9 (3.0%)-	32 (5.3%)	8 (2.7%)	32 (5.3%)	17 (5.7%)
カイ2乗統計量	12.4***		3.35*		0.04	
5. クレジットやローン	69 (11.5%)+	17 (5.7%)-	33 (5.5%)	13 (4.3%)	39 (6.5%)	16 (5.3%)
カイ2乗統計量	7.88***		0.56		0.47	
6. 銀行	47 (7.8%)+	11 (3.7%)-	44 (7.3%)+	9 (3.0%)-	51 (8.5%)	29 (9.7%)
カイ2乗統計量	5.76**		6.78**		0.34	
7. 証券	26 (4.3%)	6 (2.0%)	31 (5.2%)+	6 (2.0%)-	29 (4.8%)	16 (5.3%)
カイ2乗統計量	3.18*		5.09**		0.11	
8. 保険	43 (7.2%)+	7 (2.3%)-	42 (7.0%)+	11 (3.7%)-	40 (6.7%)	21 (7.0%)
カイ2乗統計量	8.91***		4.01*		0.04	
9. 年金制度	52 (8.7%)+	14 (4.7%)-	44 (7.3%)+	11 (3.7%)-	74 (12.3%)	28 (9.3%)
カイ2乗統計量	4.71**		4.69**		1.79	
10. 具体的な項目はわからない	55 (9.2%)	29 (9.7%)	64 (10.7%)	20 (6.7%)	46 (7.7%)	19 (6.3%)
カイ2乗統計量	0.06		3.78*		0.53	
11. 学んだものはない／役立っているものはない	314 (52.3%)-	222 (74.0%)+	346 (57.7%)-	227 (75.7%)+	359 (59.8%)	198 (66.0%)
カイ2乗統計量	39.0***		28.0***		3.23*	

表 253 は「2.役に立っているもの」について年代（金融トラブル経験の有無）別で比較したものである。表 251 より全ての内容について金融トラブル経験者は役立っていると回答していたが、20・30代の金融トラブル経験者がそのように意識していることがわかる（但し、証券については40・50代が役立っていると意識している人が有意に多い）。60代以上では金融トラブル経験の有無で役に立っているという意識に統計的な有意差は見られない。

表 254 (クロス分析)金融・経済で学んだ経験×金融トラブル(内訳)

Q21-1. 学んだ経験 ×金融トラブル(内訳)	1. 学んだ経験				
	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (選択率)	171 (選択率)	420 (選択率)	276 (選択率)	752 (選択率)
1. 経済の基本的な仕組み	249 (36.5%)	67 (39.2%)	149 (35.5%)	108 (39.1%)	298 (39.6%)+
カイ2乗統計量	0.10	0.13	0.47	3.77*	15.3***
2. 財政	152 (22.3%)+	42 (24.6%)	94 (22.4%)+	54 (19.6%)	153 (20.3%)
カイ2乗統計量	6.60**	3.78*	3.87*	0.08	1.37
3. 生活設計と家計管理	99 (14.5%)+	31 (18.1%)+	62 (14.8%)	44 (15.9%)	108 (14.4%)+
カイ2乗統計量	3.95*	5.67**	2.71	3.70*	3.97*
4. 消費者の権利と責任	103 (15.1%)	35 (20.5%)+	67 (16.0%)	48 (17.4%)+	128 (17.0%)+
カイ2乗統計量	2.64	8.25***	3.14*	4.56**	12.8***
5. クレジットやローン	90 (13.2%)	30 (17.5%)+	65 (15.5%)+	43 (15.6%)+	109 (14.5%)+
カイ2乗統計量	2.24	6.31**	7.32**	4.77**	8.57***
6. 銀行	133 (19.5%)+	41 (24.0%)+	85 (20.2%)+	57 (20.7%)+	129 (17.2%)
カイ2乗統計量	10.2***	9.65***	8.01***	5.88**	1.84
7. 証券	80 (11.7%)+	23 (13.5%)+	43 (10.2%)	23 (8.3%)	65 (8.6%)
カイ2乗統計量	9.28***	4.79**	1.19	0.10	0.06
8. 保険	91 (13.3%)+	28 (16.4%)+	56 (13.3%)	36 (13.0%)	96 (12.8%)
カイ2乗統計量	5.40**	5.57**	2.96*	1.42	3.63*
9. 年金制度	119 (17.4%)	40 (23.4%)+	80 (19.0%)+	52 (18.8%)	158 (21.0%)+
カイ2乗統計量	1.69	7.78***	3.81*	2.06	20.8***
10. 具体的な項目はわからない	63 (9.2%)	22 (12.9%)	64 (15.2%)+	30 (10.9%)	97 (12.9%)
カイ2乗統計量	3.18*	0.60	8.76***	0.01	3.53*
11. 学んだものはない/役立っているものはない	314 (46.0%)	62 (36.3%)-	173 (41.2%)-	114 (41.3%)-	293 (39.0%)-
カイ2乗統計量	1.73	10.3***	9.64***	5.77**	35.2***

表 254 は「1.学んだ経験」について金融トラブル内訳別で比較したものである。金融トラブル内訳 2 と 8 の人は他の金融トラブル該当者と比較して、学んだ経験がある内容が有意に多い。

(クロス分析)金融・経済で学んだ経験×金融トラブル(内訳)(つづき)

Q21-1. 学んだ経験 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	1. 学んだ経験				
	6. 振り込み詐欺の被害に 遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する 詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラ ブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩 代わりをさせられたこと がある	10. 上記に該当する経験 は一つもない
全体	49 (選択率)	53 (選択率)	118 (選択率)	109 (選択率)	900 (選択率)
1. 経済の基本的な仕組み	18 (36.7%)	21 (39.6%)	56 (47.5%)+	45 (41.3%)	245 (27.2)-
カイ2乗統計量	0.18	0.79	10.1***	2.77*	26.8***
2. 財政	14 (28.6%)	11 (20.8%)	34 (28.8%)+	26 (23.9%)	137 (15.2)-
カイ2乗統計量	3.03*	0.12	7.86***	1.80	12.1***
3. 生活設計と家計管理	10 (20.4%)	10 (18.9%)	25 (21.2%)+	20 (18.3%)	85 (9.4)-
カイ2乗統計量	3.01	2.14	8.95***	3.80*	10.4***
4. 消費者の権利と責任	13 (26.5%)+	8 (15.1%)	31 (26.3%)+	20 (18.3%)	84 (9.3)-
カイ2乗統計量	7.64**	0.16	18.2***	2.56	18.1***
5. クレジットやローン	12 (24.5%)+	11 (20.8%)+	28 (23.7%)+	23 (21.1%)+	79 (8.8)-
カイ2乗統計量	8.10**	4.43**	17.7***	10.0***	10.4***
6. 銀行	14 (28.6%)+	17 (32.1%)+	31 (26.3%)+	22 (20.2%)	107 (11.9)-
カイ2乗統計量	6.34**	11.1***	10.6***	1.79	14.3***
7. 証券	7 (14.3%)	8 (15.1%)	20 (16.9%)+	15 (13.8%)	67 (7.4%)
カイ2乗統計量	1.83	2.61	10.0***	3.39*	3.31*
8. 保険	13 (3.5%)+	12 (22.6%)+	24 (20.3%)+	22 (20.2%)+	76 (8.4)-
カイ2乗統計量	12.5***	7.62**	11.2***	10.0***	8.54***
9. 年金制度	14 (28.6%)+	7 (13.2%)	30 (25.4%)+	21 (19.3%)	105 (11.7)-
カイ2乗統計量	6.05**	0.28	8.48***	0.99	17.7***
10. 具体的な項目はわからない	6 (12.2%)	4 (7.5%)	8 (6.8%)	12 (11.0%)	83 (9.2)-
カイ2乗統計量	0.07	0.68	2.31	0.00	4.70**
11. 学んだものはない/役立 っているものはない	20 (40.8%)	23 (43.4%)	44 (37.3)-	46 (42.2%)	532 (59.1)+
カイ2乗統計量	1.08	0.49	5.83**	1.61	65.0***

表 255 (クロス分析)金融・経済で役立っているもの×金融トラブル(内訳)

Q21-2. 役立っているもの ×金融トラブル(内訳)	2. 役立っているもの				
	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (選択率)	171 (選択率)	420 (選択率)	276 (選択率)	752 (選択率)
1. 経済の基本的な仕組み	154 (22.5%)+	40 (23.4%)	85 (20.2%)	56 (20.3%)	149 (19.8%)
カイ2乗統計量	13.0***	3.65*	1.75	1.13	2.42
2. 財政	61 (8.9%)+	20 (11.7%)+	34 (8.1%)	19 (6.9%)	49 (6.5%)
カイ2乗統計量	13.1***	10.1***	3.56*	0.35	0.36
3. 生活設計と家計管理	49 (7.2%)	15 (8.8%)	30 (7.1%)	26 (9.4%)+	62 (8.2%)+
カイ2乗統計量	0.99	1.77	0.50	4.79**	6.14**
4. 消費者の権利と責任	43 (6.3%)	19 (11.1%)+	32 (7.6%)	22 (8.0%)	53 (7.0%)
カイ2乗統計量	0.52	9.73***	3.24*	2.83	3.29*
5. クレジットやローン	55 (8.1%)	17 (9.9%)	41 (9.8%)+	29 (10.5%)+	65 (8.6%)+
カイ2乗統計量	1.80	2.57	6.21**	6.12**	4.77**
6. 銀行	52 (7.6%)	18 (10.5%)	35 (8.3%)	27 (9.8%)	56 (7.4%)
カイ2乗統計量	0.41	3.31*	1.20	3.43*	0.22
7. 証券	44 (6.4%)+	14 (8.2%)+	27 (6.4%)+	14 (5.1%)	32 (4.3%)
カイ2乗統計量	11.1***	7.10**	5.99**	0.55	0.003
8. 保険	49 (7.2%)	14 (8.2%)	37 (8.8%)+	23 (8.3%)	51 (6.8%)
カイ2乗統計量	1.94	1.43	6.52**	2.75	0.92
9. 年金制度	65 (9.5%)	23 (13.5%)+	46 (11.0%)+	26 (9.4%)	78 (10.4%)+
カイ2乗統計量	1.91	6.49**	4.76**	0.55	6.14**
10. 具体的な項目はわからない	50 (7.3%)	18 (10.5%)	54 (12.9%)+	23 (8.3%)	74 (9.8%)
カイ2乗統計量	1.99	0.83	11.3***	0.03	1.94
11. 学んだものはない/役立っているものはない	392 (57.4%)-	88 (51.5%)-	225 (53.6%)-	154 (55.8%)-	416 (55.3%)-
カイ2乗統計量	7.19***	8.10***	13.9***	4.54**	18.0***

表 255 は金融トラブル内訳別で役立っている経済・金融の知識について比較したものである。「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人は、卒業後の生活に役立っている内容が有意に多い。

(クロス分析)金融・経済で役立っているもの×金融トラブル(内訳)(つづき)

Q21-2. 役立っているもの ×金融トラブル(内訳) (つづき)	2. 役立っているもの				
	6. 振り込み詐欺の被害に 遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する 詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラ ブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩 代わりをさせられたこと がある	10. 上記に該当する経験 は一つもない
全体	49 (選択率)	53 (選択率)	118 (選択率)	109 (選択率)	900 (選択率)
1. 経済の基本的な仕組み	12 (24.5%)	11 (20.8%)	32 (27.1%)+	28 (25.7%)+	117 (13.0)-
カイ2乗統計量	1.44	0.29	7.02**	4.60**	22.6***
2. 財政	7 (14.3%)+	4 (7.5%)	14 (11.9%)+	11 (10.1%)	39 (4.3)-
カイ2乗統計量	5.90**	0.21	7.25**	3.21*	7.17***
3. 生活設計と家計管理	7 (14.3%)+	7 (13.2%)+	15 (12.7%)+	11 (10.1%)	39 (4.3)-
カイ2乗統計量	5.24**	4.24*	8.32**	2.64	9.39***
4. 消費者の権利と責任	5 (10.2%)	3 (5.7%)	11 (9.3%)	7 (6.4%)	34 (3.8)-
カイ2乗統計量	1.84	0.001	2.93	0.10	9.61***
5. クレジットやローン	7 (14.3%)+	6 (11.3%)	16 (13.6%)+	12 (11.0%)	46 (5.1)-
カイ2乗統計量	4.19*	1.62	8.42***	2.94	6.90***
6. 銀行	5 (10.2%)	7 (13.2%)	18 (15.3%)+	8 (7.3%)	49 (5.4)-
カイ2乗統計量	0.74	3.09*	12.6***	0.01	5.45**
7. 証券	3 (6.1%)	3 (5.7%)	12 (10.2%)+	8 (7.3%)	28 (3.1)-
カイ2乗統計量	0.45	0.28	10.8***	2.73	4.12**
8. 保険	6 (12.2%)	8 (84.9%)+	14 (11.9%)+	10 (9.2%)	39 (4.3)-
カイ2乗統計量	3.33	7.71**	7.25**	1.91	7.17***
9. 年金制度	8 (16.3%)+	3 (5.7%)	19 (16.1%)+	11 (10.1%)	53 (5.9)-
カイ2乗統計量	4.29*	0.48	10.0***	0.50	10.0***
10. 具体的な項目はわからない	5 (10.2%)	3 (5.7%)	7 (5.9%)	8 (7.3%)	68 (7.6%)
カイ2乗統計量	0.16	0.60	1.14	0.24	1.98
11. 学んだものはない/役立 っているものはない	26 (53.1%)	30 (56.6%)	57 (48.3)-	60 (55.0%)	647 (71.9)+
カイ2乗統計量	1.58	0.60	9.37***	2.13	59.3***

Q22. 金融経済教育を中学校や高校の授業として行うことの必要性について、現在の認識とご自身が学生であったときの認識を伺います。

表 256 金融経済教育の必要性

Q22. 金融経済教育の必要性	1. 現在の認識	2. 学生時代の認識
全体	2700 (100%)	2700 (100%)
1. 非常に必要である	864 (32.0%)	273 (10.1%)
2. 必要である	874 (32.4%)	395 (14.6%)
3. 少し必要である	400 (14.8%)	543 (20.1%)
4. あまり必要でない	111 (4.1%)	568 (21.0%)
5. 全く必要でない	44 (1.6%)	253 (9.4%)
6. わからない	407 (15.1%)	668 (24.7%)

表 256 は金融経済教育の必要性について現在の認識と学生時代の認識を比較したものである。現在の認識については「1.非常に必要である」及び「2.必要である」と認識している人はともに3割を超え、約8割（79.2%）が「必要である（選択肢1～3の計）」と認識している。一方、学生時代の認識としては、現在の認識と比較して必要性の認識は低かった傾向が見られる。現在の認識として「必要でない（選択肢4と5の計）」と認識していた人は5.7%であるが、学生時代には約3割（30.4%）が金融経済教育の必要性を認識していない。

表 257 (クロス分析)金融経済教育の必要性×金融トラブル経験の有無

Q22. 金融経済教育の必要性 ×金融トラブル経験の有無	1. 現在の認識		2. 学生時代の認識	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)	1800 (100%)	900 (100%)
1. 非常に必要である	654 (36.3%)+	210 (23.3)-	196 (10.9%)	77 (8.6%)
2. 必要である	616 (34.2%)+	258 (28.7)-	286 (15.9%)+	109 (12.1)-
3. 少し必要である	267 (14.8%)	133 (14.8%)	373 (20.7%)	170 (18.9%)
4. あまり必要でない	73 (4.1%)	38 (4.2%)	406 (22.6%)+	162 (18.0)-
5. 全く必要でない	26 (1.4%)	18 (2.0%)	178 (9.9%)	75 (8.3%)
6. わからない	164 (9.1)-	243 (27.0)+	361 (20.1)-	307 (34.1)+
カイ2乗統計量	166.0***		65.5***	

表 257 は金融トラブル経験の有無で金融経済教育の必要性について比較したものである。まず現在の認識で比較すると、金融トラブル経験者の方が「必要である（選択肢 1 と 2 の計）」と認識している人が有意に多く、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多い。

そして、学生時代の認識を見ると、金融トラブル経験者は「2.必要である」と認識していた人が有意に多い一方で、「4.あまり必要でない」と認識していた人も有意に多く、金融トラブル経験者の学生時代の認識としては分かれている。なお、現在の認識と同様、学生時代の認識においても、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多い。

表 258 (クロス分析)金融経済教育の必要性(現在の認識)×年代・金融トラブル経験の有無

Q22-1. 金融経済教育の 必要性(現在の認識) ×年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 非常に必要である	257 (42.8%)+	79 (26.3%)-	215 (35.8%)+	73 (24.3%)-	182 (30.3%)+	58 (19.3%)-
2. 必要である	158 (26.3%)	62 (20.7%)	206 (34.3%)+	82 (27.3%)-	252 (42.0%)	114 (38.0%)
3. 少し必要である	96 (16.0%)	43 (14.3%)	87 (14.5%)	49 (16.3%)	84 (14.0%)	41 (13.7%)
4. あまり必要でない	24 (4.0%)	16 (5.3%)	21 (3.5%)	9 (3.0%)	28 (4.7%)	13 (4.3%)
5. 全く必要でない	11 (1.8%)	3 (1.0%)	7 (1.2%)	8 (2.7%)	8 (1.3%)	7 (2.3%)
6. わからない	54 (9.0%)-	97 (32.3%)+	64 (10.7%)-	79 (26.3%)+	46 (7.7%)-	67 (22.3%)+
カイ2乗統計量	84.2***		45.5***		45.4***	

表 259 (クロス分析)金融経済教育の必要性(学生時代の認識)×年代・金融トラブルの有無

Q22-2. 金融経済教育の 必要性(学生時の認識) ×年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 非常に必要である	78 (13.0%)	29 (9.7%)	64 (10.7%)	22 (7.3%)	54 (9.0%)	26 (8.7%)
2. 必要である	89 (14.8%)	34 (11.3%)	92 (15.3%)	32 (10.7%)	105 (17.5%)	43 (14.3%)
3. 少し必要である	124 (20.7%)	61 (20.3%)	130 (21.7%)	56 (18.7%)	119 (19.8%)	53 (17.7%)
4. あまり必要でない	144 (24.0%)+	42 (14.0%)-	114 (19.0%)	57 (19.0%)	148 (24.7%)	63 (21.0%)
5. 全く必要でない	63 (10.5%)	25 (8.3%)	59 (9.8%)	28 (9.3%)	56 (9.3%)	22 (7.3%)
6. わからない	102 (17.0%)-	109 (36.3%)+	141 (23.5%)-	105 (35.0%)+	118 (19.7%)-	93 (31.0%)+
カイ2乗統計量	46.2***		16.1***		14.8**	

表 258 は年代（金融トラブル経験の有無）別で金融経済教育の必要性について現在の認識を比較したものである。いずれの年代においても金融トラブル経験者は「1.非常に必要である」と認識している人が有意に多く、また 40・50 代では「2.必要である」と認識する人も有意に多い。

しかし、表 259 の学生時代の認識を見ると、40・50 代と 60 代以上で金融トラブル経験の有無で学生時代の認識に統計的な有意差は見られない（但し「わからない」は除く）。20・30 代では有意差は見られ、金融トラブル経験者は学生時代「4.あまり必要ではない」と認識する人が有意に多くなっている。

なお、現在の認識、及び学生時代の認識ともに、いずれの年代においても金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多い。

表 260 は金融トラブルの内訳別で金融経済教育の必要性について現在の認識を比較したものである。

「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」と「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」で 1%水準の統計的な有意差が見られ、該当者は「1.非常に必要である」あるいは「2.必要である」と認識している人が有意に多い。

一方、表 261 から学生時代の認識を見ると、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は現在の認識と同様、学生時代でも金融経済教育の必要性を認識している人が有意に多い。

また、「9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」人は学生時代には金融経済教育の必要性を認識している人が有意に多くなっている。

なお、「6.振り込め詐欺の被害に遭ったことがある」人は、学生時代では金融経済教育は全く必要ではないと認識している人が有意に多い。

表 260 (クロス分析)金融経済教育の必要性(現在の認識)×金融トラブル(内訳)

Q22-1. 金融経済教育の必要性 (現在の認識) ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 非常に必要である	261 (38.2%)+	65 (38.0%)	148 (35.2%)+	105 (38.0%)+	283 (37.6%)+
2. 必要である	244 (35.7%)+	60 (35.1%)	144 (34.3%)	96 (34.8%)	242 (32.2%)
3. 少し必要である	91 (13.3%)	26 (15.2%)	53 (12.6%)	32 (11.6%)	114 (15.2%)
4. あまり必要でない	30 (4.4%)	2 (1.2%)-	16 (3.8%)	8 (2.9%)	30 (4.0%)
5. 全く必要でない	10 (1.5%)	3 (1.8%)	7 (1.7%)	5 (1.8%)	9 (1.2%)
6. わからない	47 (6.9%)-	15 (8.8%)-	52 (12.4%)-	30 (10.9%)-	74 (9.8%)-
カイ2乗統計量	56.6***	11.2**	6.32	11.0*	30.6***

Q22-1. 金融経済教育の必要性 (現在の認識) ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 非常に必要である	18 (36.7%)	16 (30.2%)	43 (36.4%)	37 (33.9%)	210 (23.3%)-
2. 必要である	15 (30.6%)	25 (47.2%)+	45 (38.1%)	38 (34.9%)	258 (28.7%)-
3. 少し必要である	10 (20.4%)	8 (15.1%)	16 (13.6%)	16 (14.7%)	133 (14.8%)
4. あまり必要でない	2 (4.1%)	0 (0.0%)	6 (5.1%)	3 (2.8%)	38 (4.2%)
5. 全く必要でない	2 (4.1%)	1 (1.9%)	2 (1.7%)	2 (1.8%)	18 (2.0%)
6. わからない	2 (4.1%)-	3 (5.7%)	6 (5.1%)-	13 (11.9%)	243 (27.0%)+
カイ2乗統計量	7.29	9.14	10.6*	1.64	166.0***

表 261 (クロス分析)金融経済教育の必要性(学生時代の認識)×金融トラブル(内訳)

Q22-2. 金融経済教育の必要性 (学生時代の認識) ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 非常に必要である	83 (12.0%)+	26 (15.2%)+	47 (11.2%)	28 (10.1%)	74 (9.8%)
2. 必要である	120 (17.6%)+	26 (15.2%)	60 (14.3%)	41 (14.9%)	108 (14.4%)
3. 少し必要である	139 (20.4%)	30 (17.5%)	81 (19.3%)	54 (19.6%)	165 (21.9%)
4. あまり必要でない	155 (22.7%)	39 (22.8%)	85 (20.2%)	58 (21.0%)	171 (22.7%)
5. 全く必要でない	63 (9.2%)	19 (11.1%)	54 (12.9%)+	38 (13.8%)+	76 (10.1%)
6. わからない	123 (18.0%)-	31 (18.1%)-	93 (22.1%)	57 (20.7%)	158 (21.0%)-
カイ2乗統計量	27.2***	9.41*	8.74	8.48	9.73*

Q22-2. 金融経済教育の必要性 (学生時代の認識) ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 非常に必要である	7 (14.3%)	6 (11.3%)	17 (14.4%)	19 (17.4%)+	77 (8.6%)
2. 必要である	9 (18.4%)	8 (15.1%)	21 (17.8%)	19 (17.4%)	109 (12.1%)-
3. 少し必要である	10 (20.4%)	11 (20.8%)	31 (26.3%)	9 (8.3%)-	170 (18.9%)
4. あまり必要でない	7 (14.3%)	14 (26.4%)	24 (20.3%)	24 (22.0%)	162 (18.0%)-
5. 全く必要でない	10 (20.4%)+	4 (7.5%)	10 (8.5%)	10 (9.2%)	75 (8.3%)
6. わからない	6 (12.2%)-	10 (18.9%)	15 (12.7%)-	28 (25.7%)	307 (34.1%)+
カイ2乗統計量	12.1**	1.79	12.8**	14.7**	65.5***

Q23. あなたは、現在、金融に関する知識・情報をどこから得ていますか。次の中から、主な入手源(いくつでも)、および特に重要な入手源(2つまで)を選んでください。

表 262 金融に関する知識・情報の入手源

Q23. 金融知識・情報の入手源	1. 主な入手源	2. 重要な入手源
全体	2700 (選択率)	2700 (選択率)
1. 金融機関の職員やパンフレット・広告	815 (30.2%)	473 (17.5%)
2. 会社等が用意する金融の専門家(金融機関の職員を除く)による講演会やセミナーなど	214 (7.9%)	114 (4.2%)
3. 個人で応募する金融の専門家(金融機関の職員を除く)による講演会やセミナーなど	200 (7.4%)	89 (3.3%)
4. 確定拠出年金に係る継続教育の一環としてのセミナーなど	144 (5.3%)	56 (2.1%)
5. 金融の専門家(フィナンシャル・プランナーなど)(金融機関の職員を除く)に対する個人的な相談	235 (6.7%)	152 (5.6%)
6. 書籍、雑誌、ホームページなどを独学	1279 (47.4%)	1009 (37.4%)
7. 家族・友人(日常会話など)	705 (26.1%)	360 (13.3%)
8. 会社・職場(業務を通じて等)	421 (15.6%)	160 (5.9%)
9. 日常生活	725 (26.9%)	336 (12.4%)
10. その他	164 (6.1%)	117 (4.3%)
11. 知識・情報を得る必要はない	174 (6.4%)	174 (6.4%)
12. 知識・情報を得たいが、どこから得ていいのかわからない	522 (19.3%)	522 (19.3%)

表 262 は金融に関する知識・情報の主な入手源、及び、その中から特に重要な2つの入手源について調査した結果である。主な入手源として1番多いのは「6.書籍、雑誌、ホームページなどの独学」で47.4%であり、次いで「1.金融機関の職員やパンフレット・広告」が30.2%、「7.家族・友人」や「9.日常生活」が約26%である。なお、重要な入手源についても主な入手源と順位は変わらない。

ちなみに、主な入手源、重要な入手源ともに「12.知識・情報を得たいが、どこから得ていいのかわからない」と回答する人が約2割(19.3%)である。

表 263 (クロス分析)金融に関する知識・情報の入手源×金融トラブル経験の有無

Q23. 金融知識・情報の入手源 ×金融トラブル経験有無	1. 主な入手源(いくつでも)		2. 重要な入手源(2つまで)	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (選択率)	900 (選択率)	1800 (選択率)	900 (選択率)
1. 金融機関の職員やパンフレット・広告	611 (33.9%)+	204 (22.7%)-	349 (19.4%)+	124 (13.8%)-
カイ2乗統計量	36.2***		13.1***	
2. 会社等が用意する金融の専門家(金融機関の職員を除く)による講演会やセミナーなど	173 (9.6%)+	41 (4.6%)-	88 (4.9%)+	23 (2.9%)-
カイ2乗統計量	21.0***		5.94**	
3. 個人で応募する金融の専門家(金融機関の職員を除く)による講演会やセミナーなど	163 (9.1%)+	37 (4.1%)-	73 (4.1%)+	16 (1.8%)-
カイ2乗統計量	21.4***		9.77***	
4. 確定拠出年金に係る継続教育の一環としてのセミナーなど	116 (6.4%)+	28 (3.1%)-	43 (2.4%)	13 (1.4%)
カイ2乗統計量	13.2***		2.64	
5. 金融の専門家(ファイナンシャル・プランナーなど)(金融機関の職員を除く)に対する個人的な相談	192 (10.7%)+	43 (4.8%)-	124 (6.9%)+	28 (3.1%)-
カイ2乗統計量	26.2***		16.1***	
6. 書籍、雑誌、ホームページなどを独学	919 (51.1%)+	360 (40.0%)-	718 (39.9%)+	291 (32.3%)-
カイ2乗統計量	29.4***		14.6***	
7. 家族・友人(日常会話など)	505 (28.1%)+	200 (22.2%)-	236 (13.1%)	124 (13.8%)
カイ2乗統計量	10.6***		0.23	
8. 会社・職場(業務を通じて等)	325 (18.1%)+	96 (10.7%)-	124 (6.9%)+	36 (4.0%)-
カイ2乗統計量	24.9***		8.98***	
9. 日常生活	525 (29.2%)+	200 (22.2%)-	233 (12.9%)	103 (11.4%)
カイ2乗統計量	14.7***		1.24	
10. その他	112 (6.2%)	52 (5.8%)	75 (4.2%)	42 (4.7%)
カイ2乗統計量	0.21		0.36	
11. 知識・情報を得る必要はない	96 (5.3%)-	78 (8.7%)+	96 (5.3%)-	78 (8.7%)+
カイ2乗統計量	11.1***		11.1***	
12. 知識・情報を得たいが、どこから得ていいのかわからない	280 (15.6%)-	242 (26.9%)+	280 (15.6%)-	242 (26.9%)+
カイ2乗統計量	49.4***		49.4***	

表 263 は金融トラブル経験の有無別で金融に関する知識・情報の入手源について比較したものである。主な入手源、重要な入手源ともに金融トラブル経験者は専門家、及び独学や周りから積極的に情報入手している傾向が見られる。なお、金融トラブル未経験者は「11.知識・情報を得る必要はない」あるいは「12.知識・情報を得たいが、どこから得ていいのかわからない」と回答する人が有意に多い。

表 264 (クロス分析)金融に関する知識・情報の入手源(主な入手源)×年代・金融トラブル経験の有無

Q23-1. 金融知識・情報(主な入手源) ×年代・金融トラブル有無	1. 主な入手源(いくつでも)					
	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)
1. 金融機関の職員やパンフレット・広告	171 (28.5%)+	36 (12.0%)-	163 (27.2%)+	60 (20.0%)-	277 (46.2%)+	108 (36.0%)-
カイ2乗統計量	30.7***		5.51**		8.45***	
2. 会社等が用意する金融の専門家による講演会やセミナーなど	61 (10.2%)+	11 (3.7%)-	49 (8.2%)+	10 (3.3%)-	63 (10.5%)	20 (6.7%)
カイ2乗統計量	11.5***		7.63***		3.51*	
3. 個人で応募する金融の専門家による講演会やセミナーなど	54 (9.0%)+	10 (3.3%)-	43 (7.2%)+	6 (2.0%)-	66 (11.0%)	21 (7.0%)
カイ2乗統計量	9.72***		10.4***		3.67*	
4. 確定拠出年金に係る継続教育の一環としてのセミナーなど	40 (6.7%)+	4 (1.3%)-	46 (7.7%)+	11 (3.7%)-	30 (5.0%)	13 (4.3%)
カイ2乗統計量	12.2***		5.39**		0.20	
5. 金融の専門家(フィナンシャル・プランナーなど)に対する個人的な相談	74 (12.3%)+	7 (2.3%)-	59 (9.8%)+	12 (4.0%)-	59 (9.8%)	24 (8.0%)
カイ2乗統計量	24.4***		9.37***		0.80	
6. 書籍、雑誌、ホームページなどを独学	277 (46.2%)+	84 (28.0%)-	304 (50.7%)+	121 (40.3%)-	338 (56.3%)	155 (51.7%)
カイ2乗統計量	27.5***		8.57***		1.76	
7. 家族・友人(日常会話など)	200 (33.3%)+	77 (25.7%)-	137 (22.8%)	70 (23.3%)	168 (28.0%)+	53 (17.7%)-
カイ2乗統計量	5.52**		0.03		11.5***	
8. 会社・職場(業務を通じて等)	128 (21.3%)+	37 (12.3%)-	118 (19.7%)+	35 (11.7%)-	79 (13.2%)+	24 (8.0%)-
カイ2乗統計量	10.8***		9.07***		5.27**	
9. 日常生活	182 (30.3%)+	58 (19.3%)-	149 (24.8%)+	54 (18.0%)-	194 (32.3%)	88 (29.3%)
カイ2乗統計量	12.4***		5.35**		0.84	
10. その他	29 (4.8%)	9 (3.0%)	37 (6.2%)	28 (9.3%)	46 (7.7%)	15 (5.0%)
カイ2乗統計量	1.66		2.99		2.25	
11. 知識・情報を得る必要はない	21 (3.5%)	14 (4.7%)	40 (6.7%)-	33 (11.0%)+	35 (5.8%)-	31 (10.3%)+
カイ2乗統計量	0.73		5.04**		5.96**	
12. 知識・情報を得たいが、どこから得ていいのかわからない	124 (20.7%)-	124 (41.3%)+	101 (16.8%)-	73 (24.3%)+	55 (9.2%)-	45 (15.0%)+
カイ2乗統計量	42.8***		7.21***		6.89**	

表 264 は年代(金融トラブル経験の有無)別で金融に関する知識・情報の「主な入手源」を比較したものである。20・30代や40・50代の金融トラブル経験者は様々なところから情報を入手している傾向が見られるが、60代については、専門家によるセミナー等からの入手や独学では金融トラブル経験の有無で統計的な有意差は見られない。なお、40・50代と60代以上の金融トラブル未経験者は「11.知識・情報を得る必要はない」と意識する人が有意に多い。また、いずれの年代においても金融トラブル未経験者は「12.知識・情報を得たいが、どこから得ていいのかわからない」と回答する人が有意に多い。

表 265 (クロス分析)金融に関する知識・情報の入手源(重要な入手源)×年代・金融トラブル経験の有無

Q23-2. 金融知識・情報(重要な入手源) ×年代・金融トラブル有無	2. 重要な入手源(2つまで)					
	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)
1. 金融機関の職員やパンフレット・広告	93 (15.5%)+	24 (8.0%)-	90 (15.0%)	33 (11.0%)	166 (27.7%)	67 (22.3%)
カイ2乗統計量	9.95***		2.71		2.97*	
2. 会社等が用意する金融の専門家による講演会やセミナーなど	34 (5.7%)+	7 (2.3%)-	22 (3.7%)	9 (3.0%)	32 (5.3%)	10 (3.3%)
カイ2乗統計量	5.11**		0.27		1.80	
3. 個人で応募する金融の専門家による講演会やセミナーなど	29 (4.8%)+	5 (1.7%)-	13 (2.2%)	2 (0.7%)	31 (5.2%)	9 (3.0%)
カイ2乗統計量	5.52**		2.75		2.21	
4. 確定拠出年金に係る継続教育の一環としてのセミナーなど	10 (1.7%)	2 (0.7%)	18 (3.0%)	7 (2.3%)	15 (2.5%)	4 (1.3%)
カイ2乗統計量	1.52		0.33		1.32	
5. 金融の専門家(フィナンシャル・プランナーなど)に対する個人的な相談	45 (7.5%)+	5 (1.7%)-	42 (7.0%)+	8 (2.7%)-	37 (6.2%)	15 (5.0%)
カイ2乗統計量	13.0***		7.16***		0.50	
6. 書籍、雑誌、ホームページなどを独学	210 (35.0%)+	71 (23.7%)-	244 (40.7%)+	95 (31.7%)-	264 (44.0%)	125 (41.7%)
カイ2乗統計量	12.0***		6.90***		0.44	
7. 家族・友人(日常会話など)	108 (18.0%)	55 (18.3%)	61 (10.2%)-	44 (14.7%)+	67 (11.2%)	25 (8.3%)
カイ2乗統計量	0.02		3.93*		1.75	
8. 会社・職場(業務を通じて等)	46 (7.7%)	13 (4.3%)	50 (8.3%)+	13 (4.3%)-	28 (4.7%)	10 (3.3%)
カイ2乗統計量	3.63*		4.92**		0.88	
9. 日常生活	86 (14.3%)	32 (10.7%)	69 (11.5%)	27 (9.0%)	78 (13.0%)	44 (14.7%)
カイ2乗統計量	2.36		1.31		0.47	
10. その他	19 (3.2%)	7 (2.3%)	27 (4.5%)-	25 (8.3%)+	29 (4.8%)	10 (3.3%)
カイ2乗統計量	0.50		5.40**		1.09	
11. 知識・情報を得る必要はない	21 (3.5%)	14 (4.7%)	40 (6.7%)-	33 (11.0%)+	35 (5.8%)-	31 (10.3%)+
カイ2乗統計量	0.73		5.04**		5.96**	
12. 知識・情報を得たいが、どこから得たいのかわからない	124 (20.7%)-	124 (41.3%)+	101 (16.8%)-	73 (24.3%)+	55 (9.2%)-	45 (15.0%)+
カイ2乗統計量	42.8***		7.21***		6.89**	

表 265 は年代(金融トラブル経験の有無)別で金融に関する知識・情報の「重要な入手源」について比較したものである。「主な入手源」と比較すると金融トラブル経験の有無で「重要な入手源」に統計的に有意差は見られなくなる選択肢が多い。特に、60代以上では入手している人について比較すると金融トラブル経験の有無で有意差は見られない。20・30代については家族や会社等の周りからの入手について金融トラブル経験の有無で有意差は見られなくなり、また、40・50代では専門家等によるセミナーからの入手について有意差が見られなくなっている。

表 266 (クロス分析) 金融に関する知識・情報の入手源(主な入手源) × 金融トラブル(内訳)

Q23-1. 金融知識・情報の入手源 (主な入手源) × 金融トラブル(内訳)	1. 主な入手源(いくつでも)				
	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (選択率)	171 (選択率)	420 (選択率)	276 (選択率)	752 (選択率)
1. 金融機関の職員やパンフレット・広告	293 (42.9%)+	61 (36.3%)	119 (28.3%)	68 (24.6%)-	214 (28.5%)
カイ2乗統計量	70.1***	3.19*	0.81	4.49**	1.48
2. 会社等が用意する金融の専門家による講演会やセミナーなど	96 (14.1%)+	22 (12.9%)+	39 (9.3%)	29 (10.5%)	47 (6.3%)-
カイ2乗統計量	47.1***	6.10**	1.26	2.81*	4.01**
3. 個人で応募する金融の専門家による講演会やセミナーなど	93 (13.6%)+	16 (9.4%)	35 (8.3%)	18 (6.5%)	46 (6.1%)
カイ2乗統計量	51.4***	1.01	0.62	0.35	2.53
4. 確定拠出年金に係る継続教育の一環としてのセミナーなど	67 (9.8%)+	18 (10.5%)+	23 (5.5%)	20 (7.2%)	38 (5.1%)
カイ2乗統計量	36.3***	9.75***	0.02	2.23	0.16
5. 金融の専門家(ファイナンシャル・プランナーなど)に対する個人的な相談	99 (14.5%)+	23 (13.5%)+	37 (8.8%)	21 (7.6%)	63 (8.4%)
カイ2乗統計量	38.6***	5.18**	0.01	0.46	0.14
6. 書籍、雑誌、ホームページなどを独学	378 (55.3%)+	78 (45.6%)	210 (50.0%)	130 (47.1%)	365 (48.5%)
カイ2乗統計量	23.3***	0.23	1.38	0.01	0.57
7. 家族・友人(日常会話など)	182 (26.6%)	49 (28.7%)	113 (26.9%)	75 (27.2%)	240 (31.9%)+
カイ2乗統計量	0.14	0.61	0.16	0.18	18.2***
8. 会社・職場(業務を通じて等)	122 (17.9%)	39 (22.8%)+	76 (18.1%)	56 (20.3%)+	152 (20.2%)+
カイ2乗統計量	3.58*	7.22**	2.37	5.15**	16.9***
9. 日常生活	188 (27.5%)	56 (32.7%)	118 (28.1%)	79 (28.6%)	230 (30.6%)+
カイ2乗統計量	0.21	3.23*	0.39	0.49	7.40***
10. その他	45 (6.6%)	14 (8.2%)	27 (6.4%)	13 (4.7%)	52 (6.9%)
カイ2乗統計量	0.42	1.43	0.11	1.00	1.29
11. 知識・情報を得る必要はない	15 (2.2%)-	12 (7.0%)	31 (7.4%)	22 (8.0%)	52 (6.9%)
カイ2乗統計量	27.4***	0.10	0.72	1.19	0.38
12. 知識・情報を得たいが、どこから得ていいのかわからない	88 (12.9%)-	25 (14.6%)	73 (17.4%)	55 (19.9%)	131 (17.4%)
カイ2乗統計量	24.4***	2.60	1.22	0.07	2.45

(クロス分析)金融に関する知識・情報の入手源(主な入手源)×金融トラブル(内訳)

Q23-1. 金融知識・情報の入手源 (主な入手源) ×金融トラブル(内訳) (つづき)	1. 主な入手源(いくつでも)				
	6. 振り込み詐欺の被害に 遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する 詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラ ブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩 代わりをさせられたこと がある	10. 上記に該当する経験 は一つもない
全体	683 (選択率)	171 (選択率)	420 (選択率)	276 (選択率)	752 (選択率)
1. 金融機関の職員やパンフレット・ 広告	20 (40.8%)	22 (41.5%)	55 (46.6%)+	39 (35.8%)	204 (22.7%)-
カイ2乗統計量	2.68	3.29*	15.8***	1.69	36.2***
2. 会社等が用意する金融の専門家 による講演会やセミナーなど	4 (8.2%)	8 (15.1%)+	18 (15.3%)+	11 (10.1%)	41 (4.6%)-
カイ2乗統計量	0.004	3.81*	9.08***	0.73	21.0***
3. 個人で応募する金融の専門家に よる講演会やセミナーなど	8 (16.3%)+	7 (13.2%)	26 (22.0%)+	13 (11.9%)	37 (4.1%)-
カイ2乗統計量	5.79**	2.65	38.5***	3.38*	21.4***
4. 確定拠出年金に係る継続教育の 一環としてのセミナーなど	3 (6.1%)	4 (7.5%)	12 (10.2%)+	13 (11.9%)+	28 (3.1%)-
カイ2乗統計量	0.06	0.53	5.72**	9.78***	13.2***
5. 金融の専門家(フィナンシャル・プラン ナーなど)に対する個人的な相談	3 (6.1%)	10 (18.9%)+	24 (20.3%)+	14 (12.8%)	43 (4.8%)-
カイ2乗統計量	0.42	7.03**	21.0***	2.45	26.2***
6. 書籍、雑誌、ホームページなどを 独学	24 (49.0%)	32 (60.4%)	61 (51.7%)	50 (45.9%)	360 (40.0%)-
カイ2乗統計量	0.05	3.67*	0.93	0.10	29.4***
7. 家族・友人(日常会話など)	11 (22.4%)	14 (26.4%)	34 (28.8%)	39 (35.8%)+	200 (22.2%)-
カイ2乗統計量	0.35	0.003	0.47	5.50**	10.6***
8. 会社・職場(業務を通じて等)	10 (20.4%)	10 (18.9%)	23 (19.5%)	15 (13.8%)	96 (10.7%)-
カイ2乗統計量	0.88	0.44	1.43	0.29	24.9***
9. 日常生活	10 (20.4%)	16 (30.2%)	38 (32.2%)	29 (26.6%)	200 (22.2%)-
カイ2乗統計量	1.06	0.31	1.80	0.004	14.7***
10. その他	4 (8.2%)	4 (7.5%)	11 (9.3%)	10 (9.2%)	52 (5.8%)
カイ2乗統計量	0.38	0.21	2.28	1.91	0.21
11. 知識・情報を得る必要はない	3 (6.1%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	10 (9.2%)	78 (8.7%)+
カイ2乗統計量	0.01	3.72**	1.91	1.40	11.1***
12. 知識・情報を得たいが、どこから 得ていいのかわからない	14 (28.6%)	8 (15.1%)	17 (14.4%)	21 (19.3%)	242 (26.9%)+
カイ2乗統計量	2.73	0.62	1.92	0.00	49.4***

表 267 (クロス分析)金融に関する知識・情報の入手源(重要な入手源)×金融トラブル(内訳)

Q23-2. 金融知識・情報の入手源 (重要な入手源) ×金融トラブル(内訳)	2. 重要な入手源(2つまで)				
	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (選択率)	171 (選択率)	420 (選択率)	276 (選択率)	752 (選択率)
1. 金融機関の職員やパンフレット・広告	164 (24.0%)+	35 (20.5%)	67 (16.0%)	37 (13.4%)	119 (15.8%)
カイ2乗統計量	26.7***	1.10	0.84	3.60*	2.07
2. 会社等が用意する金融の専門家による講演会やセミナーなど	46 (6.7%)+	14 (8.2%)+	18 (4.3%)	16 (5.8%)	25 (3.3%)
カイ2乗統計量	14.3***	7.10**	0.01	1.89	2.08
3. 個人で応募する金融の専門家による講演会やセミナーなど	42 (6.1%)+	11 (6.4%)+	16 (3.8%)	7 (2.5%)	17 (2.3%)
カイ2乗統計量	23.3***	5.63**	0.41	0.56	3.51*
4. 確定拠出年金に係る継続教育の一環としてのセミナーなど	21 (3.1%)+	7 (4.1%)	10 (2.4%)	11 (4.0%)+	17 (2.3%)
カイ2乗統計量	4.51**	3.67*	0.23	5.53**	0.18
5. 金融の専門家(ファイナンシャル・プランナーなど)に対する個人的な相談	61 (8.9%)+	12 (7.0%)	23 (5.5%)	17 (6.2%)	41 (5.5%)
カイ2乗統計量	18.8	0.66	0.02	0.16	0.06
6. 書籍、雑誌、ホームページなどを独学	287 (42.0%)+	55 (32.2%)	166 (39.5%)	103 (37.3%)	292 (38.8%)
カイ2乗統計量	8.45***	2.12	0.99	0.00	0.95
7. 家族・友人(日常会話など)	71 (10.4%)-	25 (14.6%)	55 (13.1%)	37 (13.4%)	123 (16.4%)+
カイ2乗統計量	6.83***	0.26	0.02	0.001	8.24***
8. 会社・職場(業務を通じて等)	37 (5.4%)	14 (8.2%)	25 (6.0%)	21 (7.6%)	65 (8.6%)+
カイ2乗統計量	0.42	1.67	0.001	1.56	13.8***
9. 日常生活	81 (11.9%)	23 (13.5%)	59 (14.0%)	37 (13.4%)	106 (14.1%)
カイ2乗統計量	0.29	0.17	1.17	0.26	2.61
10. その他	29 (4.2%)	9 (5.3%)	22 (5.2%)	8 (2.9%)	35 (4.7%)
カイ2乗統計量	0.02	0.38	0.98	1.53	0.26
11. 知識・情報を得る必要はない	15 (2.2%)-	12 (7.0%)	31 (7.4%)	22 (8.0%)	52 (6.9%)
カイ2乗統計量	27.4***	0.10	0.72	1.19	0.38
12. 知識・情報を得たいが、どこから得ていいのかわからない	88 (12.9%)-	25 (14.6%)	73 (17.4%)	55 (19.9%)	131 (17.4%)
カイ2乗統計量	24.4***	2.60	1.22	0.07	2.45

(クロス分析) 金融に関する知識・情報の入手源(重要な入手源) × 金融トラブル(内訳)(つづき)

Q23-2. 金融知識・情報の入手源 (重要な入手源) × 金融トラブル(内訳) (つづき)	2. 重要な入手源(2つまで)				
	6. 振り込み詐欺の被害に 遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する 詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラ ブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩 代わりをさせられたこと がある	10. 上記に該当する経験 は一つもない
全体	683 (選択率)	171 (選択率)	420 (選択率)	276 (選択率)	752 (選択率)
1. 金融機関の職員やパンフレット・ 広告	11 (22.4%)	13 (24.5%)	30 (25.4%)+	26 (23.9%)	124 (13.8%)-
カイ2乗統計量	0.84	1.84	5.34**	3.15*	13.1***
2. 会社等が用意する金融の専門家 による講演会やセミナーなど	2 (4.1%)	5 (9.4%)	6 (5.1%)	6 (5.5%)	26 (2.9%)-
カイ2乗統計量	0.002	3.63*	0.23	0.46	5.94**
3. 個人で応募する金融の専門家に よる講演会やセミナーなど	3 (6.1%)	2 (3.8%)	15 (12.7%)+	4 (3.7%)	16 (1.8%)-
カイ2乗統計量	1.25	0.04	34.3***	0.05	9.77***
4. 確定拠出年金に係る継続教育の 一環としてのセミナーなど	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	4 (3.7%)	13 (1.4%)
カイ2乗統計量	1.06	1.15	1.05	1.42	2.64
5. 金融の専門家(フィナンシャル・プラン ナーなど)に対する個人的な相談	1 (2.0%)	6 (11.3%)	13 (11.0%)+	8 (7.3%)	28 (3.1%)-
カイ2乗統計量	1.21	3.30	6.74**	0.63	16.1***
6. 書籍、雑誌、ホームページなどを 独学	17 (34.7%)	22 (41.5%)	44 (37.3%)	36 (33.0%)	291 (32.3%)-
カイ2乗統計量	0.15	0.40	0.00	0.92	14.6***
7. 家族・友人(日常会話など)	6 (12.2%)	3 (5.7%)	12 (10.2%)	14 (12.8%)	124 (13.8%)
カイ2乗統計量	0.05	2.75	1.07	0.02	0.23
8. 会社・職場(業務を通じて等)	5 (10.2%)	3 (5.7%)	9 (7.6%)	6 (5.5%)	36 (4.0%)-
カイ2乗統計量	1.64	0.01	0.64	0.04	8.98***
9. 日常生活	0 (0.0%)-	6 (11.3%)	16 (13.6%)	8 (7.3%)	103 (11.4%)
カイ2乗統計量	7.09***	0.06	0.14	2.72	1.24
10. その他	3 (6.1%)	3 (5.7%)	7 (5.9%)	5 (4.6%)	42 (4.7%)
カイ2乗統計量	0.39	0.23	0.76	0.02	0.36
11. 知識・情報を得る必要はない	3 (6.1%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	10 (9.2%)	78 (8.7%)+
カイ2乗統計量	0.01	3.72	1.91	1.40	11.1***
12. 知識・情報を得たいが、どこから 得ていいのかわからない	14 (28.6%)	8 (15.1%)	17 (14.4%)	21 (19.3%)	242 (26.9%)+
カイ2乗統計量	2.73	0.62	1.92	0.00	49.4***

表 266 と表 267 は金融トラブル内識別で金融に関する知識・情報の入手源を比較したものである。

表 266 から「主な入手源」を見ると、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」で 1%水準の統計的な有意差が見られ、該当者は金融機関や専門家等によるセミナーなど（選択肢 1～5）から知識や情報を入手しており、また、独学で入手する人も有意に多い。

なお、全体的な有意差は見られないが、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人も、金融機関や専門家等によるセミナーなど（選択肢 1～5）から入手している傾向が見られる。

そして、表 267 より「重要な入手源」を見ると、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」で 1%水準の統計的な有意差が見られ、「主な入手源」と結果は同じである。

<金融上の問題の経験>

Q24. あなたの金融商品の購入などに際しての経験についてお伺いします。これまでの人生の中で、金融商品の購入などに際して以下のような勧誘をされたことがありますか。該当するものをすべて選んでください。

表 268 金融商品の勧誘経験

Q24. 金融商品の勧誘経験	全体
全体	2700 (選択率)
1. 真実ではないことを説明されて、金融商品の購入(取引)を勧誘されたことがある	261 (9.7%)
2. 「必ず上がります」とか「絶対に〇〇になる」と断定することや、そう思わせるような表現を使って、金融商品の購入(取引)を勧誘されたことがある	443 (16.4%)
3. 頼んでもいないのに自宅や勤務先に押しかけてきたり電話をかけてきたりして、金融商品の購入(取引)を勧誘されたことがある	534 (19.8%)
4. 「いりません」とはっきり断ったのに、しつこく金融商品の購入(取引)を勧誘されたことがある	392 (14.5%)
5. 上記以外で、不適切だと感じる勧誘を受けたことがある	312 (11.6%)
6. 特に経験したことがない	1585 (58.7%)

本質問(～Q27)は、金融広報中央委員会「金融に関する消費者アンケート調査(第3回・平成20年)」を参考にして作成したものである。表 268 は金融商品の勧誘経験について調査した結果である。約 6 割(58.7%)が特に経験したことがないと回答している。勧誘経験がある内容を見ると、いずれの内容についても 1 割以上の経験者が見られるが、1 番選択率が高いのは「3.頼んでもいないのに自宅や勤務先に押しかけてきたり電話をかけてきたりして」で 19.8%である。

表 269 (クロス分析)金融商品の勧誘経験×金融トラブル経験の有無

Q23. 金融知識の情報源×金融トラブル経験有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (選択率)	900 (選択率)
1. 真実ではないことを説明されて、金融商品の購入(取引)を勧誘されたことがある	227 (12.6%) ⁺	34 (3.8%) ⁻
カイ2乗統計量	53.6***	
2. 「必ず上がります」とか「絶対に〇〇になる」と断定することや、そう思わせるような表現を使って	373 (20.7%) ⁺	70 (7.8%) ⁻
カイ2乗統計量	73.3***	
3. 頼んでもいないのに自宅や勤務先に押しかけてきたり電話をかけてきたりして	421 (23.4%) ⁺	113 (12.6%) ⁻
カイ2乗統計量	44.4***	
4. 「いりません」とはっきり断ったのに、しつこく金融商品の購入(取引)を勧誘された	313 (17.4%) ⁺	79 (8.8%) ⁻
カイ2乗統計量	35.8***	
5. 上記以外で、不適切だと感じる勧誘を受けたことがある	246 (13.7%) ⁺	66 (7.3%) ⁻
カイ2乗統計量	23.5***	
6. 特に経験したことがない	903 (50.2%) ⁻	682 (75.8%) ⁺
カイ2乗統計量	162.3***	

表 270 (クロス分析)金融商品の勧誘経験×年代・金融トラブル経験の有無

Q24. 金融商品の勧誘経験 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)
1. 真実ではないことを説明されて、金融商品の購入(取引)を勧誘されたことがある	45 (7.5%)+	3 (1.0%)-	70 (11.7%)+	12 (4.0%)-	112 (18.7%)+	19 (6.3%)-
カイ2乗統計量	16.7***		14.2***		24.5***	
2. 「必ず上がります」とか「絶対に〇〇になる」と断定することや、そう思わせるような表現を使って	82 (13.7%)+	7 (2.3%)-	113 (18.8%)+	25 (8.3%)-	178 (29.7%)+	38 (12.7%)-
カイ2乗統計量	28.8***		17.0***		31.7***	
3. 頼んでもいないのに自宅や勤務先に押しかけてきたり電話をかけてきたりして	95 (15.8%)+	12 (4.0%)-	136 (22.7%)+	49 (16.3%)-	190 (31.7%)+	52 (17.3%)-
カイ2乗統計量	26.7***		4.91**		20.9***	
4. 「いりません」とはっきり断ったのに、しつこく金融商品の購入(取引)を勧誘された	67 (11.2%)+	10 (3.3%)-	116 (19.3%)+	29 (9.7%)-	130 (21.7%)+	40 (13.3%)-
カイ2乗統計量	15.7***		13.8***		9.07***	
5. 上記以外で、不適切だと感じる勧誘を受けたことがある	55 (9.2%)+	15 (5.0%)-	77 (12.8%)+	25 (8.3%)-	114 (19.0%)+	26 (8.7%)-
カイ2乗統計量	4.84**		4.03**		16.3***	
6. 特に経験したことがない	370 (61.7%)-	259 (86.3%)+	314 (52.3%)-	220 (73.3%)+	219 (36.5%)-	203 (67.7%)+
カイ2乗統計量	57.8***		36.6***		78.0***	

表 269 は金融トラブル経験の有無別で金融商品の勧誘経験について比較したものである。金融トラブル経験者はいずれの手法の勧誘について有意に経験者が多く、金融トラブル未経験者は「特に経験したことがない」人が有意に多い。

なお、表 270 から年代(金融トラブル経験の有無)別で比較しても、年代別で勧誘の経験についての有意差に違いは見られず、全ての年代の金融トラブル経験者は金融商品の勧誘について経験をしている人が有意に多くなっている。

そして、表 271 は金融トラブル内識別で金融商品の勧誘経験について比較したものである。「1十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」、「2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした」、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」、「9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」で5%以上の有意差が見られ、これらの金融トラブル該当者は金融商品の勧誘経験がある人が有意に多くなっている。

表 271 (クロス分析)金融商品の勧誘経験×金融トラブル(内訳)

Q24. 金融商品の勧誘経験 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 真実ではないことを説明されて、金融商品の購入(取引)を勧誘されたことがある	126 (18.4%)+	35 (20.5%)+	49 (11.7%)	34 (12.3%)	76 (10.4%)
カイ2乗統計量	80.7***	24.4***	2.28	2.48	0.59
2. 「必ず上がります」とか「絶対に〇〇になる」と断定することや、そう思わせるような表現を使って	185 (27.1%)+	41 (24.0%)+	90 (21.4%)+	59 (21.4%)+	121 (16.1%)
カイ2乗統計量	76.0***	7.63***	9.14***	5.54*	0.08
3. 頼んでもいないのに自宅や勤務先に押しかけてきたり電話をかけてきたりして	206 (30.2%)+	45 (26.3%)+	91 (21.7%)	59 (21.4%)	159 (21.1%)
カイ2乗統計量	62.1***	4.92**	1.12	0.50	1.23
4. 「いりません」とはっきり断ったのに、しつこく金融商品の購入(取引)を勧誘された	152 (22.3%)+	40 (23.4%)+	78 (18.6%)+	45 (16.3%)	118 (15.7%)
カイ2乗統計量	44.1***	11.6***	6.58**	0.79	1.16
5. 上記以外で、不適切だと感じる勧誘を受けたことがある	114 (16.7%)+	22 (12.9%)	44 (10.5%)	37 (13.4%)	85 (11.3%)
カイ2乗統計量	23.6***	0.31	0.57	1.03	0.06
6. 特に経験したことがない	244 (35.7%)-	85 (49.7%)-	236 (56.2%)	157 (56.9%)	445 (59.2%)
カイ2乗統計量	199.1***	6.09**	1.30	0.42	0.10
Q24. 金融商品の勧誘経験 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 真実ではないことを説明されて、金融商品の購入(取引)を勧誘されたことがある	6 (12.2%)	18 (34.0%)+	42 (35.6%)+	18 (16.5%)+	34 (3.8%)-
カイ2乗統計量	0.38	36.5***	95.0***	6.10**	53.6***
2. 「必ず上がります」とか「絶対に〇〇になる」と断定することや、そう思わせるような表現を使って	16 (32.7%)+	27 (50.9%)+	45 (38.1%)+	37 (33.9%)+	70 (7.8%)-
カイ2乗統計量	9.60***	47.0***	42.5***	25.5***	73.3***
3. 頼んでもいないのに自宅や勤務先に押しかけてきたり電話をかけてきたりして	14 (28.6%)	22 (41.5%)+	43 (36.4%)+	33 (30.3%)+	113 (12.6%)-
カイ2乗統計量	2.43	16.1***	21.6***	7.89***	44.4***
4. 「いりません」とはっきり断ったのに、しつこく金融商品の購入(取引)を勧誘された	12 (24.5%)+	16 (30.2%)+	43 (36.4%)+	27 (24.8%)+	79 (8.8%)-
カイ2乗統計量	4.00*	10.7***	47.8***	9.62***	35.8***
5. 上記以外で、不適切だと感じる勧誘を受けたことがある	8 (16.3%)	19 (35.8%)+	34 (28.8%)+	11 (10.1%)	66 (7.3%)-
カイ2乗統計量	1.11	31.2***	36.0***	0.24	23.5***
6. 特に経験したことがない	25 (51.0%)	10 (18.9%)-	27 (22.9%)-	50 (45.9%)-	682 (75.8%)+
カイ2乗統計量	1.22	35.4***	65.3***	7.72***	162.3***

Q25. そのような勧誘をされた後、あなたはどのような行動をとりましたか。当てはまるものを次から一つ選んでください。

表 272 勧誘後の行動

Q25. 勧誘後の行動	全体
全体	1115 (100%)
1. 購入を断った	739 (66.3%)
2. 購入を断ったこともあるが、購入したこともある	300 (26.9%)
3. (すべての場合で)断わらないで、購入した	42 (3.8%)
4. わからない／忘れた	34 (3.0%)

表 273 は Q24 の金融商品購入の勧誘を受けた経験がある 1115 サンプルを対象に、勧誘をされた後の行動について調査した結果である。購入を断った人が 7 割弱 (66.3%) であり、購入を断ったことがあるが購入したこともあるが 3 割弱 (26.9%) である。

表 273 (クロス分析)勧誘後の行動×金融トラブル経験の有無

勧誘後の行動×金融トラブル経験の有無	トラブル有	トラブル無
全体	897 (100%)	218 (100%)
1. 購入を断った	564 (62.9%) ⁻	175 (80.3%) ⁺
2. 購入を断ったこともあるが、購入したこともある	269 (30.0%) ⁺	31 (14.2%) ⁻
3. (すべての場合で)断わらないで、購入した	35 (3.9%)	7 (3.2%)
4. わからない／忘れた	29 (3.2%)	5 (2.3%)
カイ2乗統計量	24.9***	

、表 273 は金融トラブル経験の有無別で勧誘後の行動を比較したものである。ちなみに、Q24 より金融商品購入の勧誘を受けた経験者 1115 サンプルの内、金融トラブル経験者は 897 サンプル (80.4%)、金融トラブル未経験者は 218 (19.6%) である。

金融トラブル未経験者の 80.3%は購入を断っており、有意に多いが、金融トラブル経験者で「1.購入を断った」人は 62.9%であり、3 割は「2.購入を断ったこともあるが購入したこともある」人が有意に多くなっている。

表 274 (クロス分析)勧誘後の行動×年代・金融トラブル経験の有無

勧誘後の行動×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	230 (100%)	41 (100%)	286 (100%)	80 (100%)	381 (100%)	97 (100%)
1. 購入を断った	150 (65.2%)	29 (70.7%)	206 (72.0%) ⁻	69 (86.3%) ⁺	208 (54.6%) ⁻	77 (79.4%) ⁺
2. 購入を断ったこともあるが、購入したこともある	52 (22.6%)	6 (14.6%)	59 (20.6%) ⁺	8 (10.0%) ⁻	158 (41.5%) ⁺	17 (17.5%) ⁻
3. (すべての場合で)断わらないで、購入した	14 (6.1%)	4 (9.8%)	13 (4.5%)	0 (0.0%)	8 (2.1%)	3 (3.1%)
4. わからない／忘れた	14 (6.1%)	2 (4.9%)	8 (2.8%)	3 (3.8%)	7 (1.8%)	0 (0.0%)
カイ2乗統計量	1.99		9.37**		22.2***	

表 274 は年代（金融トラブル経験の有無）別で金融商品購入の勧誘を受けた後の行動について比較したものである。20・30代では金融トラブル経験の有無で勧誘後の行動に統計的な有意差は見られないが、40・50代と60代以上で有意差が見られる。40・50代と60代以上の金融トラブル経験者で「2.購入を断ったこともあるが購入したこともある」人が有意に多く、金融トラブル未経験者は「1.購入を断った」が有意に多い。特に、60代以上の金融トラブル経験者の約4割（41.5%）は購入を断ったこともあるが購入したこともある人が他の年代と比較して多く、約2倍である。

表 275 は金融トラブル内識別で比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は「2.購入を断ったこともあるが購入したこともある」や「3.断らないで購入した」人が有意に多い。

また、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」、及び「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人は「2.購入を断ったこともあるが購入したこともある」人が有意に多くなっている。

なお、「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」人は「1.購入を断った」人が有意に多い。

表 275 (クロス分析) 勧誘後の行動×金融トラブル(内訳)

勧誘後の行動×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	439 (100%)	86 (100%)	184 (100%)	119 (100%)	307 (100%)
1. 購入を断った	221 (50.3%) ⁻	61 (70.9%)	132 (71.7%)	82 (68.9%)	229 (74.6%) ⁺
2. 購入を断ったこともあるが、購入したこともある	179 (40.8%) ⁺	18 (20.9%)	42 (22.8%)	28 (23.5%)	62 (20.2%) ⁻
3. (すべての場合で)断わらないで、購入した	27 (6.2%) ⁺	4 (4.7%)	5 (2.7%)	5 (4.2%)	9 (2.9%)
4. わからない／忘れた	12 (4.3%)	3 (3.5%)	5 (2.7%)	4 (3.4%)	7 (2.3%)
カイ2乗統計量	90.7***	1.79	3.08	0.81	13.1***

勧誘後の行動×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験はない
全体	24 (100%)	43 (100%)	91 (100%)	59 (100%)	218 (100%)
1. 購入を断った	13 (54.2%)	12 (27.9%) ⁻	37 (40.7%) ⁻	35 (59.3%)	175 (80.3%) ⁺
2. 購入を断ったこともあるが、購入したこともある	9 (37.5%)	27 (62.8%) ⁺	46 (50.5%) ⁺	19 (32.2%)	31 (14.2%) ⁻
3. (すべての場合で)断わらないで、購入した	1 (4.2%)	4 (9.3%)	4 (4.4%)	2 (3.4%)	7 (3.2%)
4. わからない／忘れた	1 (4.2%)	0 (0.0%)	4 (4.4%)	3 (5.1%)	5 (2.3%)
カイ2乗統計量	1.68	36.3***	31.1***	1.97	24.9***

Q26. 過去3年間に、あなたの金融商品やサービスの利用状況についてお伺いします。あなたは過去3年間で、金融商品や金融サービスの購入・利用で下記のような経験がありますか。また、その購入・利用後に後悔したことがありますか。当てはまるものをすべて選んでください。

表 276 金融商品やサービスの購入(利用)経験とその後の後悔

Q26. 金融商品等の購入(利用)経験と後悔	1. 該当する経験有	2. 後悔した経験有	2. 後悔した経験有
全体	2700 (選択率)	2700 (選択率)	該当経験数 (選択率)
1. 十分な説明がないまま、あるいは十分理解できないままの購入・利用	444 (16.4%)	366 (13.6%)	366 (82.4%)
2. 街中で声をかけられたり、依頼していないのに訪問されるなどして購入・利用	87 (3.2%)	46 (1.7%)	46 (52.9%)
3. 電話勧誘や郵便、電子メールなど非対面勧誘がきっかけで、購入・利用	104 (3.9%)	55 (2.0%)	55 (52.9%)
4. インターネット上のサイト広告を見たことがきっかけで、購入・利用	222 (8.2%)	111 (4.1%)	111 (50.0%)
5. 上記の経験(後悔)はない	2003 (74.2%)	2176 (80.6%)	

表 276 は過去3年間に金融商品や金融サービスの購入・利用経験、及び、その後に後悔した経験について調査した結果である。1番多い購入(利用)経験は「1.十分な説明がないまま、あるいは十分理解できないままの購入・利用」であり、16.4%の人が該当する。次いで、「4.インターネット上のサイト広告を見たことがきっかけで購入・利用」で8.2%である。

そして、購入・利用後に後悔した経験について見ると、「1.十分な説明がないまま、あるいは十分理解できないままの購入・利用」した経験がある人で後悔している比率が高い。該当する経験者での比率で見ると(表 276 の3列目)、1.十分な説明がないまま、あるいは十分理解できないままの購入・利用した経験がある人の約8割(82.4%)が後悔しており、その他の購入(利用)経験がある人についても約半分は後悔している。

なお、金融トラブル経験有の定義として「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」が含まれているため、金融トラブル経験者のみに限定し、年代別で統計的な有意差があるか比較する。

表 277 を見ると、60代以上の金融トラブル経験者は「1.十分な説明がないまま、あるいは十分理解できないままの購入・利用」した経験がある人、及び、後悔した経験がある人が有意に多い。

そして、20・30代の金融トラブル経験者は「2.街中で声をかけられたり、依頼していないのに訪問されるなどして購入・利用」した経験ある人が有意に多く、かつ、後悔した人も有意に多くなっている。

なお、40・50代の金融トラブル経験者はQ26にあるような金融商品やサービスの購入(利用)経験がない人が有意に多い。

表 277 (クロス分析)金融商品やサービスの購入(利用)経験とその後の後悔×年代(金融トラブル経験有)

金融商品等の購入(利用)経験と後悔 ×金融トラブル経験有・年代別	トラブル有 (20・30代)	トラブル有 (40・50代)	トラブル有 (60以上)
1. 該当する経験有			
全体	600 (選択率)	600 (選択率)	600 (選択率)
1. 十分な説明がないまま、あるいは十分理解できない ままの購入・利用	116 (19.3%) ⁻	93 (15.5%) ⁻	200 (33.3%) ⁺
カイ2乗統計量	60.3***		
2. 街中で声をかけられたり、依頼していないのに訪問さ れるなどして購入・利用	46 (7.7%) ⁺	19 (3.2%)	13 (2.2%) ⁻
カイ2乗統計量	24.8***		
3. 電話勧誘や郵便、電子メールなど非対面勧誘がき っかけで、購入・利用	37 (6.2%)	30 (5.0%)	26 (4.3%)
カイ2乗統計量	2.11		
4. インターネット上のサイト広告を見たことがき っかけで、購入・利用	65 (10.8%)	59 (9.8%)	61 (10.2%)
カイ2乗統計量	0.34		
5. 上記の経験(後悔)はない	406 (67.7%)	434 (72.3%) ⁺	339 (56.5%) ⁻
カイ2乗統計量	35.2***		
2. 後悔した経験有			
全体	600 (選択率)	600 (選択率)	600 (選択率)
1. 十分な説明がないまま、あるいは十分理解できない ままの購入・利用	89 (14.8%) ⁻	74 (12.3%) ⁻	177 (29.5%) ⁺
カイ2乗統計量	67.4***		
2. 街中で声をかけられたり、依頼していないのに訪問さ れるなどして購入・利用	24 (4.0%) ⁺	7 (1.2%) ⁻	10 (1.7%)
カイ2乗統計量	12.3***		
3. 電話勧誘や郵便、電子メールなど非対面勧誘がき っかけで、購入・利用	19 (3.2%)	17 (2.8%)	16 (2.7%)
カイ2乗統計量	0.28		
4. インターネット上のサイト広告を見たことがき っかけで、購入・利用	34 (5.7%)	26 (4.3%)	35 (5.8%)
カイ2乗統計量	1.62		
5. 上記の経験(後悔)はない	457 (76.2%)	484 (80.7%) ⁺	380 (63.3%) ⁻
カイ2乗統計量	49.7***		

Q27. Q26 のいずれかで「後悔した」とお答えになっている方にお伺いします。その後、あなたはどのような行動をとりましたか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

表 278 「後悔した」後の行動

Q27. 「後悔した後」の行動	全体
全体	524 (選択率)
1. その商品を販売した金融機関などに相談した(または苦情を申し入れた)	70 (13.4%)
2. 家族に相談した	81 (15.5%)
3. 信頼のおける知人に相談した	52 (9.9%)
4. 有償で専門家に相談した	22 (4.2%)
5. 各地の公的な機関(消費生活センター、国民生活センター、法テラス、弁護士会など)へ相談した	38 (7.3%)
6. 解約した	121 (23.1%)
7. その他の行動をした	23 (4.4%)
8. どう対処すればよいかわからなかったので、何もしなかった	62 (11.8%)
9. 販売業者等との関係が悪くなるのを心配して、何もしなかった	12 (2.3%)
10. 面倒だったので、何もしなかった	71 (13.5%)
11. たいした損害ではないので、何もしなかった	49 (9.4%)
12. 自己責任と考えてあきらめ、何もしなかった	159 (30.3%)
13. その他の理由から、何もしなかった	21 (4.0%)
14. 忘れた	11 (2.1%)

表 278 は Q26 で過去 3 年間に金融商品や金融サービスの購入・利用経験後に後悔した経験がある 524 サンプルを対象に、その後の行動について調査した結果である。1 番多い行動は「12.自己責任と考えてあきらめ何もしなかった」で 30.3%であり、次いで「6.解約した」が 23.1%である。

なお、表 279 は金融トラブル経験者のみに限定し、年代別で後悔後の経験について比較したものである。20・30 代の金融トラブル経験者は家族や知人に相談する傾向が高く、また、有償で専門家に相談する人も有意に多い。40・50 代の金融トラブル経験者は知人に相談する人が有意に多く、60 代以上では自己責任と考えあきらめて何もしなかった人が有意に多くなっている。

表 279 (クロス分析) 「後悔した」後の行動×年代(金融トラブル経験有)

「後悔した後」の行動×年代(金融トラブル経験有)	トラブル有 (20・30代)	トラブル有 (40・50代)	トラブル有 (60以上)
全体	143 (選択率)	116 (選択率)	220 (選択率)
1. その商品を販売した金融機関などに相談した(または苦情を申し入れた)	16 (11.2%)	14 (12.1%)	34 (15.5%)
カイ2乗統計量	1.58		
2. 家族に相談した	37 (25.9%)+	17 (14.7%)	23 (10.5%)-
カイ2乗統計量	15.5***		
3. 信頼のおける知人に相談した	27 (18.9%)+	19 (16.4%)+	5 (2.3%)-
カイ2乗統計量	30.4***		
4. 有償で専門家に相談した	11 (7.7%)+	5 (4.3%)	5 (2.3%)-
カイ2乗統計量	6.08**		
5. 各地の公的な機関(消費生活センター、国民生活センター、法テラス、弁護士会など)へ相談した	12 (8.4%)	9 (7.8%)	12 (5.5%)
カイ2乗統計量	1.35		
6. 解約した	30 (21.0%)	28 (24.1%)	47 (21.4%)
カイ2乗統計量	0.45		
7. その他の行動をした	9 (6.3%)	5 (4.3%)	7 (3.2%)
カイ2乗統計量	2.00		
8. どう対処すればよいかわからなかったので、何もしなかった	20 (14.0%)	13 (11.2%)	26 (11.8%)
カイ2乗統計量	0.55		
9. 販売業者等との関係が悪くなるのを心配して、何もしなかった	5 (3.5%)	2 (1.7%)	5 (2.3%)
カイ2乗統計量	0.91		
10. 面倒だったので、何もしなかった	22 (15.4%)	11 (9.5%)	28 (12.7%)
カイ2乗統計量	2.01		
11. たいした損害ではないので、何もしなかった	12 (8.4%)	8 (6.9%)	22 (10.0%)
カイ2乗統計量	0.95		
12. 自己責任と考えてあきらめ、何もしなかった	31 (21.7%)-	28 (24.1%)-	94 (42.7%)+
カイ2乗統計量	22.0***		
13. その他の理由から、何もしなかった	6 (4.2%)	5 (4.3%)	9 (4.1%)
カイ2乗統計量	0.01		
14. 忘れた	2 (1.4%)	2 (1.7%)	4 (1.8%)
カイ2乗統計量	0.10		

Q28. 前問で「十分な説明がないまま、あるいは十分理解できないままの購入・利用」の経験した方にお伺いします。その金融商品やサービスの販売者と商品の組み合わせとして、当てはまるものを下記の中からすべて選んでください。

表 280 十分理解せず購入(利用)した金融商品(サービス)の販売者と商品の組み合わせ

Q28. 十分理解せず購入(利用)した金融商品(サービス)の販売者と商品の組み合わせ	1. 経験有	2. 後悔有	2. 後悔有
全体	444 (選択率)	444 (選択率)	経験有人数 (選択率)
1. 【銀行・信用金庫等】銀行預金(外貨預金を除く)	53 (11.9%)	39 (8.8%)	39 (73.6%)
2. 【銀行・信用金庫等】外貨預金	54 (12.2%)	42 (9.5%)	42 (77.8%)
3. 【銀行・信用金庫等】保険	37 (8.3%)	26 (5.9%)	26 (70.3%)
4. 【銀行・信用金庫等】投資信託	110 (24.8%)	86 (19.4%)	86 (78.2%)
5. 【銀行・信用金庫等】債券	23 (5.2%)	16 (3.6%)	16 (69.6%)
6. 【銀行・信用金庫等】各種のローン	11 (2.5%)	5 (1.1%)	5 (45.5%)
7. 【保険会社(営業職員を含む)】生命保険	61 (13.7%)	47 (10.8%)	47 (77.0%)
8. 【保険会社(営業職員を含む)】損害保険	13 (2.9%)	10 (2.3%)	10 (76.9%)
9. 【共済(JA 共済など)】共済	17 (3.8%)	10 (2.3%)	10 (58.8%)
10. 【保険代理店】生命保険	33 (2.9%)	23 (5.2%)	23 (69.7%)
11. 【保険代理店】損害保険	13 (2.9%)	8 (1.8%)	8 (61.5%)
12. 【証券会社】株式・債券・投資信託	150 (33.8%)	132 (29.7%)	132 (88.0%)
13. 【全金融機関】デリバティブ	12 (2.7%)	10 (2.3%)	10 (83.3%)
14. 【カード会社】各種のローン	22 (5.0%)	17 (3.8%)	17 (77.3%)
15. 【消費者金融会社】各種のローン	12 (2.7%)	10 (2.3%)	10 (83.3%)
16. 【商品先物会社】商品先物	37 (8.3%)	34 (7.7%)	34 (91.9%)
17. 上記以外	42 (9.5%)	33 (7.4%)	33 (78.6%)
18. 忘れた／後悔したものはない	26 (5.9%)	80 (18.0%)	80 (307.7%)

表 280 は Q26 で「1.十分な説明がないまま、あるいは十分理解できないままの購入・利用」した経験がある 444 サンプルを対象に販売者と商品の組み合わせ、及び後悔したものを調査した結果である。

十分理解しないまま利用した経験がある販売者と商品の組み合わせとして、1 番該当者が多いのは「12.証券会社（株式・債券・投資信託）」で 33.8%であり、次いで「4.銀行・信用金庫等（投資信託）」が 24.8%である。また、「1.銀行・信用金庫等（銀行預金）」や「2.銀行・信用金庫等（外貨預金）」、及び「7.保険会社（生命保険）」についても 1 割以上の該当者がいる。

そして、後悔した経験について見ると、選択率の順位は経験がある場合と変わらず「12.証券会社（株式・債券・投資信託）」が 1 番選択率は高く、次いで「4.銀行・信用金庫等（投資信託）」である。

なお、経験がある人数に対し後悔がある人の選択率を見ると（表 280 の 3 列目）、「16.商品先物会社（商品先物）」については約 9 割（91.9%）の人が後悔しており、「12.証券会社（株式・債券・投資信託）」や「13.全金融機関（デリバティブ）」、及び「15.消費者金融会社（各種ローン）」でも後悔している人は 8 割を超える。

表 281 は金融トラブル経験者に限定し、年代別で十分理解せず購入・利用した経験がある販売者と商品の組み合わせについて比較したものである。40・50 代では統計的な有意差は見られず、20・30 代と 60 代以上で有意差が見られる。

20・30 代の金融トラブル経験者は「1.銀行・信用金庫等（銀行預金）」や「6.銀行・信用金庫等（各種ローン）」、及び「14.カード会社（各種ローン）」で経験がある人が有意に多く、逆に 60 代以上はこれらの経験は有意に少ない。また、20・30 代では「18.忘れた／後悔したものはなし」と回答する人も有意に多い。

一方、60 代以上の金融トラブル経験者では「4.銀行・信用金庫等（投資信託）」と「12.証券会社（株式・債券・投資信託）」で有意に多く、20・30 代で有意に少なくなっている。

表 282 は上記と同様に金融トラブル経験者に限定し、年代別で後悔した販売者と商品の組み合わせについて比較したものである。20・30 代の金融トラブル経験者は「1.銀行・信用金庫等（銀行預金）」の経験が有意に多かったが、同時に後悔したと意識する人も有意に多い。

また、60 代以上の金融トラブル経験者では「4.銀行・信用金庫等（投資信託）」と「12.証券会社（株式・債券・投資信託）」で有意に多くなっていたが、後悔したと意識する人も有意に多い。

なお、「6.銀行・信用金庫等（各種ローン）」と「14.カード会社（各種ローン）」に対する後悔の経験については年代別で有意差は見られない。

表 281(クロス分析)十分理解せず購入した金融商品の販売者と商品(経験有)×年代(金融トラブル経験有)

1. 経験有×年代(金融トラブル経験有)	トラブル有 (20・30代)	トラブル有 (40・50代)	トラブル有 (60以上)	カイ2乗 統計量
全体	116 (選択率)	93 (選択率)	200 (選択率)	—
1.【銀行・信用金庫等】銀行預金(外貨預金を除く)	23 (19.8%)+	11 (11.8%)	15 (7.5%)-	10.6***
2.【銀行・信用金庫等】外貨預金	20 (17.2%)	11 (11.8%)	20 (10.0%)	3.57
3.【銀行・信用金庫等】保険	11 (9.5%)	10 (10.8%)	14 (7.0%)	1.32
4.【銀行・信用金庫等】投資信託	20 (17.2%)-	19 (20.4%)	66 (33.0%)+	11.3***
5.【銀行・信用金庫等】債券	7 (6.0%)	2 (2.2%)	11 (5.5%)	1.99
6.【銀行・信用金庫等】各種のローン	8 (6.9%)+	1 (1.1%)	2 (1.0%)-	11.0***
7.【保険会社(営業職員を含む)】生命保険	15 (12.9%)	13 (14.0%)	28 (14.0%)	0.08
8.【保険会社(営業職員を含む)】損害保険	2 (1.7%)	2 (2.2%)	8 (4.0%)	1.60
9.【共済(JA共済など)】共済	6 (5.2%)	3 (3.2%)	8 (4.0%)	0.52
10.【保険代理店】生命保険	11 (9.5%)	8 (8.6%)	14 (7.0%)	0.66
11.【保険代理店】損害保険	6 (5.2%)	2 (2.2%)	4 (2.0%)	2.85
12.【証券会社】株式・債券・投資信託	27 (23.3%)-	26 (28.0%)	88 (44.0%)+	16.2***
13.【全金融機関】デリバティブ	5 (4.3%)	3 (3.2%)	3 (1.5%)	2.35
14.【カード会社】各種のローン	10 (8.6%)+	5 (5.4%)	5 (2.5%)-	5.98*
15.【消費者金融会社】各種のローン	6 (5.2%)	3 (3.2%)	3 (1.5%)	3.51
16.【商品先物会社】商品先物	12 (10.3%)	7 (7.5%)	17 (8.5%)	0.56
17. 上記以外	12 (10.3%)	12 (12.9%)	13 (6.5%)	3.50
18. 忘れた／後悔したものはない	13 (11.2%)+	4 (4.3%)	4 (2.0%)-	12.9***

表 282(クロス分析) 十分理解せず購入した金融商品の販売者と商品(後悔有) × 年代(金融トラブル経験有)

2. 後悔有 × 年代(金融トラブル経験有)	トラブル有 (20・30代)	トラブル有 (40・50代)	トラブル有 (60以上)	カイ2乗 統計量
全体	116 (選択率)	93 (選択率)	200 (選択率)	—
1. 【銀行・信用金庫等】銀行預金(外貨預金を除く)	19 (16.4%)+	7 (7.5%)	9 (4.5%)-	13.4***
2. 【銀行・信用金庫等】外貨預金	14 (12.1%)	7 (7.5%)	18 (9.0%)	1.37
3. 【銀行・信用金庫等】保険	9 (7.8%)	5 (5.4%)	11 (5.5%)	0.77
4. 【銀行・信用金庫等】投資信託	12 (10.3%)-	15 (16.1%)	56 (28.0%)+	15.4***
5. 【銀行・信用金庫等】債券	4 (3.4%)	1 (1.1%)	9 (4.5%)	2.25
6. 【銀行・信用金庫等】各種のローン	2 (1.7%)	1 (1.1%)	2 (1.0%)	0.34
7. 【保険会社(営業職員を含む)】生命保険	11 (9.5%)	9 (9.7%)	23 (11.5%)	0.41
8. 【保険会社(営業職員を含む)】損害保険	2 (1.7%)	2 (2.2%)	5 (2.5%)	0.21
9. 【共済(JA 共済など)】共済	2 (1.7%)	2 (2.2%)	6 (3.0%)	0.55
10. 【保険代理店】生命保険	7 (6.0%)	4 (4.3%)	12 (6.0%)	0.40
11. 【保険代理店】損害保険	3 (2.6%)	1 (1.1%)	4 (2.0%)	0.62
12. 【証券会社】株式・債券・投資信託	20 (17.2%)-	22 (23.7%)	84 (42.0%)+	24.0***
13. 【全金融機関】デリバティブ	4 (3.4%)	2 (2.2%)	3 (1.5%)	1.30
14. 【カード会社】各種のローン	6 (5.2%)	5 (5.4%)	5 (2.5%)	2.08
15. 【消費者金融会社】各種のローン	4 (3.4%)	3 (3.2%)	3 (1.5%)	1.48
16. 【商品先物会社】商品先物	9 (7.8%)	7 (7.5%)	17 (8.5%)	0.10
17. 上記以外	10 (8.6%)	8 (8.6%)	11 (5.5%)	1.50
18. 忘れた／後悔したものはない	32 (27.6%)+	18 (19.4%)	20 (10.0%)-	16.4***

Q29. 前問で「後悔した」を選んだ方にお伺いします。後悔した理由として下記の中で当てはまるものをすべて選んでください。

表 283 「後悔した」理由

Q29. 「後悔した」理由	全体
全体	364 (選択率)
1. 期待した収益が得られなかった	140 (38.5%)
2. 思ったよりもリスクが大きかった	153 (42.0%)
3. 大きな損失が生じた	176 (48.4%)
4. 手数料などの費用負担が大きかった	86 (23.6%)
5. 必要ではなかった	65 (17.9%)
6. 購入資金のために生活資金が不足してしまった	14 (3.8%)
7. 意図した目的と異なったものであった	43 (11.8%)
8. 商品内容を誤解していた	48 (13.2%)
9. 家族から反対された	8 (2.2%)
10. 金融機関の経営に不安を感じた	4 (1.1%)
11. アフターサービスが不十分であった	42 (11.5%)
12. その他	10 (2.7%)
13. わからない	6 (1.6%)

表 283 は、Q26 で「1.十分な説明がないまま、あるいは十分理解できないままの購入・利用」した経験がある 444 サンプルの内、Q28 で後悔した経験があると回答した 364 サンプルを対象に、後悔した理由について調査した結果である。

1 番選択率が高い理由は「3.大きな損失が生じた」で 48.4%であり、次いで「2.思ったよりもリスクが大きかった」が 42.0%、「1.期待した収益が得られなかった」が 38.5%である。全体的に金融商品を購入（利用）し、後悔した理由としては収益性に関する内容が大きく占める。

表 284 (クロス分析)後悔した理由×年代(金融トラブル経験有)

「後悔した」理由×年代(金融トラブル経験有)	トラブル有 (20・30代)	トラブル有 (40・50代)	トラブル有 (60以上)
全体	84 (選択率)	75 (選択率)	180 (選択率)
1. 期待した収益が得られなかった	26 (31.0%)	24 (32.0%)	82 (45.6%)+
カイ2乗統計量	7.09**		
2. 思ったよりもリスクが大きかった	29 (34.5%)	27 (36.0%)	91 (50.6%)+
カイ2乗統計量	8.12**		
3. 大きな損失が生じた	26 (31.0%)-	37 (49.3%)	105 (58.3%)+
カイ2乗統計量	17.2***		
4. 手数料などの費用負担が大きかった	15 (17.9%)	19 (25.3%)	48 (26.7%)
カイ2乗統計量	2.49		
5. 必要ではなかった	22 (26.2%)+	12 (16.0%)	27 (15.0%)
カイ2乗統計量	5.12*		
6. 購入資金のために生活資金が不足してしまった	4 (4.8%)	3 (4.0%)	6 (3.3%)
カイ2乗統計量	0.32		
7. 意図した目的と異なったものであった	13 (15.5%)	8 (10.7%)	20 (11.1%)
カイ2乗統計量	1.21		
8. 商品内容を誤解していた	9 (10.7%)	8 (10.7%)	31 (17.2%)
カイ2乗統計量	2.96		
9. 家族から反対された	3 (3.6%)	0 (0.0%)	3 (1.7%)
カイ2乗統計量	2.93		
10. 金融機関の経営に不安を感じた	0 (0.0%)	1 (1.3%)	2 (1.1%)
カイ2乗統計量	1.03		
11. アフターサービスが不十分であった	9 (10.7%)	6 (8.0%)	24 (13.3%)
カイ2乗統計量	1.55		
12. その他	1 (1.2%)	4 (5.3%)	5 (2.8%)
カイ2乗統計量	2.42		
13. わからない	1 (1.2%)	1 (1.3%)	2 (1.1%)
カイ2乗統計量	0.02		

表 284 は金融トラブル経験者に限定し、年代別で後悔した理由について比較したものである。年代別で有意が見られる年代は20・30代と60代以上であり、40・50代では有意差は見られない。

「1.期待した収益が得られなかった」、「2.思ったよりもリスクが大きかった」、「3.大きな損失が生じた」で5%水準以上の統計的な有意差が見られ、60代以上の金融トラブル経験者の選択率が有意に多い。また、20・30代では「5.必要ではなかった」の選択率が有意に多くなっている。

Q30. これまでの人生の中で、住宅ローン以外で、金融機関(消費者金融会社等を含みます)から月収を超えるような金額の借り入れをしたことがありますか。

表 285 月収を超える住宅ローン以外の借入経験

Q30. 月収を超える住宅ローン以外の借入経験	全体
全体	2700 (100%)
1. ある	519 (19.2%)
2. ない	1970 (73.0%)
3. わからない	211 (7.8%)

表 285 は住宅ローン以外で金融機関から月収を超える金額の借入経験について調査した結果である。約 7 割 (73%) の人は無いが、約 2 割 (19.2%) があると回答している。

表 286 (クロス分析) 月収を超える住宅ローン以外の借入経験 × 金融トラブル経験の有無

月収を超える住宅ローン以外の借入 × トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. ある	434 (24.1%)+	85 (9.4%)-
2. ない	1267 (70.4%)-	703 (78.1%)+
3. わからない	99 (5.5%)-	112 (12.4%)+
カイ2乗統計量	109.1***	

表 286 は金融トラブル経験の有無別で比較したものである。1%水準で統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者に住宅ローン以外の月収を超える金額の借入経験がある人が有意に多い。

一方、金融トラブル未経験者は月収を超える金額の借入経験のない人が有意に多いが、同時に「わからない」と回答する人も有意に多くなっている。

表 287 (クロス分析) 月収を超える住宅ローン以外の借入経験 × 年代・金融トラブル経験の有無

月収を超える消費者ローン ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. ある	122 (20.3%)+	20 (6.7%)-	175 (29.2%)+	34 (11.3%)-	137 (22.8%)+	31 (10.3%)-
2. ない	434 (72.3%)	220 (73.3%)	385 (64.2%)-	227 (75.7%)+	448 (74.7%)-	256 (85.3%)+
3. わからない	44 (7.3%)-	60 (20.0%)+	40 (6.7%)-	39 (13.0%)+	15 (2.5%)	13 (4.3%)
カイ2乗統計量	51.5***		40.4***		21.8***	

表 288 (クロス分析) 月収を超える住宅ローン以外の借入経験 × 金融トラブル経験有・年代

月収を超える消費者ローン ×金融トラブル有・年代	トラブル有 (20・30代)	トラブル有 (40・50代)	トラブル有 (60以上)
全体	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)
1. ある	122 (20.3%)-	175 (29.2%)+	137 (22.8%)
2. ない	434 (72.3%)	385 (64.2%)-	448 (74.7%)+
3. わからない	44 (7.3%)+	40 (6.7%)	15 (2.5%)-
カイ2乗統計量	30.5***		

表 287 は年代（金融トラブル経験の有無）別で月収を超える住宅ローン以外の借入経験について比較したものである。いずれの年代においても金融トラブル経験者に借入経験がある人が有意に多く、40・50代や60代以上の金融トラブル未経験者は借入経験の無い人が有意に多い（20・30代の金融トラブル未経験者は借入経験が無い人が有意に多い傾向は見られない）。

なお、表 288 は金融トラブル経験者に限定し、年代別で月収を超える住宅ローン以外の借入経験を比較したものであるが、40・50代で月収を超える借入経験がある人が有意に多く、60代以上ではない人が有意に多い。

そして、表 289 は金融トラブル内識別で比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は月収を超える借入経験の無い人が有意に多いが、それ以外の金融トラブル経験者（金融トラブル内訳 2～6、8～9）は借入経験がある人が有意に多い。

表 289 (クロス分析)月収を超える住宅ローン以外の借入経験×金融トラブル(内訳)

月収を超える住宅ローン以外の借入 ×金融トラブル(内訳)	1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3.消費者金融会社からお金を借りたことがある	4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. ある	94 (%13.8) ⁻	98 (57.3%) ⁺	208 (49.5%) ⁺	136 (49.3%) ⁺	210 (27.9%) ⁺
2. ない	560 (82.0%) ⁺	63 (36.8%) ⁻	187 (44.5%) ⁻	123 (44.6%) ⁻	504 (67.0%) ⁻
3. わからない	29 (4.2%) ⁻	10 (5.8%)	25 (6.0%)	17 (6.2%)	38 (5.1%) ⁻
カイ2乗統計量	39.3***	171.3***	294.9***	179.5***	56.3***

月収を超える住宅ローン以外の借入 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6.振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10.上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. ある	15 (30.6%) ⁺	13 (24.5%)	33 (28.0%) ⁺	38 (34.9%) ⁺	85 (9.4%) ⁻
2. ない	31 (63.3%)	39 (73.6%)	82 (69.5%)	64 (58.7%) ⁻	703 (78.1%) ⁺
3. わからない	3 (6.1%)	1 (1.9%)	3 (2.5%) ⁻	7 (6.4%)	112 (12.4%) ⁺
カイ2乗統計量	4.19	3.23	9.50***	17.9***	109.1***

Q31. これまでに、返済条件の変更を金融機関に申し入れたことがありますか。

表 290 返済条件変更の申し入れ

Q31. 返済条件変更の申し入れ	全体
全体	519 (100%)
1. 2回以上ある	108 (20.8%)
2. 1回だけある	105 (20.2%)
3. 1回もない	274 (52.8%)
4. わからない	32 (6.2%)

表 290 は Q30 の月収を超える住宅ローン以外の借入経験がある 519 サンプルを対象に、金融機関に返済条件の変更の申し入れの経験について調査した結果である。約半数（52.8%）の人は「1回もない」と回答しており、「1回だけある」が 20.2%、「2回以上ある」が 20.8%である。

表 291 (クロス分析)返済条件変更の申し入れ×金融トラブル経験の有無

返済条件の変更×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	434 (100%)	85 (100%)
1. 2回以上ある	99 (22.8%)+	9 (10.6%)-
2. 1回だけある	91 (21.2%)	13 (15.3%)
3. 1回もない	213 (49.1%)-	61 (71.8%)+
4. わからない	30 (6.9%)	2 (2.4%)
カイ2乗統計量	15.7***	

表 291 は金融トラブル経験の有無で金融機関に返済条件の変更の申し入れの経験について比較したものである。金融トラブル経験者は返済条件の変更の申し入れの経験がある人が有意に多く、2回以上ある人が有意に多くなっている。一方、金融トラブル未経験者は返済条件の変更の申し入れの経験のない人が有意に多い。

表 292 (クロス分析)返済条件変更の申し入れ×年代・金融トラブル経験の有無

返済条件の変更 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル有	トラブル無	トラブル有
全体	122 (100%)	20 (100%)	175 (100%)	34 (100%)	137 (100%)	31 (100%)
1. 2回以上ある	32 (26.2%)+	1 (5.0%)-	31 (17.7%)	5 (14.7%)	36 (26.3%)+	3 (9.7%)-
2. 1回だけある	28 (23.0%)	2 (10.0%)	29 (16.6%)	3 (8.8%)	35 (25.5%)	8 (25.8%)
3. 1回もない	54 (44.3%)-	17 (85.0%)+	97 (55.4%)-	25 (73.5%)+	62 (45.3%)	19 (61.3%)
4. わからない	8 (6.6%)	0 (0.0%)	18 (10.3%)	1 (2.9%)	4 (2.9%)	1 (3.2%)
カイ2乗統計量	11.7***		4.55		4.36	

表 293 (クロス分析)返済条件変更の申し入れ×金融トラブル経験有・年代

返済条件の変更 ×金融トラブル有・年代	トラブル有 (20・30代)	トラブル有 (40・50代)	トラブル有 (60以上)
全体	122 (100%)	175 (100%)	137 (100%)
1. 2回以上ある	32 (26.2%)	31 (17.7%)-	36 (26.3%)
2. 1回だけある	28 (23.0%)	29 (16.6%)	35 (25.5%)
3. 1回もない	54 (44.3%)	97 (55.4%)+	62 (45.3%)
4. わからない	8 (6.6%)	18 (10.3%)+	4 (2.9%)-
カイ2乗統計量	15.0**		

表 292 は年代（金融トラブル経験の有無）別で金融機関に返済条件の変更の申し入れの経験について比較したものである。金融トラブル経験の有無で統計的な有意差が見られるのは20・30代であり、20・30代の金融トラブル経験者で2回以上の返済条件の変更の申し入れの経験がある人が有意に多い（60代以上では金融トラブル経験の有無で統計的な有意差は見られないが、金融トラブル経験者で2回以上の返済条件変更の申し入れの経験がある人は有意に多くなっている）。

なお、表 293 は金融トラブル経験者に限定し、年代別で返済条件変更の申し入れの経験について比較したものである。40・50代は返済条件変更の申し入れについて1回も無い人が有意に多い。

そして、表 294 は金融トラブル内訳別で比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」と「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人は返済条件変更の申し入れについて1回だけある人が有意に多いが、それ以外の金融トラブル経験者（金融トラブル内訳2～6、9）は2回以上の経験がある人が有意に多くなっている。

表 294 (クロス分析)返済条件変更の申し入れ×金融トラブル(内訳)

返済条件の変更 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
	全体	94 (100%)	98 (100%)	208 (100%)	136 (100%)
1. 2回以上ある	14 (14.9%)	28 (28.6%)+	54 (26.0%)+	43 (31.6%)+	61 (29.0%)+
2. 1回だけある	29 (30.9%)+	25 (25.5%)	39 (18.8%)	28 (20.6%)	39 (18.6%)
3. 1回もない	47 (50.0%)	39 (39.8%)-	100 (48.1%)	58 (42.6%)-	89 (42.4%)-
4. わからない	4 (4.3%)	6 (6.1%)	15 (7.2%)	7 (5.1%)	21 (10.0%)+
カイ2乗統計量	9.18**	9.03**	6.88*	14.3***	27.6***

返済条件の変更 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
	全体	15 (100%)	13 (100%)	33 (100%)	38 (100%)
1. 2回以上ある	7 (46.7%)+	5 (38.5%)	10 (30.3%)	15 (39.5%)+	9 (10.6%)-
2. 1回だけある	3 (20.0%)	2 (15.4%)	12 (36.4%)+	7 (18.4%)	13 (15.3%)
3. 1回もない	4 (26.7%)-	6 (46.2%)	11 (33.3%)-	15 (39.5%)	61 (71.8%)+
4. わからない	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)+	2 (2.4%)
カイ2乗統計量	6.97*	3.09	10.8**	9.14**	15.7***

Q32. .これまでに、返済条件の変更を金融機関に認めてもらったことがありますか。

表 295 返済条件変更の承認

Q32. 返済条件変更の承認	全体
全体	213 (100%)
1. 2 回以上ある	82 (38.5%)
2. 1 回だけある	85 (39.9%)
3. 1 回もない	32 (15.0%)
4. わからない	14 (6.6%)

表 295 は月収を超える住宅ローン以外の借入経験があり、かつ金融機関に返済条件変更の申し入れの経験がある 213 サンプルを対象に、返済条件の変更の承認状況について調査した結果である。「1 回だけある」と回答する人が 1 番多く 39.9%であり、次いで「2 回以上ある」が 38.5%である。返済条件の変更の申し入れについて 1 回も承認が無い人は 15%である。

表 296 (クロス分析)返済条件変更の承認×金融トラブル経験の有無

返済条件変更の承認×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	191 (100%)	22 (100%)
1. 2 回以上ある	73 (38.2%)	9 (40.9%)
2. 1 回だけある	75 (39.3%)	10 (45.5%)
3. 1 回もない	30 (15.7%)	2 (9.1%)
4. わからない	13 (6.8%)	1 (4.5%)
カイ 2 乗統計量	0.95	

表 296 は金融トラブル経験の有無で返済条件の変更の承認について比較したものであるが、統計的な有意差は見られない。また、年代別で比較しても有意差は見られず (表 297)。金融トラブル経験者に限定して年代別で比較しても有意差は見られない (表 298)。なお、金融トラブル未経験者に限定して年代別で比較した場合 5%水準で有意差は見られるが、該当者は少ない。

そして、金融トラブルの内訳別で見ると、「4.住宅ローン等の返済資金を用意することができなかった」人は返済条件の変更の承認は 2 回以上ある人が有意に多くなっている (表 299)。

表 297 (クロス分析)返済条件変更の承認×年代・金融トラブル経験の有無

返済条件変更の承認 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	60 (100%)	3 (100%)	60 (100%)	8 (100%)	71 (100%)	11 (100%)
1. 2回以上ある	24 (40.0%)	1 (33.3%)	22 (36.7%)	5 (62.5%)	27 (38.0%)	3 (27.3%)
2. 1回だけある	24 (40.0%)	0 (0.0%)	25 (41.7%)	3 (37.5%)	26 (36.6%)	7 (63.6%)
3. 1回もない	7 (11.7%)	1 (33.3%)	9 (15.0%)	0 (0.0%)	14 (19.7%)	1 (9.1%)
4. わからない	5 (8.3%)	1 (33.3%)	4 (6.7%)	0 (0.0%)	4 (5.6%)	0 (0.0%)
カイ2乗統計量	4.16		2.95		3.24	

表 298 (クロス分析)返済条件変更の承認×金融トラブル経験の有無・年代

返済条件変更の承認 ×金融トラブル有無・年代	20・30代	40・50代	60代以上
金融トラブル経験有			
全体	60 (100%)	60 (100%)	71 (100%)
1. 2回以上ある	24 (40.0%)	22 (36.7%)	27 (38.0%)
2. 1回だけある	24 (40.0%)	25 (41.7%)	26 (36.6%)
3. 1回もない	7 (11.7%)	9 (15.0%)	14 (19.7%)
4. わからない	5 (8.3%)	4 (6.7%)	4 (5.6%)
カイ2乗統計量	2.03		
金融トラブル経験無			
全体	3 (100%)	8 (100%)	11 (100%)
1. 2回以上ある	1 (33.3%)	5 (62.5%)	3 (27.3%)
2. 1回だけある	0 (0.0%)	3 (37.5%)	7 (63.6%)
3. 1回もない	1 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)
4. わからない	1 (33.3%)+	0 (0.0%)	0 (0.0%)
カイ2乗統計量	12.7**		

表 299 (クロス分析)返済条件変更の承認×金融トラブル(内訳)

返済条件変更の承認 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
	全体	43 (100%)	53 (100%)	93 (100%)	71 (100%)
1. 2回以上ある	13 (30.2%)	22 (41.5%)	37 (39.8%)	37 (52.1%)+	43 (43.0%)
2. 1回だけある	17 (39.5%)	16 (30.2%)	35 (37.6%)	20 (28.2%)-	36 (36.0%)
3. 1回もない	10 (23.3%)	12 (22.6%)	17 (18.3%)	10 (14.1%)	13 (13.0%)
4. わからない	3 (7.0%)	3 (5.7%)	4 (4.3%)	4 (5.6%)	8 (8.0%)
カイ2乗統計量	3.40	4.65	2.75	9.01**	2.81

返済条件変更の承認 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
	全体	10 (100%)	7 (100%)	22 (100%)	22 (100%)
1. 2回以上ある	6 (60.0%)	4 (57.1%)	7 (31.8%)	12 (54.5%)	9 (40.9%)
2. 1回だけある	2 (20.0%)	2 (28.6%)	9 (40.9%)	8 (36.4%)	0 (45.5%)
3. 1回もない	2 (20.0%)	1 (14.3%)	6 (27.3%)	2 (9.1%)	2 (9.1%)
4. わからない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)
カイ2乗統計量	3.17	1.37	4.35	3.91	0.95

Q33. クレジットカードを申し込んで、拒絶されたことがありますか。

表 300 クレジットカード申込の拒絶経験

Q33. クレジットカード申込の拒絶経験	全体
全体	2700 (100%)
1. ある	597 (22.1%)
2. すべて認められた	1787 (66.2%)
3. 申し込んだことがない	129 (4.8%)
4. わからない	187 (6.9%)

表 300 はクレジットカードの承認（申し込みの拒絶経験）について調査した結果である。66.2%の人がすべて認められているが、22.1%の人が申込を拒絶されたことがあると回答している。また、クレジットカードを申し込んだことがない人は4.8%である。

表 301 (クロス分析)クレジットカード申込の拒絶経験×金融トラブル経験の有無

クレジットカード承認×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (100%)	900 (100%)
1. ある	498 (27.7%)+	99 (11.0%)-
2. すべて認められた	1149 (63.8%)-	638 (70.9%)+
3. 申し込んだことがない	59 (3.3%)-	70 (7.8%)+
4. わからない	94 (5.2%)-	93 (10.3%)+
カイ2乗統計量	128.0***	

表 301 は金融トラブル経験の有無別でクレジットカードの承認状況について比較したものである。金融トラブル経験者にクレジットカードの申し込みで拒絶された経験がある人が有意に多く、金融トラブル未経験者はすべて認められたと回答する人が有意に多い。

なお、金融トラブル未経験者については、クレジットカードを申し込んだことが無い人も有意に多く、また、クレジットカードの承認状況について「わからない」と回答する人も多い。

表 302 (クロス分析)クレジットカード申込の拒絶経験×年代・金融トラブル経験の有無

クレジットカード承認 ×年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. ある	171 (28.5%)+	35 (11.7%)-	195 (32.5%)+	42 (14.0%)-	132 (22.0%)+	22 (7.3%)-
2. すべて認められた	374 (62.3%)	180 (60.0%)	348 (58.0%)-	207 (69.0%)+	427 (71.2%)-	251 (83.7%)+
3. 申し込んだことがない	25 (4.2%)-	34 (11.3%)+	20 (3.3%)-	21 (7.0%)+	14 (2.3%)-	15 (5.0%)+
4. わからない	30 (5.0%)-	51 (17.0%)+	37 (6.2%)-	30 (10.0%)+	27 (4.5%)	12 (4.0%)
カイ2乗統計量	72.6***		39.8***		33.8***	

表 303 (クロス分析)クレジットカード申込の拒絶経験×年代(金融トラブル経験有)

クレジットカード承認 ×金融トラブル有・年代	トラブル有 (20・30代)	トラブル有 (40・50代)	トラブル有 (60以上)
全体	600 (100%)	600 (100%)	600 (100%)
1. ある	171 (28.5%)	195 (32.5%)+	132 (22.0%)-
2. すべて認められた	374 (62.3%)	348 (58.0%)-	427 (71.2%)+
3. 申し込んだことがない	25 (4.2%)	20 (3.3%)	14 (2.3%)
4. わからない	30 (5.0%)	37 (6.2%)	27 (4.5%)
カイ2乗統計量	25.4***		

表 302 は年代(金融トラブル経験の有無)別でクレジットカード申込の拒絶経験について比較したものである。クレジットカードを申し込んで拒絶されたことがある人は全ての年代において金融トラブル経験者で有意に多い。なお、すべて認められた場合について見ると、20・30代は金融トラブル経験の有無で有意差は見られないが、40・50代と60代以上では金融トラブル未経験者で有意に多くなっている。また、全ての年代においてクレジットカードを申し込んだことが無い人は金融トラブル未経験者で有意に多い。

なお、表 303 は金融トラブル経験者に限定し年代別で比較したものであるが、40・50代の金融トラブル経験者でクレジットカードを申し込み拒絶された経験のある人が有意に多く、60代以上の金融トラブル経験者では、すべて認められた人が有意に多くなっている。

表 304 は金融トラブル内訳でクレジットカード申込の拒絶経験について比較したものである。金融トラブル内訳のうち、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入した」ことがある人のみ「2.すべて認められた」人が有意に多くなっている。それ以外の金融トラブルを経験したことがある人(但し、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」と「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」を除く)はクレジットカードを申し込み拒絶されたことがある人が有意に多い。

表 304 (クロス分析)クレジットカード申込の拒絶経験×金融トラブル(内訳)

クレジットカード承認 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
	全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)
1. ある	124 (18.2%)+	85 (49.7%)+	203 (48.3%)+	156 (56.5%)+	244 (32.4%)+
2. すべて認められた	516 (75.5%)+	70 (40.9%)-	170 (40.5%)-	94 (34.1%)-	442 (58.8%)-
3. 申し込んだことがない	21 (3.1%)-	6 (3.5%)	11 (2.6%)-	6 (2.2%)-	26 (3.5%)-
4. わからない	22 (3.2%)-	10 (5.8%)	36 (8.6%)	20 (7.2%)	40 (5.3%)-
カイ2乗統計量	42.3***	81.4***	211.1***	217.0***	66.7***

クレジットカード承認 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
	全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)
1. ある	21 (42.9%)+	15 (28.3%)	34 (28.8%)	35 (32.1%)+	99 (11.0%)-
2. すべて認められた	24 (49.0%)-	38 (71.7%)	79 (66.9%)	60 (55.0%)-	638 (70.9%)+
3. 申し込んだことがない	2 (4.1%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)-	5 (4.6%)	70 (7.8%)+
4. わからない	2 (4.1%)	0 (0.0%)-	4 (3.4%)	9 (8.3%)	93 (10.3%)+
カイ2乗統計量	12.6***	7.51*	8.74**	7.57*	128.0***

Q34. 現在、クレジットカードを何枚持っていますか。

表 305 クレジットカード所有枚数

Q34. クレジットカード所有枚数	全体
全体	2571 (100%)
1. 11 枚以上	62 (2.4%)
2. 6～10 枚	369 (14.4%)
3. 3～5 枚	1150 (44.7%)
4. 2 枚	522 (20.3%)
5. 1 枚	277 (10.8%)
6. ゼロ枚	106 (4.1%)
7. わからない	85 (3.3%)

表 305 はクレジットカードの所有枚数について調査した結果である。1 番多い枚数は「3～5 枚」であり約半数（44.7%）が該当し、次いで「2 枚」が 20.3%、「6～10 枚」が 14.4%、「1 枚」が 10.8%である。なお、「11 枚以上」は 2.4%、クレジットカードを所有していない人は 4.1%である。

表 306 (クロス分析)クレジットカード所有枚数×金融トラブル経験の有無

クレジットカード所有枚数×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1741 (100%)	830 (100%)
1. 11 枚以上	49 (2.8%)	13 (1.6%)
2. 6～10 枚	262 (15.0%)	107 (12.9%)
3. 3～5 枚	783 (45.0%)	367 (44.2%)
4. 2 枚	331 (19.0%)-	191 (23.0%)+
5. 1 枚	190 (10.9%)	87 (10.5%)
6. ゼロ枚	93 (5.3%)+	13 (1.6%)-
7. わからない	33 (1.9%)-	52 (6.3%)+

カイ 2 乗統計量

61.9***

表 307 (クロス分析)クレジットカード所有枚数×年代・金融トラブル経験の有無

クレジットカード所有枚数 ×年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	575 (100%)	266 (100%)	580 (100%)	279 (100%)	586 (100%)	285 (100%)
1. 11枚以上	8 (1.4%)	2 (0.8%)	10 (1.7%)	6 (2.2%)	31 (5.3%)+	5 (1.8%)-
2. 6～10枚	35 (6.1%)	15 (5.6%)	98 (16.9%)	39 (14.0%)	129 (22.0%)	53 (18.6%)
3. 3～5枚	256 (44.5%)+	93 (35.0%)-	246 (42.4%)	121 (43.4%)	281 (48.0%)	153 (53.7%)
4. 2枚	129 (22.4%)	74 (27.8%)	120 (20.7%)	65 (23.3%)	82 (14.0%)	52 (18.2%)
5. 1枚	99 (17.2%)	50 (18.8%)	60 (10.3%)	23 (8.2%)	31 (5.3%)	14 (4.9%)
6. ゼロ枚	33 (5.7%)+	6 (2.3%)-	34 (5.9%)+	5 (1.8%)-	26 (4.4%)+	2 (0.7%)-
7. わからない	15 (2.6%)-	26 (9.5%)+	12 (2.1%)-	20 (7.2%)+	6 (1.0%)	6 (2.1%)
カイ2乗統計量	31.0***		22.7***		20.4***	

表 306 は金融トラブル経験の有無別でクレジットカードの所有枚数について比較したものである。1%水準の統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者では「ゼロ枚」が有意に多く、金融トラブル未経験者では「2枚」の所有が有意に多くなっている。

なお、金融トラブル経験者にクレジットカードを所有していない人が有意に多い理由としては、金融トラブル経験者の方がクレジットカードを申し込んで拒絶されたことがある人が有意に多いことが反映されているかもしれない(表 302 を参照)。

そして、表 307 は年代(金融トラブル経験の有無)別で比較したものである。全ての年代において金融トラブル経験者はクレジットカードを所有していない人が有意に多い。但し、20・30代の金融トラブル経験者では「3～5枚」の所有も有意に多く、60代以上では「11枚以上」の所有も有意に多い。

さらに、表 308 は金融トラブル内訳でクレジットカードの所有枚数について比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人はクレジットカードを3枚以上(「3～5枚」、「6～10枚」、「11枚以上」)多く持つ傾向が有意に見られる。また、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」、及び「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人も6枚以上(「6～10枚」、「11枚以上」)とクレジットカード所有枚数は有意に多い。

一方、消費者ローン利用者(金融トラブル内訳 2・3)や住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人(金融トラブル内訳 4・5)は保有していない、あるいは保有していても枚数は少ない(1枚が有意に多くなっている)。これらの金融トラブル経験者(金融トラブル内訳 2～5)はクレジットカード申込で拒絶されたことがある人が有意に多いことと対応しているものと考えられる(表 304 を参照)。

表 308 (クロス分析)クレジットカード所有枚数×金融トラブル(内訳)

クレジットカード所有枚数 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解でき ないまま金融商品 を購入したことがある	2. すでにある消費 者ローンの支払いの 返済のために借入を した	3. 消費者金融会社 からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカ ードローンなどの返 済資金を用意する ことができなかった	5. 公共料金や保険 料などの支払いを遅 延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 11枚以上	27 (4.1%)+	4 (2.4%)	6 (1.5%)	7 (2.6%)	12 (1.7%)
2. 6~10枚	127 (19.2%)+	23 (13.9%)	45 (11.0%)-	22 (8.1%)-	86 (11.8%)-
3. 3~5枚	347 (52.4%)+	71 (43.0%)	149 (36.4%)-	107 (39.6%)	292 (40.2%)-
4. 2枚	99 (15.0%)-	32 (19.4%)	92 (22.5%)	49 (18.1%)	149 (20.5%)
5. 1枚	44 (6.6%)-	19 (11.5%)	63 (15.4%)+	37 (13.7%)	106 (14.6%)+
6. ゼロ枚	7 (1.1%)-	15 (9.1%)+	45 (11.0%)+	45 (16.7%)+	71 (9.8%)+
7. わからない	11 (1.7%)-	1 (0.6%)-	9 (2.2%)	3 (1.1%)-	10 (1.4%)-

カイ2乗統計量	90.8***	14.7**	81.5***	132.5***	115.1***
---------	---------	--------	---------	----------	----------

クレジットカード所有枚数 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の 被害に遭ったこと がある	7. 他の金融商品に 関連する詐欺に遭 ったことがある	8. 金融商品に関 するトラブルを経 験したことがある	9. 保証人として借 金の肩代わりをさ せられたことがある	10. 上記に該当す る経験は一つもな い
全体	47 (100%)	53 (100%)	117 (100%)	104 (100%)	830 (100%)
1. 11枚以上	3 (6.4%)	4 (7.5%)+	7 (6.0%)+	5 (4.8%)	13 (1.6%)
2. 6~10枚	7 (14.9%)	15 (28.3%)+	26 (22.2%)+	14 (13.5%)	107 (12.9%)
3. 3~5枚	18 (38.3%)	19 (35.8%)	48 (41.0%)	45 (43.3%)	367 (44.2%)
4. 2枚	8 (17.0%)	6 (11.3%)	20 (17.1%)	18 (17.3%)	191 (23.0%)+
5. 1枚	7 (14.9%)	4 (7.5%)	8 (6.8%)	10 (9.6%)	87 (10.5%)
6. ゼロ枚	4 (8.5%)	4 (7.5%)	5 (4.3%)	9 (8.7%)+	13 (1.6%)-
7. わからない	0 (0.0%)	1 (1.9%)	3 (2.6%)	3 (2.9%)	52 (6.3%)+

カイ2乗統計量	8.41	18.8***	14.7**	8.76	61.9***
---------	------	---------	--------	------	---------

Q35. 現在、クレジットカードの年会費としていくぐらい支払っていますか。複数のカードをお持ちの場合は、その合計額をお答えください。

表 309 クレジットカードの年会費

Q35. クレジットカードの年会費	全体
全体	2380 (100%)
1. 3万円以上	67 (2.8%)
2. 1万円以上～3万円未満	225 (9.5%)
3. 1円以上～1万円未満	751 (31.6%)
4. ゼロ円	1245 (52.3%)
5. 支払っていることはわかっているが、金額はわからない	58 (2.4%)
6. 会費有料のカードがあるかわからない	34 (1.4%)

表 309 はクレジットカード所有者 2380 サンプルを対象に年会費の支払いについて調査した結果である。約半分（52.3%）の人は年会費無料のクレジットカードの所有であり、会費有料のクレジットカード所有者については、年会費 1 万円未満が大多数を占め 31.6%である。

表 310 (クロス分析)クレジットカードの年会費×金融トラブル経験の有無

クレジットカードの年会費×金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1615 (100%)	765 (100%)
1. 3万円以上	50 (3.1%)	17 (2.2%)
2. 1万円以上～3万円未満	168 (10.4%)+	57 (7.5%)-
3. 1円以上～1万円未満	515 (31.9%)	236 (30.8%)
4. ゼロ円	820 (50.8%)-	425 (55.6%)+
5. 支払っていることはわかっているが、金額はわからない	41 (2.5%)	17 (2.2%)
6. 会費有料のカードがあるかわからない	21 (1.3%)	13 (1.7%)
カイ2乗統計量	9.43*	

表 311 (クロス分析)クレジットカードの年会費×年代・金融トラブル経験の有無

クレジットカードの年会費 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	527 (100%)	234 (100%)	534 (100%)	254 (100%)	554 (100%)	277 (100%)
1. 3万円以上	11 (2.1%)	2 (0.9%)	17 (3.2%)	10 (3.9%)	22 (4.0%)	5 (1.8%)
2. 1万円以上～3万円未満	25 (4.7%)	5 (2.1%)	55 (10.3%)	17 (6.7%)	88 (15.9%)	35 (12.6%)
3. 1円以上～1万円未満	138 (26.2%)	55 (23.5%)	186 (34.8%)	75 (29.5%)	191 (34.5%)	106 (38.3%)
4. ゼロ円	338 (64.1%)	164 (70.1%)	257 (48.1%) ⁻	144 (56.7%) ⁺	225 (40.6%)	117 (42.2%)
5. 支払っていることはわかっ ているが、金額はわからない	10 (1.9%)	1 (0.4%)	11 (2.1%)	5 (2.0%)	20 (3.6%)	11 (4.0%)
6. 会費有料のカードがあるか わからない	5 (0.9%) ⁻	7 (3.0%) ⁺	8 (1.5%)	3 (1.2%)	8 (1.4%)	3 (1.1%)
カイ2乗統計量	12.3**		6.81		5.09	

表 310 は金融トラブル経験の有無別でクレジットカード年会費の支払いについて比較したものである。統計的な有意差は 10%水準であるが、金融トラブル経験者は 1～3 万円の年会費を支払う人が有意に多く、金融トラブル未経験者は会費無料のクレジットカードを所有している人が有意に多い。

そして、表 311 は年代（金融トラブル経験の有無）別で比較したものである。40・50代と 60代以上では金融トラブル経験の有無で統計的な有意差は見られない（但し、40・50代の金融トラブル未経験者は会費無料のクレジットカードの所有が有意に多くなっている）。

なお、20・30代では 5%水準の有意差が見られるが、20・30代の金融トラブル未経験者は会費有料のカードを所有しているか否かわからない人が有意に多い。

さらに、表 312 は金融トラブル内訳別でクレジットカード年会費の支払いについて比較したものである。1%水準で統計的な有意差が見られる金融トラブルの内訳は 1、5、8 であり、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は 1万円以上から 3万円未満の年会費を、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人は 3万円以上の年会費を支払っている人が有意に多い。

一方、「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」人はクレジットカードの年会費を支払っているが、いくら支払いをしているのかわからない人が有意に多くなっている。

表 312 (クロス分析)クレジットカードの年会費×金融トラブル(内訳)

クレジットカードの年会費 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま 金融商品を購入したことがあ る	2. すでにある消費者金融の 支払いの返済のために借入を した	3. 消費者金融会社からお金 を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローン などの返済資金を用意するこ とができなかった	5. 公共料金や保険料などの 支払いを遅延したことがある
全体	644 (100%)	149 (100%)	355 (100%)	222 (100%)	645 (100%)
1. 3万円以上	25 (3.9%)	6 (4.0%)	13 (3.7%)	8 (3.8%)	16 (2.5%)
2. 1万円以上～3万円未満	80 (12.4%)+	19 (12.8%)	34 (9.6%)	22 (9.9%)	41 (6.4%)-
3. 1円以上～1万円未満	226 (35.1%)+	40 (26.8%)	103 (29.0%)	77 (34.7%)	208 (32.2%)
4. ゼロ円	291 (45.2%)-	79 (53.0%)	190 (53.5%)	104 (46.8%)	348 (54.0%)
5. 支払っていることはわかっ ているが、金額はわからない	14 (2.2%)	1 (0.7%)	6 (1.7%)	8 (3.6%)	24 (3.7%)+
6. 会費有料のカードがあるかわ からない	8 (1.2%)	4 (2.7%)	9 (2.5%)	3 (1.4%)	8 (1.2%)
カイ2乗統計量	24.3***	7.58	6.57	4.13	16.1***

クレジットカードの年会費 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭っ たことがある	7. 他の金融商品に関連する 詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブ ルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代 わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は 一つもない
全体	43 (100%)	48 (100%)	109 (100%)	92 (100%)	765 (100%)
1. 3万円以上	3 (7.0%)	4 (8.3%)+	10 (9.2%)+	6 (6.5%)+	17 (2.2%)
2. 1万円以上～3万円未満	7 (16.3%)	7 (14.6%)	10 (9.2%)	13 (14.1%)	57 (7.5%)-
3. 1円以上～1万円未満	14 (32.6%)	18 (37.5%)	42 (38.5%)	24 (26.1%)	236 (30.8%)
4. ゼロ円	19 (44.2%)	19 (39.6%)	47 (43.1%)-	45 (48.9%)	425 (55.6%)+
5. 支払っていることはわかっ ているが、金額はわからない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)	17 (2.2%)
6. 会費有料のカードがあるかわ からない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)	13 (1.7%)
カイ2乗統計量	7.11	10.6*	24.4***	8.40	9.43*

Q36. あなたはクレジットカードを利用していますか。

表 313 クレジットカードの利用

Q36. クレジットカードの利用	全体
全体	2380 (100%)
1. よく利用している	1615 (67.9%)
2. たまに利用している	654 (27.5%)
3. 滅多に利用しない	91 (3.8%)
4. 全く利用しない	20 (0.8%)

表 313 はクレジットカード所有者 2380 サンプルを対象に利用頻度について調査した結果である。約 7 割 (67.9%) が「1.よく利用している」と回答しており、「2.たまに利用している」人も 3 割弱 (27.5%) である。

表 314 (クロス分析)クレジットカードの利用×金融トラブル経験の有無

クレジットカードの利用×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1615 (100%)	765 (100%)
1. よく利用している	1128 (69.8%)+	487 (63.7%)-
2. たまに利用している	419 (25.9%)-	235 (30.7%)+
3. 滅多に利用しない	57 (3.5%)	34 (4.4%)
4. 全く利用しない	11 (0.7%)	9 (1.2%)
カイ 2 乗統計量	9.89**	

表 314 は金融トラブル経験の有無別でクレジットカードの利用頻度について比較したものである。5% 水準の統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者は「1.よく利用している」人が有意に多い。また、金融トラブル未経験者は「2.たまに利用している」が有意に多く、金融トラブル経験者の方がクレジットカードの利用頻度は多い傾向が見られる。

表 315 (クロス分析)クレジットカードの利用×年代・金融トラブル有無

クレジットカードの利用 ×年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	366 (100%)	148 (100%)	387 (100%)	165 (100%)	375 (100%)	174 (100%)
1. よく利用している	366 (69.4%)	148 (63.2%)	387 (72.5%)+	165 (65.0%)-	375 (67.7%)	174 (62.8%)
2. たまに利用している	143 (27.1%)	72 (30.8%)	124 (23.2%)-	77 (30.3%)+	152 (27.4%)	86 (31.0%)
3. 減多に利用しない	14 (2.7%)	10 (4.3%)	19 (3.6%)	10 (3.9%)	24 (4.3%)	14 (5.1%)
4. 全く利用しない	4 (0.8%)	4 (1.7%)	4 (0.7%)	2 (0.8%)	3 (0.5%)	3 (1.1%)
カイ2乗統計量	4.42		4.85		2.47	

表 316 (クロス分析)クレジットカードの利用×金融トラブル有無・年代

クレジットカードの利用 ×金融トラブル有・年代	20・30代	40・50代	60代以上
金融トラブル経験有			
全体	527 (100%)	534 (100%)	554 (100%)
1. よく利用している	366 (69.4%)	387 (72.5%)	375 (67.7%)
2. たまに利用している	143 (27.1%)	124 (23.2%)	152 (27.4%)
3. 減多に利用しない	14 (2.7%)	19 (3.6%)	24 (4.3%)
4. 全く利用しない	4 (0.5%)	4 (0.7%)	3 (0.5%)
カイ2乗統計量	5.59		
金融トラブル経験無			
全体	234 (100%)	254 (100%)	277 (100%)
1. よく利用している	148 (63.2%)	165 (65.0%)	174 (62.8%)
2. たまに利用している	72 (30.8%)	77 (30.3%)	86 (31.0%)
3. 減多に利用しない	10 (4.3%)	10 (3.9%)	14 (5.1%)
4. 全く利用しない	4 (1.7%)	2 (0.8%)	3 (1.1%)
カイ2乗統計量	1.44		

表 315 は年代（金融トラブル経験の有無）別で比較したものであるが、いずれの年代でも金融トラブル経験の有無でクレジットカードの利用頻度に統計的な有意差は見られない（但し、40・50代において金融トラブル経験者の方がよく利用している傾向は見られる）。

また、表 316 は金融トラブル経験者と未経験者にサンプルを分け、それぞれ年代別で比較したものであるが統計的な有意差は見られない。

表 317 (クロス分析)クレジットカードの利用×金融トラブル(内訳)

クレジットカード [※] の利用 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま 金融商品を購入したことがあ る	2. すでにある消費者ローンの 支払いの返済のために借入を した	3. 消費者金融会社からお金 を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローン などの返済資金を用意するこ とができなかった	5. 公共料金や保険料などの 支払いを遅延したことがある
全体	644 (100%)	149 (100%)	355 (100%)	222 (100%)	645 (100%)
1. よく利用している	495 (76.9%)+	99 (66.4%)	234 (65.9%)	150 (67.6%)	415 (64.3%)-
2. たまに利用している	130 (20.2%)-	45 (30.2%)	108 (30.4%)	61 (27.5%)	197 (30.5%)+
3. 減多に利用しない	17 (2.6%)	4 (2.7%)	10 (2.8%)	8 (3.6%)	26 (4.0%)
4. 全く利用しない	2 (0.3%)	1 (0.7%)	3 (0.8%)	3 (1.4%)	7 (1.1%)
カイ2乗統計量	33.8***	1.07	2.65	0.80	5.37

クレジットカード [※] の利用 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭っ たことがある	7. 他の金融商品に関連する 詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブ ルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代 わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は 一つもない
全体	43 (100%)	48 (100%)	109 (100%)	92 (100%)	765 (100%)
1. よく利用している	30 (69.8%)	38 (79.2%)	83 (76.1%)	59 (64.1%)	487 (63.7%)-
2. たまに利用している	10 (23.3%)	9 (18.8%)	23 (21.1%)	27 (29.3%)	235 (30.7%)+
3. 減多に利用しない	1 (2.3%)	1 (2.1%)	2 (1.8%)	5 (5.4%)	34 (4.4%)
4. 全く利用しない	2 (4.7%)+	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (1.1%)	9 (1.2%)
カイ2乗統計量	8.3**	3.08	4.04	1.04	9.89**

表 317 は金融トラブル内訳別でクレジットカードの利用頻度について比較したものである。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことある」人はクレジットカードをよく利用している人が有意に多い。なお「6.振り込め詐欺の被害に遭ったことがある」人はクレジットカードを全く利用しない人が有意に多くなっている。

Q37. カードの決済日に決済できなかった経験はありますか。

表 318 クレジットカード決済の遅延経験

Q37. クレジットカード決済の遅延経験	全体
全体	2360 (100%)
1. 3回以上ある	269 (11.4%)
2. 2回ある	127 (5.4%)
3. 1回だけある	278 (11.8%)
4. 1回もない	1686 (71.4%)

表 318 はクレジットカードを利用している 2360 サンプル (Q36 の「1.よく利用している」、「2.たまに利用している」、「3.滅多に利用しない」の計) を対象に、クレジットカードの決済日に決済できなかった経験について調査した結果である。約 7 割 (71.4%) が決済日に決済できなかったことは 1 回も無く、「1 回だけある」人は 11.8%、3 回以上ある人は 11.4% であり、2 回ある人は 5.4% である。

表 319 (クロス分析)クレジットカード決済の遅延経験×金融トラブル経験の有無

クレジットカード決済の遅延経験 ×金融トラブル経験の有無	トラブル有	トラブル無
全体	1604 (100%)	756 (100%)
1. 3回以上ある	238 (14.8%)+	31 (4.1%)-
2. 2回ある	106 (6.6%)+	21 (2.8%)-
3. 1回だけある	230 (14.3%)+	48 (6.3%)-
4. 1回もない	1030 (64.2%)-	656 (86.8%)+
カイ 2 乗統計量	130.4***	

表 319 は金融トラブル経験の有無別でクレジットカードの決済遅延について比較したものである。金融トラブル経験者はクレジットカードの決済日に決済できなかった人が有意に多いが、金融トラブル経験者の定義として「公共料金等の支払いを遅延したことがある」が含まれていることが反映しているものと考えられる。

表 320 (クロス分析)クレジットカード決済デフォルトの経験×年代(金融トラブル経験有)

クレジットカード決済遅延の経験×年代別(金融トラブル経験有)	有トラブル (20・30代)	有トラブル (40・50代)	有トラブル (60以上)
全体	523 (100%)	530 (100%)	551 (100%)
1. 3回以上ある	94 (18.0%)+	103 (19.4%)+	41 (7.4%)-
2. 2回ある	50 (9.6%)+	33 (6.2%)	23 (4.2%)-
3. 1回だけある	87 (16.6%)	76 (14.3%)	67 (12.2%)
4. 1回もない	292 (55.8%)-	318 (60.0%)-	420 (76.2%)+
カイ2乗統計量	66.6***		

表 320 は、金融トラブル経験者のみに限定し、年代別でクレジットカード決済の遅延について比較したものである。20・30代と40・50代で決済ができなかった人が有意に多く、20・30代の金融トラブル経験者は「2回ある」や「3回以上ある」人が有意に多く、40・50代では「3回以上ある」人が有意に多くなっている。なお、60代以上の金融トラブル経験者はクレジットカード決済の遅延は1回もない人が有意に多い。

表 321 (クロス分析)クレジットカード決済デフォルトの経験×クレジットカード利用頻度

クレジットカード決済遅延の経験×クレジットカード利用頻度	よく利用	たまに利用	減多に利用しない
全体	1615 (100%)	654 (100%)	91 (100%)
1. 3回以上ある	197 (12.2%)	64 (9.8%)	8 (8.8%)
2. 2回ある	89 (5.5%)	31 (4.7%)	7 (7.7%)
3. 1回だけある	182 (11.3%)	83 (12.7%)	13 (14.3%)
4. 1回もない	1147 (71.0%)	476 (72.8%)	63 (69.2%)
カイ2乗統計量	5.96		

表 321 は、クレジットカードの利用頻度(Q36)別でクレジットカードの決済遅延の経験について比較したものであるが、クレジットカードの利用頻度別で決済の遅延経験の有無に統計的な有意差は見られない。

Q38. クレジットカードのリボルビング払い(リボ払い)を利用したことがありますか。

表 322 リボルビング払いの利用経験

Q38. リボルビング払いの利用経験	全体
全体	2380 (100%)
1. リボ払いが何かわからない	32 (1.3%)
2. ある	793 (33.3%)
3. ない	1555 (65.3%)

表 322 はクレジットカードのリボルビング払いの利用について調査した結果である。リボ払いを利用したことがある人は 33.3%であり、利用したことが無い人は 65.3%である。なお、リボ払いについて知らない人が 1.3%である。

表 323 (クロス分析)リボルビング払いの利用経験×金融トラブル経験の有無

リボルビング払いの利用経験 × 金融トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1615 (100%)	765 (100%)
1. リボ払いが何かわからない	22 (1.4%)	10 (1.3%)
2. ある	656 (40.6%)+	137 (17.9%)-
3. ない	937 (58.0%)-	618 (80.8%)+
カイ2乗統計量	121.5***	

表 323 は金融トラブル経験の有無別でリボルビング払いの利用経験について比較したものである。1%水準で統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者はリボ払いを利用した経験が有意に多く、金融トラブル未経験者は利用経験がない人が有意に多い。

表 324 (クロス分析)リボリング払いの利用経験×年代・金融トラブル経験の有無

リボリング払いの利用経験 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	527 (100%)	234 (100%)	534 (100%)	254 (100%)	554 (100%)	277 (100%)
1. リボ払いが何かわからない	13 (2.5%)+	4 (1.7%)	3 (0.6%)	3 (1.2%)	6 (1.1%)	3 (1.1%)
2. ある	215 (40.8%)+	36 (15.4%)-	271 (50.7%)+	58 (22.8%)-	170 (30.7%)+	43 (15.5%)-
3. ない	299 (56.7%)-	194 (82.9%)+	260 (48.7%)-	193 (76.0%)+	378 (68.2%)-	231 (83.4%)+
カイ2乗統計量	49.3***		55.3***		22.4***	

表 325 (クロス分析)リボリング払いの利用経験×年代(金融トラブル経験有)

リボリング払いの利用経験 ×金融トラブル経験有・年代	有トラブル (20・30代)	有トラブル (40・50代)	有トラブル (60以上)
全体	527 (100%)	534 (100%)	554 (100%)
1. リボ払いが何かわからない	13 (2.5%)+	3 (0.6%)-	6 (1.1%)
2. ある	215 (40.8%)	271 (50.7%)+	170 (30.7%)-
3. ない	299 (56.7%)	260 (48.7%)-	378 (68.2%)+
カイ2乗統計量	52.6***		

表 324 は年代（金融トラブル経験の有無）別でリボ払いの利用経験について比較したものである。いずれの年代においても金融トラブル経験者がリボ払いの利用経験が有意に多く、金融トラブル未経験者は利用経験がない人が有意に多い。

なお、表 325 は金融トラブル経験者に限定し、年代別でリボ払いの利用経験について比較したものである。リボ払いの経験があるのは 40・50 代の金融トラブル経験者に有意に多く、60 代以上の金融トラブル経験者は利用経験がない人が有意に多い。なお、20・30 代の金融トラブル経験者ではリボ払いについて知らない人が有意に多くなっている。

表 326 は金融トラブル内訳でリボ払いの利用経験について比較したものである。金融トラブル内訳 1～5、9 について 1%水準で統計的な有意差が見られる。「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人はリボ払いの利用経験が無い人が有意に多いが、それ以外の金融トラブル経験者はリボ払いの利用経験が有意に多くなっている（すなわち、消費者ローン利用者（金融トラブル内訳 2・3）や住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人（金融トラブル内訳 4・5）、及び、保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある人（金融トラブル内訳 9）はリボ払いの利用経験が有意に多い）。

表 326 (クロス分析)リボルビング払いの利用経験×金融トラブル(内訳)

リボルビング払いの利用経験 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を 購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返 済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたこ とがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済 資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅 延したことがある
	全体	644 (100%)	149 (100%)	355 (100%)	222 (100%)
1. リボ払いが何かわからない	9 (1.4%)	7 (4.7%)+	6 (1.7%)	6 (2.7%)	8 (1.2%)
2. ある	143 (22.2%)-	110 (73.8%)+	259 (73.0%)+	174 (78.4%)+	324 (50.2%)+
3. ない	492 (76.4%)+	32 (21.5%)-	90 (25.4%)-	42 (18.9%)-	313 (48.5%)-
カイ2乗統計量	49.31***	138.4***	299.2***	233.3***	114.3***

リボルビング払いの利用経験 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがあ る	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭っ たことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験し たことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせ られたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
	全体	43 (100%)	48 (100%)	109 (100%)	92 (100%)
1. リボ払いが何かわからない	0 (0.0%)	1 (2.1%)	1 (0.9%)	1 (1.1%)	10 (1.3%)
2. ある	18 (41.9%)	18 (37.5%)	39 (35.8%)	55 (59.8%)+	137 (17.9%)-
3. ない	25 (58.1%)	29 (60.4%)	69 (63.3%)	36 (39.1%)-	618 (80.8%)+
カイ2乗統計量	1.90	0.64	0.44	30.2***	121.5***

Q39. リボルビング払いを利用したことがある人にお尋ねします。利用した理由として当てはまるものをすべて選んでください。

表 327 リボルビング払い利用の理由

Q39. リボルビング払い利用の理由	全体
全体	793 (選択率)
1. 月々の返済額を定額にできる	401 (50.6%)
2. 月々の返済額を少なくすることができる	384 (48.4%)
3. 月々の返済額の割に大きな買い物ができる	148 (18.7%)
4. カード会社から様々な特典がもらえる	174 (21.9%)
5. カード会社から勧められた	82 (10.3%)
6. 友人も利用している	6 (0.8%)
7. 総支払額が減る	23 (2.9%)
8. 特に理由はない	50 (6.3%)
9. わからない	11 (1.4%)

表 327 はリボルビング払い利用者 793 サンプルを対象に、利用した理由について調査した結果である。1 番多い理由としては「1.月々の返済額を定額にできる」で 50.6%であり、次いで「2.月々の返済額を少なくすることができる」で 48.4%である。返済額の一定、あるいは減額が理由として大きく占める。

なお、「4.カード会社から様々な特典がもらえる」や「3.月々の返済額の割に大きな買い物ができる」といった理由も約 2 割あり、「5.カード会社から勧められた」という理由も約 1 割（10.3%）である。

リボルビング払いの場合、総支払額は（一括払いに比べて）増えるために、「7. 総支払額が減る」は誤った内容を持つ選択肢であり、3%程度の人しか選択していないことからすると、この点での誤解を持っている人は少ない模様である。

表 328 (クロス分析)リボ払い理由の理由×金融トラブル経験の有無

リボ払い利用の理由×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	656 (選択率)	137 (選択率)
1. 月々の返済額を定額にできる	330 (50.3%)	71 (51.8%)
カイ2乗統計量	0.11	
2. 月々の返済額を少なくすることができる	326 (49.7%)	58 (42.3%)
カイ2乗統計量	2.46	
3. 月々の返済額の割に大きな買い物ができる	127 (19.4%)	21 (15.3%)
カイ2乗統計量	1.21	
4. カード会社から様々な特典がもらえる	146 (22.3%)	28 (20.4%)
カイ2乗統計量	0.22	
5. カード会社から勧められた	70 (10.7%)	12 (8.8%)
カイ2乗統計量	0.45	
6. 友人も利用している	5 (0.8%)	1 (0.7%)
カイ2乗統計量	0.002	
7. 総支払額が減る	19 (2.9%)	4 (2.9%)
カイ2乗統計量	0.00	
8. 特に理由はない	37 (5.6%)	13 (9.5%)
カイ2乗統計量	2.84	
9. わからない	7 (1.1%)	4 (2.9%)
カイ2乗統計量	2.84	

表 328 は金融トラブル経験の有無別でリボ払いを利用した理由について比較したものであるが、いずれの理由についても金融トラブル経験の有無で統計的な有意差は見られない。

そして、表 329 は年代（金融トラブル経験の有無）別で比較したものであるがいずれの年代においても金融トラブル経験の有無でリボ払いを利用した理由について 5%以上の有意差は見られない。

表 329 (クロス分析)リボ払い理由の理由×年代・金融トラブル経験の有無

リボ払い利用の理由×年代・トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	215 (選択率)	36 (選択率)	271 (選択率)	58 (選択率)	170 (選択率)	43 (選択率)
1. 月々の返済額を定額にできる	101 (47.0%)	18 (50.0%)	134 (49.4%)	32 (55.2%)	95 (55.9%)	21 (48.8%)
カイ2乗統計量	0.11		0.63		0.69	
2. 月々の返済額を少なくすることができる	126 (58.6%)	15 (41.7%)	132 (48.7%)	25 (43.1%)	68 (40.0%)	18 (41.9%)
カイ2乗統計量	3.59*		0.60		0.05	
3. 月々の返済額の割に大きな買い物ができる	40 (18.6%)	8 (22.2%)	50 (18.5%)	6 (10.3%)	37 (21.8%)	7 (16.3%)
カイ2乗統計量	0.26		2.22		0.63	
4. カード会社から様々な特典がもらえる	56 (26.0%)	8 (22.2%)	60 (22.1%)	12 (20.7%)	30 (17.6%)	8 (18.6%)
カイ2乗統計量	0.24		0.06		0.02	
5. カード会社から勧められた	24 (11.2%)	3 (8.3%)	21 (7.7%)	2 (3.4%)	25 (14.7%)	7 (16.3%)
カイ2乗統計量	0.26		1.36		0.07	
6. 友人も利用している	4 (1.9%)	1 (2.8%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
カイ2乗統計量	0.13		0.22		-	
7. 総支払額が減る	8 (3.7%)	1 (2.8%)	7 (2.6%)	1 (1.7%)	4 (2.4%)	2 (4.7%)
カイ2乗統計量	0.08		0.15		0.66	
8. 特に理由はない	8 (3.7%)	3 (8.3%)	18 (6.6%)	7 (12.1%)	11 (6.5%)	3 (7.0%)
カイ2乗統計量	1.57		2.00		0.01	
9. わからない	1 (0.5%)-	2 (5.6%)+	3 (1.1%)	0 (0.0%)	3 (1.8%)	2 (4.7%)
カイ2乗統計量	6.77*		0.65		1.25	

表 330 は金融トラブル内訳でリボ払い利用の理由について比較したものである。消費者ローンを利用している人（金融トラブル内訳 2・3）や住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人（金融トラブル内訳 4・5）は、月々の返済額が定額（あるいは少なく）することができる、あるいは返済額に対し大きな買い物ができるという理由でリボ払いを利用している人が有意に多い傾向が見られる。

また、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人は、カード会社から様々な特典が貰えるからリボ払いを利用している人が有意に多くなっている。

そして、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」、振り込め詐欺や金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある人（金融トラブル内訳 6・7）、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人、及び「9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」人は、カード会社の勧めでリボ払いを利用している人が有意に多い。

表 330 (クロス分析)リボ払い理由の理由×金融トラブル(内訳)

リボ払い利用の理由×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者金融ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	143 (選択率)	110 (選択率)	259 (選択率)	174 (選択率)	324 (選択率)
1. 月々の返済額を定額にできる	65 (45.5%)	58 (52.7%)	146 (56.4%)+	101 (58.0%)+	158 (48.8%)
カイ2乗統計量	1.83	0.24	5.18**	4.99**	0.71
2. 月々の返済額を少なくすることができる	60 (42.0%)	66 (60.0%)+	133 (51.4%)	113 (64.9%)+	180 (55.6%)+
カイ2乗統計量	2.92*	6.85**	1.32	24.4***	11.2***
3. 月々の返済額の割に大きな買い物ができる	18 (12.6%)-	30 (27.3%)+	64 (24.7%)+	43 (24.7%)+	64 (19.8%)
カイ2乗統計量	4.24**	6.24**	9.27***	5.37**	0.43
4. カード会社から様々な特典がもらえる	36 (25.2%)	31 (28.2%)	57 (22.0%)	38 (21.8%)	67 (20.7%)
カイ2乗統計量	1.07	2.90	0.001	0.001	0.51
5. カード会社から勧められた	23 (16.1%)+	12 (10.9%)	38 (14.7%)+	15 (8.6%)	32 (9.9%)
カイ2乗統計量	6.21**	0.05	7.78***	0.71	0.13
6. 友人も利用している	3 (2.1%)+	2 (1.8%)	3 (1.2%)	2 (1.1%)	1 (0.3%)
カイ2乗統計量	4.18*	1.92	0.83	0.46	1.46
7. 総支払額が減る	7 (4.9%)	4 (3.6%)	9 (3.5%)	5 (2.9%)	10 (3.1%)
カイ2乗統計量	2.47	0.25	0.45	0.001	0.07
8. 特に理由はない	10 (7.0%)	3 (2.7%)	12 (4.6%)	5 (2.9%)-	22 (6.8%)
カイ2乗統計量	0.14	2.77	1.82	4.44**	0.22
9. わからない	3 (2.1%)	0 (0.0%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)-
カイ2乗統計量	0.64	1.80	1.06	3.14	4.66**

(クロス分析)リボ払い理由の理由×金融トラブル(内訳)(つづき)

リボ払い利用の理由×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	18 (選択率)	18 (選択率)	39 (選択率)	55 (選択率)	137 (選択率)
1. 月々の返済額を定額にできる	11 (61.1%)	8 (44.4%)	18 (46.2%)	31 (56.4%)	71 (51.8%)
カイ2乗統計量	0.82	0.28	0.32	0.79	0.11
2. 月々の返済額を少なくすることができる	6 (33.3%)	9 (50.0%)	14 (35.9%)	16 (29.1%) ⁻	58 (42.3%)
カイ2乗統計量	1.68	0.02	2.58	8.84***	2.46
3. 月々の返済額の割に大きな買い物ができる	4 (22.2%)	3 (16.7%)	6 (15.4%)	8 (14.5%)	21 (15.3%)
カイ2乗統計量	0.15	0.05	0.29	0.66	1.21
4. カード会社から様々な特典がもらえる	7 (38.9%)	5 (27.8%)	14 (35.9%) ⁺	15 (27.3%)	28 (20.4%)
カイ2乗統計量	3.09	0.37	4.66**	0.98	0.22
5. カード会社から勧められた	5 (27.8%) ⁺	6 (33.3%) ⁺	11 (28.2%) ⁺	13 (23.6%) ⁺	12 (8.8%)
カイ2乗統計量	6.04**	10.5***	14.1***	11.3***	0.45
6. 友人も利用している	1 (5.6%) ⁺	1 (5.6%) ⁺	1 (2.6%)	1 (1.8%)	1 (0.7%)
カイ2乗統計量	5.65	5.65	1.79	0.89	0.002
7. 総支払額が減る	0 (0.0%)	1 (5.6%)	3 (7.7%)	1 (1.8%)	4 (2.9%)
カイ2乗統計量	0.55	0.46	3.34*	0.25	0.00
8. 特に理由はない	1 (5.6%)	1 (5.6%)	1 (2.6%)	3 (5.5%)	13 (9.5%)
カイ2乗統計量	0.02	0.02	0.97	0.07	2.84
9. わからない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (5.1%) ⁺	0 (0.0%)	4 (2.9%)
カイ2乗統計量	0.26	0.26	4.20*	0.83	2.84

Q40. 振り込め詐欺や金融詐欺の被害についてどのように感じますか。当てはまるものをすべて選んでください。

表 331 振り込め詐欺に対する意識

Q40. 振り込め詐欺に対する意識	全体
全体	2700 (選択率)
1. 自分はだまされないと思う	930 (34.4%)
2. 自分もだまされるかもしれないと心配している	923 (34.2%)
3. お金がないので詐欺者に狙われないと思う	517 (19.1%)
4. 自分自身も被害に遭ったことがある	88 (3.3%)
5. 身近な人に被害者がいる	98 (3.6%)
6. 振り込め詐欺が何かを知らない	8 (0.3%)
7. わからない	416 (15.4%)

表 331 は振り込め詐欺や金融詐欺に対する意識について調査した結果である。「1.自分はだまされないと思う」と回答する人が 34.4%、「2.自分もだまされるかもしれないと心配している」が 34.2%であり、騙されないと自信を持つ人が多い一方で、騙されるかもしれないと心配している人も多い。なお、「3.お金がないので詐欺者に狙われないと思う」と回答する人は 19.1%である。

そして、表 332 は金融トラブル経験の有無で振り込め詐欺に対する意識を比較したものである。「1.自分はだまされないと思う」と「6.振り込め詐欺が何かを知らない」以外の意識では金融トラブル経験の有無で 1%水準の有意差が見られ、金融トラブル経験者は「2.自分もだまされるかもしれないと心配している」人が有意に多く、また「3.お金がないので詐欺者に狙われないと思う」と回答する人も有意に多い。なお、金融トラブル経験者には「4.自分自身も被害に遭ったことがある」人や「5.身近な人に被害者がいる」人も有意に多くなっている。

一方、金融トラブル未経験者は振り込め詐欺に対し「わからない」と回答する人が有意に多い。

さらに、表 333 は年代（金融トラブル経験の有無）別で比較したものである。年代別で見た場合、金融トラブル経験の有無で異なる意識が見られるのは「1.自分はだまされないと思う」であり、60 代以上の金融トラブル未経験者において自分は騙されないと意識する人が有意に多い。また、20・30 代の金融トラブル経験者は「3.お金がないので詐欺者に狙われないと思う」と意識する人が有意に多くなっている。そして、40・50 代と 60 代以上の金融トラブル経験者で「5. 身近な人に被害者がいる」人が有意に多い。

表 332 (クロス分析)振り込め詐欺に対する意識×金融トラブル経験の有無

振り込め詐欺に対する意識×トラブル有無	トラブル有	トラブル無
全体	1800 (選択率)	900 (選択率)
1. 自分はだまされないと思う	613 (34.1%)	317 (35.2%)
カイ2乗統計量	0.36	
2. 自分もだまされるかもしれないと心配している	667 (37.1%)+	256 (28.4%)-
カイ2乗統計量	17.8***	
3. お金がないので詐欺者に狙われないと思う	374 (20.8%)+	143 (15.9%)-
カイ2乗統計量	9.26***	
4. 自分自身も被害に遭ったことがある	83 (4.6%)+	5 (0.6%)-
カイ2乗統計量	31.3***	
5. 身近な人に被害者がいる	83 (4.6%)+	15 (1.7%)-
カイ2乗統計量	14.9***	
6. 振り込め詐欺が何かを知らない	5 (0.3%)	3 (0.3%)
カイ2乗統計量	0.06	
7. わからない	195 (10.8%)-	221 (24.6%)+
カイ2乗統計量	86.7***	

表 333 (クロス分析)振り込め詐欺に対する意識×年代・金融トラブル経験の有無

振り込め詐欺に対する意識 ×年代・金融トラブル経験の有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)	600 (選択率)	300 (選択率)
1. 自分はだまされないと思う	185 (30.8%)	74 (24.7%)	199 (33.2%)	105 (35.0%)	229 (38.2%)-	138 (46.0%)+
カイ2乗統計量	3.71*		0.30		5.08**	
2. 自分もだまされるかもしれないと心配している	225 (37.5%)+	92 (30.7%)-	224 (37.3%)+	91 (30.3%)-	218 (36.3%)+	73 (24.3%)-
カイ2乗統計量	4.09**		4.31**		13.2***	
3. お金がないので詐欺者に狙われないと思う	149 (24.8%)+	50 (16.7%)-	117 (19.5%)	51 (17.0%)	108 (18.0%)	42 (14.0%)
カイ2乗統計量	7.75***		0.82		2.30	
4. 自分自身も被害に遭ったことがある	31 (5.2%)+	3 (1.0%)-	24 (4.0%)+	1 (0.3%)-	28 (4.7%)+	1 (0.3%)-
カイ2乗統計量	9.55***		9.96***		12.0***	
5. 身近な人に被害者がいる	20 (3.3%)	8 (2.7%)	28 (4.7%)+	3 (1.0%)-	35 (5.8%)+	4 (1.3%)-
カイ2乗統計量	0.30		8.09***		9.77***	
6. 振り込め詐欺が何かを知らない	3 (0.5%)	2 (0.7%)	2 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
カイ2乗統計量	0.10		0.00		-	
7. わからない	77 (12.8%)-	94 (31.3%)+	66 (11.0%)-	68 (22.7%)+	52 (8.7%)-	59 (19.7%)+
カイ2乗統計量	44.5***		21.5***		22.4***	

表 334 (クロス分析)振り込め詐欺に対する意識×金融トラブル(内訳)

振り込め詐欺に対する意識 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (選択率)	171 (選択率)	420 (選択率)	276 (選択率)	752 (選択率)
1. 自分はだまされないと思う	209 (30.6%) ⁻	62 (36.3%)	148 (35.2%)	111 (40.2%) ⁺	268 (35.3%)
カイ2乗統計量	5.98**	0.27	0.14	4.54**	0.66
2. 自分もだまされるかもしれないと心配している	309 (45.2%) ⁺	57 (33.3%)	136 (32.4%)	69 (25.0%) ⁻	264 (35.1%)
カイ2乗統計量	49.7***	0.06	0.72	11.5***	0.39
3. お金がないので詐欺者に狙われないと思う	93 (13.6%) ⁻	46 (26.9%) ⁺	112 (26.7%) ⁺	8 (31.2%) ⁺	196 (26.1%) ⁺
カイ2乗統計量	18.1***	7.09**	18.2***	28.6***	32.2***
4. 自分自身も被害に遭ったことがある	31 (4.5%) ⁺	14 (8.2%) ⁺	22 (5.2%) ⁺	18 (6.5%) ⁺	25 (3.3%)
カイ2乗統計量	4.75**	14.1***	6.18**	10.4***	0.01
5. 身近な人に被害者がいる	41 (6.0%) ⁺	13 (7.6%) ⁺	25 (6.0%) ⁺	18 (6.5%) ⁺	34 (4.5%)
カイ2乗統計量	14.7***	8.24***	7.67**	7.35**	2.37
6. 振り込め詐欺が何かを知らない	2 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	2 (0.3%)
カイ2乗統計量	0.00	0.54	1.48	0.05	0.03
7. わからない	71 (10.4%) ⁻	19 (11.1%)	48 (11.4%) ⁻	26 (9.4%) ⁻	77 (10.2%) ⁻
カイ2乗統計量	17.6***	2.59	6.04**	8.46***	21.4***

表 334 は金融トラブル内訳別で振り込め詐欺に対する意識を比較したものである。「1.自分はだまされないと思う」と回答する人は「4.住宅ローン等の返済資金を用意することができなかった」人で有意に多く、「2.自分もだまされるかもしれないと心配している」と回答する人は「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」と「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人で有意に多くなっている。そして、「3.お金がないので詐欺者に狙われないと思う」と意識する人は、消費者ローン利用者(金融トラブル内訳2・3)や住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人(金融トラブル内訳4・5)で有意に多い。

なお、ほぼ全ての金融トラブル内訳の経験者については、自分自身や身近な人に被害に遭ったことがある人が有意に多くなっている。

(クロス分析)振り込め詐欺に対する意識×金融トラブル(内訳)(つづき)

振り込め詐欺に対する意識 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込め詐欺の被害に遭ったことがある	7. 他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブルを経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つもない
全体	49 (選択率)	53 (選択率)	118 (選択率)	109 (選択率)	900 (選択率)
1. 自分はだまされないと思う	7 (14.3%) ⁻	11 (20.8%) ⁻	30 (25.4%) ⁻	35 (32.1%)	317 (35.2%)
カイ2乗統計量	5.98***	4.49**	4.45**	0.27	0.36
2. 自分もだまされるかもしれないと心配している	15 (30.6%)	18 (34.0%)	53 (44.9%) ⁺	23 (21.1%) ⁻	256 (28.4%) ⁻
カイ2乗統計量	0.28	0.001	6.31**	8.64***	19.8***
3. お金がないので詐欺者に狙われないと思う	4 (8.2%) ⁻	8 (15.1%)	25 (21.2%)	27 (24.8%)	143 (15.9%) ⁻
カイ2乗統計量	3.89*	0.57	0.33	2.32	9.26***
4. 自分自身も被害に遭ったことがある	28 (57.1%) ⁺	22 (41.5%) ⁺	21 (17.8%) ⁺	9 (8.3%) ⁺	5 (0.6%) ⁻
カイ2乗統計量	459.6***	250.9***	82.7***	9.00***	31.3***
5. 身近な人に被害者がいる	5 (10.2%) ⁺	5 (9.4%) ⁺	9 (7.6%) ⁺	13 (11.9%) ⁺	15 (1.7%) ⁻
カイ2乗統計量	6.17**	5.21**	5.64**	22.4***	14.9***
6. 振り込め詐欺が何かを知らない	1 (2.0%) ⁺	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (0.3%)
カイ2乗統計量	5.14	0.16	0.37	1.48	0.06
7. わからない	2 (4.1%) ⁻	4 (7.5%)	7 (5.9%) ⁻	16 (14.7%)	221 (24.6%) ⁺
カイ2乗統計量	4.91**	2.56	8.50***	0.05	86.7***

<回答者の学歴>

Q41. あなたが最後に卒業された学校として当てはまるものを下記の中から一つ選んでください。

表 335 回答者の最終学歴

Q41. 回答者の最終学歴	全体
全体	2700 (100%)
1. 中学校卒業(高校中退を含む)	99 (3.7%)
2. 高等学校卒業	816 (30.2%)
3. 短期大学(高専等を含む) 卒業	309 (11.4%)
4. 大学中退	68 (2.5%)
5. 大学卒業	1143 (42.3%)
6. 大学院修士課程中退	15 (0.6%)
7. 大学院修士課程修了	124 (4.6%)
8. 大学院博士課程中退	3 (0.1%)
9. 大学院博士課程修了	29 (1.1%)
10. その他	94 (3.5%)

表 335 は回答者の最終学歴について調査した結果である。大学卒業が約 4 割（42.3%）を占め、次いで高校卒業が約 3 割（30.2%）である。大学院修士課程修了は 4.6%、大学院博士課程修了は 1.1%である。

そして、表 336 は金融トラブル経験の有無で回答者の最終学歴を比較したものである。1%水準で統計的な有意差が見られ、金融トラブル経験者は大学中退が 2.9%（金融トラブル未経験者は 1.7%）と有意に多い。

さらに、表 337 は年代（金融トラブル経験の有無）別で比較したものである。40・50代と60代以上では統計的な有意差は見られない。20・30代は5%水準で統計的な有意差が見られるが、有意差がある項目は「その他」であり、金融トラブル未経験者は最終学歴について「その他」と回答する人が有意に多くなっている（「その他」の選択については40・50代の金融トラブル未経験者でも有意に多い）。

表 336 (クロス分析) 回答者の最終学歴×金融トラブル経験の有無

回答者の最終学歴×トラブル有無	トラブル有		トラブル無	
全体	1800 (100%)		900 (100%)	
1. 中学校卒業(高校中退を含む)	71 (3.9%)		28 (3.1%)	
2. 高等学校卒業	537 (29.8%)		279 (31.0%)	
3. 短期大学(高専等を含む)卒業	198 (11.0%)		111 (12.3%)	
4. 大学中退	53 (2.9%)+		15 (1.7%)-	
5. 大学卒業	776 (43.1%)		367 (40.8%)	
6. 大学院修士課程中退	12 (0.7%)		3 (0.3%)	
7. 大学院修士課程修了	86 (4.8%)		38 (4.2%)	
8. 大学院博士課程中退	3 (0.2%)		0 (0.0%)	
9. 大学院博士課程修了	20 (1.1%)	9 (1.0%)		
10. その他	44 (2.4%)-	50 (5.6%)+		
カイ2乗統計量	26.9***			

表 337 (クロス分析) 回答者の最終学歴×年代・金融トラブル経験の有無

回答者の最終学歴 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)	600 (100%)	300 (100%)
1. 中学校卒業(高校中退を含む)	28 (4.7%)	11 (3.7%)	31 (5.2%)	9 (3.0%)	12 (2.0%)	8 (2.7%)
2. 高等学校卒業	173 (28.8%)	75 (25.0%)	182 (30.3%)	99 (33.0%)	182 (30.3%)	105 (35.0%)
3. 短期大学(高専等を含む)卒業	79 (13.2%)	47 (15.7%)	64 (10.7%)	40 (13.3%)	55 (9.2%)	24 (8.0%)
4. 大学中退	14 (2.3%)	3 (1.0%)	24 (4.0%)	7 (2.3%)	15 (2.5%)	5 (1.7%)
5. 大学卒業	231 (38.5%)	114 (38.0%)	245 (40.8%)	112 (37.3%)	300 (50.0%)	141 (47.0%)
6. 大学院修士課程中退	7 (1.2%)	1 (0.3%)	3 (0.5%)	1 (0.3%)	2 (0.3%)	1 (0.3%)
7. 大学院修士課程修了	36 (6.0%)	17 (5.7%)	30 (5.0%)	13 (4.3%)	20 (3.3%)	8 (2.7%)
8. 大学院博士課程中退	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)
9. 大学院博士課程修了	8 (1.3%)	3 (1.0%)	5 (0.8%)	3 (1.0%)	7 (1.2%)	3 (1.0%)
10. その他	23 (3.8%)-	29 (9.7%)+	16 (2.7%)-	16 (5.3%)+	5 (0.8%)	5 (1.7%)
カイ2乗統計量	18.4**		10.4		5.65	

表 338 (クロス分析) 回答者の最終学歴×金融トラブル(内訳)

回答者の最終学歴 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	683 (100%)	171 (100%)	420 (100%)	276 (100%)	752 (100%)
1. 中学校卒業(高校中退を含む)	11 (1.6%) ⁻	12 (7.0%) ⁺	27 (6.4%) ⁺	22 (8.0%) ⁺	36 (4.8%)
2. 高等学校卒業	154 (22.5%) ⁻	53 (31.0%)	160 (38.1%) ⁺	99 (35.9%) ⁺	250 (33.2%) ⁺
3. 短期大学(高専等を含む)卒業	72 (10.5%)	14 (8.2%)	37 (8.8%)	23 (8.3%)	89 (11.8%)
4. 大学中退	7 (1.0%) ⁻	9 (5.3%) ⁺	27 (6.4%) ⁺	14 (5.1%) ⁺	22 (2.9%)
5. 大学卒業	366 (53.6%) ⁺	6 (38.6%)	140 (33.3%) ⁻	93 (33.7%) ⁻	295 (39.2%) ⁻
6. 大学院修士課程中退	4 (0.6%)	0 (0.0%)	2 (0.5%)	1 (0.4%)	6 (0.8%)
7. 大学院修士課程修了	43 (6.3%) ⁺	7 (4.1%)	15 (3.6%)	8 (2.9%)	32 (4.3%)
8. 大学院博士課程中退	2 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)
9. 大学院博士課程修了	12 (1.8%) ⁺	3 (1.8%)	1 (0.2%)	2 (0.7%)	1 (0.1%) ⁻
10. その他	12 (1.8%) ⁻	7 (4.1%)	11 (2.6%)	13 (4.7%)	21 (2.8%)
カイ2乗統計量	87.7***	15.7*	69.3***	40.3***	22.5***

表 338 は金融トラブル内訳別で回答者の最終学歴を比較したものである。5%水準以上で統計的な有意差が見られる金融トラブルの内訳は1、及び3~5である。

「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は、大学卒業、大学院修士課程修了、大学院博士課程修了が有意に多く、学歴は高い傾向が見られる。

そして、「3.消費者金融会社からお金を借りたことがある」、及び「4.住宅ローン等の返済資金を用意することができなかった」人は中学卒業や高校卒業、大学中退が有意に多く、「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」人は高校卒業が有意に多くなっている。

(クロス分析) 回答者の最終学歴×金融トラブル(内訳)(つづき)

回答者の最終学歴 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブル を経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	49 (100%)	53 (100%)	118 (100%)	109 (100%)	900 (100%)
1. 中学校卒業(高校中退を含む)	2 (4.1%)	5 (9.4%)+	6 (5.1%)	8 (7.3%)+	28 (3.1%)
2. 高等学校卒業	19 (38.8%)	12 (22.6%)	28 (23.7%)	38 (34.9%)	279 (31.0%)
3. 短期大学(高専等を含む)卒業	4 (8.2%)	5 (9.4%)	5 (4.2%)-	10 (9.2%)	111 (12.3%)
4. 大学中退	4 (8.2%)+	1 (1.9%)	4 (3.4%)	4 (3.7%)	15 (1.7%)-
5. 大学卒業	16 (32.7%)	23 (43.4%)	63 (53.4%)+	42 (38.5%)	367 (40.8%)
6. 大学院修士課程中退	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	1 (0.9%)	3 (0.3%)
7. 大学院修士課程修了	5 (4.1%)	5 (9.4%)	5 (4.2%)	2 (1.8%)	38 (4.2%)
8. 大学院博士課程中退	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
9. 大学院博士課程修了	1 (2.0%)	0 (0.0%)	3 (2.5%)	1 (0.9%)	9 (1.0%)
10. その他	1 (2.0%)	2 (3.8%)	3 (2.5%)	3 (2.8%)	50 (5.6%)+
カイ2乗統計量	10.2	9.94	15.1*	8.96	26.9***

Q42. 大学・大学院卒の方にお伺いします。最終学歴となった学部・大学院の専門分野を以下の中から一つお選びください。

表 339 大卒(院卒)回答者の専門分野

Q42. 大卒(院卒)回答者の専門分野	全体
全体	1314 (100%)
1. 経済・経営・商学部系	323 (24.6%)
2. 法学部系	132 (10.0%)
3. 文学部系	154 (11.7%)
4. 教育学部系	52 (4.0%)
5. 心理学部系	19 (1.4%)
6. 社会学部系	45 (3.4%)
7. 外国語学部系	31 (2.4%)
8. 家政・生活科学部系	22 (1.7%)
9. 理・工・農学部系	393 (29.9%)
10. 医・歯・薬・看護・保健学部系	64 (4.9%)
11. 美術・音楽・芸術学部系	37 (2.8%)
12. 体育学部系	9 (0.7%)
13. その他	33 (2.5%)

表 339 は大学卒・大学院卒の 1314 サンプルを対象に専門分野について調査した結果である。1 番該当者が多い専門分野は「9. 理・工・農学部系」であり約 3 割 (29.9%) であり、次いで「1. 経済・経営・商学部系」が 24.6% である。「2. 法学部系 (10%)」や「3. 文学部系 (11.7%)」もそれぞれ約 1 割該当する。

表 340 (クロス分析)大卒(院卒)回答者の専門分野×金融トラブル経験の有無

大卒(院卒)回答者の専門分野 ×金融トラブル経験有無	トラブル有	トラブル無
全体	897 (100%)	417 (100%)
1. 経済・経営・商学部系	205 (22.9%) ⁻	118 (28.3%) ⁺
2. 法学部系	103 (11.5%) ⁺	29 (7.0%) ⁻
3. 文学部系	113 (12.6%)	41 (9.8%)
4. 教育学部系	38 (4.2%)	14 (3.4%)
5. 心理学部系	14 (1.6%)	5 (1.2%)
6. 社会学部系	29 (3.2%)	16 (3.8%)
7. 外国語学部系	23 (2.6%)	8 (1.9%)
8. 家政・生活科学部系	12 (1.3%)	10 (2.4%)
9. 理・工・農学部系	263 (29.3%)	130 (31.2%)
10. 医・歯・薬・看護・保健学部系	45 (5.0%)	19 (4.6%)
11. 美術・音楽・芸術学部系	23 (2.6%)	14 (3.4%)
12. 体育学部系	9 (1.0%) ⁺	0 (0.0%) ⁻
13. その他	20 (2.2%)	13 (3.1%)
カイ2乗統計量	20.8*	

表 340 は、金融トラブル経験の有無別で専門分野について比較したものである。全体的な有意差は10%水準であるが、金融トラブル経験者は「2.法学部系」や「12.体育学部系」出身が有意に多く、金融トラブル未経験者は「1. 経済・経営・商学部系」出身者が有意に多くなっている。

表 341 (クロス分析)大卒(院卒)回答者の専門分野×年代・金融トラブル経験の有無

大卒(院卒)回答者の専門分野 ×年代・金融トラブル有無	20・30代		40・50代		60代以上	
	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無	トラブル有	トラブル無
全体	283 (100%)	135 (100%)	283 (100%)	129 (100%)	331 (100%)	153 (100%)
1. 経済・経営・商学部系	41 (14.5%) ⁻	32 (23.7%) ⁺	81 (28.6%)	38 (29.5%)	83 (25.1%)	48 (31.4%)
2. 法学部系	24 (8.5%)	11 (8.1%)	37 (13.1%) ⁺	3 (2.3%) ⁻	42 (12.7%)	15 (9.8%)
3. 文学部系	49 (17.3%)	17 (12.6%)	35 (12.4%)	13 (10.1%)	29 (8.8%)	11 (7.2%)
4. 教育学部系	12 (4.2%)	7 (5.2%)	10 (3.5%)	4 (3.1%)	16 (4.8%)	3 (2.0%)
5. 心理学部系	8 (2.8%)	4 (3.0%)	3 (1.1%)	1 (0.8%)	3 (0.9%)	0 (0.0%)
6. 社会学部系	10 (3.5%)	7 (5.2%)	12 (4.2%)	7 (5.4%)	7 (2.1%)	2 (1.3%)
7. 外国語学部系	12 (4.2%)	4 (3.0%)	7 (2.5%)	1 (0.8%)	4 (1.2%)	3 (2.0%)
8. 家政・生活科学部系	7 (2.5%)	6 (4.4%)	2 (0.7%)	3 (2.3%)	3 (0.9%)	1 (0.7%)
9. 理・工・農学部系	74 (26.1%)	24 (17.8%)	78 (27.6%)	46 (35.7%)	111 (33.5%)	60 (39.2%)
10. 医・歯・薬・看護・保健学部系	18 (6.4%)	6 (4.4%)	10 (3.5%)	7 (5.4%)	17 (5.1%)	6 (3.9%)
11. 美術・音楽・芸術学部系	9 (3.2%)	8 (5.9%)	4 (1.4%)	3 (2.3%)	10 (3.0%)	3 (2.0%)
12. 体育学部系	5 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (1.2%)	0 (0.0%)
13. その他	14 (4.9%)	9 (6.7%)	4 (1.4%)	3 (2.3%)	2 (0.6%)	1 (0.7%)
カイ2乗統計量	16.0		18.2*		10.6	

表 341 は、年代（金融トラブル経験の有無）別で専門分野について比較したものである。年代別で見ても金融トラブル経験の有無別で専門分野の有意差は見られず、40・50代で10%水準の有意差である。

なお、表 340 より金融トラブル経験者は「2.法学部系」出身が有意に多かったが、該当する年代は40・50代である。また、金融トラブル未経験者は「1. 経済・経営・商学部系」出身が有意に多かったが、該当する年代は20・30代であることがわかる。

表 342 (クロス分析)大卒(院卒)回答者の専門分野×金融トラブル(内訳)

大卒(院卒)回答者の専門分野 ×金融トラブル(内訳)	1. 十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある	2. すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした	3. 消費者金融会社からお金を借りたことがある	4. 住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった	5. 公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある
全体	427 (100%)	76 (100%)	158 (100%)	105 (100%)	334 (100%)
1. 経済・経営・商学部系	90 (21.1%) ⁻	24 (31.6%)	49 (31.0%) ⁺	35 (33.3%) ⁺	68 (20.4%) ⁻
2. 法学部系	47 (11.0%)	12 (15.8%)	25 (15.8%) ⁺	14 (13.3%)	45 (13.5%) ⁺
3. 文学部系	48 (11.2%)	10 (13.2%)	19 (12.0%)	16 (15.2%)	47 (14.1%)
4. 教育学部系	21 (4.9%)	1 (1.3%)	3 (1.9%)	3 (2.9%)	13 (3.9%)
5. 心理学部系	4 (0.9%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	8 (2.4%)
6. 社会学部系	10 (2.3%)	5 (6.6%)	7 (4.4%)	7 (6.7%)	12 (3.6%)
7. 外国語学部系	11 (2.6%)	1 (1.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	11 (3.3%)
8. 家政・生活科学部系	5 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (2.1%)
9. 理・工・農学部系	144 (33.7%) ⁺	15 (19.7%) ⁻	42 (26.6%)	21 (20.0%) ⁻	87 (26.0%)
10. 医・歯・薬・看護・保健学部系	26 (6.1%)	3 (3.9%)	4 (2.5%)	5 (4.8%)	11 (3.3%)
11. 美術・音楽・芸術学部系	10 (2.3%)	1 (1.3%)	4 (2.5%)	4 (3.8%)	11 (3.3%)
12. 体育学部系	2 (0.5%)	3 (3.9%) ⁺	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.9%)
13. その他	9 (2.1%)	1 (1.3%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	11 (3.3%)
カイ2乗統計量	16.1	27.6***	21.8**	23.9**	21.8**

表 342 および表 343 は金融トラブル内訳で大卒(大学院卒)の回答者の専門分野について比較したものである。5%水準以上で統計的な有意差が見られる金融トラブルの内訳は2~6であり、「3.消費者金融会社からお金を借りたことがある」人は「1.経済・経営・商学部系」や「2.法学部系」出身が有意に多い。また、「4.住宅ローン等の返済資金を用意することができなかった」人は「1.経済・経営・商学部系」出身が、「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」人は「2.法学部系」出身が有意に多くなっている。「6.振り込め詐欺の被害に遭ったことがある」人は「7.外国語学部系」出身が有意に多い。

表 343 (クロス分析)大卒(院卒)回答者の専門分野×金融トラブル(内訳)(つづき)

大卒(院卒)回答者の専門分野 ×金融トラブル(内訳) (つづき)	6. 振り込み詐欺の被害に遭った ことがある	7. 他の金融商品に関連する詐 欺に遭ったことがある	8. 金融商品に関するトラブル を経験したことがある	9. 保証人として借金の肩代わ りをさせられたことがある	10. 上記に該当する経験は一つ もない
全体	19 (100%)	28 (100%)	72 (100%)	46 (100%)	417 (100%)
1. 経済・経営・商学部系	3 (15.8%)	7 (25.0%)	18 (25.0%)	10 (21.7%)	118 (28.3%)+
2. 法学部系	2 (10.5%)	3 (10.7%)	7 (9.7%)	5 (10.9%)	29 (7.0%)-
3. 文学部系	2 (10.5%)	3 (10.7%)	8 (11.1%)	6 (13.0%)	41 (9.8%)
4. 教育学部系	2 (10.5%)	2 (7.1%)	4 (5.3%)	1 (2.2%)	14 (3.4%)
5. 心理学部系	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.2%)	5 (1.2%)
6. 社会学部系	0 (0.0%)	1 (3.6%)	6 (8.3%)+	0 (0.0%)	16 (3.8%)
7. 外国語学部系	3 (15.8%)+	1 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (1.9%)
8. 家政・生活科学部系	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	10 (2.4%)
9. 理・工・農学部系	5 (26.3%)	10 (35.7%)	24 (33.3%)	15 (32.6%)	130 (31.2%)
10. 医・歯・薬・看護・保健学部系	2 (10.5%)	1 (3.6%)	2 (2.8%)	2 (4.3%)	19 (4.6%)
11. 美術・音楽・芸術学部系	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	3 (6.5%)	14 (3.4%)
12. 体育学部系	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)+	0 (0.0%)-
13. その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	1 (2.2%)	13 (3.1%)
カイ2乗統計量	21.2**	3.99	11.3	16.2	20.8*

4. むすび

本稿では、2016年9月に実施した「金融リテラシーと金融トラブルや借り入れ行動についての調査」の結果の概要を紹介した。本調査では、20～30歳代、40～50歳代、60歳以上のそれぞれ900人ずつについて、金融トラブルの経験のある人600人と経験のない人300人を対象にした。本稿では、金融トラブルと呼ぶことにしたのは、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」、「2.すでにある消費者ローンの支払いの返済のために借入をした（住宅ローンの借り換えは除く）」、「3.消費者金融会社からお金を借りたことがある」、「4.返済期日までに、住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかったことがある」、「5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある」、「6.振り込め詐欺の被害に遭ったことがある」、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」、「9.保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある」の9つの経験である。

これらの経験の有無が、アンケートの各質問とどのような関係があるのかを、年齢や性別による分析結果も適宜加えながら説明してきた。主な結果を改めてまとめておくと次のようなことが明らかになった。

まず、金融トラブル経験の有無を居住地別に比較すると、金融トラブル未経験者は人口10万人未満の市に居住する人が有意に多かった。現在の居住地について1%水準で有意差が見られる金融トラブルの内訳は、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」と「3.消費者金融からお金を借りたことがある」であり、これは、東京都区部や政令指定都市に居住する人が有意に多かった。金融トラブル経験の有無を職業別に比較すると、金融トラブル経験者には「2.自営業者」、「5.中小企業の正規従業員」、「6.派遣社員・契約社員」が有意に多かった。より具体的に見ると、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」は「4.大企業正規従業員」と「7・8.年金受給者」が有意に多く、消費者金融利用者（金融トラブル内訳の2と3）、及び、「4.住宅ローンやカードローンなどの返済資金を用意することができなかった」人は「5.中小企業の正規従業員」や「6.派遣社員・契約社員」が有意に多くなっている。また、「5.公共料金や保険料などの支払いを遅延したことがある」人は派遣（契約）社員が有意に多かった。

結婚の状況で区別すると、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人は有配偶者が有意に多いが、消費者金融利用者（金融トラブル内訳2と3）、及び住宅ローン等の返済資金や公共料金等の支払いを遅延したことがある人（金融トラブル内訳4と5）は配偶者がいない人が有意に多かった。年収を見ると、金融トラブル経験者については年収400～600万、800～1000万の категорияに該当する人が有意に多い。一方、金融トラブル未経験者の年収は高収入と低収入に分かれており、収入が無い人と1500万円超の人が有意に多くなっている。金融トラブル経験者は貯蓄率がマイナス（借入をした）人が有意に多く、金融トラブル未経験者は貯蓄率について「わからない」と回答する人が有意に多くなっている。金融資産残高と不動産資産残高を比較すると、金融トラブル経験者はゼロ保有（過去保有経験有り）が有意に多く、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が多い。金融トラブル経験者では預貯金比率0%超～5%未満が有意に多く、金融トラブル未経験者では100%（すべて預貯金）が有意に多くなっている。

「1.金融全般」、「2.証券投資」、「3.保険」に関する知識の程度の自己評価について尋ねたところ、いずれの知識についても金融トラブル経験者では「2.平均よりも少し劣る」と回答する人が有意に多い一方で

「4.平均よりも詳しい」と回答する人も有意に多く、金融トラブル経験者では二極化の傾向が見られる。ちなみに、保険については金融トラブル経験者で「3.平均的」と回答する人も多く、特に自己評価が分かれている。一方、金融トラブル未経験者はいずれの知識についても「6.わからない」と回答する人が有意に多い。金融全般の知識の自己評価と具体的なトラブルの関係を見ると、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入」をしたことがある人は、金融全般に関する知識について「平均よりも少し劣る」、「平均的」、「平均よりも詳しい（かなり詳しいも含む）」が有意に多く、自己評価は分かれている。また、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人については「平均よりもかなり詳しい」と自己評価する人が有意に多い。消費者ローンを利用している人（金融トラブル内訳 2・3）、及び住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人（金融トラブル内訳 4・5）は、「平均よりもかなり劣る」あるいは「平均よりも少し劣る」と自己評価する人が有意に多くなっている。

本調査では、基本問題 3 問と応用問題 15 問の合計 18 問の金融知識に関する客観的なテストを行っている。まず、予想外であったのは、金融トラブル経験者の方が、正解率が有意に高かった点である。金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多い。金融トラブル経験の有無別で基本問題 3 問の正解数を比較したところ、金融トラブル経験者は 2 問正解している人が有意に多く、金融トラブル未経験者は全問不正解の人が有意に多かった。

金融リテラシーの重要な要素が生活設計の策定の有無であるので、生活設計の有無と金融トラブルの関係を見てみた。金融トラブル経験者は、生活設計について「2.少し考えている」が有意に多く、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多かった。より詳細に見ると、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」、「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人は、「1.かなり考えている」や「2.少し考えている」が有意に多く、これらの金融トラブル経験者は生活設計について考えている傾向が見られる。また、「6.振り込め詐欺に遭ったことがある」人も生活設計について「1.かなり考えている」人が有意に多い。「5.公共料金等の支払いを遅延したことがある」人は、生活設計に対して「4.全く考えていない」人が有意に多くなっている。

金融リテラシーの重要な要素の一つは、必要な場合には外部の専門家の助言を得ることである。そこで、FPなどの金融専門家の助言に対する態度を尋ねてみたところ、金融トラブル経験者は全ての助言内容に対して「2.有料（1時間 5千円未満）で受けた」と「3.無料なら受けた」と回答する人が有意に多い。また、「生活設計全般」、「資産運用全般」、「納税や税金対策」については1時間 5千円以上でも受けたと思う人が金融トラブル経験者では有意に多くなっている。一方、金融トラブル未経験者は全ての助言内容について「わからない・該当しない」と回答する人が有意に多い。また、いくつかの相談内容については無料でも受けたとは思わない（資産運用全般や税金対策）、自分には関係がない（生活設計全般や保険）と意識する人も有意に多くなっている。また、消費者ローン利用者（金融トラブル内訳 2・3）や振り込め詐欺に遭ったことがある人（金融トラブル内訳 6）、及び保証人として借金の肩代わりをさせられたことがある人（金融トラブル内訳 9）は、ほぼ全ての内容について有料でも受けたと意識する人が有意に多くなっている。十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある人（金融トラブル内訳 1）や金融商品に関するトラブルを経験したことがある人（金融トラブル内訳 8）は、全ての内容に対して有料でも受けたと意識する人が有意に多い一方で、無料であれば受けたと意識する人も有意に多い。公共料金等の支払いを遅延したことがある人は（金融トラブル内訳 5）、資産運用と株式

投資以外では無料であれば受けたいと意識する人が有意に多くなっている。

金融トラブル経験の有無で金融や経済について学校で学んだ経験、及び卒業後の生活に役立っている内容を比較したところ、いずれの内容についても金融トラブル経験者の方が学んだ経験が卒業後の生活に役立っていると回答する人が有意に多い。なお、金融トラブル未経験者については「学んだものはない／役立っているものはない」と回答する人が有意に多くなっている。金融トラブル経験の有無で金融経済教育の必要性の認識について比較したところ、現在の認識で比較すると、金融トラブル経験者の方が「必要である（選択肢1と2の計）」と認識している人が有意に多く、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多い。そして、学生時代の認識を見ると、金融トラブル経験者は「2.必要である」と認識していた人が有意に多い一方で、「4.あまり必要でない」と認識していた人も有意に多く、金融トラブル経験者の学生時代の認識は分かれている。現在の認識と同様、学生時代の認識においても、金融トラブル未経験者は「わからない」と回答する人が有意に多い。

金融トラブル内訳別にクレジットカードの所有枚数について比較したところ、「1.十分に理解できないまま金融商品を購入したことがある」人はクレジットカードを多く（「3～5枚」、「6～10枚」、「11枚以上」）持つ傾向が有意に見られる。また、「7.他の金融商品に関連する詐欺に遭ったことがある」、及び「8.金融商品に関するトラブルを経験したことがある」人も6枚以上（「6～10枚」、「11枚以上」）とクレジットカード所有枚数は有意に多い。一方、消費者ローン利用者（金融トラブル内訳2・3）や住宅ローン・公共料金等の支払いを遅延したことがある人（金融トラブル内訳4・5）は保有していない、あるいは保有していても枚数は少ない（1枚が有意に多くなっている）。これらの金融トラブル経験者（金融トラブル内訳2～5）はクレジットカード申込で拒絶されたことがある人が有意に多いことと対応しているものと考えられる。金融トラブル経験の有無別にリボ払いの利用経験について比較したところ、金融トラブル経験者はリボ払いを利用した経験が有意に多く、金融トラブル未経験者は利用経験がない人が有意に多い。

振り込め詐欺や金融詐欺に対する意識について比較したところ、金融トラブル経験者は「2.自分もだまされるかもしれないと心配している」人が有意に多く、また「3.お金がないので詐欺者に狙われないと思う」と回答する人も有意に多い。一方、金融トラブル未経験者は振り込め詐欺に対し「わからない」と回答する人が有意に多い。

以上のごく一部の結果をまとめ直ただけでも、様々な面で興味深い結果が得られた。今後より詳しい分析を行っていきたい。

とくに、今回の調査結果で注目されるのは、我々の当初の予想に反して、金融トラブルの経験者は、金融リテラシーが低いとは限らないという点である。この点については、より慎重に検討することが今後の課題である。当面、次のような可能性が考えられることを指摘しておきたい。第1に、我々の金融知識の計測が適切でない可能性である。本稿で採用した基本問題の3問は国際的にもよく使われる質問であり、我々もしばしば利用してきたが、適切性についてより深く検討する必要がある。第2に、質問への回答結果で金融知識の大小が正しく計測できたとしても、その知識は望ましい金融行動に結びつくようなたぐいの知識ではない可能性である。家森・上山(2016)では、基本問題の正答率の高低が金融上の望ましい行動と相関していることを見いだしており、本調査とは対照的である。トラブル回避行動と積極的な金融行動とでは必要な知識が異なるのかもしれない。第3に、本稿では金融トラブルを非常に広くとらえており、一部の行動は金融リテラシーが高いが故に行われている面があるのかもしれない。た

たとえば、金融知識が高いために、不適切な金融販売に気がつきやすいといった可能性である。本稿でも、各トラブル項目ごとに分析し、それぞれの項目によって状況が異なることも確認しており、今後、より詳細な検討が必要である。第4に、金融トラブルの経験自体が金融知識を身につける契機になっている可能性である。質問票の設計から、我々が尋ねた金融リテラシーは金融トラブルを経験した後のものである。当然、金融トラブルの解決などのために勉強した成果を反映していることが考えられる。

本調査で明らかになった最大の政策課題は、金融トラブルに遭っていない人々の中には、金融知識が高いからそうした危険を免れている人ばかりではなく、金融リスクに一切近づかないという非常に保守的な人（大きな機会費用を払っていることにすら気づいていない）や、たまたま詐欺師からコンタクトがなかっただけといえるような人が少なくなさそうだという点であろう。この意味で、現在、金融トラブルが少ないとしても決して安心できるわけではないのである。

<参考文献>

- 家森信善「生命保険加入者の保険知識の現状とその加行動への影響―「平成27年・生命保険に関する全国実態調査」に基づく分析―」『生命保険論集』生命保険文化センター設立40周年記念特別号(Ⅰ) 2016年3月 pp.81-104。
- 家森信善・上山仁恵「金融リテラシーと住宅ローンの比較行動」『ファイナンシャル・プランニング研究』 15号 2016年3月 pp.4-12。